

# 成唯识论 科判

护法等菩萨 造 三藏法师玄奘奉 诏译 法鼓山 底稿 败空破有 添科

释道净 整理 20240803 2 稿 微信 qq 973451196 未校对 禁止商用篡改 法律责任必究

表数 内容 卷数 对应表 (注: 文中省略表字, 如表 1-1, 为 1-1。下同) 20211105 1 稿

表数	内容			卷数
表 1 (15 表)	甲一宗前敬序分分二	(0-1-1)	(1-1)	卷一 (11 表)
	丙一略释难标宗分三	(0-1-1 至 2)	(1-1 至 11)	
	丙一略释难标宗分三	(0-1-1 至 2)	(1-12 至 15)	卷二 (11 表)
表 2 (24 表)	己一释初能变分三	(0-2-1 至 3)	(2-1 至 7)	卷三 (13 表)
	己一释初能变分三	(0-2-1 至 3)	(2-8 至 20)	卷四 (13 表)
	己一释初能变分三	(0-2-1 至 3)	(2-21 至 24)	
表 3 (15 表)	己二释第二能变分二	(0-3-1 至 2)	(3-1 至 9)	卷五 (15 表)
	己二释第二能变分二	(0-3-1 至 2)	(3-10 至 15)	
表 4 (29 表)	己三释第三能变分二	(0-4-1 至 4)	(4-1 至 9)	卷六 (14 表)
	己三释第三能变分二	(0-4-1 至 4)	(4-10 至 23)	
	己三释第三能变分二	(0-4-1 至 4)	(4-24 至 29)	卷七 (15 表)
表 5 (2 表)	戊二总料简八识一异分三	(0-5)	(5-1 至 2)	
表 6 (3 表)	丁二正解识变分三	(0-6)	(6-1 至 3)	
表 7 (19 表)	丁三释诸妨难解唯识义分二	(0-7 至 3)	(7-14)	卷八 (14 表)
	丁三释诸妨难解唯识义分二	(0-7 至 3)	(7-5 至 18)	
	丁三释诸妨难解唯识义分二	(0-7 至 3)	(7-19)	卷九 (12 表)
表 8 (1 表)	乙二明唯识性分二	(0-8)	(8)	
表 9 (20 表)	乙三明唯识位分二	(0-9 至 4)	(9-1 至 10)	卷十 (11 表)
	乙三明唯识位分二	(0-9 至 4)	(9-11 至 20)	
表 10 (1 表)	甲三释结施愿分三	(0-10)	(10)	

表 0-0: (总 22 表) 总表

科判										
全文分三	甲一宗前敬序分分二【卷一】(0-1-1) (1-1)									
	甲二依教广成分分三	乙一明唯识相分二	丙二随标广释分三	丁一明三能变识相分二	戊一释颂文广明三能变分三	丙一略释难标宗分三 (0-1-1 至 2) (1-1 至 15)			丁一将发论端寄问征起	
									丁二举颂依义正答	
									丁三长行释分二	
									庚一结前生后以发论端	
									庚二举颂正答	
									庚三长行释分二	
									庚一结前生后以发论端	
									庚二依所论辨其相分二	
									庚一结前生后发论端	
									庚二举颂正答分三	
						戊二总料简八识一异分三 (0-5) (5-1 至 2)		己一明俱转	己二问答分别分五	
									己三一异分别分二	
						丁二正解识变分三 (0-6) (6-1 至 3)			戊一结前问后	戊二举颂答
									戊三长行释分二	
						丁三释诸妨难解唯识义分二 (0-7 至 3) (7-1 至 19)			戊一释违理分二	
									戊二释违教分二	
	乙二明唯识性分二 (0-8) (8)				丙一解第二十五颂唯识真性分二					
					丙二总释二十三至二十五颂意					
	乙三明唯识位分二 (0-9 至 4) (9-1 至 20)					丙一结上显后所明分三				
					丙二举颂正释五位分五					
甲三释结施愿分三 (0-10) (10)										
附表：成唯识论后序 吴兴沈玄明撰										

表 0-1-1 (2 表): (总 22 表) 总表 甲一宗前敬序分分二; 丙一略释难标宗分三【卷一】【卷二】

甲一宗前敬序分分二【卷一】(1-1)											
丁一将发论端寄问征起(1-1)											
丁二举颂依义正答(1-1)											
己一略释颂答外征分二(1-1)											
辛一总问(1-2)											
辛二略答外征(1-2)											
癸一问(1-2)											
子一叙三类计正破外道分二(1-2)											
子二别叙三类计兼破小乘分三(1-2)											
子三总破上二差别执我分四											
丑一思虑有无破(1-2)											
丑二作用有无破(1-2)											
丑三我见境非境破(1-3)											
丑四我非我见境我见不缘破(1-3)											
子四释彼执分别俱生伏断为次分二(1-3)											
丑一第一问答(1-3)											
丑二第二问答(1-3)											
丑三第三问答(1-4)											
丑四总结非述正(1-4)											
子五假设外征释诸妨难分四											
癸一外小略共问(1-4)											
癸二略答(1-4)											
丑一问(1-4)											
卯一破数论义分三(1-4)											
卯二破胜论义分三(1-5)											
卯三破事大自在天者计分二(1-6)											
卯四合破七外道计(1-6)											
卯五破二声论计分二(1-6)											
卯六破顺世外道计分二(1-6)											
寅二束九十种为四种破分二(1-7)											
丑一总问(1-7)											
丑二略答(1-7)											
卯一总叙外执色类别(1-7)											
午一破能成有对极微分三(1-7)											
午二破所成有对眼等不成分二(1-8)											
午三结归正义(1-8)											
巳二结有对不成(1-8)											
辰二破无对(1-8)											
辰三双破有无对分二(1-9)											
卯三总结非(1-9)											
卯一总破诸部分三(1-10)											
巳一破得非得分四(1-10)											
巳二破同分分四(1-11)											
巳三破命根分四(1-11)											
巳四破二无心定有果分四(1-11)											
巳五破实有四相分四【卷二】(1-12)											
午一问外人(1-12)											
午二外人答(1-12)											
午三论主破分二(1-12)											
午四申正义分四(1-13)											
辰二破大众部等分二(1-13)											
辰三例破正量部等(1-13)											
寅三破无为法分三(1-13)											



表 0-2-2 (3 表): (总 22 表) 总表 己一释初能变分三【卷三】

己一释初能变分三	庚三长行释分二	辛一八段十义释分二	壬一别解八段分八	癸三心所相应门分五【卷三】(2-8)											
				癸四受分别门分二 (2-9)											
				癸五三性分别门分二 (2-9)											
				癸六心所例同门分三	子一三性例同义 (2-9)										
					子二五门例同义 (2-9)										
					子三六门例同义分二	丑一难陀等义 (2-9)									
						丑二护法正义分十二									寅一总非 (2-9)
															寅二彼问 (2-9)
															寅三论主答 (2-9)
															寅四征破受熏 (2-9)
															寅五征答种生 (2-9)
															寅六征破果生 (2-9)
															寅七破六果顿生 (2-10)
															寅八问答转救 (2-10)
															寅九举破似种 (2-10)
															寅十申正义 (2-10)
				寅十一举破无简别 (2-10)											
				寅十二总结正义 (2-10)											
				癸七因果法喻分二	子一问 (2-10)										
					子二答分三	丑一解本颂分二 (2-10)									
						丑二破斥诸部分三								寅一破有部正量部分十 (2-10)	
														寅二破上座部分二 (2-11)	
				丑三总结劝信 (2-11)											
				癸八伏断位次门分二	子一问 (2-11)										
					子二答分二	丑一举颂总答 (2-11)									
丑二广答分二	寅一略释 (2-11)														
	寅二广释分二	卯一广阿罗汉分三						辰一第一师分五 (2-11)							
								辰二第二师分二 (2-11)							
								辰三第三师分六 (2-12)							
	卯二正解舍分二 (2-12)														
壬二总料简分二 (2-13)															
辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二	壬一外人问 (2-13)													
		癸一总答 (2-13)													
		癸二别答分二	子一五教证分二	丑一引不共许教分二	寅一证四教分二	卯一别引教分四	辰一第一教证分二	巳二引颂分三	巳一标经名 (2-13)						
									午一引经颂 (2-13)						
									午二别解释分三	未一第一解分二	申一解外伏难 (2-13)				
											申二别解颂分二	酉一判颂文 (2-13)			
									酉二别释分二	戌一解上二句分二 (2-13)					
										戌二解下二句分二 (2-14)					
									未二第二解分三 (2-14)						
									未三第三解分二 (2-14)						
									午三总结 (2-14)						
									辰二第二教证分三 (2-14)						
									辰三第三教证分三 (2-15)						
									辰四第四教证分三 (2-15)						
									卯二总指例 (2-15)						
									寅二成大乘佛说分二 (2-15)						
									丑二引共许教第五教证分二 (2-16)						

表 0-2-3 (3 表): (总 22 表) 总表 己一释初能变分三【卷三】【卷四】

己一释初能变分三	庚三长行释分二	辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二	癸二别答分二	子二十理证分三	丑一结前生后发论端（2-16）					
						寅一持种证分三	卯一引经（2-16）				
							卯二别显征义分五	辰一破经部分三	巳一破五蕴受熏持种分二（2-16）		
									巳二破识类受熏分二（2-17）		
									巳三破识类相熏（2-17）		
								辰二破大众部（2-17）			
								辰三破上座部分三（2-17）			
								辰四破一切有部分二（2-17）			
								辰五破清辨分三（2-17）			
							卯三总结（2-17）				
							寅二异熟心证分三（2-18）				
						寅三趣生体证分三（2-18）					
						寅四有执受证分三（2-18）					
						寅五寿暖识证分三（2-19）					
						寅六生死证分三（2-19）					
						寅七名色互缘证分三（2-20）					
						寅八四食证分三【卷四】	卯一引经总非（2-21）				
							卯二别显分二	辰一总标（2-21）			
								辰二别释分四	巳一陈自宗义分四（2-21）		
									巳二破他分四	午一总破诸部分三（2-21）	
										午二别破萨婆多分二（2-21）	
										午三别破上座部（2-21）	
								午四别破经部分二（2-22）			
								巳三结识食体（2-22）			
						巳四释妨难（2-22）					
						卯三总结（2-22）					
						寅九灭定证分二	卯二正解分二	辰一破灭不离识分二	巳一正释分四	午一总破诸部出正义（2-22）	
										午二破一切有分二（2-22）	
										午三破经部本计分二（2-22）	
										午四破经部末计分二	未一总破有心分三（2-22）
									未二别破有心所分二（2-23）		
								巳二总结（2-24）			
						辰二例破无想定等					
						寅十心染净证分三（2-24）					
						丑三总结十理证（2-24）					
						壬三总结劝信（2-24）					

表 0-3-1 (2 表): (总 22 表) 总表 己二释第二能变分二【卷四】【卷五】

己二释第二能变分二	庚一结前生后以发论端（3-1）												
	辛一举颂文（3-1）												
	庚二依所论辨其相分二	辛二长行释分二	壬一以八段依释十门分八	癸一出能变体释名义分二（3-1）									
				癸二明所依分二	子二广解所依分三	丑二别叙有异计分三	子一略解所依分二（3-1）						
							丑一总出极成所依分三（3-1）						
							寅二增上缘依分四	寅一因缘依分二（3-1）					
								卯一难陀等义分三（3-2）	卯二安慧等依义分二	辰一破前说分三	巳一总非（3-2）		
											巳二别非分三	午一非五识分二（3-2）	
												午二非第六识（3-3）	
												午三非第七识（3-3）	
											巳三结非（3-3）		
								辰二总结正（3-3）					
								卯三净月等义分三（3-3）					
								卯四护法义分三	辰一总斥前（3-3）				
									辰二申正义指分二	巳一解依所依别分二（3-3）			
										巳二解具依多少分二	午一解识依分四	未一解五识依（3-3）	
												未二解第六依（3-3）	
												未三解第七依（3-3）	
												未四解第八依（3-4）	
										午二解心所依（3-4）			
									辰三总结正（3-4）				
							寅三等无间缘依分三			卯一难陀等长徒义分三（3-4）			
										卯二安慧等义分二（3-4）			
										卯三护法义分三（3-5）			
							丑三结归正义（3-5）						
							癸三解所缘分二（3-6）						
							癸四自性行相门分二（3-6）						
				癸五染俱触等门分二	子二总答分二	丑一解因位相应分三	子一总问（3-7）						
							寅二明触等相应分二	寅一解染俱分二（3-7）					
								卯二答分二	卯一问（3-7）				
									辰一举颂答（3-7）				
									辰二广分别分二	巳一约四惑余释分二	午一释本颂分二（3-7）		
											午二释与余不相应由分二	未一问（3-7）	
												未二答分四	申一别境（3-7）
													申二善心所（3-8）
													申三随惑（3-8）
													申四不定（3-8）
											午一总解（3-8）		
											午二别诤分四	未一五遍染义分二（3-8）	
												未二六遍染义分二（3-9）	
												未三十遍染法（3-9）	
												未四八遍染义分三（3-9）	
								寅三解五受俱分二【卷五】（3-10）					
							丑二显果位相应（3-10）						
							癸六三性门分二（3-10）						
							癸七果系门分二（3-10）						

表 0-3-2 (2 表): (总 22 表) 总表 己二释第二能变分二【卷五】

己二释第二能变分二	庚二依所论辨其相分二	辛二长行释分二	壬一以八段释十分八	癸八起灭分别分二	子一问（3-10）						
					子二答分二	丑一正辨伏断分二	寅一举颂答分二	卯一举颂（3-10）			
								卯二别释分二	辰一总解三位（3-10）		
									辰二别解三位分二	巳一灭定圣道不行分三（3-10）	
								巳二阿罗汉不行所由分三（3-11）			
							寅二广诤分二（3-11）				
			丑二傍乘义解分位行相分三（3-12）								
			壬二以二教六理证有此识分三	癸二答分二	子二别答分二	癸一问（3-12）					
						子一总答（3-12）					
						丑二依隐经证有分三	丑一依显经证有分二（3-12）				
							寅二依标正释分六	寅一结前生后（3-13）			
								卯一不共无明经证分二（3-13）			
									卯二六二缘经证分二（3-13）		
									卯三意名不成经证分三（3-14）		
									卯四二定无差经证分三（3-14）		
									卯五说无想无漏失经证分三（3-14）		
								卯六我执不成经证分三	辰一引经（3-14）		
									辰二破他分三（3-14）		
									辰三总结（3-15）		
								寅三结会（3-15）			
癸三释疑（3-15）											

表 0-4-1 (4 表): (总 22 表) 总表 己三释第三能变分二【卷五】

己三释第三能变分二	庚一结前生后发论端（4-1）																						
	辛一明四门分二				壬一颂（4-1）																		
					壬二长行释分三			癸一能变差别门分二（4-1）															
								癸二自性行相门分二（4-1）															
								癸三三性门分三（4-2）															
	庚二举颂正答分三	辛二解相应受俱门分二	壬一略标六位分三	癸一问起（4-2）																			
				癸二举颂答（4-2）																			
				癸三长行释分二	子二解受俱分二	子一解相应分二（4-3）																	
						丑一因位受俱分二	寅二别分别分三	寅一解本颂（4-3）															
								卯一增减分别分四	辰一二个二（4-3）														
												辰二二个三（4-3）											
															辰三二个四分二（4-3）								
									辰四一个五分三	巳一列五名（4-4）													
												巳二释开合（4-4）											
										巳三明处位分二	午一明悦受分二（4-4）												
																未一五识（4-4）							
											申一唯忧受义分三（4-4）												
																酉一标宗（4-4）							
											酉二引证（4-4）												
																酉三立理分四（4-4）							
											酉四会违分三（4-5）												
																酉五总结（4-5）							
											卯二例摄余门（4-5）												
											卯三辨三受俱不俱分二（4-5）												
											丑二果位受俱（4-5）												

表 0-4-2 (4 表): (总 22 表) 总表 己三释第三能变分二【卷五】【卷六】

癸一标说显教兴（4-5）									
寅一问（4-5）									
寅二举颂答（4-5）									
辰一总解释（4-5）									
巳一问（4-5）									
午一总答（4-5）									
巳二答分二									
午二别答分二									
未一教证分三（4-5）									
未二理证分五（4-6）									
巳三结所明（4-6）									
巳一列名释义（4-6）									
未一欲分二（4-6）									
未二胜解分二（4-6）									
未三念分二（4-7）									
未四定分二（4-7）									
未五慧分二（4-7）									
午二总遮遍行（4-7）									
巳三独并门分二（4-8）									
巳四八识分别分三（4-8）									
巳五五受分别分二（4-9）									
辰二例余门（4-9）									
寅一结前问后（4-10）									
寅二举颂答（4-10）									
卯一释名破异执（4-10）									
辰一信分二（4-10）									
辰二惭愧分二（4-11）									
辰三三善根分二（4-11）									
辰四勤分二（4-12）									
辰五轻安分二（4-12）									
辰六不放逸分二（4-12）									
辰七行舍分二（4-12）									
辰八不害分二（4-12）									
巳一义摄所余分二（4-13）									
巳二问答废立分二（4-13）									
巳三征责多少分二（4-13）									
巳四假实分别（4-13）									
巳五俱起分别分二									
午一四遍善义分三（4-13）									
午二十遍善义分五（4-14）									
巳六八识分别分二（4-14）									
巳七五受俱（4-14）									
巳八别境相应（4-14）									
巳九三性分别（4-14）									
巳十三界分别（4-14）									
巳十一三学门（4-14）									
巳十二三断门（4-14）									
辰二劝思（4-14）									



表 0-4-3 (4 表): (总 22 表) 总表 己三释第三能变分二【卷六】

己三释第三能变分二	庚二举颂正答分三	辛二解相应受俱门分二	壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五	丑三辨烦恼位分三	寅一结前问后（4-15）						
							寅二举颂答（4-15）						
							寅三长行释分三	卯一释总名（4-15）					
								卯二出性业分六	辰一贪分二（4-15）				
									辰二瞋分二（4-15）				
									辰三痴分二（4-15）				
									辰四慢分四（4-15）				
									辰五疑分二（4-15）				
								辰六六恶见分三	巳一正释（4-15）				
									巳二逐难辨（4-15）				
									巳三差别分二	午一标（4-15）		未一萨迦耶见分二（4-15）	
										午二别释分五		未二边执见分二（4-15）	
												未三邪见分二（4-15）	
												未四见取见（4-16）	
								未五戒禁取见分二（4-16）					
								卯三诸门分别分十二	巳一分别俱生门分二（4-16）				
									巳二自类相应门分二（4-16）				
									巳三识相应门（4-16）				
									巳四五受相应门分二（4-17）				
									巳五别境相应门分二（4-17）				
									巳六三性分别门分二（4-17）				
									巳七界系门分三		午一总分别（4-17）		
											午二上下相起门分二（4-17）		
											午三上下相缘门分二（4-18）		
											巳八学等分别门（4-18）		
											巳九三断分别门分二（4-18）		
											巳十有事缘无事缘门（4-18）		
											巳十一有漏缘无漏缘分别（4-18）		
											巳十二缘事境缘名境分别（4-18）		
									辰二余门思择（4-18）				
								丑四辨随烦恼位分三	寅三长行释分二	卯一释性业等相分六	寅一结前问后（4-19）		
											寅二举颂答（4-19）		
						辰三释性业分三	辰一释得名（4-19）						
							辰二束为三位（4-19）						
							巳一小随惑分十				午一忿（4-19）		
											午二恨（4-19）		
											午三覆分二（4-19）		
											午四恼（4-19）		
											午五嫉（4-19）		
											午六慳（4-19）		
											午七诤（4-19）		
											午八谄（4-19）		
											午九害（4-20）		
											午十憍（4-20）		
							巳二中随惑分二（4-20）						
							巳三大随惑分八				午一掉举分二（4-20）		午二惛沉分二（4-20）
											午三不信分二（4-21）		午四懈怠（4-21）
											午五放逸（4-21）		午六失念分二（4-21）
											午七散乱分二（4-21）		午八不正知分二（4-21）
							辰四释颂与并及（4-22）						

表 0-4-4 (4 表): (总 22 表) 总表 己三释第三能变分二【卷六】【卷七】

己三释第三能变分二	庚二举颂正答分三	辛二解相应受俱门分二	壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五	丑四辨随烦恼位分三	寅三长行释分二	卯一释性业等相分六		辰五释随惑名通局 (4-22)								
										辰六释其废立 (4-22)								
								卯二诸门分别分十二	辰一假实分别门 (4-22)		辰二俱生分别门 (4-22)							
									辰三自相应门分三 (4-22)									
									辰五受俱门分二 (4-22)									
									辰六别境相应门分二 (4-22)									
									辰七根本相应门分二 (4-22)									
									辰八三性门 (4-22)									
									辰十学等门 (4-23)									
									辰十一见断等门分二 (4-23)									
								辰十二有事等门 (4-23)										
								寅一结前发端 (4-24)										
						寅二举颂答 (4-24)												
						丑五辨不定位分三【卷七】	卯一释颂分三	辰一释不定得名 (4-24)										
								辰二解别体分二 (4-24)										
								辰三释二各二分三	巳一寻伺染净各二义 (4-24)		巳二烦恼随烦恼等各二义分二 (4-24)							
									巳二烦恼随烦恼等各二义分二 (4-24)									
									巳三安慧四各二义分二 (4-25)									
							卯二诸门分别分二	辰一十二门分别分十二		巳一假实分别分二 (4-25)								
										巳二自相应门分二 (4-25)								
										巳三识相应门分二 (4-25)								
										巳四受俱不俱门分二 (4-25)								
										巳五别境相应门 (4-25)								
										巳六善俱门 (4-25)								
										巳七十烦恼俱门分二 (4-25)								
										巳八随惑俱转门 (4-25)								
										巳九三性门分二 (4-26)								
										巳十界系门分三 (4-26)								
										巳十一三学门分二 (4-26)								
										巳十二三断门分二 (4-26)								
								辰二准例指分别 (4-26)										
								子二总料简王所一异分四 (4-26)										
						辛三明所依俱转起灭门分三	壬三长行释分三	癸三解起灭分位分二	壬一结前征起 (4-27)									
									壬二举颂正答 (4-27)									
									癸一解所依 (4-27)									
									癸二解俱不俱相 (4-27)									
									子一释意常现起分二 (4-27)									
									丑二答分三	丑一问 (4-27)								
										寅二别解分三		寅一举颂总答 (4-27)						
												卯二解二定分二	卯一解无想天分五 (4-27)					
													辰二别解分二	辰一总解 (4-28)				
														巳二解灭尽定分六	巳一解无想定分六 (4-28)			
															午一释前五义 (4-28)		午二释第六义 (4-28)	
															午三释七八二义 (4-28)		午四释第九义 (4-28)	
															午五释第十义 (4-28)		午六释第十一义分二	
															未一见所断 (4-28)		未二修所断分二	
													申一明二乘分二 (4-28)		申二明菩萨 (4-29)			
												卯三释睡眠闷绝分二 (4-29)						
										寅三总结 (4-29)								
									丑三总料简分三 (4-29)									

表 0-5（1 表）：（总 22 表）总表 戊二总料简八识一异分三【卷七】

戊二总料简八识一异分三	己一明俱转（5-1）
	己二问答分别分五（5-1）
	己三一异分别分二（5-2）

表 0-6（1 表）：（总 22 表）总表 丁二正解识变分三【卷七】

丁二正解识变分三	戊一结前问后（6-1）			
	戊二举颂答（6-1）			
	戊三长行释分二	己一正释颂分二（6-1）		
		庚一唯识所困难分五	辛一外人问（6-1）	
			辛二论主答（6-1）	
			辛三外人问（6-1）	
			辛四论主释分二	壬一答教分二（6-1）
				壬二显理分二（6-2）
			辛五总结分二（6-2）	
		己二问答广辨分十		
		庚二世事乖宗难分二（6-2）		
		庚三圣教相违难分二（6-2）		
		庚四唯识成空难分四（6-2）		
		庚五色相非心难分二（6-2）		
		庚六现量为宗难分二（6-2）		
		庚七梦觉相违难分二（6-2）		
		庚八外取他心难分二（6-3）		
		庚九异境非唯难分四（6-3）		
		庚十总结劝信（6-3）		

表 0-7-1（3 表）：（总 22 表）总表 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷七】

丁三释诸妨难解唯识义分二	戊一释违理分二	己一释分别生难分三	庚一外人难（7-1）							
			庚二举颂答（7-1）							
			庚三长行释分二	辛一略解分二（7-1）						
				辛二广解分二	壬一外人问（7-2）					
					癸一广种现缘生分二	子一正解四缘分二	丑一总答（7-2）			
							寅二等无间缘分三	寅一因缘分三（7-2）		
								卯三显缘相分四	卯一出体（7-2）	
									卯二简略（7-2）	
									辰一释第八识分二（7-2）	
							辰二释第七识（7-2）			
							辰三释第六识（7-3）			
							辰四释前五识分二（7-3）			
							寅三所缘缘分三（7-3）			
							寅四增上缘分三	卯一出体（7-3）		
卯二显用果（7-3）										
卯三辨胜显差别分三	辰一总标（7-3）									
	辰二出体分三	巳一七色根（7-3）								
		巳二十二根（7-3）								
辰三例指（7-4）		巳三三无漏根分三（7-4）								

表 0-7-2 (3 表): (总 22 表) 总表 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】

丁三释诸妨难解唯识义分二	戊一释违理分二	己一释分别生难分三	庚三长行释分二	辛二广解分二	壬二答分二	癸一广种现缘生分二	子二傍明十五依处等分三【卷八】	丑一问起（7-5）									
								丑二正答分四	寅一明依处立因分十	卯一随说因（7-5）							
										卯二观待因（7-5）							
										卯三牵引因（7-5）							
										卯四生起因（7-5）							
										卯五摄受因（7-5）							
										卯六引发因（7-5）							
										卯七定异因（7-6）							
										卯八同事因（7-6）							
										卯九相违因（7-6）							
										卯十不相违因（7-6）							
								寅二明十因二因相摄分二（7-6）									
								寅三四缘依处等立十因二因相摄分二	卯一问（7-6）	辰一答缘依处分二（7-6） 辰二辨与因相摄（7-7）							
									卯二答分二								
								寅四明得果多少分二（7-7）									
								丑三总结（7-7）									
								癸二广生分别相分二（7-8）									
								庚一外人问（7-8）									
								庚二举颂答（7-8）									
								辛一第一复次分二（7-9）									
								辛二第二复次分三（7-9）									
								己二释生死相续难分三	戊一释违理分二	己一释分别生难分三	庚三长行释分四	辛三第三复次分二	壬二以十二支释惑业苦分三	癸二广明十二支分四	丑一广解惑业苦分三（7-9）		
															子二废立增减释诸妨难分七	癸一以三道摄十二支（7-10）	
子一能所引生料简诸论对释分二（7-10）	丑一老死废立分二（7-10）																
	丑二名色废立分二（7-10）																
	丑四所引所生废立分二（7-11）																
	丑五发业润生增减分二（7-11）																
	丑六约自他地问答（7-11）																
	丑七约上下地问答（7-11）																
	子三定世破邪（7-11）																
	子四诸门解释分十七	丑一假实门（7-11）															
		丑二一事非一事门（7-11）															
		丑三染不染门（7-11）															
丑四独杂分别门（7-11）																	
丑五色非色门（7-11）																	
丑六有漏有为门（7-11）																	
丑七无漏无为门（7-11）																	
丑八三性分别门（7-11）																	
丑九三界门（7-11）																	
丑十能所治门（7-11）																	
丑十一学等分别门（7-11）																	
丑十二三断门分二（7-12）																	
丑十三三受俱门（7-12）																	
丑十四三苦分别门（7-12）																	
丑十五四谛门（7-12）																	
丑十六四缘门分二（7-12）																	
丑十七惑业苦摄支门分三（7-12）																	
癸三总结支归三道（7-12）																	

表 0-7-3 (3 表): (总 22 表) 总表 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】【卷九】

丁三释诸妨难解唯识义分二	戊一释违理分二		己二释生死相续难分三		庚三长行释分四		辛四第四复次分三		壬一释生死相续颂文分三（7-13）			
									壬二因解净法相续（7-14）			
									壬三结归唯识（7-14）			
			庚一总问（7-14）									
			庚二略答（7-14）									
			庚三外人征（7-14）									
			辛一举颂（7-14）									
			壬一释颂文分二		癸一别解颂文分三	子一辨三性分二	丑一遍计依他相对释分二	寅一但解遍计分二（7-14）				
	寅二广解与依他对明分二	卯一解第一颂及第二颂初句分三						辰一广能遍计分二	巳一问（7-14）			
									巳二答分二	午一广遍计分二（7-14）		
										午二广彼彼（7-15）		
									辰二广所遍计（7-15）			
									辰三广所执与依他相对分二（7-15）			
	卯二解第二颂第二句（7-15）											
	丑二解圆成实性分二（7-15）											
	子二辨不异一分三（7-16）											
	子三辨证见前后分二（7-16）											
	癸二总解颂意分三（7-16）											
			辛二长行释分二	壬二诸门解释分二	癸一以十一门辨分十一	子一六无为相摄门分二（7-16）						
	子二七真如相摄门分二（7-16）											
	子三三性六法相摄门（7-16）											
	子四五事相摄门分二（7-17）											
	子六四谛相摄门分二	丑二答分三				丑一问（7-17）						
						寅二广分七	寅一略（7-17）					
							卯一苦谛无常（7-17）					
							卯二苦三种（7-17）					
							卯三空三种（7-18）					
	卯四无我三种（7-18）											
	卯五集谛三种（7-18）											
	卯六灭谛三种（7-18）											
	卯七道谛三种（7-18）											
	寅三总结（7-18）											
	子七三法相摄门（7-18）											
	子八二法相摄门（7-18）											
	子九凡圣智境门（7-18）											
	子十假实分别门（7-18）											
	子十一三性对辨异不异门（7-18）											
	癸二总结止繁（7-18）											
	己二释三无性不成难分三【卷九】（7-19）											

表 0-8 (1 表): (总 22 表) 总表 乙二明唯识性分二【卷九】

乙二明唯识性分二 (8)	丙一解第二十五颂唯识真性分二		丁一释初三句
	丙二总释二十三至二十五颂意		丁二释第四句

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 二 加 行 位 分 三	丙一结上显后所明分三（9-1）										
			丁 一 资 粮 位 分 三	戊一问起（9-1）									
				戊二举颂答（9-1）									
				戊 三 长 行 释 分 二	己 一 别 释 颂 文 分 二	庚一略解颂文分二（9-1）							
						庚 二 广 二 取 随 眠 分 五	辛一出体释名分二	壬一释烦恼障分二（9-1）					
								壬二释所知障分五	癸一出体（9-1）				
									癸二释名（9-1）				
									癸三八识分别因破异执（9-1）				
									癸四三性分别遮外计（9-1）				
									癸五释诸妨难（9-2）				
						辛二见修分别（9-2）							
						辛三约人分别（9-2）							
						辛四伏断分别（9-2）							
						辛五结归本颂（9-2）							
						己二辨位修行分二（9-2）							
	戊一问起（9-2）												
	戊二举颂答（9-2）												
	丁 三 通 达 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 二 广 释 分 四	己一略解本颂（9-3）									
				庚一广正智分三（9-3）	庚二释位及见道名（9-3）								
					庚三解见道真相差别分二	辛一辨真相差别分二	壬一总标（9-4）						
壬二别解分二							癸一释真见道（9-4）						
				癸二释相见道分二		子一解相分二（9-4）							
子二因释后得智分二（9-5）													
辛二与六现观相摄分二（9-5）													
庚四明入地功德（9-5）													
戊一问起（9-3）													
戊二举颂答（9-3）													
己一显位所由（9-2）													
己二释位总名（9-2）													
己三出位所修法（9-2）													
己四释四地名分四							庚一明得定（9-2）						
							庚二明增定（9-2）						
							庚三印顺定（9-2）						
							庚四无间定（9-3）						
己五总摄上义释本颂文（9-3）													
己六断二缚位（9-3）													
己七明所观境（9-3）													
己八辨所依处（9-3）													
己九界趣分别（9-3）													
己十七地分别（9-3）													

表 0-9-2 (4 表): (总 22 表) 总表 乙三明唯识位分二【卷九】【卷十】

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 四 修 习 位 分 三	戊一问起 (9-5)																	
			戊二举颂答 (9-5)																	
			己一略释颂文分二	庚一标 (9-5)																
				庚二释分二	辛一释上三句分三 (9-5)															
					辛二释第四句分二 (9-6)															
			庚一问 (9-6)																	
				庚二略答 (9-6)																
			戊 三 次 第 广 前 略 答 分 二	己 二 广 前 颂 分 三	庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二	辛 一 广 能 证 因 分 四	壬 二 广 十 胜 行 分 二	壬一广十地分三 (9-6)												
								癸 二 广 释 分 四	癸一总举十行 (9-6)											
									子一十三门分别分十三	丑一辨类 (9-6)										
										丑二出体分二 (9-6)										
										丑三明相分四 (9-7)										
										丑四不增减门分三 (9-7)										
										丑五明次第门 (9-7)										
										丑六释名 (9-7)										
										丑七明修门 (9-7)										
										丑八摄门 (9-7)										
										丑九问答开合门 (9-7)										
										丑十五果门 (9-7)										
										丑十一三学相摄门分三					寅一出学名体分三 (9-7)					
															寅二五位分别门 (9-8)					
															寅三正相摄门 (9-8)					
										丑十二五位现种相摄门 (9-8)										
										丑十三分位分别门 (9-8)										
									子二指不繁文 (9-8)											
子三地修度门 (9-8)																				
子四摄诸行 (9-8)																				
壬 三 解 十 重 障 分 二	癸 一 明 重 障 分 二	子 二 别 解 释 十 一 障 分 十 一							子一牒 (9-8)											
									丑一异生性障分六	寅一出体 (9-8)										
										寅二对三乘明同异 (9-8)										
										寅三明障道俱不俱 (9-8)										
										寅四释二道别分二 (9-8)										
			寅五以障即二十二愚分三 (9-8)																	
			寅六以障即无明分五 (9-9)																	
			丑二邪行障分二 (9-9)																	
			丑三暗钝障分三 (9-9)																	
			丑四微细烦恼现行障分三 (9-9)																	
			丑五下乘般涅槃盘障 (9-9)																	
			丑六粗相现行障分三 (9-10)																	
			丑七细相现行障分三 (9-10)																	
			丑八无相作加行障分四 (9-10)																	
			丑九利他中不欲行障分四 (9-10)																	
丑十诸法未得自在障分三 (9-10)																				
丑十一因释佛地障分四 (9-10)																				
癸二十一障即二障明伏断位分三【卷十】(9-11)																				

表 0-9-3 (4 表): (总 22 表) 总表 乙三明唯识位分二【卷十】

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 四 修 习 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 二 广 前 颂 分 三	庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二	辛 一 广 能 证 因 分 四	壬 四 明 所 证 如 分 四	癸一总牒 (9-11)																				
								癸二别解分十	子一遍行真如 (9-11)					子二最胜真如 (9-11)														
									子三胜流真如 (9-11)					子四无摄受真如 (9-11)														
									子五类无别真如 (9-11)					子六无染净真如 (9-11)														
									子七法无别真如 (9-11)																			
									子八不增减真如 (9-11)																			
									子九智自在所依真如 (9-12)																			
									子十业自在等所依真如 (9-12)																			
								癸三释防难 (9-12)																				
								癸四废立 (9-12)																				
								壬 一 牒 前 生 下 以 发 论 端 (9-12)	癸 一 约 位 辨 证 分 三 (9-12)	丑 一 总 标 (9-12)	寅 一 能 转 道 分 二	卯 二 能 断 道 分 二	卯一能伏道 (9-12)															
													辰一简略有漏加行 (9-12)	巳一唯本智断惑义 (9-12)														
														辰二明无漏及二智分二	巳二二智断惑义分三 (9-13)													
															寅二所转依分二 (9-13)													
													寅三所转舍分二 (9-13)															
													卯 一 总 举 出 数 (9-13)	辰 一 所 显 得 分 二	巳 二 别 解 释 分 二	午 二 广 解	巳一总出体 (9-13)											
																	午一举例数 (9-13)	未一自性涅槃 (9-13)										
																		未一出体分四	申二有余依涅槃 (9-13)									
																			申三无余依涅槃 (9-14)									
																	申四无住处涅槃 (9-14)											
																	未二总三乘辨分二 (9-14)											
																	未三总结 (9-14)											
																	巳 一 出 体 (9-15)	午 一 问 起 (9-15)	未 一 出 体 辨 智 差 别 分 四 (9-15)	未 二 相 应 多 少 门 (9-15)	未 三 以 体 摄 用 门 (9-15)	未 四 转 何 识 得 何 智 门 (9-15)	未 五 转 识 得 智 位 次 分 四	申一大圆境智分二 (9-15)				
																								申二平等性智 (9-15)				
																								申三妙观察智分二 (9-15)				
																								申四成所作智分二 (9-16)				
																								未六种姓本有始起门 (9-16)				
																								未七所缘境界门分四 (9-16)				
																								未八缘境作用门 (9-16)				
																								未九指例门 (9-16)				
																								巳三总结 (9-16)				
																								卯三总结前 (9-16)				
																								子二明转依言 (9-16)				
																								子三明十地证二转依 (9-16)				





表 1-1: (15 表) 甲一宗前敬序分分二; 丙一略释难标宗分三【卷一】(1/11)

科判				正文						
甲一宗前敬序分分二【卷一】	乙一以颂彰释论之因分二		丙一归敬福田 丙二叙释论意		稽首唯识性、满、分清净者， 我今释彼说，利乐诸有情。					
	乙二以长行明本论主造论之意分三		丙一安慧等悟断得果解		今造此论，为于二空有迷谬者生正解故。 生解为断二重障故，由我、法执二障具生，若证二空，彼障随断。 断障为得二胜果故。 由断续生烦恼障故，证真解脱； 由断碍解所知障故，得大菩提。					
			丙二火辨等达空悟性义		又为开示谬执我、法，迷唯识者，令达二空，于唯识理如实知故。					
			丙三护法等破执显理解		复有迷、谬唯识理者，或执外境如识非无； 或执内识如境非有；或执诸识用别体同； 或执离心无别心所。 为遮此等种种异执，令于唯识深妙理中得如实解，故作斯论。					
甲二依教广成分分三 乙一明唯识相分二 丙一略释难标宗分三	丁一将发论端寄问征起				若唯有识，云何世间及诸圣教说有我、法？					
	丁二举颂依义正答				颂曰： 1 由假说我、法，有种种相转。 彼依识所变，此能变唯三： 2 谓异熟、思量及了别境识。					
	丁三长行释分二 戊一释上三句分二 己一略释颂答外征分二	庚一别释三句分三	辛一释第一句		论曰： 世间、圣教说有我、法，但由假立，非实有性。 我谓主宰，法谓轨持。					
			辛二释第二句		彼二俱有种种相转： “我种种相”谓有情、命者等，预流、一来等。 “法种种相”谓实、德、业等； 蕴、处、界等。 “转”谓随缘施设有异。					
		辛三释第三句分二	壬一寄问征起			如是诸相若由假说，依何得成？				
				癸一总释		彼相皆依识所转变而假施設。				
			壬二答分二	癸二别释识及变分二	子一识		“识”谓了别，此中识言亦摄心所，定相应故。			
					子二变分三	丑一护法安慧义		“变”谓识体转似二分，相、见俱依自证起故，依斯二分施設我、法，彼二离此无所依故。		
						丑二难陀亲胜等义		或复内识转似外境。		
						丑三约法譬广释		我、法分别熏习力故，诸识生时变似我、法。 此我、法相虽在内识，而由分别似外境现，诸有情类无始时来缘此执为实我、实法，如患梦者； 患梦力故，心似种种外境相现，缘此执为实有外境。		
		庚二总解三句分三	辛一显我法假由		愚夫所计实我、实法都无所有，但随妄情而施設故，说之为假。 内识所变似我、似法虽有，而非实我、法性，然似彼现，故说为假。					
			辛二遮增减执		外境随情而施設故，非有如识； 内识必依因缘生故，非无如境，由此便遮增、减二执。					
			辛三依谛摄假		境依内识而假立故，唯世俗有； 识是假境所依事故，亦胜义有。					

表 1-2: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(2/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二	庚一广破外执成颂义分四	辛一总问		云何应知实无外境，唯有内识似外境生？	
			辛二略答外征		实我、实法不可得故。	
			癸二答分五	癸一问		如何实我不可得耶？
				子一叙三类计正破外道分二	丑一叙三计	诸所执我，略有三种： 一者执我体常、周遍，量同虚空，随处造业受苦、乐故； 二者执我，其体虽常，而量不定，随身大小有卷、舒故； 三者执我体常、至细，如一极微，潜转身中作事业故。
						初且非理，所以者何？ 执我常、遍，量同虚空，应不随身受苦、乐等； 又常、遍故，应无动转，如何随身能造诸业？ 又所执我，一切有情为同为异？ 若言同者，一作业时一切应作，一受果时一切应受，一得解脱时一切应解脱，便成大过； 若言异者，诸有情我更相遍故，体应相杂，又一作业、一受果时，与一切我处无别故，应名一切所作、所受。 若谓作、受各有所属无斯过者，理亦不然，业、果及身，与诸我合，属此非彼不应理故； 一解脱时一切应解脱，所修、证法一切我合故。
						中亦非理，所以者何？ 我体常住，不应随身而有舒、卷，既有舒、卷如橐钥风，应非常住，又我随身应可分析，如何可执我体一耶？故彼所言如童竖戏。
						后亦非理，所以者何？ 我量至小如一极微，如何能令大身遍动？ 若谓虽小而速巡身，如旋火轮，似遍动者，则所执我非一、非常，诸有往来，非常、一故。
				子二别叙三类兼破小乘分三	丑一叙计	
					丑二破斥分三	又所执我，复有三种： 一者即蕴；二者离蕴；三者与蕴非即非离。
						初即蕴我，理且不然，我应如蕴非常、一故； 又内诸色定非实我，如外诸色有质碍故； 心、心所法亦非实我，不恒相续，待众缘故； 余行、余色亦非实我，如虚空等，非觉性故。
						中离蕴我，理亦不然，应如虚空，无作、受故。
						后俱非我，理亦不然，许依蕴立，非即、离蕴，应如瓶等，非实我故。 又既不可说有为、无为，亦应不可说是我、非我。
					丑三总结	
				子三总破二差别执我分四	丑一思虑有无破	
					丑二作用有无破	
					故彼所执实我不成。	
					又诸所执实有我体，为有思虑？为无思虑？ 若有思虑，应是无常，非一切时有思虑故； 若无思虑，应如虚空，不能作业，亦不受果。 故所执我，理俱不成。	
					又诸所执实有我体，为有作用？为无作用？ 若有作用，如手足等，应是无常。 若无作用，如兔角等，应非实我，故所执我，二俱不成。	

表 1-3: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(3/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	壬一破执实我分二	癸二答分五	子三总破上二差别执我分四	丑三我见境非境破	又诸所执实有我体，为是我见所缘境不？ 若非我见所缘境者，汝等云何知实有我？ 若是我见所缘境者，应有我见非颠倒摄，如实知故。 若尔，如何执有我者所信至教皆毁我见，称赞无我，言无我见能证涅槃；执着我见，沈沦生死。 岂有邪见能证涅槃，正见翻令沈沦生死？				
						丑四我非我见境我见不缘破	又诸我见不缘实我，有所缘故，如缘余心； 我见所缘定非实我，是所缘故，如所余法。 是故我见不缘实我，但缘内识变现诸蕴，随自妄情，种种计度。			
					子四释彼执分别俱生伏断为次分二		丑一别释二执分三	寅三别释分二	寅一标执举数	
						寅二列执名			一者俱生；二者分别。	
						卯一俱生分三			辰一俱生义	俱生我执无始时来虚妄熏习，内因力故，恒与身俱；不待邪教及邪分别，任运而转，故名俱生。
								辰二显差别	此复二种： 一、常相续，在第七识，缘第八识，起自心相，执为实我； 二、有间断，在第六识，缘识所变五取蕴相，或总、或别，起自心相，执为实我。	
									辰三明断位	此二我执，细故难断，后修道中，数数修习胜生空观，方能除灭。
						卯二分别分三		辰一释分别意判执所在	分别我执亦由现在外缘力故，非与身俱，要待邪教及邪分别然后方起，故名分别，唯在第六意识中有。	
							辰二显差别	此亦二种： 一、缘邪教所说蕴相，起自心相，分别、计度，执为实我； 二、缘邪教所说我相，起自心相，分别、计度，执为实我。		
								辰三明粗执断位	此二我执粗故易断，初见道时，观一切法生空真如，即能除灭。	
						丑二总释二执分二	寅一解所依有无		如是所说一切我执，自心外蕴，或有、或无；自心内蕴，一切皆有。 是故我执皆缘无常五取蕴相，妄执为我。	
							寅二解蕴有我无		然诸蕴相，从缘生故，是如幻有； 妄所执我，横计度故，决定非有。 故契经说：苾刍当知，世间沙门、婆罗门等所有我见，一切皆缘五取蕴起。	
						子五假设外征释诸妨难分四	丑一第一问答		实我若无，云何得有忆、识、诵、习、恩、怨等事？ 所执实我既常无变，后应如前，是事非有； 前应如后，是事非无。 以后与前，体无别故。 若谓我用，前后变易，非我体者，理亦不然。 用不离体，应常有故；体不离用，应非常故。 然诸有情，各有本识，一类相续，任持种子，与一切法更互为因，熏习力故，得有如是忆、识等事。 故所设难，于汝有失，非于我宗。	
丑二第二问答		若无实我，谁能造业？谁受果耶？ 所执实我，既无变易，犹如虚空，如何可能造业、受果？ 若有变易，应是无常。 然诸有情心、心所法因缘力故，相续无断，造业、受果，于理无违。								

表 1-4: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(4/11)

丙一略释难标宗分三	己二广释颂分二	庚一广破外执成颂义分四	辛三别问别答分二	壬一破执实我分二	癸二答分五	子五假设外征释诸妨难分四	丑三第三问答		我若实无，谁于生死轮回诸趣？ 谁复厌苦求趣涅槃？ 所执实我，既无生灭，如何可说生死轮回？ 常如虚空，非苦所恼，何为厌舍求趣涅槃？ 故彼所言常为自害。 然有情类，身、心相续，烦恼、业力轮回诸趣，厌患苦故，求趣涅槃。
							丑四总结非述正		由此故知定无实我，但有诸识无始时来前灭后生，因果相续，由妄熏习，似我相现，愚者于中妄执为我。
							癸一外小略共问		如何识外实有诸法不可得耶？
							癸二略答		外道、余乘所执外法，理非有故。
							丑一问		外道所执云何非有？
							辰一叙计		且数论者执我是思，受用萨埵、刺闍、答摩所成大等二十三法，然大等法三事合成，是实非假，现量所得。
							辰二破执分三	巳一总非	彼执非理，
								巳二返问	所以者何？
								午一总破所成谛	大等诸法，多事成故，如军、林等，应假非实，如何可说现量得耶？ 又大等法，若是实有，应如本事，非三合成。
								午二别破本事能成	萨埵等三，即大等故，应如大等，亦三合成，转变非常，为例亦尔。 又三本事，各多功能，体亦应多，能、体一故。 三体既遍，一处变时，余亦应尔，体无别故。许此三事体、相各别，如何和合共成一相？不应合时变为一相，与未合时，体无别故。若谓三事体异相同，便违己宗体、相是一，体应如相，冥然是一，相应如体，显然有三，故不应言三合成一。
								午三合破能所成谛	又三是别，大等是总，总、别一故，应非一、三。 此三变时，若不和合成一相者，应如未变，如何现见是一色等？ 若三和合成一相者，应失本别相，体亦应随失。 不可说三各有二相： 一、总；二、别。 总即别故，总亦应三，如何见一？ 若谓三体各有三相，和杂难知，故见一者，既有三相，宁见为一？ 复如何知三事有异？ 若彼一一皆具三相，应一一事能成色等，何所闕少，待三和合，体亦应各三，以体即相故，又大等法皆三合成，展转相望，应无差别，是则因、果、唯量、诸大、诸根差别皆不得成。 若尔，一根应得一切境，或应一境一切根所得，世间现见情与非情、净秽等物，现、比量等，皆应无异，便为大失。
							辰三总结非		故彼所执实法不成，但是妄情计度为有。
							卯一破数论义分三		
							寅一别破十三外道分五		
							丑二破分二		
							子一外道分二		
							癸三外小别问破所取无分二		
							壬二破执实法分五		

表 1-5: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(5/11)

丙一略释难标宗分三	丁三长行释分二	戊一释上三句分二	辛三别问别答分二	癸三外小别问破所取无分二	壬二破执实法分五	子一外道分二	丑二破分二	寅一别破十三外道分五	卯二破胜论义分三	辰一叙宗		胜论所执实等句义，多实有性，现量所得。
										巳一总非		彼执非理。
										巳二返问		所以者何？
										巳三别破分五	午一总破诸句	诸句义中且常住者，若能生果，应是无常，有作用故，如所生果； 若不生果，应非离识实有自性，如兔角等。 诸无常者，若有质碍，便有方分，应可分析，如军、林等，非实有性； 若无质碍，如心、心所，应非离此有实自性。
												又彼所执地、水、火、风应非有碍，实句义摄，身根所触故，如坚、湿、暖、动。 即彼所执坚、湿、暖等，应非无碍，德句义摄，身根所触故，如地、水、火、风，地、水、火三，对青色等，俱眼所见，准此应责。 故知无实地、水、火、风与坚、湿等各别有性，亦非眼见实地、水、火。
												又彼所执实句义中，有碍、常者，皆有碍故，如粗地等，应是无常。 诸句义中，色根所取，无质碍法，应皆有碍，许色根取故，如地、水、火、风。 又彼所执非实德等，应非离识有别自性，非实摄故，如石女儿，非有实等，应非离识有别自性，非有摄故，如空花等。
											午四别破大有等性分三	未一破大有 彼所执有，应离实等无别自性，许非无故，如实、德等。 若离实等，应非有性，许异实等故，如毕竟无等。如有非无，无别有性，如何实等有别有性？ 若离有法，有别有性，应离无法，有别无性，彼既不然，此云何尔？ 故彼有性唯妄计度。
												未二破同性 又彼所执实、德、业性，异实、德、业，理定不然，勿此亦非实、德、业性，异实等故，如德、业等。 又应实等非实等摄，异实等性故，如德、业、实等。 地等诸性对地等体，更相征诘，准此应知。 如实性等，无别实等性，实等亦应无别实性等。若离实等有实等性，应离非实等，有非实等性。彼既不尔，此云何然？ 故同异性唯假施設。
												未三破和合句义 又彼所执和合句义定非实有，非有、实等诸法摄故，如毕竟无。 彼许实等现量所得，以理推征尚非实有，况彼自许和合句义非现量得，而可实有？ 设执和合是现量境，由前理故，亦非实有。
											午五总结破诸句义	然彼实等，非缘离识实有自体现量所得，许所知故，如龟毛等。 又缘实智，非缘离识实句自体现量智摄，假合生故，如德智等。 广说乃至缘和合智，非缘离识和合自体现量智摄，假合生故，如实智等。
										辰三总结非		故胜论者实等句义，亦是随情妄所施設。

表 1-6: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(6/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	壬二破执实法分五 癸三外小别问破所取无分二	子一外道分二	丑二破分二	寅一别破十三外道分五	卯六破顺世外道计分二	卯三事自在天者计二	辰一叙			有执有一大自在天，体实、遍、常，能生诸法。		
								辰二非分二	巳一总非返征		彼执非理，所以者何？		
									巳二别破		若法能生，必非常故； 诸非常者，必不遍故； 诸不遍者，非真实故。 体既常、遍，具诸功能，应一切处、时，顿生一切法。 待欲或缘方能生者，违一因论。 或欲及缘亦应顿起，因常有故。		
							卯四合破七外道计			余执有一大梵、时、方、本际、自然、虚空、我等，常住、实有，具诸功能，生一切法，皆同此破。			
							卯五二论声计二	辰一叙计			有余偏执，明论声常，能为定量，表诠诸法； 有执一切声皆是常，待缘显发，方有诠表。		
								辰二破分二	巳一总非返征		彼俱非理，所以者何？		
									巳二正破分二	午一明论	且明论声，许能诠故，应非常住，如所余声。		
										午二例破余	余声亦应非常声体，如瓶、衣等，待众缘故。		
								辰一叙计			有外道执地、水、火、风、极微实、常，能生粗色，所生粗色不越因量，虽是无常，而体实有。		
									巳一总非返征		彼亦非理，所以者何？		
									巳二正破分三	午一破能生四大极微		所执极微，若有方分，如蚁行等，体应非实。若无方分，如心、心所应不共聚生粗果色，既能生果，如彼所生，如何可说极微常住？	
										午二破所生粗色		又所生果不越因量，应如极微，不名粗色，则此果色应非眼等色根所取，便违自执。若谓果色，量德合故，非粗似粗，色根能取。所执果色，既同因量，应如极微，无粗德合；或应极微亦粗德合； 如粗果色，处无别故。 若谓果色遍在自因，因非一故，可名粗者，则此果色体应非一，如所在因，处各别故。既尔，此果还不成粗，由此亦非色根所取。若果多分合故成粗，多因极微合应非细，足成根境，何用果为？ 既多分成，应非实有，则汝所执，前后相违。	
												午三合破	

表 1-7: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(7/11)

丙一略释难标宗分三	丁三长行释分二	戊一释上三句分二	辛三别问别答分二	癸三外小别问破所取无分二	壬二破执实法分五	子二别破小乘分三	子一外道分二	丑二破分二	寅二束九十种为四种破分二	卯一总叙			然诸外道品类虽多，所执有法不过四种：	
										辰一叙破分四	卯二别叙分二	巳一破定一	一、执有法与有等性其体定一，如数论等。彼执非理，所以者何？勿一切法即有性故，皆如有性，体无差别，便违三德、我等体异，亦违世间诸法差别。又若色等即色等性，色等应无青、黄等异。	
												巳二破定异	二、执有法与有等性其体定异，如胜论等。彼执非理，所以者何？勿一切法非有性故，如已灭无，体不可得，便违实等自体非无，亦违世间现见有物。又若色等非色等性，应如声等非眼等境。	
												巳三破亦一亦异	三、执有法与有等性亦一、亦异，如无惭等，彼执非理，所以者何？一、异同前一、异过故；二相相违，体应别故，一、异体同俱不成故。勿一切法皆同一体，或应一、异是假非实，而执为实理定不成。	
												巳四破非一非异	四、执有法与有等性非一、非异，如邪命等。彼执非理，所以者何？非一、异执同异、一故。非一、异言为遮为表？若唯是表，应不双非；若但是遮，应无所执；亦遮、亦表应互相违；非表、非遮应成戏论。又非一、异，违世共知有一、异物，亦违自宗色等有法决定实有。	
										辰二总结非			是故彼言唯矫避过，诸有智者勿谬许之。	
										丑一总问			余乘所执，离识实有色等诸法，如何非有？	
										丑二略答			彼所执色、不相应行及诸无为，理非有故。	
										卯一总叙外执色类别			且所执色总有二种：一者有对，极微所成；二者无对，非极微成。	
										丑三破广分三	寅一破色分三	卯二别牒破分三	辰一破有对分二	巳一破诸部有对不成分三
申一破有无碍分二	酉一破有碍	谓诸极微，若有质碍，应如瓶等，是假非实。												
	酉二设破无碍	若无质碍，应如非色，如何可集成瓶、衣等？												
酉一破有方分	又诸极微，若有方分，必可分析，便非实有。													
	戌一难	若无方分，则如非色，云何和合承光、发影？日轮纔举照柱等时，东、西两边光影各现，承光、发影处既不同，所执极微定有方分。又，若见、触壁等物时，唯得此边不得彼分。既和合物即诸极微，故此极微必有方分。又诸极微随所住处，必有上、下、四方差别，不尔便无共和、集义。或相涉入应不成粗，由此极微定有方分。执有对色即诸极微，若无方分，应无障碍。若尔，便非障碍有对。												
戌二结		是故汝等所执极微必有方分，有方分故，便可分析，定非实有。												
未三总结非		故有对色实有不成。												



表 1-8: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(8/11)

丙一略释难标宗分三	丁三长行释分二	戊一释上三句分二	辛三别问别答分二	癸三外小别问破所取无分二	寅一破色分三	卯二别牒破分三	辰二破无对	巳二结有对不成	午二破所成有对眼等不成分二	未二答分三	未一问		五识岂无所依、缘色？	
											申一申正义	虽非无色，而是识变。 谓识生时，内因缘力，变似眼等、色等相现，即以此相为所依、缘。		
												申二别破五根	然眼等根非现量得，以能发识，比知是有，此但功能，非外所造。 外有对色理既不成，故应但是内识变现，发眼等识，名眼等根，此为所依，生眼等识。	
											申三破所缘缘分三	酉二正破执分四	酉一标识变定义	此眼等识外所缘缘，理非有故，决定应许自识所变为所缘缘，谓能引生似自识者，汝执彼是此所缘缘。
													戌一破正量部	非但能生，勿因缘等亦名此识所缘缘故。
													戌二破经量部	眼等五识了色等时，但缘和合，似彼相故，非和合相，异诸极微有实自体。 分析彼时，似彼相识定不生故，彼和合相既非实有，故不可说是五识缘，勿第二月等能生五识故。
													戌三破本萨婆多部	非诸极微共和合位可与五识各作所缘，此识上无极微相故，非诸极微有和合相，不和合时无此相故。 非和合位与不合时，此诸极微体相有异，故和合位如不合时，色等极微非五识境。
											酉三总结	戌四破新萨婆多部	有执： 色等一一极微不和集时，非五识境，共和集位，展转相资，有粗相生，为此识境，彼相实有，为此所缘。 彼执不然，共和集位与未集时，体相一故。瓶、瓠等物极微等者，缘彼相识应无别故；共和集位一一极微，各各应舍微、圆相故；非粗相识缘细相境，勿余境识缘余境故；一识应缘一切境故。	
												午三结归正义		由此定知，自识所变似色等相为所缘缘，见托彼生，带彼相故。 然识变时，随量大、小，顿现一相，非别变作众多极微合成一物。 为执粗色有实体者，佛说极微，令其除析，非谓诸色实有极微。 诸瑜伽师以假想慧，于粗色相渐次除析，至不可析，假说极微，虽此极微犹有方分，而不可析，若更析之便似空现，不名为色，故说极微是色边际。
											巳二结有对不成		由此应知，诸有对色，皆识变现，非极微成。	
											辰二破无对		余无对色是此类故，亦非实有，或无对故，如心、心所，定非实色。 诸有对色现有色相，以理推究，离识尚无，况无对色现无色相，而可说为真实色法？	

表 1-9: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(9/11)

丙一略释难标宗分三	丁三长行释分二	戊一释上三句分二	辛三别问别答分二	寅一破色分三	卯二别牒破分三	辰三双破有无对分二	巳一问					表、无表色岂非实有?					
							未一总非					此非实有,					
							未二却诘					所以者何?					
							午一破外计分三	未三别破诸部分二	申一破表业分二	酉一破身表业分二	亥一总问诸部	且身表色若是实有, 以何为性?					
											亥二别破诸部	若言是形, 便非实有, 可分析故; 长等极微不可得故。 若言是动, 亦非实有, 纔生即灭无动义故; 有为法灭不待因故; 灭若待因应非灭故。 若言有色非显、非形, 心所引生, 能动手等, 名身表业, 理亦不然。此若是动, 义如前破; 若是动因, 应即风界, 风无表示, 不应名表; 又触不应通善、恶性, 非显、香、味, 类触应知。					
												亥三结破	故身表业定非实有。				
												戌二述正义		然心为因, 令识所变手等色相, 生灭相续, 转趣余方, 似有动作。表示心故, 假名身表。			
												酉二破语表业分二	戌一破外执	语表亦非实有声性, 一刹那声无论表故, 多念相续便非实故, 外有对色, 前已破故。			
											戌二述正义		然因心故, 识变似声, 生灭相续, 似有表示, 假名语表, 于理无违。				
											申二例破无表		表既实无, 无表宁实? 然依思愿善恶分限, 假立无表, 理亦无违。 谓此或依发胜身、语善恶思种增长位立; 或依定中止身、语恶现行思立, 故是假有。				
							午二外人引经难分三				未一问		世尊经中说有三业, 拨身、语业岂不违经?				
											未二总答		不拨为无, 但言非色。				
											未三别类分二	申一出体	能动身思说名身业, 能发语思说名语业。 审、决二思, 意相应故, 作动意故, 说名意业。				
												申二释名	起身、语思, 有所造作, 说名为业, 是审、决思所游履故; 通生苦、乐异熟果故, 亦名为道。故前七业道, 亦思为自性, 或身、语表由思发故, 假说为业, 思所履故, 说名业道。				
							卯三总结非							由此应知实无外色, 唯有内识变似色生。			
							己二广释颂分二										
庚一广破外执成颂义分四																	
辛三别问别答分二																	
壬二破执实法分五																	
癸三外小别问破所取无分二																	
丑三破广分三																	
寅一破色分三																	

表 1-10: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(10/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	壬二破执实法分五 癸三外小别问破所取无分二	子二别破小乘分三 丑三破广分三 寅二破不相应行分二	卯一总破诸部分三	辰一总非	不相应行亦非实有，											
					辰二却诘	所以者何？											
					辰三以量斥分三	巳一别举体用因	得、非得等，非如色、心及诸心所体相可得；非异色、心及诸心所作用可得，由此故知定非实有，但依色等分位假立。										
						巳二合难体用	此定非异色、心、心所，有实体用，如色、心等，许蕴摄故。										
						巳三别难实有	或心、心所及色、无为所不摄故，如毕竟无，定非实有。 或余实法所不摄故，如余假法，非实有体。										
					辰一破本萨婆多分六	巳一破得非得分四	午三以教理难分二	未二申难分二	申一难得分二	午一问外人		且彼如何知得、非得，异色、心等，有实体用？					
										午二外人引经难		契经说故。 如说：如是补特伽罗成就善、恶，圣者成就十无学法。 又说：异生不成就圣法，诸阿罗汉不成就烦恼，成、不成言，显得、非得。					
												经不说此异色、心等有实体用，为证不成。					
										未一总非	酉一以教齐责分四			戌一以教齐责	亦说：轮王成就七宝。岂即成就他身、非情？		
														戌二难宝假成	若谓于宝有自在力，假说成就，于善、恶法，何不许然，而执实得？		
														戌三例宝唯现	若谓七宝在现在，故可假说成，宁知所成善、恶等法离现在有？ 离现实法，理非有故。		
														戌四破外伏难	现在必有善种等故。		
											酉二教外生征分二			戌一总问		又得于法有何胜用？	
														亥一难能起因二	天一牒救难	若言能起，应起无为，一切非情应永不起，未得、已失应永不生。	
															天二设救难	若俱生得为因起者，所执二生便为无用。 又具善、恶、无记得者，善、恶、无记应顿现前，若待余因，得便无用。	
														亥二难不失因		若得于法是不失因，有情由此成就彼故，诸可成法不离有情，若离有情实不可得，故得于法俱为无用。	
																得实无故，非得亦无。	
														申二例难非得			然依有情可成诸法分位，假立三种成就： 一、种子成就； 二、自在成就； 三、现行成就。 翻此假立不成就名，此类虽多，而于三界见所断种未永害位，假立非得，名异生性，于诸圣法未成就故。
										午四述正义							

表 1-11：(15 表) 丙一略释难标宗分三【卷一】(11/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	子二别破小乘分三 丑三破广分三 寅二破不相应行分二	壬二破执实法分五 癸三外小别问破所取无分二	卯二别破异计分三 辰一破本萨婆多分六	己二破同分分四	午一问说有由			复如何知异色、心等有实同分？	
						午二外人引经答			契经说故。 如契经说： 此天同分、此人同分，乃至广说。	
						午三论主难分二	未一总非		此经不说异色、心等有实同分，为证不成。	
							未二别难分三	申一内外相同难	若同智、言，因斯起故，知实有者，则草木等应有同分。	
								申二能所无差难	又，于同分起同智、言，同分复应有别同分，彼既不尔，此云何然？	
								申三宿因非假难	若谓为因起同事、欲，知实有者，理亦不然。宿习为因，起同事、欲，何要别执有实同分？	
						午四申正义			然依有情身、心相似，分位差别，假立同分。	
						己三破命根分四	午一问说有由			复如何知异色、心等，有实命根？
							午二外人引经			契经说故。 如契经说： 寿、暖、识三，应知命根说名为寿。
							午三论主难分二	未一总非		此经不说异色、心等有实寿体，为证不成。
					未二别难分三			申一离识无别难	又，先已成色不离识，应此离识无别命根。	
								申二如受非根难	又，若命根异识实有，应如受等，非实命根。	
								申三假为他诘难	若尔，如何经说三法？ 义别说三，如四正断。 住无心位，寿、暖应无。 岂不经说识不离身。 既尔，如何名无心位？ 彼灭转识，非阿赖耶。 有此识因，后当广说。 此识足为界、趣、生体，是遍、恒、续。 异熟果故，无劳别执有实命根。	
					午四申正义			然依亲生此识种子，由业所引功能差别，住时决定，假立命根。		
					己四破二无心定有果分四		午一论主问			复如何知二无心定、无想异熟，异色、心等有实自性？
							午二外人答			若无实性，应不能遮心、心所法，令不现起。
							午三论主难分二	未一牒		若无心位，有别实法，异色、心等，能遮于心，名无心定。
						未二正难分二		申一灰色齐心难	应无色时，有别实法，异色、心等，能碍于色，名无色定。 彼既不尔，此云何然？	
								申二假遮非实难	又，遮碍心何须实法，如堤塘等，假亦能遮。	
						午四申正义分二	未一明二定		谓修定时，于定加行，厌患粗动心、心所故，发胜期愿，遮心、心所。 令心、心所渐细渐微，微微心时，熏异熟识，成极增上厌心等种。 由此损伏心等种故，粗动心等暂不现行，依此分位，假立二定。 此种善故，定亦名善。	
							未二明无想异熟		无想定前，求无想果，故所熏成种，招彼异熟识。 依定粗动想等不行，于此分位，假立无想。 依异熟立，得异熟名，故此三法，亦非实有。	

表 1-12: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷二】(1/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	壬二破执实法分五 癸三外小别问破所取无分二 子二别破小乘分三 丑三破广分三 寅二破不相应行分二	卯二别破异计分三 辰一破本萨婆多分六	巳五破实有四相分四 【卷二】	午一问外人		复如何知，诸有为相异色、心等，有实自性？		
					午二外人答		契经说故。 如契经说：有三有为之有为相，乃至广说。		
					午三广破分二	未二别破分七	未一总非	此经不说异色、心等有实自性，为证不成。	
							申一六啖无差难	非第六声便表异体，色、心之体即色、心故。	
								申二能所不异难	非能相体定异所相，勿坚相等异地等故。
								申三二相应齐难	若有为相异所相体，无为相体应异所相。
							申四四相应齐难	又生等相，若体俱有，应一切时齐兴作用； 若相违故，用不顿兴，体亦相违，如何俱有？ 又住、异、灭用不应俱。	
							申五体用进退难	能相、所相体俱本有，用亦应然，无别性故。 若谓彼用更待因缘，所待因缘应非本有。 又执生等便为无用。	
							申六体等相同难	所相恒有而生等合，应无为法亦有生等，彼此异因，不可得故。	
					午四述自义分二	未一申自义分五	申七有无乖角难	又去、来世，非现、非常，应似空花，非实有性。 生名为有，宁在未来？ 灭名为无，应非现在。灭若非无，生应非有。 又灭违住，宁执同时？住不违生，何容异世。 故彼所执，进退非理。	
								申一简他说相	然有为法，因缘力故，本无今有，暂有还无，表异无为，假立四相。
								申二说相相状	本无今有，有位名生；生位暂停，即说为住； 住别前后，复立异名；暂有还无，无时名灭。
				申三约世辨相				前三有故，同在现在，后一无，故在过去。	
				申四释难				如何无法与有为相？表此后无，为相何失？ 生表有法先非有，灭表有法后是无，异表此法非凝然，住表此法暂有用。 故此四相，于有为法，虽俱名表，而表有异。	
				未二结成假遮实	申五立一期	此依刹那假立四相，一期分位亦得假立。 初有名生；后无名灭；生已相似相续名住； 即此相续转变名异。			
					是故四相皆是假立。				
					巳六破名句文身分四	午一问外人		复如何知异色、心等，有实诠表名、句、文身？	
				午二外人答		契经说故。 如契经说，佛得希有名、句、文身。			
				午三论主破分二		未二别破分五	未一总非	此经不说异色、心等有实名等，为证不成。	
							申一如色非诠难	若名、句、文异声实有，应如色等，非实能诠。	
								申二名等无用难	谓声能生名、句、文者，此声必有音韵屈曲，此足能诠，何用名等。
								申三声色无差难	若谓声上音韵屈曲即名、句、文，异声实有，所见色上形量屈曲，应异色处别有实体。
							申四例声生诠难	若谓声上音韵屈曲，如弦管声非能诠者，此应如彼声，不别生名等。 又谁说彼定不能诠？ 声若能诠，风铃声等应有诠用，此应如彼不别生实名、句、文身。 若唯语声能生名等，如何不许唯语能诠。	
							申五征机调难	何理定知能诠即语？宁知异语别有能诠？ 语不异能诠，人天共了，执能诠异语，天爱非余。	

表 1-13: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷二】(2/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二 庚一广破外执成颂义分四 辛三别问别答分二	壬二破执实法分五 癸三外小别问破所取无分二 子二别破小乘分三 丑三破广分三	寅二破不相应行分二	卯二别破异计分三	辰一破本萨婆多分六	巳六破名句文身分四	午四申正义分四	未一显假差别	然依语声分位差别，而假建立名、句、文身。							
								未二显三用殊	名詮自性； 句詮差别； 文即是字，为二所依。							
								未三显不即离	此三离声虽无别体，而假、实异，亦不即声。 由此法、词二无碍解，境有差别； 声与名等，蕴、处、界摄亦各有异。							
								未四会相违	且依此土说名、句、文依声假立，非谓一切； 诸余佛土亦依光明、妙香、味等假立三故。							
								辰二破大众部等分二	巳一牒计	有执随眠异心、心所，是不相应行蕴所摄。						
										巳二论主破	彼亦非理，名贪等故，如现贪等，非不相应。					
								辰三例破正量部等			执别有余不相应行，准前理趣皆应遮止。					
								卯一破外计分二	辰二别破空等一多分三	巳一破三为三分	辰一总非		诸无为法离色、心等决定实有，理不可得。 且定有法，略有三种： 一、现所知法，如色、心等。 二、现受用法，如瓶、衣等，如是二法，世共知有，不待因成。 三、有作用法，如眼、耳等，由彼彼用证知是有。 无为非世共知定有，又无作用，如眼、耳等。 设许有用，应是无常，故不可执无为定有。 然诸无为所知性故，或色、心等所显性故，如色、心等，不应执为离色、心等实无为性。			
													午一审定宗	又虚空等为一、为多？		
											午二破体一	若体是一，遍一切处，虚空容受色等法故，随能合法，体应成多，一所合处余不合故。 不尔，诸法应互相遍。 若谓虚空不与法合，应非容受，如余无为。 又色等中有虚空不？有应相杂，无应不遍。 一部、一品结法断时，应得余部、余品择灭； 一法缘阙得不生时，应于一切得非择灭。 执彼体一，理应尔故。				
												若体是多，便有品类，应如色等，非实无为。虚空又应非遍容受。				
											巳二例破余部		余部所执离心、心所实有无为，准前应破。			
											巳三重总破		又诸无为许无因果故，应如兔角，非异心等有。			
											辰一标经举数		然契经说，有虚空等诸无为法，略有二种：			
											卯二述正义分二	辰二随列显分二	巳二约法性分五	巳一约识变		一、依识变假施设有。 谓曾闻说虚空等名，随分别有虚空等相，数习力故，心等生时，似虚空等无为相现。 此所现相，前后相似，无有变易，假说为常。
																二、依法性，假施设有。
														午一标依法性	谓空、无我所显真如，有、无、俱非，心言路绝，与一切法非一、异等，是法真理，故名法性。	
								午二显法性体	离诸障碍，故名虚空； 由简择力，灭诸杂染，究竟证会，故名择灭； 不由择力，本性清静，或缘阙所显，故名非择灭； 苦、乐受灭，故名不动；想、受不行，名想受灭。							
								午三显依义	此五皆依真如假立，真如亦是假施設名。							
								午四结依假	遮拨为无，故说为有；遮执为有，故说为空； 勿谓虚、幻，故说为实；理非妄倒，故名真如。							
								卯三总结非	辰三例破正量部等	巳三牒计	不同余宗离色、心等有实常法名曰真如。					
											故诸无为非定实有。					

表 1-14：（15 表）丙一略释难标宗分三【卷二】（3/11）

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二 戊一释上三句分二	己二广释颂分二	庚一广破外执成颂义分四	辛三别问别答分二	壬二破执实法分五	癸五解法执分别俱生伏断位次分二	癸四合破外小所能取无分五	子一破所取		外道、余乘所执诸法异心、心所非实有性，是所取故，如心、心所。	
							子二破能取		能取彼觉亦不缘彼，是能取故，如缘此觉。	
							子三破心心所		诸心、心所依他起故，亦如幻事，非真实有。	
							子四辨假说识		为遣妄执心、心所外实有境故，说唯有识。	
							子五遮实唯识执		若执唯识真实有者，如执外境，亦是法执。	
						子一解二执行相断位分三	丑一牒执举数	然诸法执略有二种：		
								丑二依执别列		一者俱生；二者分别。
							寅一释俱生义分三	卯一释名义	俱生法执，无始时来虚妄熏习，内因力故，恒与身俱，不待邪教及邪分别，任运而转，故名俱生。	
								卯二示行相	此复二种： 一、常相续，在第七识，缘第八识，起自心相，执为实法； 二、有间断，在第六识，缘识所变蕴、处、界相，或总、或别，起自心相，执为实法。	
								卯三示断位	此二法执细故难断，后十地中数数修习胜法空观，方能除灭。	
							寅二释分别义分三	卯一释名义	分别法执，亦由现在外缘力故，非与身俱，要待邪教及邪分别然后方起，故名分别。	
								卯二示行相	唯在第六意识中有。 此亦二种： 一、缘邪教所说蕴、处、界相，起自心相，分别、计度，执为实法。 二、缘邪教所说自性等相，起自心相，分别、计度，执为实法。	
								卯三示断位	此二法执粗故易断，入初地时，观一切法，法空真如，即能除灭。	
							子二显执所依或有或无		如是所说一切法执，自心外法或有或无，自心内法一切皆有，是故法执皆缘自心所现似法，执为实有。 然似法相从缘生故，是如幻有，所执实法妄计度故，决定非有。 故世尊说“慈氏当知，诸识所缘，唯识所现，依他起性，如幻事等。”。	
							辛四别征总结分三	壬一牒前所非		如是外道、余乘所执离识我、法皆非实有。故心、心所决定不用外色等法为所缘缘，缘用必依实有体故。
								壬二别破上座部等计		现在彼聚心、心所法，非此聚识亲所缘缘，如非所缘，他聚摄故。 同聚心所亦非亲所缘，自体异故，如余非所取。
								壬三总结引经		由此应知，实无外境，唯有内识，似外境生。 是故契经伽他中说： “如愚所分别，外境实皆无，习气扰浊心，故似彼而转。”。

表 1-15: (15 表) 丙一略释难标宗分三【卷二】(4/11)

丙一略释难标宗分三 丁三长行释分二	戊一释上三句分二	己二广释颂分二	庚二略释外难重净上三句分三	辛一叙难				有作是难： 若无离识实我、法者，假亦应无，谓假必依真事、似事、共法而立，如有真火、有似火人、有猛赤法，乃可假说此人为火，假说牛等应知亦然。 我、法若无，依何假说，无假说故，似亦不成，如何说心似外境转。
				壬一破外道分二	癸二破似共无二破事法分二	癸一破真事无		彼难非理，离识我、法，前已破故。
						子一总非		依类、依实假说火等，俱不成故。
						子二破分二	丑一破依类不成	依类假说理且不成，猛、赤等德非类有故。 若无共德而假说彼，应亦于水等假说火等名。 若谓猛等虽非类德，而不相离，故可假说。 此亦不然，人类猛等现见亦有，互相离故。 类既无德又互相离，然有于人假说火等，故知假说不依类成。
							丑二破依实不成	依实假说，理亦不成。 猛、赤等德非共有故，谓猛、赤等在火、在人其体各别，所依异故，无共假说，有过同前。 若谓人、火，德相似故，可假说者，理亦不然。说火在人，非在德故。 由此假说不依实成。
						壬二破小乘分三		癸一总非
				癸二别显				真谓自相，假智及诤俱非境故。 谓假智、诤不得自相，唯于诸法共相而转，亦非离此有别方便施設自相为假所依。 然假智、诤必依声起，声不及处，此便不转，能诤、所诤俱非自相，故知假说不依真事。
								癸三总结
				辛三结正				是故彼难不应正理。 然依识变，对遣妄执真实我、法，说假似言。 由此契经伽他中说：“为对遣愚夫所执实我、法，故于识所变，假说我、法名。”。
	戊二释下三句分二	己二释能变义分三	己一别解三句出能变体				识所变相虽无量种，而能变识类别唯三：一谓异熟，即第八识，多异熟性故；二谓思量，即第七识，恒审思量故；三谓了境，即前六识，了境相粗故。“及”言显六合为一种。	
			庚一牒列数				此三皆名能变识者，能变有二种：	
			庚二依标解分二	辛一因能变		一、因能变，谓第八识中“等流”、“异熟”二因习气。 等流习气，由七识中善、恶、无记熏令生长； 异熟习气由六识中有漏善、恶熏令生长。		
						二、果能变，谓前二种习气力故，有八识生现种种相。		
			庚三总料简分二	辛一正释二因果		等流习气为因缘故，八识体相差别而生，名等流果，果似因故。 异熟习气为增上缘，感第八识，酬引业力，恒相续故，立异熟名； 感前六识，酬满业者，从异熟起，名异熟生，不名异熟有间断故。 即前异熟及异熟生，名异熟果，果异因故。		
						辛二简余识结		此中且说我爱执藏，持杂染种能变果识，名为异熟，非谓一切。



表 2-1：（24 表）己一释初能变分三【卷二】（5/11）

科判										正文
己一释初能变分三	庚一结前生后以发论端									虽已略说能变三名，而未广辩能变三相。且初能变其相云何？
	庚二举颂正答									颂曰： 初阿赖耶识，异熟一切种， 3 不可知执受，处了常与触，作意、受、想、思，相应唯舍受。 4 是无覆无记，触等亦如是，恒转如瀑流，阿罗汉位舍。
	庚三长行释分二	辛一八段十义释分二	壬一别解八段分八	癸一三相门分二	子一略解分二	丑一解三相分三	寅一解自相		论曰： 初能变识，大小乘教名阿赖耶，此识具有能藏、所藏、执藏义故。 谓与杂染互为缘故，有情执为自内我故，此即显示初能变识所有自相，摄持因果为自相故。 此识自相，分位虽多，藏识过重，是故偏说。	
							寅二解果相		此是能引诸界、趣、生，善、不善业异熟果故，说名异熟。 离此命根、众同分等恒时相续胜异熟果不可得故。 此即显示初能变识所有果相。 此识果相，虽多位、多种，异熟宽、不共，故偏说之。	
							寅三解因相		此能执持诸法种子令不失故，名一切种。离此余法能遍执持诸法种子不可得故，此即显示初能变识所有因相。 此识因相虽有多种，持种不共，是故偏说。	
						丑二总结			初能变识，体相虽多，略说唯有如是三相。	
						丑一发问			一切种相应更分别。 此中何法名为种子？	
						丑二广释分二	寅一十门分别分十	卯一出体		谓本识中亲生自果，功能差别。
					卯二一异分别			此与本识及所生果不一、不异，体用、因果理应尔故。		
	卯三假实分别		虽非一、异，而是实有，假法如无，非因缘故。 此与诸法既非一、异，应如瓶等是假非实。若尔，真如是假有，许则便无真胜义谛。							
	卯四二谛分别		然诸种子唯依世俗说为实有，不同真如。							
	卯五四分分别		种子虽依第八识体，而是此识相分；非余，见分恒取此为境故。							
	卯六三性分别分二	辰一有漏种	诸有漏种与异熟识，体无别故，无记性摄；因果俱有善等性故，亦名善等。							
		辰二无漏种	诸无漏种，非异熟识性所摄故；因果俱是善性摄故，唯名为善。 若尔，何故〈决择分〉说二十二根一切皆有异熟种子，皆异熟生？ 虽名异熟而非无记，依异熟故名异熟种，异性相依如眼等识。 或无漏种，由熏习力转变成熟，立异熟名，非无记性所摄异熟。							

表 2-2: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(6/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸一三相门分二 子二广分别分三 丑二广释分二 寅一十门分别分十	卯七本有新熏分别分三	辰一护月本有义分四	已一标宗		此中有义：一切种子皆本性有，不从熏生。
				已二释难		由熏习力但可增长。
				已三引证分三	午一漏无漏通证	如契经说：一切有情无始时来有种种界，如恶叉聚，法尔而有。 界即种子差别名故。 又契经说： “无始时来界，一切法等依。”，界是因义。 《瑜伽》亦说： 诸种子体无始时来性虽本有，而由染净新所熏发。诸有情类无始时来，若般涅槃法者，一切种子皆悉具足，不般涅槃法者，便阙三种菩提种子。 如是等文，诚证非一。
					午二唯无漏证	又诸有情既说本有五种性别，故应定有法尔种子，不由熏生。 又《瑜伽》说： 地狱成就三无漏根，是种非现。 又从无始展转传来，法尔所得本性住性。 由此等证，无漏种子法尔本有，不从熏生。
					午三准例有漏法尔种	有漏亦应法尔有种，由熏增长，不别熏生。
				已四立理		如是建立，因果不乱。
			辰二难陀新熏义分四	已一立宗		有义：种子皆熏故生。
				已二释难		所熏、能熏俱无始有，故诸种子无始成就。 种子既是习气异名，习气必由熏习而有，如麻香气，花熏故生。
				已三引证分二	午一有漏种证	如契经说： 诸有情心，染净诸法所熏习故，无量种子之所积集。 论说： 内种定有熏习，外种熏习或有或无。 又名言等三种熏习，总摄一切有漏法种。 彼三既由熏习而有，故有漏种必藉熏生。
					午二无漏种证	无漏种生亦由熏习，说闻熏习、闻净法界等流正法而熏起故，是出世心种子性故。
				已四解众违文分二	午一会种姓文	有情本来种姓差别，不由无漏种子有无，但依有障、无障建立。 如《瑜伽》说： 于真如境，若有毕竟二障种者，立为不般涅槃法性；若有毕竟所知障种非烦恼者，一分立为声闻种性，一分立为独觉种性； 若无毕竟二障种者，即立彼为如来种性。 故知本来种性差别，依障建立，非无漏种。
					午二会三无漏根文	所说：成就无漏种言，依当可生，非已有体。
			辰三护法合生义分四	已一立宗		有义：种子各有二类。
				已二引证分二	午一证本有	一者本有，谓无始来异熟识中法尔而有，生蕴、处、界功能差别。 世尊依此，说诸有情无始时来有种种界，如恶叉聚，法尔而有，余所引证广说如初。 此即名为本性住种。
					午二证新熏	二者始起，谓无始来，数数现行熏习而有。 世尊依此，说有情心染净诸法所熏习故，无量种子之所积集。 诸论亦说： 染净种子由染净法熏习故生，此即名为习所成种。

表 2-3: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(7/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸一三相门分二 子二广分别分三 丑二广释分二 寅一十门分别分十 卯七本有新熏分别分三 辰三护法合生义分四	已三破斥分二	午一破本有分二	未一引经成理	若唯本有，转识不应与阿赖耶为因缘性。 如契经说：“诸法于识藏，识于法亦尔，更互为果性，亦常为因性。” 此颂意言：阿赖耶识与诸转识，于一切时展转相生，互为因果。 《摄大乘》说：阿赖耶识与杂染法互为因缘，如炷与焰展转生烧，又如束芦互相依住，唯依此二建立因缘，所余因缘不可得故。 若诸种子不由熏生，如何转识与阿赖耶有因缘义？ 非熏令长可名因缘，勿善、恶业与异熟果为因缘故。
				未二违多经失	又诸圣教说有种子由熏习生，皆违彼义； 故唯本有，理、教相违。
			午二破分别论者分三	未一正难本宗	若唯始起，有为无漏无因缘故，应不得生，有漏不应为无漏种，勿无漏种生有漏故，许应诸佛有漏复生，善等应为不善等种。
				申一叙宗	分别论者虽作是说：心性本净，客尘烦恼所染污，故名为杂染，离烦恼时，转成无漏，故无漏法非无因生。
				申二破他	而心性言，彼说何义？ 若说空理，空非心因，常法定非诸法种子，以体前后无转变故。 若即说心，应同数论，相虽转变而体常一，恶、无记心又应是善，许则应与信等相应，不许便应非善心体，尚不名善，况是无漏？ 有漏善心既称杂染，如恶心等，性非无漏，故不应与无漏为因，勿善、恶等互为因故。 若有漏心性是无漏，应无漏心性是有漏，差别因缘不可得故。 又异生心若是无漏，则异生位无漏现行应名圣者。 若异生心性虽无漏，而相有染，不名无漏，无斯过者，则心种子亦非无漏，何故汝论说有异生唯得成就无漏种子，种子、现行性、相同故。
				申三论主自解	然契经说：心性净者，说心空理所显真如，真如是心真实性故。 或说心体非烦恼故，名性本净，非有漏心性是无漏，故名本净。
				未三申正义	由此应信有诸有情无始时来有无漏种，不由熏习，法尔成就，后胜进位熏令增长，无漏法起，以此为因。 无漏起时，复熏成种，有漏法种类此应知。
			未四释相违分四	申一会内种熏习文	诸圣教中，虽说内种定有熏习，而不定说一切种子皆熏故生，宁全拨无本有种子？ 然本有种亦由熏习，令其增盛方能得果，故说内种定有熏习。
				申二会闻熏习	其闻熏习非唯有漏，闻正法时亦熏本有无漏种子，令渐增盛，展转乃至生出世心，故亦说此名闻熏习。
				申三会出世种子	闻熏习中，有漏性者是修所断，感胜异熟，为出世法胜增上缘。 无漏性者非所断摄，与出世法正为因缘。 此正因缘微隐难了，有寄粗显胜增上缘，方便说为出世心种。
				申四会五种姓文	依障建立种姓别者，意显无漏种子有无，谓：若全无无漏种者，彼二障种永不可害，即立彼为非涅槃法； 若唯有二乘无漏种者，彼所知障种永不可害，一分立为声闻种姓，一分立为独觉种姓； 若亦有佛无漏种者，彼二障种俱可永害，即立彼为如来种姓。 故由无漏种子有无，障有可断、不可断义，然无漏种微隐难知，故约彼障显性差别。 不尔，彼障有何别因而有可害、不可害者？ 若谓法尔有此障别，无漏法种宁不许然？ 若本全无无漏法种，则诸圣道永不得生，谁当能害二障种子，而说依障立种姓别？ 既彼圣道必无生义，说当可生，亦定非理。
				未五曲文总结	然诸圣教处处说有本有种子，皆违彼义，故唯始起，理、教相违。
			已四总结		由此应知，诸法种子各有本有、始起二类。

表 2-4: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(8/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	寅一十门分别分十 癸一三相门分二 子二广分别分三 丑二广释分二	卯八具义多少分三	辰一总标		然种子义，略有六种。	
			辰二别释分六	巳一刹那灭	一、刹那灭。 谓体纔生无间必灭，有胜功力，方成种子。 此遮常法，常无转变，不可说有能生用故。	
				巳二果俱有	二、果俱有。 谓与所生现行果法俱现和合，方成种子。 此遮前后及定相离，现、种异类互不相违，一身俱时有能生用，非如种子自类相生，前后相违，必不俱有。 虽因与果有俱、不俱，而现在时可有因用，未生、已灭无自体故，依生现果立种子名，不依引生自类名种，故但应说与果俱有。	
				巳三恒随转	三、恒随转。 谓要长时一类相续，至究竟位，方成种子。 此遮转识，转易间断，与种子法不相应故。 此显种子自类相生。	
				巳四性决定	四、性决定。 谓随因力生善、恶等，功能决定，方成种子。 此遮余部执异性因生异性果有因缘义。	
				巳五待众缘	五、待众缘。 谓此要待自众缘合，功能殊胜，方成种子。 此遮外道执自然因不待众缘恒顿生果； 或遮余部缘恒非无。 显所待缘非恒有性，故种于果非恒顿生。	
				巳六引自果	六、引自果。 谓于别别色、心等果，各各引生方成种子。 此遮外道执唯一因生一切果； 或遮余部执色、心等互为因缘。	
		辰三总结料简		唯本识中功能差别具斯六义，成种非余，外谷麦等，识所变故，假立种名，非实种子。		
		卯九双辨生引二因		此种势力生近、正果，名曰生因； 引远、残果，令不顿绝，即名引因。		
		卯十四缘分别分三	辰一释内种因缘		内种必由熏习生长，亲能生果，是因缘性。	
	辰二释外种增上缘		外种熏习或有、或无，为增上缘，办所生果。			
	辰三显外种因缘		必以内种为彼因缘，是共相种所生果故。			
	寅二解熏习义分三	卯三广辨分三	辰一所熏四义分三	卯一总问		依何等义立熏习名？
				卯二略答		所熏、能熏各具四义，令种生长，故名熏习。
				巳一问		何等名为所熏四义？
				巳二分四	午一坚住性	一、坚住性。 若法始终一类相续能持习气，乃是所熏。 此遮转识及声、风等，性不坚住，故非所熏。
		午二无记性	二、无记性。 若法平等，无所违逆，能容习气，乃是所熏。 此遮善染势力强盛，无所容纳，故非所熏。 由此如来第八净识，唯带旧种，非新受熏。			
		午三可熏性	三、可熏性。 若法自在，性非坚密，能受习气，乃是所熏。 此遮心所及无为法，依他、坚密，故非所熏。			
		午四能所和合	四、与能熏共和合性。 若与能熏同时、同处，不即、不离，乃是所熏。 此遮他身、刹那前后，无和合义，故非所熏。			
		巳三结成		唯异熟识具此四义，可是所熏，非心所等。		

表 2-5: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(9/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸一三相门分二	子二广分别分三	丑二广释分二	寅二解熏习义分三	卯三广辨分三	辰二能熏四义分三	巳一问		何等名为能熏四义?
							巳二答分四	午一有生灭	一、有生灭。 若法非常，能有作用，生长习气，乃是能熏。此遮无为前后不变，无生长用，故非能熏。
								午二有胜用	二、有胜用。 若有生灭，势力增盛，能引习气，乃是能熏。此遮异熟心、心所等，势力羸劣，故非能熏。
								午三有增减	三、有增减。 若有胜用，可增可减，摄植习气，乃是能熏。此遮佛果圆满善法，无增无减，故非能熏。彼若能熏，便非圆满，前后佛果应有胜劣。
								午四能所和合	四、与所熏和合而转。 若与所熏同时、同处，不即、不离，乃是能熏。此遮他身、刹那前后，无和合义，故非能熏。
							巳三结成		唯七转识及彼心所有胜势用，而增减者，具此四义，可是能熏。
						辰三三种子熏习义分三	巳一解熏习义		如是能熏与所熏识，俱生俱灭，熏习义成。令所熏中种子生长，如熏苣蓿，故名熏习。
							巳二显法体多少		能熏识等，从种生时，即能为因，复熏成种，三法展转因果同时，如炷生焰、焰生焦炷，亦如芦束更互相依，因果俱时，理不倾动。
							巳三明因果		能熏生种，种起现行，如俱有因得土用果；种子前后自类相生，如同类因引等流果。此二于果是因缘性，除此余法皆非因缘，设名因缘，应知假说。
						丑三总结		是谓略说一切种相。	
						子一问		此识行相、所缘云何?	
						丑一颂答		谓不可知执受、处了。	
					卯一略解分二	辰一解行相		“了”谓了别，即是行相。识以了别为行相故。	
						巳一别解分二	午一解外境		“处”谓处所，即器世间，是诸有情所依处故。
							午二解内境		“执受”有二： 谓诸种子及有根身。 诸种子者，谓诸相、名、分别习气，有根身者，谓诸色根及根依处。 此二皆是识所执受，摄为自体，同安危故。
						巳二总解		执受及处俱是所缘，阿赖耶识因缘力故，自体生时，内变为种及有根身，外变为器，即以所变为自所缘，行相仗之而得起故。	
					卯二广解分二	巳一释了言		此中“了”者，谓异熟识于自所缘有了别用，此了别用，见分所摄。	
						巳二明四分义分四	未一正立分二	申一 申自义	然有漏识自体生时，皆似所缘、能缘相现，彼相应法应知亦尔。 似所缘相说名相分，似能缘相说名见分。 若心、心所无所缘相，应不能缘自所缘境，或应一一能缘一切，自境如余，余如自故。
								申二 破他	若心、心所无能缘相，应不能缘，如虚空等，或虚空等；亦是能缘。
							未二引经证		故心、心所必有二相。 如契经说： “一切唯有觉，所觉义皆无，能觉所觉分，各自然而转。”

表 2-6: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(10/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸二行相所缘门分二 子二答分二 丑二别解分二 寅一解行相所缘分二 卯二广解分二	辰一广行相分三	巳二明四分义分四	午二三分义分二	未一对他辨相差别分二	申一对小乘	执有离识所缘境者，彼说外境是所缘，相分名行相，见分名事，是心、心所自体相故。 心与心所同所依、缘，行相相似，事虽数等，而相各异，识、受、想等相各别故。		
						申二对大乘	达无离识所缘境者，则说相分是所缘，见分名行相，相、见所依自体名事，即自证分。 此若无者，应不自忆心、心所法，如不曾更境必不能忆故，心与心所同所依根，所缘相似，行相各别，了别、领纳等作用各异故，事虽数等，而相各异，识、受等体有差别故。		
					未二申三分		然心、心所一一生时，以理推征各有三分，所量、能量、量果别故，相、见必有所依体故。 如《集量论》伽他中说：“似境相所量，能取相、自证，即能量及果，此三体无别”。		
				午三四分义分四		未一立理	又心、心所若细分别应有四分，三分如前，复有第四证自证分。 此若无者，谁证第三？心分既同应皆证故。 又自证分应无有果，诸能量者必有果故，不应见分是第三果，见分或时非量摄故。 由此见分不证第三，证自体者必现量故。		
						未二分别	此四分中前二是外，后二是内。 初唯所缘，后三通二，谓第二分但缘第一，或量、非量，或现、或比。 第三能缘第二，第四证自证分，唯缘第三，非第二者，以无用故，第三、第四皆现量摄，故心、心所四分合成，具所、能缘，无无穷过，非即、非离，唯识理成。		
						未三引教成	是故契经伽他中说：“众生心二性，内外一切分，所取能取缠，见种种差别。”。		
						未四释颂意	此颂意说：众生心性二分合成，若内、若外皆有所取、能取缠缚，见有种种，或量、非量，或现、或比，多分差别，此中见者是见分故。		
				午四一分义		如是四分或摄为三，第四摄入自证分故，或摄为二，后三俱是能缘性故。 皆见分摄，此言见者是能缘义。 或摄为一，体无别故。 如《入楞伽》伽他中说：“由自心执着，心似外境转，彼所见非有，是故说唯心。”。 如是处处说唯一心，此一心言亦摄心所。			
				巳三总结		故识行相即是了别，了别即是识之见分。			
				辰二广所缘分三	巳一解外境分二	午一总解释		所言“处”者，谓异熟识由共相种成熟力故，变似色等器世间相，即外大种及所造色。 虽诸有情所变各别而相相似，处所无异，如众灯明各遍似一。	
						午二诸师说分二	未一问		谁异熟识变为此相？
							未二答分三	申一第一师说	有义：一切。所以者何？ 如契经说：一切有情，业增上力共所起故。
								申二第二师说	有义：若尔，诸佛菩萨应实变为此杂秽土，诸异生等应实变为他方、此界诸净妙土。 又诸圣者厌离有色，生无色界，必不下生，变为此土，复何所用？ 是故现居及当生者，彼异熟识变为此界。 经依少分说“一切”言，诸业同者皆共变故。

表 2-7: (24 表) 己一释初能变分三【卷二】(11/11)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸二行相所缘门分二 子二答分二 丑二别解分二	寅一解行相所缘分二	卯二广解分二 辰二广所缘分三	已一解外境分二	午二诸师说分二	未二答分三	申三第三师说	有义：若尔，器将坏时，既无现居及当生者，谁异熟识变为此界？ 又诸异生厌离有色，生无色界，现无色身，预变为土，此复何用？ 设有色身，与异地器，粗细悬隔，不相依持，此变为彼，亦何所益？ 然所变土本为色身依持、受用，故若于身可有持用便变为彼。 由是设生他方自地，彼识亦得变为此土，故器世界将坏、初成，虽无有情而亦现有。 此说一切共受用者，若别受用准此应知，鬼、人、天等所见异故。
								诸种子者，谓异熟识所持一切有漏法种，此识性摄，故是所缘。 无漏法种虽依附此识，而非此性摄，故非所缘。 虽非所缘而不相离，如真如性，不违唯识。
				已二解内境分二	午二有身二解根分二	未一出体	申一安慧等义 申二护法等义	有根身者，谓异熟识不共相种成熟力故。 变似色根及根依处，即内大种及所造色，有共相种成熟力故，于他身处亦变似彼。 不尔，应无受用他义。
								此中有义：亦变似根。 《辩中边》说：“似自、他身五根现”故。
								有义：唯能变似依处，他根于己非所用故，“似自、他身五根现”者，说自、他识各自变义，故生他地或般涅槃，彼余尸骸犹见相续。
								前来且说业力所变外器、内身、界、地差别； 若定等力所变器、身、界、地、自、他，则不决定。 所变身、器，多恒相续；变声、光等，多分暂时，随现缘力击发起故。
			已三总料简分二	午二总束以前义分别分三	未一度立分二	申二答	未三明三界境别	略说此识所变境者，谓有漏种、十有色处，及堕法处所现实色。
								何故此识不能变似心、心所等为所缘耶？
								有漏识变略有二种： 一、随因缘势力故变； 二、随分别势力故变。 初必有用，后但为境。 异熟识变但随因缘，所变色等必有实用，若变心等便无实用，相分心等不能缘故，须彼实用别从此生。 变无为等亦无实用，故异熟识不缘心等。 至无漏位，胜慧相应，虽无分别，而澄净故，设无实用，亦现彼影。不尔，诸佛应非遍知。 故有漏位，此异熟识但缘器、身及有漏种。
								在欲、色界具三所缘； 无色界中缘有漏种，厌离色故，无业果色，有定果色，于理无违。 彼识亦缘此色为境。
								“不可知”者，谓此行相极微细故，难可了知； 或此所缘内执受境亦微细故； 外器世间量难测故，名不可知。
			寅二解不可知分二					云何是识取所缘境，行相难知？ 如灭定中，不离身识，应信为有，然必应许灭定有识，有情摄故，如有心时。无想等位，当知亦尔。

表 2-8: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(1/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	子一问起论端						此识与几心所相应？		
	子二答举颂证正答						常与触、作意、受、想、思相应。		
	子三释常字显五相应所在位次						阿赖耶识无始时来乃至未转，于一切位恒与此五心所相应，以是遍行心所摄故。		
	子四别释五所体性作用分二	寅一解触分二	卯一总释	辰一广前分二	巳一性用分二	午一功能分二	未一正释	“触”谓三和分别变异，令心、心所触境为性，受、想、思等所依为业。	
						未二会违		谓根、境、识更相随顺，故名三和。触依彼生，令彼和合，故说为彼；三和合位皆有顺生心所功能，说名变异；触似彼起，故名分别。	
								根变异力，引触起时，胜彼识、境，故《集论》等但说分别根之变异。	
					午二自性	和合一切心及心所，令同触境，是触自性。			
					巳二业用分三	午一正释	既似顺起心所功能，故以受等所依为业。		
						午二引证	《起尽经》说：受、想、行蕴一切皆以触为缘故，由斯故说识、触、受等因二、三、四和合而生。		
			午三会违文	《瑜伽》但说与受、想、思为所依者，思于行蕴为主胜故，举此摄余。 《集论》等说为受依者，以触生受近而胜故，谓触所取可意等相与受所取顺益等相，极相邻近，引发胜故。					
			辰二破他			然触自性，是实非假，六六法中，心所性故，是食摄故，能为缘故，如受等性，非即三和。			
			寅二解作意分三			卯一略释	作意谓能警心为性，于所缘境，引心为业；		
						卯二广释	谓此警觉，应起心种，引令趣境，故名作意。虽此亦能引起心所；心是主故，但说引心。		
				卯三破他	有说：令心回趣异境，或于一境，持心令住，故名作意。彼俱非理，应非遍行，不异定故。				
		寅三解受分二	卯一辨自义	“受”谓领纳、顺、违俱非境相为性，起爱为业，能起合、离、非二欲故。					
				辰一总叙计	有作是说：受有二种： 一、境界受，谓领所缘； 二、自性受，谓领俱触。 唯自性受是受自相。以境界受共余相故。				
			巳一破自性受分六		午一论主总破	彼说非理，受定不缘俱生触故。			
	午二论主难体				若似触生，名领触者，似因之果，应皆受性。				
	午三论主难名				又既受因，应名因受，何名自性？				
	午四违自失				若谓如王食诸国邑，受能领触所生受体，名自性受。理亦不然，违自所执不自证故。				
午五难乱失	若不舍自性，名自性受，应一切法皆是受自性。								
午六总结非	故彼所说，但诱婴儿。								
巳二破境界受			然境界受，非共余相，领顺等相，定属己者，名境界受，不共余故。						
寅四解想						“想”谓于境取像为性，施設种种名言为业，谓要安立境分齐相，方能随起种种名言。			
寅五解思						“思”谓令心造作为性，于善品等役心为业，谓能取境正因等相，驱役自心令造善等。			
丑二总释与五俱						此五既是遍行所摄，故与藏识决定相应，其遍行相后当广释。			
子五解相应义						此触等五与异熟识行相虽异，而时、依同，所缘、事等，故名相应。			



表 2-9: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(2/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸四受分别门分二	子一释唯舍受俱分二	丑一以三复次释分三		寅一第一复次	此识行相极不明了，不能分别违、顺境相，微细、一类、相续而转。是故唯与舍受相应。			
					寅二第二复次	又，此相应受，唯是异熟，随先引业转；不待现缘，住善、恶业势力转故。唯是舍受；苦、乐二受，是异熟生，非真异熟，待现缘故，非此相应。			
					寅三第三复次	又，由此识常无转变，有情恒执为自内我；若与苦、乐二受相应，便有转变，宁执为我，故此但与舍受相应。			
			丑二释外妨难				若尔，如何此识亦是恶业异熟？ 既许善业能招舍受，此亦应然。 舍受不违苦、乐品故，如无记法，善、恶俱招。		
		子二不余所相应以分二	丑一外人难		寅一总答		如何此识非别境等心所相应？ 互相违故。		
					寅二别答分三	卯一简别境不俱所以	谓欲希望所乐事转；此识任运，无所希望。胜解印持决定事转；此识瞢昧，无所印持。念唯明记曾习事转，此识昧劣，不能明记。定能令心专注一境；此识任运，刹那别缘。慧唯简择德等事转，此识微昧，不能简择。故此不与别境相应。		
			卯二简善等不俱所以	此识唯是异熟性故，善、染污等亦不相应。					
			卯三别遮不定中无记	恶作等四无记性者，有间断故，定非异熟。					
			癸五三性分别门分二	子一总问					法有四种：谓善、不善、有覆无记、无覆无记，阿赖耶识何法摄耶？
				子二答分三	丑二别答分三		寅一以三因答		此识唯是无覆无记，异熟性故。 异熟若是善、染污者，流转还灭应不得成，又此识是善、染依故，若善、染者，互相违故，应不与二俱作所依；又此识是所熏性故，若善、染者，如极香臭，应不受熏。
	寅二举难解熏习识						无熏习故，染、净因果俱不成立，		
	寅三总结						故此唯是无覆无记。		
	丑三释无覆无记名义					“覆”谓染法障圣道故，又能蔽心，令不净故；此识非染，故名“无覆”。 记谓善、恶，有爱、非爱果，及殊胜自体可记别故，此非善、恶，故名“无记”。			
	癸六心所例同门分三	子一三性例同义					“触等亦如是”者，谓如阿赖耶识，唯是无覆无记性摄，触、作意、受、想、思亦尔，诸相应法，必同性故。		
		子二五门例同义					又，触等五，如阿赖耶，亦是异熟，所缘、行相俱不可知，缘三种境，五法相应，无覆无记，故说“触等亦如是”言。		
		子三六门例同义分二	丑一难陀等义				有义：触等如阿赖耶，亦是异熟及一切种，广说乃至无覆无记，亦如是言，无简别故。		
			丑二护法正义分十二	寅一总非		彼说非理。			
				寅二彼问		所以者何？			
				寅三论主答		触等依识，不自在故。 如贪、信等不能受熏，如何同识，能持种子？			
				寅四征破受熏		又，若触等亦能受熏，应一有情有六种体。			
				寅五征答种生		若尔！果起从何种生？ 理不应言从六种起，未见多种生一芽故。			
	寅六征破果生			若说果生唯从一种，则余五种便为无用；亦不可说次第生果，熏习同时，势力等故；					

表 2-10: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(3/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸六心所例同门分三	子三六门例同义分二	丑二护法正义分十二	寅七破六果顿生		又不可说六果顿生，勿一有情一刹那顷，六眼识等俱时生故。		
				寅八问答转救		谁言触等亦能受熏持诸种子？ 不尔，如何触等如识名一切种？		
				寅九举破似种		谓触等五，有似种相，名一切种，触等与识所缘等故，无色触等有所缘故，亲所缘缘定应有故，此似种相不为因缘生现识等，如触等上似眼根等非识所依，亦如似火无能烧用，彼救非理，触等所缘似种等相，后执受处方应与识而相例故。		
				寅十申正义		由此前说一切种言，定目受熏能持种义； 不尔，本颂有重言失。		
				寅十一举破无简别		又彼所说，“亦如是”言，无简别故，咸相例者，定不成证，勿触等五，亦能了别，触等亦与触等相应。		
				寅十二总结正义		由此故知“亦如是”者，随所应说，非谓一切。		
	癸七因果法喻分二	子一问		阿赖耶识为断、为常？				
		丑一解本颂分二	寅一解法说		非断、非常，以恒转故。 “恒”谓此识无始时来，一类、相续，常无间断，是界、趣、生施設本故，性坚、持种令不失故。 “转”谓此识无始时来，念念生灭前后变异，因灭果生，非常、一故，可为转识熏成种故。			
			寅二解喻说分三	卯一举例生灭喻		“恒”言遮断，“转”表非常，犹如瀑流，因果法尔。		
				卯二广解分三	辰一约浮沉		如瀑流水，非断、非常，相续长时有所漂溺，此识亦尔，从无始来生灭相续，非常、非断，漂溺有情令不出离。	
					辰二约浪起		又如瀑流，虽风等击，起诸波浪而流不断，此识亦尔，虽遇众缘，起眼识等而恒相续。	
					辰三约漂流		又如瀑流，漂水下上鱼草等物，随流不舍，此识亦尔，与内习气外触等法恒相随转。	
			卯三法喻合说		如是法喻，意显此识无始因果非断、常义。 谓此识性无始时来，刹那刹那果生因灭。 果生故非断，因灭故非常，非断、非常是缘起理，故说此识恒转如流。			
		丑二破斥诸部分三	寅一破有部正量部分十	卯一外人问		过去、未来既非实有，非常可尔；非断如何？ 断岂得成缘起正理？		
				卯二论主返质		过去、未来若是实有，可许非断；如何非常？ 常亦不成缘起正理。		
				卯三外人返质		岂斥他过，己义便成？		
				卯四论主答		若不摧邪难以显正。 前因灭位后果即生，如秤两头低、昂时等，如是因果相续如流，何假去、来，方成非断？		
				卯五外人难		因现有位，后果未生，因是谁因？ 果现有时，前因已灭，果是谁果？既无因果，谁离断、常？		
				卯六论主返质		若有因时，已有后果，果既本有，何待前因？ 因义既无，果义宁有？无因无果，岂离断、常？		
				卯七外人解质		因果义成，依法作用，故所诘难，非预我宗。		
				卯八论主难		体既本有，用亦应然，所待因缘，亦本有故。		
				卯九曲结申正义		由斯汝义因果定无，应信大乘缘起正理。 谓此正理深妙离言，因果等言皆假施設。 观现在法有引后用，假立当果对说现因； 观现在法有酬前相，假立曾因对说现果。 假谓现识似彼相现。		
				卯十结劝学		如是因果，理趣显然，远离二边，契会中道，诸有智者应顺修学。		

表 2-11：(24 表) 己一释初能变分三【卷三】(4/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸七因果法喻分二	子二答分三	丑二破斥诸部分三	寅二破上座部分二	卯一叙宗分三		辰一立宗	有余部说： 虽无去、来而有因果恒相续义。		
							辰二所以	谓现在法极迅速者，犹有初、后，生、灭二时，生时酬因，灭时引果，时虽有二而体是一，前因正灭，后果正生，体相虽殊而俱是有。		
							辰三总结	如是因果非假施設，然离断常，又无前难，谁有智者舍此信余？		
					卯二破释				彼有虚言，都无实义，何容一念而有二时？生、灭相违，宁同现在？ 灭若现在，生应未来。 有故名生，既是现在，无故名灭，宁非过去？ 灭若非无，生应非有； 生既现有，灭应现无，又二相违，如何体一？非苦、乐等，见有是事，生、灭若一，时应无二； 生、灭若异，宁说体同？ 故生、灭时俱现在有，同依一体，理必不成。	
									经部师等因果相续，理亦不成，彼不许有阿赖耶识能持种故。	
					寅三破经部师等				由此应信大乘所说因果相续缘起正理。	
					丑三总结劝信				此识无始恒转如流，乃至何位当究竟舍？	
	癸八伏断位次分二	子二答分二	丑二广答分二	寅二广释分二	卯一广阿罗汉分三	子一问			阿罗汉位方究竟舍。	
						丑一举颂总答			谓诸圣者断烦恼障究竟尽时，名阿罗汉。尔时，此识烦恼粗重永远离故，说之为“舍”。	
						寅一略释			此中所说阿罗汉者，通摄三乘无学果位，皆已永害烦恼贼故，应受世间妙供养故，永不复受分段生故。	
						辰一第一师分五	巳一释颂文		云何知然？	
							巳二外人问		《决择分》说： 诸阿罗汉、独觉、如来皆不成就阿赖耶故； 《集论》复说： 若诸菩萨得菩提时，顿断烦恼及所知障，成阿罗汉及如来故。	
							巳三论主答		若尔，菩萨烦恼种子未永断尽非阿罗汉，应皆成就阿赖耶识，何故即彼《决择分》说不退菩萨亦不成就阿赖耶识？	
							巳四外人征		彼说二乘无学果位回心趣向大菩提者，必不退起烦恼障故，趣菩提故，即复转名不退菩萨，彼不成就阿赖耶识。	
							巳五论主释分二	午一正会释		即摄在此阿罗汉中，故彼论文不违此义。
								午二显摄在结		又不动地已上菩萨，一切烦恼永不行故，法驶流中任运转故，能诸行中起诸行故，刹那刹那转增进故，此位方名不退菩萨。
							辰二第二师分二	巳一解不退休		然此菩萨虽未断尽异熟识中烦恼种子，而缘此识我见、爱等，不复执藏为自内我，由斯永舍阿赖耶名，故说不成阿赖耶识，此亦说彼名阿罗汉。
								巳二解舍名		

表 2-12: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(5/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛一八段十义释分二 壬一别解八段分八	癸八伏断位次门分二 子二答分二 丑二广答分二 寅二广释分二	卯一广阿罗汉分三	辰三第三师分六	已一正释分二	午一出不退体			有义： 初地已上菩萨，已证二空所显理故； 已得二种殊胜智故； 已断分别二重障故； 能一行中起诸行故； 虽为利益起诸烦恼，而彼不作烦恼过失，故此亦名不退菩萨。		
					午二舍名分二	未一以理辨	然此菩萨虽未断尽俱生烦恼，而缘此识所有分别我见、爱等，不复执藏为自内我，由斯亦舍阿赖耶名，故说不成阿赖耶识，此亦说彼名阿罗汉。			
						未二引证	故《集论》中作如是说： 十地菩萨虽未永断一切烦恼，然此烦恼犹如呪、药所伏诸毒，不起一切烦恼过失。 一切地中，如阿罗汉已断烦恼，故亦说彼名阿罗汉。			
				已二第二师难			彼说非理。 七地已前犹有俱生我见、爱等，执藏此识为自内我，如何已舍阿赖耶名。			
				已三第三师救			若彼分别我见、爱等，不复执藏，说名为舍，			
				已四第二师征难			则预流等诸有学位，亦应已舍阿赖耶名，许便违害诸论所说。			
				已五第三师会			地上菩萨所起烦恼皆由正知，不为过失，非预流等得有斯事，宁可以彼例此菩萨？			
				已六论主难申正义分二	午一论主难		彼六识中所起烦恼，虽由正知不为过失，而第七识有漏心位，任运现行执藏此识，宁不与彼预流等同？ 由此故知彼说非理。			
					午二结正义		然阿罗汉断此识中烦恼粗重究竟尽故，不复执藏阿赖耶识为自内我。 由斯永失阿赖耶名，说之为舍，非舍一切第八识体。 勿阿罗汉无识持种，尔时便入无余涅槃。			
				卯二正解舍分二	辰一列异名分二	已二别释分二	已一总标			
	午一通名分二	未一正释分四	申一心				谓或名心，由种种法熏习种子所积集故；			
			申二阿陀那				或名阿陀那，执持种子及诸色根令不坏故；			
			申三所知依				或名所知依，能与染、净所知诸法为依止故；			
			申四种子识				或名种子识，能遍任持世、出世间诸种子故。			
	未二结成		此等诸名通一切位。							
	午二局名分三	未一阿赖耶					或名阿赖耶，摄藏一切杂染品法令不失故，我见、爱等执藏以为自内我故。 此名唯在异生、有学，非无学位、不退菩萨，有杂染法执藏义故。			
		未二异熟识					或名异熟识，能引生死善、不善业异熟果故。此名唯在异生、二乘诸菩萨位，非如来地犹有异熟无记法故。			
		未三无垢识					或名无垢识，最极清净诸无漏法所依止故。 此名唯在如来地有，菩萨、二乘及异生位，持有漏种可受熏习，未得善净第八识故。 如契经说：如来无垢识，是净无漏界，解脱一切障，圆镜智相应。			
	辰二正明舍位						阿赖耶名过失重故，最初舍故，此中偏说。 异熟识体菩萨将得菩提时舍，声闻、独觉入无余依涅槃时舍。 无垢识体无有舍时，利乐有情无尽时故。 心等通故，随义应说。			

表 2-13: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(6/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二	辛一八段十义释分二	壬二总料简分二	癸一有漏位分三	子一三性门	然第八识总有二位：一、有漏位，无记性摄。																					
				子二相应门	唯与触等五法相应，																					
				子三所缘门	但缘前说执受、处境。																					
			癸二无漏位分四	子一三性门	二、无漏位，唯善性摄。																					
				子二相应门	与二十一心所相应，谓遍行、别境各五，善十一，与一切心恒相应故由。 常乐证智所观境故；于所观境恒印持故； 于曾受境恒明记故；世尊无有不定心故； 于一切法常决择故。 极净信等常相应故，无染污故。无散动故。																					
					子三受俱门	此亦唯与舍受相应，任运恒时平等转故。																				
					子四所缘门	以一切法为所缘境，镜智遍缘一切法故。																				
	壬一外人问											云何应知此第八识离眼等识有别自体？														
	癸一总答											圣教、正理为定量故。														
												巳一标经名			谓有《大乘阿毘达磨》契经中说：											
												午一引经颂			“无始时来界，一切法等依，由此有诸趣，及涅槃证得。”											
												申一解外伏难						此第八识自性微细，故以作用而显示之。								
																		酉一判颂文						颂中初半，显第八识为因缘用，后半显与流转还灭，作依持用。		
																								天二解第一句		
												亥一别解二句分二						地一总解		“依”是缘义，即执持识无始时来，与一切法等为依止，故名为缘。						
																		天二解第二句分二		玄一总解		谓能执持诸种子故，与现行法为所依故，即变为彼及为彼依。				
																				地二别解依分二		变为彼者，谓变为器及有根身； “为彼依”者，谓与转识作所依止。 以能执受五色根故，眼等五识依之而转，又与末那为依止故，第六意识依之而转。末那、意识，转识摄故。 如眼等识依俱有根，第八理应是识性故，亦以第七为俱有依。				
												戌一解上二句分二						亥二总解上二句			是谓此识为因、缘用。					
																		酉二别释分二						申二别解颂分二		
																								未一第一解分二		
												午二别解释分三						巳二引颂分三								
																		辰一第一教证分二								
												卯一别引教分四						寅一证四教分二								
																		丑一引不共许教分二								
	子一五教证分二						癸二别答分二																			
							壬二答分二																			
辛二以五教十理证有本识分三																										

表 2-14：(24 表) 己一释初能变分三【卷三】(7/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二 癸二别答分二 子一五教证分二 丑一引不共许教分二	寅一证四教分二 卯一别引教分四	辰一第一教证分二	巳二引颂分三	午二别解释分三	未一第一解分二	酉二别释分二	戌二解下二句分二	亥一解有诸趣分三	天一总解颂		“由此有”者，由有此识；“有诸趣”者，有善、恶趣。			
										天二广有义分二	地一正释		谓由有此第八识故，执持一切顺流转法，令诸有情流转生死。		
											地二料简分二	玄一苦果流转义	虽惑、业、生皆是流转，而趣是果胜，故偏说；		
												玄二三道流转义	或“诸趣”言通能、所趣，诸趣资具亦得趣名。		
										天三总结				诸惑、业、生皆依此识，是与流转作依持用。	
										天一释颂				“及涅槃证得”者，由有此识故，有涅槃证得。	
										天二广别释分二	地一总说		谓由有此第八识故，执持一切顺还灭法，令修行者证得涅槃。		
											地二料简分三	玄一执持能证义	此中但说能证得道，涅槃不依此识有故。		
												玄二执持所证义	或此但说所证涅槃，是修行者正所求故。		
										玄三执持能所证义		或此双说涅槃与道俱是还灭品类摄故：谓涅槃言显所证灭，后证得言显能得道，由能断道，断所断惑，究竟尽位，证得涅槃。			
										天三总结				能、所断、证皆依此识，是与还灭作依持用。	
										未二第二解分三		申一总科颂		又此颂中初句，显示此识自性无始恒有，后三显与杂染、清净二法，总、别为所依止。	
												申二别解释		杂染法者，谓苦、集谛，即所能趣生及业、惑； 清净法者，谓灭、道谛，即所、能证涅槃及道；	
												申三总结		彼二皆依此识而有，依转识等，理不成故。	
										未三第三解分二		申一总科颂		或复初句显此识体无始相续，后三显与三种自性为所依止：	
												申二别配属		谓依他起、遍计所执、圆成实性，如次应知。	
										午三总结				今此颂中诸所说义，离第八识皆不得有。	
										辰二第二教证分三	巳一引颂		即彼经中复作是说：“由摄藏诸法，一切种子识，故名阿赖耶，胜者我开示。”		
											巳二别释分三	午一合解上三句		由此本识具诸种子，故能摄藏诸杂染法，	
												午二解第三句		依斯建立阿赖耶名，非如胜性转为大等，种子与果体非一故；能依、所依俱生灭故；与杂染法互相摄藏，亦为有情执藏为我，故说此识名阿赖耶。	
												午三解第四句		已入见道诸菩萨众得真现观，名为胜者，彼能证解阿赖耶识，故我世尊正为开示；或诸菩萨皆名胜者，虽见道前未能证解阿赖耶识，而能信解，求彼转依，故亦为说。	
											巳三总结		非诸转识有如是义。		

表 2-15: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(8/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二 癸二别答分二 子一五教证分二 丑一引不共许教分二	寅一证四教分二	卯一别引教分四	辰三第三教证分三	巳一引颂		《解深密经》亦作是说： “阿陀那识甚深细，一切种子如瀑流，我于凡愚不开演，恐彼分别执为我。”			
					巳二别释分三	午一解第一句		以能执持诸法种子，及能执受色根依处，亦能执取结生相续，故说此识名“阿陀那”。 无性有情不能穷底，故说“甚深”； 趣寂种性不能通达，故名“甚细”。		
						午二解第二句		是一切法真实种子，缘击便生转识波浪，恒无间断，犹如瀑流。		
						午三合解下二句		“凡”即无性，“愚”即趣寂。 恐彼于此起分别执，堕诸恶趣，障生圣道，故我世尊不为开演。		
					巳三总结		唯第八识有如是相。			
				辰四第四教证分三	巳一标经名		《入楞伽经》亦作是说： “如海遇风缘，起种种波浪，现前作用转，无有间断时。 藏识海亦然，境等风所击，恒起诸识浪，现前作用转。”			
					巳二正引颂		眼等诸识，无如大海恒相续转起诸识浪，故知别有第八识性。			
					巳三总结成					
				卯二总指例		此等无量大乘经中，皆别说有此第八识。				
				寅二成大乘佛说分二	卯二引论成分二	辰一引长行成分三	巳二别引七因成分七	卯一以比量成		诸大乘经：皆顺无我，违数取趣； 弃背流转，趣向还灭；赞佛、法、僧，毁诸外道； 表蕴等法，遮胜性等； 乐大乘者，许能显示无颠倒理，契经摄故，如《增壹》等至教量摄。
	巳一总标		又，圣慈氏以七种因，证大乘经真是佛说。							
	午一第一因	一、先不记故： 若大乘经佛灭度后，有余为坏正法故说，何故世尊非如当起诸可怖事，先预记别？								
		午二第二因						二、本俱行故： 大小乘教本来俱行，宁知大乘独非佛说？		
		午三第三因						三、非余境故： 大乘所说广大甚深，非外道等思量境界。彼经论中曾所未说，设为彼说，亦不信受，故大乘经非非佛说。		
		午四第四因						四、应极成故： 若谓大乘是余佛说，非今佛语，则大乘教是佛所说，其理极成。		
		午五第五因分二	未一有因					五、有、无有故： 若有大乘，即应信此诸大乘教是佛所说，离此大乘不可得故。		
			未二无因					若无大乘，声闻乘教亦应非有，以离大乘决定无有得成佛义，谁出于世说声闻乘？ 故声闻乘是佛所说，非大乘教不应正理。		
		午六第六因						六、能对治故： 依大乘经勤修行者，皆能引得无分别智，能正对治一切烦恼，故应信此是佛所说。		
	午七第七因		七、义异文故： 大乘所说意趣甚深，不可随文而取其义，便生诽谤谓非佛语。							
	巳三总结		是故大乘真是佛说。							
	辰二引颂成证		如《庄严论》颂此义言：“先不记、俱行、非余所行境、极成、有无有、对治、异文故”。							

表 2-16: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(9/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二 癸二别答分二	子一五教证分二	丑二引共许教第五教证分二	寅一总说		余部经中亦密意说阿赖耶识有别自性。 谓大众部阿笈摩中，密意说此名根本识，是眼识等所依止故。 譬如树根是茎等本，非眼等识有如是义。																																																																																																										
			卯一一大众部说		谓大众部阿笈摩中，密意说此名根本识，是眼识等所依止故。 譬如树根是茎等本，非眼等识有如是义。																																																																																																										
			卯二上座部经及分别论者说		上座部经分别论者，俱密意说此名有分识，“有”谓三有；“分”是因义，唯此恒、遍，为三有因。																																																																																																										
			卯三化地部说		化地部说此名穷生死蕴，离第八识无别蕴法，穷生死际无间断时。 谓无色界诸色间断，无想天等余心等灭，不相应行离色心等无别自体，已极成故，唯此识名穷生死蕴。																																																																																																										
			卯四说一切有部说分三	辰二释义分三	辰一叙经	说一切有部《增壹》经中，亦密意说此名阿赖耶，谓爱阿赖耶、乐阿赖耶、欣阿赖耶、慧阿赖耶。																																																																																																									
						谓阿赖耶识是贪总、别三世境故，立此四名。有情执为真自内我，乃至未断恒生爱着，故阿赖耶识是真爱着处。																																																																																																									
						不应执余五取蕴等，																																																																																																									
						午二举七种遮分七	未一一向苦处		谓生一向苦受处者，于余五取蕴不生爱着，彼恒厌逆余五取蕴，念我何时当舍此命、此众同分、此苦身心，令我自在受快乐故。																																																																																																						
							未二五欲		五欲亦非真爱着处，谓离欲者于五妙欲，虽不贪着而爱我故。																																																																																																						
							未三乐受		乐受亦非真爱着处，谓离第三静虑染者，虽厌乐受而爱我故。																																																																																																						
							未四身见		身见亦非真爱着处，谓非无学信无我者，虽于身见不生贪着，而于内我犹生爱故。																																																																																																						
							未五转识		转识等亦非真爱着处，谓非无学求灭心者，虽厌转识等而爱我故。																																																																																																						
							未六色蕴		色身亦非真爱着处，离色染者，虽厌色身而爱我故。																																																																																																						
							未七不相应法		不相应行离色、心等无别自体，是故亦非真爱着处。																																																																																																						
						已三显理总结								异生、有学起我爱时，虽于余蕴有爱、非爱，而于此识，我爱定生，故唯此是真爱着处。																																																																																																	
						辰三总结								由是彼说阿赖耶名，定唯显此阿赖耶识。																																																																																																	
						丑一结前生后发论端												已引圣教，当显正理。																																																																																													
						卯一引经	辰一破五蕴受熏持种分二	午一正破分三	未一破六识分二	申一违教分二	酉一破他		谓契经说：杂染、清净诸法种子之所集起，故名为心，若无此识，彼持种心不应有故。																																																																																																		
											酉二自义		谓诸转识在灭定等有间断故，根、境、作意、善等类别易脱起故，如电光等不坚住故，非可熏习，不能持种，非染、净种所集起心。																																																																																																		
			申二违理分二							酉一总非		此识一类、恒无间断，如苕蓐等坚住可熏，契当彼经所说心义。																																																																																																			
				酉二显失						若不许可有能持种心，非但违经，亦违正理。																																																																																																					
			未二破色不相应	谓诸所起染、净品法，无所熏故，不熏成种，则应所起唐捐其功。																																																																																																											
				染、净起时既无因种，应同外道执自然生。																																																																																																											
				色、不相应，非心性故，如声、光等，理非染、净内法所熏，岂能持种？																																																																																																											
			未三破心所	又彼离识无实自性，宁可执为内种依止？																																																																																																											
				转识相应诸心所法，如识间断，易脱起故，不自在故，非心性故，不能持种，亦不受熏。																																																																																																											
			午二总结						故持种心，理应别有。																																																																																																						
			子二十理证分三	丑二正引经申理分十	寅一持种证分三				卯二别显征义分五	辰一破经部分三	巳一破五蕴受熏持种分二	午一正破分三	未一破六识分二	申一违教分二	酉一破他	酉二自义	酉三总非	酉四显失	酉五破心所	酉六破色不相应	酉七破心所	酉八破心所	酉九破心所	酉十破心所	酉十一破心所	酉十二破心所	酉十三破心所	酉十四破心所	酉十五破心所	酉十六破心所	酉十七破心所	酉十八破心所	酉十九破心所	酉二十破心所	酉二十一破心所	酉二十二破心所	酉二十三破心所	酉二十四破心所	酉二十五破心所	酉二十六破心所	酉二十七破心所	酉二十八破心所	酉二十九破心所	酉三十破心所	酉三十一破心所	酉三十二破心所	酉三十三破心所	酉三十四破心所	酉三十五破心所	酉三十六破心所	酉三十七破心所	酉三十八破心所	酉三十九破心所	酉四十破心所	酉四十一破心所	酉四十二破心所	酉四十三破心所	酉四十四破心所	酉四十五破心所	酉四十六破心所	酉四十七破心所	酉四十八破心所	酉四十九破心所	酉五十破心所	酉五十一破心所	酉五十二破心所	酉五十三破心所	酉五十四破心所	酉五十五破心所	酉五十六破心所	酉五十七破心所	酉五十八破心所	酉五十九破心所	酉六十破心所	酉六十一破心所	酉六十二破心所	酉六十三破心所	酉六十四破心所	酉六十五破心所	酉六十六破心所	酉六十七破心所	酉六十八破心所	酉六十九破心所	酉七十破心所	酉七十一破心所	酉七十二破心所	酉七十三破心所	酉七十四破心所	酉七十五破心所	酉七十六破心所	酉七十七破心所	酉七十八破心所	酉七十九破心所	酉八十破心所	酉八十一破心所	酉八十二破心所	酉八十三破心所	酉八十四破心所	酉八十五破心所	酉八十六破心所	酉八十七破心所	酉八十八破心所	酉八十九破心所	酉九十破心所	酉九十一破心所	酉九十二破心所	酉九十三破心所	酉九十四破心所	酉九十五破心所	酉九十六破心所	酉九十七破心所



表 2-17: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(10/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二 癸二别答分二	子二十理证分三 丑二正引经申理分十 寅一持种证分三	卯二别显征义分五	辰一破经部分三	巳二破识类受熏分二	午一标宗		有说：六识无始时来，依根、境等前后分位，事虽转变而类无别，是所熏习，能持种子。由斯染、净因果皆成，何要执有第八识性？	
					午二正破分四	未一总非		彼言无义！
						未二返诘		所以者何？
						未三别破分四	申一征假实	执类是实，则同外道；许类是假，便无胜用，应不能持内法实种。
							申二征三性	又执识类何性所摄？若是善、恶，应不受熏，许有记故，犹如择灭；若是无记，善、恶心时，无无记心，此类应断，非事善、恶类可无记；别类必同别事性故。
							申三征间断	又无心位此类定无，既有间断，性非坚住，如何可执持种受熏？
							申四征类同	又阿罗汉或异生心，识类同故，应为诸染，无漏法熏，许便有失。又眼等根或所余法，与眼等识根、法类同，应互相熏，然汝不许。
						未四总结		故不应执识类受熏。
					巳三破识类相熏		又六识身，若事、若类，前后二念既不俱有；如隔念者，非互相熏。能熏、所熏必俱时故。	
					辰二破大众部		执唯六识俱时转者，由前理趣，既非所熏，故彼亦无能持种义。	
			辰三破上座部分三	巳一叙宗		有执色、心自类无间，前为后种，因果义立，故先所说，为证不成。		
				巳二申难分三	午一无熏习难	彼执非理，无熏习故。谓彼自类既无熏习，如何可执前为后种？		
					午二后不生难	又间断者，应不更生，		
					午三无后蕴难	二乘无学应无后蕴，死位色、心为后种故。		
			巳三破转救		亦不应执色、心展转互为种生，转识、色等非所熏习，前已说故。			
			辰四破一切有部二	巳一叙宗		有说：三世诸法皆有，因果感赴，无不皆成，何劳执有能持种识？然经说心为种子者，起染净法，势用强故。		
				巳二论主破分二	午一破实有	彼说非理。过去、未来，非常、非现，如空花等，非实有故。		
					午二破因缘性	又无作用，不可执为因缘性故：若无能持染、净种识，一切因果皆不得成。		
			辰五破清辨分三	巳一叙宗		有执大乘遣相空理为究竟者，依似比量，拨无此识及一切法，		
				巳二破斥分四	午一违教失	彼特违害前所引经。		
					午二大邪见失	智、断、证、修、染、净因果皆执非实，成大邪见。		
					午三同外道失	外道毁谤染、净因果亦不谓全无，但执非实故。		
					午四功唐捐失	若一切法皆非实有，菩萨不应为舍生死，精勤修集菩提资粮；谁有智者为除幻敌，求石女儿用为军旅？		
			巳三结劝		故应信有能持种心，依之建立染、净因果。			
			卯三总结		彼心即是此第八识。			

表 2-18: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(11/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二 癸二别答分二	子二十理证分三 丑二正引经申理分十	寅二异熟心证分三	卯一引经			又契经说有异熟心，善、恶业感，若无此识，彼异熟心不应有故。		
			卯二别显分四	辰一破计分二	巳一总破	谓眼等识有间断故，非一切时是业果故，如电、光等，非异熟心。 异熟不应断已更续，彼命根等，无斯事故。		
					巳二别破	眼等六识，业所感者，犹如声等，非恒续故，是异熟生，非真异熟。		
				辰二申正义		定应许有真异熟心，酬牵引业，遍而无断，变为身、器作有情依，身、器离心，理非有故。 不相应法无实体故，诸转识等非恒有故，若无此心，谁变身、器？复依何法恒立有情？		
				辰三明身受		又在定中，或不在定，有别思虑、无思虑时，理有众多身受生起。 此若无者，不应后时身有怡适，或复劳损，若不恒有真异熟心，彼位如何有此身受？		
				辰四立异熟		非佛起余善心等位，必应现起真异熟心，如许起彼时，非佛有情故。		
			卯三总结			由是恒有真异熟心，彼心即是此第八识。		
		寅三趣生体证分三	卯一引经			又契经说：有情流转五趣、四生。 若无此识，彼趣、生体不应有故。		
			卯二成理分三	辰一具义多少		谓要实有、恒、遍、无杂，彼法可立正实趣、生。		
				辰二遮余法非分四	巳一第一遮	非异熟法趣、生杂乱，住此起余趣、生法故。		
					巳二第二遮	诸异熟色及五识中业所感者不遍趣、生，无色界中全无彼故。		
					巳三第三遮	诸生得善及意识中业所感者，虽遍趣、生，起无杂乱而不恒有。		
			巳四第四遮		不相应行无实自体，皆不可立正实趣、生。			
			辰三归本识分三	巳一归本识	唯异熟心及彼心所，实恒、遍、无杂，是正实趣、生。			
				巳二破他非	此心若无，生无色界起善等位应非趣、生。设许趣、生摄诸有漏，生无色界起无漏心应非趣、生，便违正理。勿有前过及有此失，故唯异熟法是正实趣、生。			
				巳三简佛位	由是如来非趣、生摄，佛无异熟无记法故，亦非界摄，非有漏故，世尊已舍苦、集谛故，诸戏论种已永断故。			
			卯三总结			正实趣、生既唯异熟心及心所，彼心、心所离第八识理不得成，故知别有此第八识。		
		寅四有执受证分三	卯一引经			又契经说：有色根身是有执受，若无此识，彼能执受，不应有故。		
			卯二显理分三	辰一显所执		谓五色根及彼依处，唯现在世是有执受，彼定由有能执受心，		
				辰二明执心分二	巳一显八有七无		唯异熟心，先业所引，非善、染等，一类、能遍、相续执受有色根身；眼等转识无如是义。	
					巳二简无滥		此言意显眼等转识，皆无一类、能遍、相续执受自内有色根身，非显能执受唯异熟心，勿诸佛色身无执受故；然能执受有漏色身唯异熟心，故作是说。	
				辰三破异计分二	巳一总破识等非分二	午一破心王		谓诸转识现缘起故，如声、风等，彼善、染等，非业引故，如非择灭。 异熟生者，非异熟故、非遍依故、不相续故，如电、光等，不能执受有漏色身。
						午二例破心所		诸心识言，亦摄心所，定相应故，如唯识言。
			巳二别遮经部有宗		非诸色根、不相应行可能执受有色根身，无所缘故，如虚空等。			
			卯三总结			故应别有能执受心，彼心即是此第八识。		

表 2-19: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(12/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二 癸二别答分二	子二十理证分三 丑二正引经申理分十	寅五寿暖识证分三				卯一引经成理	又契经说：寿、暖、识三，更互依持，得相续住。若无此识能持寿、暖，令久住识不应有故。		
		卯二别解分三	辰一非转识		谓诸转识有间、有转，如声、风等，无恒持用，不可立为持寿、暖识，				
			辰二即赖耶		唯异熟识无间、无转，犹如寿、暖，有恒持用，故可立为持寿、暖识。				
			辰三破异执分三	巳一申难		经说三法更互依持，而寿与暖一类相续，唯识不然，岂符正理？			
				巳二外返质		虽说三法更互依持，而许唯暖不遍三界，何不许识独有间、转？			
				巳三解征分二	午一不齐解		此于前理，非为过难。谓若是处具有三法无间转者，可恒相持。不尔，便无恒相持用。前以此理，显三法中所说识言，非论转识，举暖不遍，岂坏前理？故前所说，其理极成。		
					午二齐解		又三法中，寿、暖二种既唯有漏，故知彼识如寿与暖，定非无漏；生无色界起无漏心，尔时，何识能持彼寿？		
		卯三总结					由此故知有异熟识，一类、恒、遍、能持寿、暖，彼识即是此第八识。		
		卯一引证						又契经说：诸有情类，受生、命终，必住散心，非无心定。若无此识，生、死时心不应有故。	
		卯二别成分五	辰一破六识非分三	巳一举无转识		谓生死时，身心惛昧，如睡无梦，极闷绝时，明了转识必不现起。			
				巳二立比量非		又此位中，六种转识行相、所缘不可知故，如无心位，必不现行。			
				巳三设纵有六识难		六种转识行相、所缘有必可知，如余时故。			
			辰二显第八识				真异熟识极微细故，行相所缘俱不可了，是引业果，一期相续，恒无转变；是散、有心，名生死心，不违正理。		
			辰三破大乘异说分六	巳一叙宗		有说：五识此位定无，意识取境，或因五识、或因他教、或定为因，生位，诸因既不可得；故受生位，意识亦无。			
				巳二正破		若尔，有情生无色界，后时意识应永不生，定心必由散意识引，五识、他教彼界必无，引定散心无由起故。			
				巳三救义		若谓彼定由串习力，后时率尔能现在前。			
				巳四破救		彼初生时，宁不现起？又欲、色界初受生时，串习意识亦应现起。			
				巳五更救		若由惛昧，初未现前。			
				巳六后难		此即前因，何劳别说？			
			辰四破上座部义				有余部执：生死等位，别有一类微细意识，行相、所缘俱不可了。应知即是此第八识；极成意识不如是故。		
			辰五通破诸部分三	巳一示断舍相成理		又将死时，由善、恶业，下、上身分，冷触渐起，若无此识，彼事不成。转识不能执受身故。			
				巳二遮余识		眼等五识，各别依故；或不行故。第六意识，不住身故，境不定故，遍寄身中恒相续故，不应冷触由彼渐生。			
				巳三总结		唯异熟心，由先业力，恒、遍、相续执受身分。舍执受处，冷触便生；寿、暖识三不相离故。			
			卯三总结					冷触起处即是非情，虽变、亦缘，而不执受。故知定有此第八识。	

表 2-20: (24 表) 己一释初能变分三【卷三】(13/13)

己一释初能变分三	庚三长行释分二	辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二	癸二别答分二	子二十理证分三	丑二正引经申理分十	寅七名色互缘证分三	卯一引证	又契经说：识缘名色，名色缘识，如是二法展转相依，譬如芦束，俱时而转，若无此识，彼识自体，不应有故。	
								卯二别显分四	辰一叙经	谓彼经中自作是释： 名谓非色四蕴，色谓羯逻蓝等。 此二与识相依而住，如二芦束，更互为缘，恒俱时转，不相舍离。
									辰二申难	眼等转识，摄在名中，此识若无，说谁为识？
									辰三破救	亦不可说名中识蕴谓五识身，识谓第六，羯逻蓝时无五识故。
									辰四立量	又诸转识有间转故，无力恒时执持名色，宁说恒与名色为缘？
								卯三总结	故彼识言，显第八识。	

表 2-21: (24 表) 己一释初能变分三【卷四】(1/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二	癸二别答分二 子二十理证分三 丑二正引经申理分十	寅八四食证分三 【卷四】	卯一引经总非				又契经说：一切有情皆依食住，若无此识，彼识食体不应有故。			
			卯二别显分二	辰一总标				谓契经说食有四种：		
				巳一陈自宗义分四	午一 出体分四	未一段食	一者、段食，变坏为相。 谓欲界系香、味、触三，于变坏时能为食事。 由此色处非段食摄，以变坏时，色无用故。			
						未二触食	二者、触食，触境为相，谓有漏触纔取境时，摄受喜等，能为食事。 此触虽与诸识相应，属六识者食义偏胜，触粗显境，摄受喜、乐及顺益舍，资养胜故。			
						未三意思食	三、意思食，希望为相。 谓有漏思与欲俱转，希可爱境，能为食事。 此思虽与诸识相应，属意识者食义偏胜，意识于境，希望胜故。			
						未四识食	四者、识食，执持为相。 谓有漏识由段、触、思势力增长，能为食事。 此识虽通诸识自体，而第八识食义偏胜，一类相续执持胜故。			
				巳二破他分四	午二破诸部分三	午二法摄		由是《集论》说此四食，三蕴、五处、十一界摄。		
						午三释义		此四能持有情身命，令不坏断，故名为食。		
						午四辨界		段食唯于欲界有用，触、意思食虽遍三界而依识转，随识有无。		
					午二别破萨婆多分二	未一总破	未一总破		眼等转识有间、有转，非遍、恒时能持身命，	
							未二别解		谓无心定、睡眠、闷绝、无想定中有间断故，设有心位，随所依、缘、性、界、地等有转易故，于持身命，非遍非恒。	
							未三显违教		诸有执无第八识者，依何等食，《经》作是言：“一切有情皆依食住”？	
						午三别破上座部	未一破本计	未一破本计		非无心位过去、未来识等为食，彼非现常，如空花等，无体用故； 设有体用非现在摄，如虚空等，非食性故，亦不可说入定心等与无心位有情为食，住无心时彼已灭故，过去非食已极成故。
					未二设救破			又不可说无想定等不相应行即为彼食，段等四食所不摄故，不相应法非实有故。		
					午三别破上座部		有执：灭定等犹有第六识，于彼有情能为食事。彼执非理，后当广破。			

表 2-22: (24 表) 己一释初能变分三【卷四】(2/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二	癸二别答分二 子二十理证分三 丑二正引经申理分十	寅八四食证分三	卯二别显分二	辰二别释分四	巳二破他分四	午四别破经部分二	未一破本计		又彼应说生上二界无漏心时，以何为食？ 无漏识等破坏有故，于彼身、命不可为食。 亦不可执无漏识中有有漏种能为彼食，无漏识等犹如涅槃，不能执持有漏种故。			
							未二设破二部		复不可说上界有情身、命相持即互为食，四食不摄彼身、命故，又无色无身，命无能持故，众同分等无实体故。			
					巳三结识食体				由此定知异诸转识，有异熟识一类恒、遍执持身命令不坏断。 世尊依此，故作是言： 一切有情皆依食住。			
					巳四释妨难				唯依“取蕴”建立有情，佛无有漏，非有情摄，说为有情依食住者，当知皆依示现而说。			
					卯三总结						既异熟识是胜食性，彼识即是此第八识。	
		卯一引经总非					又契经说： 住灭定者，身、语、心行无不皆灭，而寿不灭，亦不离暖，根无变坏，识不离身。 若无此识住灭定者，不离身识不应有故。					
		寅九灭定证分二	卯二正解分二	辰一破灭定不离识分二	巳一正释分四	午一总破诸部出正义		谓眼等识行相粗、动，于所缘境起必劳虑，厌患彼故，暂求止息，渐次伏除至都尽位，依此位立住灭定者，故此定中彼识皆灭，若不许可有微细一类恒、遍执持寿等识在，依何而说识不离身？				
						午二破一切有分二	未一叙宗		若谓后时彼识还起，如隔日疟名不离身，			
							未二申难		是则不应说心行灭，识与想等起灭同故。 寿、暖诸根应亦如识，便成大过，故应许识如寿、暖等实不离身。 又此位中若全无识，应如瓦砾非有情数，岂得说为住灭定者？ 又异熟识此位若无，谁能执持诸根、寿、暖？无执持故皆应坏灭，犹如死尸便无寿等。 既尔，后识必不还生，说不离身彼何所属？ 诸异熟识舍此身已，离识余身无重生故。			
						午三破经部本计分二	未一申难		又若此位无持种识，后识无种如何得生？ 过去、未来，不相应法非实有体，已极成故。 诸色等法离识皆无受熏、持种，亦已遮故； 然灭定等无心位中，如有心位定实有识，具根、寿、暖，有情摄故。			
							未二总结		由斯理趣，住灭定者，决定有识，实不离身。			
						午四破经部未计分二	未一总破有心分三	申一违名难		若谓此位有第六识，名不离身，亦不应理；此定亦名无心定故。		
								申二违理难		若无五识名无心者，应一切定皆名无心，诸定皆无五识身故。 意识摄在六转识中，如五识身，灭定非有。 或此位识行相、所缘不可知故，如寿、暖等，非第六识。 若此位有行相、所缘可知识者，应如余位，非此位摄。		
								申三总结成		本为止息行相、所缘可了知识，入此定故。		

表 2-23: (24 表) 己一释初能变分三【卷四】(3/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三 壬二答分二 癸二别答分二 子二十理证分三	丑二正引经申理分十 寅九灭定证分二 卯二正解分二 辰一破灭定不离识分二 巳一正释分四 午四破经部未计分二	未二别破有心所分二	申一总征		又若此位有第六识，彼心所法为有？为无？	
			酉一破有心所分七	戌一破所计	若有心所，经不应言住此定者心行皆灭，又不应名灭受想定。	
				戌二经部救	此定加行，但厌受、想，故此定中唯受、想灭；受、想二法资助心强，诸心所中独名心行，说心行灭，何所相违？	
				戌三论主破	无想定中应唯想灭，但厌想故，然汝不许，既唯受、想资助心强；此二灭时，心亦应灭。	
				戌四经部救	如身行灭而身犹在，宁要责心令同行灭？	
				戌五论主破	若尔，语行寻、伺灭时，语应不灭，而非所许。然行于法有遍、非遍，遍行灭时，法定随灭；非遍行灭法或犹在。非遍行者谓入出息，见息灭时身犹在故。寻、伺于语是遍行摄，彼若灭时语定无故。受、想于心亦遍行摄，许如思等大地法故。受、想灭时心定随灭，如何可说彼灭心在？又许思等是大地法，灭受、想时，彼亦应灭。既尔，信等此位亦无，非遍行灭余可在故，如何可言有余心所？既许思等此位非无，受、想应然，大地法故。又此定中若有思等亦应有触，余心所法无不皆依触力生故。若许有触亦应有受，触缘受故。既许有受，想亦应生，不相离故。	
				戌六经部救	如受缘爱，非一切受皆能起爱，故触缘受，非一切触皆能生受，由斯所难，其理不成。	
				戌七论主破	彼救不然，有差别故。谓佛自简唯无明触所生诸受为缘生爱，曾无有处简触生受。故若有触，必有受生，受与想俱，其理决定。或应如余位，受、想亦不灭，执此位中有思等故，许便违害心行灭言，亦不得成灭受想定。	
			酉二破无心所分二	戌一破有令无难分五	亥一论主难	若无心所，识亦应无，不见余心离心所故，余遍行灭，法随灭故，受等应非大地法故，此识应非相应法故。许则应无所依、缘等，如色等法亦非心故。又契经说：意、法为缘，生于意识，三和合触，与触俱起，有受、想、思。若此定中有意识者，三和合故，必应有触，触既定与受、想、思俱，如何有识而无心所？
					亥二经部二师救	若谓余时，三和有力，成触生触，能起受等。由此定前厌患心所，故在定位三事无能，不成生触，亦无受等。
					亥三论主返难	若尔，应名灭心所定，如何但说灭、受、想耶？
					亥四经部救	若谓厌时唯厌受、想，此二灭故，心所皆灭，依前所厌，以立定名。
					亥五论主难	既尔，此中心亦应灭，所厌俱故，如余心所。不尔，如何名无心定？
				戌二纵有别生征分二	亥一总问	又此定位意识是何？
					天一设遮计	不应是染或无记性，诸善定中无此事故，余染无记心必有心所故，不应厌善起染等故。非求寂静翻起散故。
					天二破本计	若谓是善，相应善故，应无贪等善根相应。此心不应是自性善或胜义善，违自宗故，非善根等及涅槃故，若谓此心是等起善，加行善根所引发故，理亦不然，违自宗故，如余善心非等起故。善心无间起三性心，如何善心由前等起？故心是善，由相应力。既尔，必与善根相应，宁说此心独无心所？故无心所，心亦应无。

表 2-24: (24 表) 己一释初能变分三【卷四】(4/13)

己一释初能变分三 庚三长行释分二 辛二以五教十理证有本识分三	壬二答分二 癸二别答分二 子二十理证分三	丑二正引经申理分十 寅十心染净证分三 卯二别显分二 辰二别解分二	寅九灭定证分二		卯二正解分二		辰一破灭定不离识分二	巳二总结	如是推征，眼等转识于灭定位非不离身，故契经言不离身者，彼识即是此第八识，入灭定时不为止息，此极寂静执持识故。			
							辰二例破无想定等		无想等位，类此应知。			
			卯一引经总非							又契经说：心杂染故，有情杂染；心清净故，有情清净。 若无此识，彼染、净心不应有故。		
			辰一总解							谓染、净法以心为本，因心而生，依心住故，心受彼熏，持彼种故。		
			巳一解杂染分二	午二别破分二	午一总举			然杂染法略有三种：烦恼、业、果，种类别故。				
					未一明烦恼	若无此识持烦恼种，界地往还、无染心后，诸烦恼起皆应无因，余法不能持彼种故，过去、未来非实有故。 若诸烦恼无因而生，则无三乘学、无学果，诸已断者皆应起故。						
						未二明业及果分二	申一难界地往还等起无因		若无此识持业果种，界地往还、异类法后，诸业果起亦应无因，余种、余因前已遮故。 若诸业果无因而生，入无余依涅槃盘界已，三界业果还复应生，烦恼亦应无因生故。			
							申二行缘识等不成难		又行缘识应不得成，转识受熏，前已遮故。 结生染识非行感故；应说名色，行为缘故，时分悬隔无缘义故。 此不成故，后亦不成。			
					午一总显净法							诸清净法亦有三种：世、出世道、断果别故。
					未一破世出世道分二	申一难异类后无因		若无此识持世、出世清净道种，异类心后，起彼净法皆应无因，所执余因前已破故。 若二净道无因而生，入无余依涅槃盘界已，彼二净道还复应生，所依亦应无因生故。				
						申二难初道不生		又出世道初不应生，无法持彼法尔种故；有漏类别非彼因故，无因而生非释种故。 初不生故，后亦不生，是则应无三乘道果。				
					未二明断果分二	申一正破		若无此识持烦恼种，转依、断果亦不得成，谓道起时，现行烦恼及彼种子俱非有故； 染、净二心不俱起故，道相应心不持彼种，自性相违如涅槃故； 去、来得等非实有故； 余法持种理不成故。 既无所断，能断亦无，依谁由谁而立断果？				
								申二牒计非			若由道力，后惑不生，立断果者，则初道起应成无学； 后诸烦恼皆已无因，永不生故。	
			卯三总结染净二法							许有此识，一切皆成，唯此能持染、净种故。		
			丑三总结十理证							证此识有，理趣无边，恐厌繁文，略述纲要。		
			壬三总结劝信							别有此识，教理显然，诸有智人，应深信受。		

表 3-1：（15 表）己二释第二能变分二【卷四】（5/13）

科判										正文																								
己二释第二能变分二	庚一结前生后以发论端										如是已说初能变相；第二能变其相云何？																							
	辛一举颂文										颂曰： 5 次第第二能变，是识名末那，依彼转，缘彼，思量为性相。 6 四烦恼常俱：谓我痴、我见，并我慢、我爱，及余触等俱。 7 有覆无记摄，随所生所系。阿罗汉、灭定、出世道无有。																							
	癸一出能变体释名义分二										子一释颂	论曰： 次初异熟能变识，后应辩思量能变识相。是识圣教别名末那，恒、审思量胜余识故。																						
											子二问答辨	此名何异第六意识？ 此持业释，如藏识名，识即意故； 彼依主释，如眼识等，识异意故。 然诸圣教恐此滥彼，故于第七但立意名。 又标意名，为简心、识，积集、了别劣余识故，或欲显此与彼意识为近所依，故但名意。																						
	子一略解所依分二										丑一总解依彼转言		“依彼转”者，显此所依。																					
											丑二别释依彼转字分三										寅一彼字		“彼”谓即前初能变识，圣说此识依藏识故。											
																					寅二依字分二										卯一难陀等义		有义：此意以彼识种而为所依，非彼现识，此无间断，不假现识为俱有依方得生故。	
																															卯二护法等义		有义：此意以彼识种及彼现识俱为所依，虽无间断，而有转易，名转识故，必假现识为俱有依，方得生故。	
																					寅三转字		“转”谓流转，显示此识恒依彼识取所缘故。											
	丑一总出极成所依分三										寅一总显所依数		诸心、心所皆有所依，然彼所依，总有三种：																					
											寅二别列释所依体										一、因缘依，谓自种子，诸有为法皆托此依，离自因缘必不生故；													
																					二、增上缘依，谓内六处，诸心、心所皆托此依，离俱有根必不转故；		三、等无间缘依，谓前灭意，诸心、心所皆托此依，离开导根必不起故。											
																					寅三总结简		唯心、心所具三所依，名有所依，非所余法。											
	子二广解所依分三										卯一难陀胜子义		初种子依： 有作是说：要种灭已，现果方生，无种已生，《集论》说故，种与芽等不俱有故。																					
											寅一因缘依分二										辰一破前		有义：彼说为证不成： 彼依引生后种说故； 种生芽等非胜义故； 种灭芽生非极成故。 焰炷同时互为因故。											
																					卯二护法义分四		辰二立理		然种自类因果不俱，种、现相生决定俱有，故《瑜伽》说：“无常法与他性为因，亦与后念自性为因，是因缘义。” “自性”言显种子自类前为后因，“他性”言显种与现行互为因义。 《摄大乘论》亦作是说： 藏识染法互为因缘，犹如束芦俱时而有的。又说：种子与果必俱。故种子依，定非前后。									
																					辰三会诸文		设有处说种果前后，应知皆是随转理门。											
																					辰四结正		如是八识及诸心所，定各别有种子所依。											



表 3-2: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(6/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸二明所依分二 子二广解所依分三 丑二别叙有异计分三 寅二增上缘依分四	卯一难陀等义分三	辰一解五识依分二	巳一立宗		次俱有依，有作是说：眼等五识意识为依，此现起时，必有彼故。无别眼等为俱有依，眼等五根即种子故。							
				巳二引证		《二十唯识》伽他中言：“识从自种生，似境相而转，为成内、外处，佛说彼为十。” 彼颂意说：世尊为成十二处故，说五识种为眼等根，五识相分为色等境，故眼等根即五识种。 《观所缘论》亦作是说：“识上色功能，名五根应理，功能与境色，无始互为因。” 彼颂意言：异熟识上能生眼等色识种子名色功能，说为五根，无别眼等，种与色识常互为因，能熏与种递为因故。							
						第七、八识无别此依，恒相续转，自力胜故。							
						第六意识别有此依，要托末那而得起故。							
		辰二解七八依		第七、八识无别此依，恒相续转，自力胜故。									
		辰三解第六依		第六意识别有此依，要托末那而得起故。									
		卯二安慧等依义分二	辰一破前说分三	巳二别非分三	巳一总非		有义：彼说理、教相违。						
							酉一诸界杂乱难						
							酉二二分种俱非难						
							酉三四缘相违难						
							酉四根识系异难						
							酉五五根通三性难						
							酉六五根无执受难						
							酉七五七不齐难						
							酉八三依阙一难						
							酉九诸根唯种子难						
							酉十假为他救难分二	戌一叙救			有避如前所说过难，朋附彼执复转救言：异熟识中能感五识增上业种，名五色根；非作因缘生五识种，妙符二颂，善顺《瑜伽》。		
								戌二申难			彼有虚言都无实义：应五色根非无记故；又彼应非唯有执受，唯色蕴摄，唯内处故；鼻、舌唯应欲界系故；三根不应五地系故；感意识业应末那故；眼等不应通现、种故；又应眼等非色根故。 又若五识皆业所感，则应一向无记性摄；善等五识既非业感，应无眼等为俱有依，故彼所言非为善救。		
申二总结非							又诸圣教处处皆说阿赖耶识变似色根及根依处器世间等，如何汝等拨无色根？ 许眼等识变似色等； 不许眼等藏识所变，如斯迷谬，深违教、理！						
					未二会前文双解二颂		然伽他说：种子功能名五根者，为破离识实有色根，于识所变似眼根等，以有发生五识用故，假名种子及色功能。非谓色根即识业种。						

表 3-3: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(7/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸二明所依分二	卯二安慧等依义分二	辰一破前说分三	巳二别非分三	午二非第六识		又缘五境明了意识，应以五识为俱有依，以彼必与五识俱故，若彼不依眼等识者，彼应不与五识为依，彼此相依势力等故。	
					午三非第七识		又第七识虽无间断，而见道等既有转易，应如六识有俱有依，不尔，彼应非转识摄，便违圣教转识有七，故应许彼有俱有依，此即现行第八识摄。 如《瑜伽》说有藏识故，得有末那，末那为依意识得转，彼论意言现行藏识为依止，故得有末那，非由彼种。不尔，应说有藏识故，意识得转。	
				巳三结非		由此彼说理教相违。		
			辰二总结正				是故应言前五转识，一一定有二俱有依，谓五色根、同时意识； 第六转识决定恒有一俱有依，谓第七识，若与五识俱时起者，亦以五识为俱有依； 第七转识决定唯有一俱有依，谓第八识，唯第八识恒无转变，自能立故，无俱有依。	
	卯三净月等义分三	辰一立理分三	巳一总成依第七		有义：此说犹未尽理。 第八类余既同识性，如何不许有俱有依？ 第七、八识既恒俱转，更互为依，斯有何失？			
			巳二以种例现成		许现起识以种为依，识种亦应许依现识，能熏异熟，为生、长住依，识种离彼不生、长、住故。			
			巳三令第八依色根		又异熟识有色界中能执持身，依色根转，如契经说：阿赖耶识业风所飘，遍依诸根恒相续转； 《瑜伽》亦说： 眼等六识各别依故，不能执受有色根身。 若异熟识不遍依止有色诸根，应如六识非能执受，或所立因有不定失。			
		辰二总结申正义				是故，藏识若现起者，定有一依，谓第七识，在有色界亦依色根； 若识种子定有一依，谓异熟识，初熏习位亦依能熏。		
		辰三指前				余如前说。		
		辰一总斥前				有义：前说皆不应理，未了所依与依别故。		
		卯四护法义分三	辰二申正义指分二	巳一解所依别分二	午一解二分二	未一出依体	“依”谓一切有生灭法，仗因托缘而得生、住，诸所仗托皆说为依，如王与臣互相依等。	
						未二解所依体义	若法决定、有境、为主、令心心所取自所缘，乃是所依，即内六处，余非有境、定、为主故，此但如王，非如臣等。 故诸圣教唯心心所名有所依，非色等法，无所缘故。但说心所，心为所依，不说心所，为心所依，彼非主故。	
				午二解相违		然有处说依为所依，或所依为依，皆随宜假说。		
			巳二解具多少分二	午一解识依分四	未一解五识依		由此五识俱有所依，定有四种： 谓五色根、六、七、八识，随阙一种必不转故。 同境、分别、染净、根本，所依别故。 圣教唯说依五根者，以不共故，又必同境近相顺故。	
					未二解第六依		第六意识俱有所依唯有二种： 谓七、八识，随阙一种必不转故，虽五识俱取境明了，而不定有，故非所依。 圣教唯说依第七者，染净依故，同转识摄，近相顺故。	
					未三解第七依		第七意识俱有所依但有一种，谓第八识，藏识若无，定不转故。 如《伽他》说：阿赖耶为依，故有末那转，依止心及意，余转识得生。	

表 3-4: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(8/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸二明所依分二 子二广解所依分三 丑二别叙有异计分三	寅二增上缘依分四	卯四护法义分三	辰二申正义指分二	巳二解具依多少分二	午一解识依分四	未四解第八依	阿赖耶识俱有所依亦但一种，谓第七识，彼识若无，定不转故。 论说：藏识恒与末那俱时转故，又说藏识恒依染污，此即末那。 而说三位无末那者，依有覆说，如言四位无阿赖耶，非无第八，此亦应尔。 虽有色界亦依五根，而不定有，非所依摄； 识种不能现取自境，可有依义而无所依。					
								午二解心所依					
								心所所依，随识应说，复各加自相应之心。					
								辰三总结正					
								若作是说，妙符理教。					
								卯一难陀等长徒义分三		辰一辨五识	后开导依。有义：五识自他前后不相续故，必第六识所引生故，唯第六识为开导依。		
										辰二辨第六	第六意识自相续故，亦由五识所引生故，以前六识为开导依。		
										辰三辨七八	第七、八识自相续故，不假他识所引生故，但以自类为开导依。		
								巳一总非		有义：前说未有究理。			
								午一破五识分二	未二夺破分三	未一纵破		且前五识未自在位，遇非胜境，可如所说。	
										申二翻率遇境分三	申一翻未自在位	若自在位，如诸佛等，于境自在，诸根互用，任运决定，不假寻求，彼五识身宁不相续？	
											酉一出理	等流五识，既为决定、染净、作意势力引生，专注所缘，未能舍顷，如何不许多念相续？	
												酉二引证	故《瑜伽》说：决定心后，方有染净，此后乃有等流眼识善不善转，而彼不由自分别力，乃至此意不趣余境，经尔所时，眼、意二识或善、或染，相续而转，如眼识生，乃至身识，应知亦尔。
										酉三重成	彼意定显经尔所时，眼、意二识俱相续转，既眼识时非无意识，故非二识互相续生。		
											申三翻遇非胜境分三	酉一标宗	若增盛境相续现前，逼夺身心不能暂舍，时五识身，理必相续，如热地狱、戏忘天等。
												酉二引教成	故《瑜伽》言：若此六识为彼六识等无间缘，即施設此名为意根。
										酉三以理成		若五识前后定唯有意识，彼论应言，若此一识为彼六识等无间缘，或彼应言若此六识为彼一识等无间缘。 既不如是，故知五识有相续义。	
										午二破第六分二	未一破以五为依		五识起时，必有意识能引后念意识令起，何假五识为开导依？
											未二难六释七八为依		无心睡眠、闷绝等位，意识断已，后复起时，藏识、末那既恒相续，亦应与彼为开导依。 若彼用前自类开导，五识自类何不许然？ 此既不然，彼云何尔？
										午三破末那		平等性智相应末那初起必由第六意识，亦应用彼为开导依。	
										午四破第八		圆镜智俱第八净识，初必六、七方便引生。又异熟心依染污意，或依悲愿相应善心。 既尔，必应许第八识亦以六、七为开导依。	
										巳三结成		由此彼言都未究理。	
										辰二结归正义		应说五识前六识内，随用何识为开导依； 第六意识用前自类或第七、八为开导依； 第七末那用前自类或第六识为开导依； 阿陀那识用前自类及第六、七为开导依。皆不违理，由前说故。	

表 3-5: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(9/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸二明所依分二 子二广解所依分三	丑二别叙有异计分三	寅三等无间缘依分三	卯三护法义分三	辰一总非			有义： 此说亦不应理。		
					辰二申其义分四	巳一出体义		开导依者，谓有缘法、为主，能作等无间缘。此于后生心、心所法，开避引导名开导依。此但属心，非心所等。		
						巳二破前非分二	午一诸识不俱难		若此与彼无俱起义，说此于彼有开导力；一身八识既容俱起，如何异类为开导依？若许为依，应不俱起，便同异部心不并生。	
							午二色心无异难分二	未一难无异		又一身中诸识俱起，多少不定，若容互作等无间缘，色等应尔，便违圣说等无间缘唯心、心所。
								未二会相违		然《摄大乘》说： 色亦容有等无间缘者，是“纵夺言”，谓假纵小乘色心前后有“等无间缘”，夺“因缘”故，不尔，“等”言应成无用。 若谓“等”言非遮多少，但表同类，便违汝执异类识作等无间缘。
							巳三申正理			是故八识各唯自类为开导依，深契教理，自类必无俱起义故。 心所此依，应随识说。
						巳四释难分五	午一诸心相应难		虽心、心所异类并生，而互相应、和合似一、定俱生灭、事业必同，一开导时余亦开导，故展转作等无间缘，诸识不然，不应为例。	
							午二心所成依难		然诸心所非开导依，于所引生“无主”义故。	
							午三各应为缘难		若心、心所等无间缘各唯自类，第七、八识初转依时，相应信等，此缘便阙，则违圣说诸心、心所皆四缘生。	
							午四后起由他难		无心睡眠、闷绝等位意识虽断，而后起时彼开导依即前自类，间断五识应知亦然，无自类心于中为隔名无间故，彼先灭时已于今识为开导故，何烦异类为开导依？	
							午五诸教相违难		然圣教中说前六识互相引起，或第七、八依六、七生，皆依殊胜增上缘说，非等无间，故不相违。 《瑜伽论》说： 若此识无间，诸识决定生，说此为彼等无间缘。又此六识为彼六识等无间缘，即施設此名意根者，言总意别，亦不相违。	
						辰三结正			故自类依，深契教理。	
						丑三结归正义			傍论已了，应辩正论。 此能变识虽具三所依，而“依彼转”言但显前二，为显此识依缘同故，又前二依有胜用故，或开导依易了知故。	

表 3-6: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(10/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸三解所缘分二	子一结前问起				如是已说此识所依，所缘云何？	
		寅一挙颂答分二				谓即“缘彼”。	
		丑一解“缘彼”言	寅二别释分二	卯一总解		“彼”谓即前此所依识，圣说此识缘藏识故。	
				辰一难陀等义分四	巳一标宗	有义： 此意缘彼识体，及相应法。	
					巳二引证	论说末那我、我所执恒相应故。	
					巳三示执相	谓缘彼体及相应法，如次执为我及我所。	
					巳四会相违	然诸心所不离识故，如“唯识”言，无违教失。	
				辰二火辨等解分二	巳一破他	有义： 彼说理不应然，曾无处言缘触等故。	
					巳二申自义	应言此意但缘彼识见及相分，如次执为我及我所，相、见俱以识为体故，不违圣说。	
				辰三安慧说分三	巳一以五因破他	有义： 此说亦不应理。 五色根境非识蕴故，应同五识，亦缘外故； 应如意识，缘共境故； 应生无色者不执我所故，灰色生彼不变色故。	
					巳二申自义	应说此意但缘藏识及彼种子，如次执为我及我所。	
					巳三会违	以种即是彼识功能，非实有物，不违圣教。	
				辰四护法义分四	巳一破他	有义： 前说皆不应理。色等种子，非识蕴故，论说种子是实有故。 假应如无，非因缘故。 又此识俱萨迦耶见，任运一类，恒相续生，何容别执有我、我所？ 无一心中有断、常等二境，别执俱转义故，亦不应说二执前后，此无始来一味转故。	
					巳二申正义	应知此意但缘藏识见分非余，彼无始来一类相续似常、一故，恒与诸法为所依故。	
					巳三会违文	此唯执彼为自内我，乘语势故，说我所言。 或此执彼是我之我，故于一见义说二言。	
					巳四结顺理教	若作是说，善顺教理。 多处唯言有我见故，我、我所执，不俱起故。	
				丑二解因果识所缘分二	寅一正解		未转依位，唯缘藏识。 既转依已，亦缘真如及余诸法。平等性智，证得十种平等性故。 知诸有情胜解差别，示现种种佛影像故。
		寅二释今所明			此中且说未转依时，故但说此缘彼藏识。 悟迷通局，理应尔故。 无我、我境，遍、不遍故。		
		丑三释外妨难				如何此识缘自所依？ 如有后识，即缘前意。 彼既极成，此亦何咎？	
		癸四自性行相门分二			子一牒颂总释	颂言： “思量为性相”者，双显此识自性、行相。	
					子二别释	意以思量为自性故，即复用彼为行相故。 由斯兼释所立别名，能审思量名末那故。 未转依位，恒、审思量所执我相； 已转依位，亦审思量无我相故。	

表 3-7: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(11/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸五染俱触等门分二	子一总问				此意相应有几心所? 且与四种烦恼常俱。 此中“俱”言，显相应义。 谓从无始，至未转依，此意任运恒缘藏识，与四根本烦恼相应。 其四者何? 谓我痴、我见并我慢、我爱，是名四种。 我痴者： 谓无明，愚于我相，迷无我理，故名我痴。 我见者： 谓我执，于非我法，妄计为我，故名我见。 我慢者： 谓倨傲，恃所执我，令心高举，故名我慢。 我爱者： 谓我贪，于所执我，深生耽着，故名我爱。 “并”表慢爱有见慢俱，遮余部执无相应义。 此四常起，扰浊内心，令外转识恒成杂染。有情由此生死轮回，不能出离，故名烦恼。				
		寅一解染俱分二	卯一释颂文分三	辰一释总句分三	巳一举颂答					
					巳二释俱字					
					巳三显位次行相					
					巳一问					
					辰二别句分二	巳二举颂答分二	午一列名			
			午二别释							
			辰三解烦恼名							
			卯二辨废立分二	辰一释烦恼自分二	巳一问					
					巳二答分二	午一释与余见不俱				
						午二释疑等不俱				
				辰二释自妨难分二	巳一自力俱起难					
		巳二会违文								
		寅二明触等相应分二	卯一问				此意心所唯有四耶? 不尔，“及余触等俱”故。 有义：此意心所唯九，前四及余触等五法，即触、作意、受、想与思，意与遍行，定相应故。前说触等，异熟识俱，恐谓同前，亦是无覆，显此异彼，故置“余”言。 “及”是义集，前四后五合，与末那恒相应故。 此意何故无余心所? 谓“欲”，希望未遂合事，此识任运缘遂合境，无所希望，故无有欲。 “胜解”，印持曾未定境，此识无始，恒缘定事，经所印持，故无胜解。 “念”唯记忆曾所习事，此识恒缘现所受境，无所记忆，故无有念。 “定”唯系心专注一境，此识任运刹那别缘，既不专一，故无有定。 “慧”即我见，故不别说。			
			卯二答分二	辰一约四惑余释分二	辰一举颂答					
					午一释本分二	未一以二义释“余”字				
						未二释“及”字				
					午二释余相由分二	未一问				
						未二答分四	申一别境			
				辰二广分别分二						

表 3-8: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(12/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八 癸五染俱触等门分二	子二总答分二	丑一解因位相应分三	寅二明触等相应分二	卯二答分二	辰二广分别分二	巳一约惑释二	午二释与余不相由分二	未二答分四	申二善心所	善是净故，非此识俱。
									申三随惑	随烦恼生，必依烦恼前后分位差别建立。 此识恒与四烦恼俱，前后一类，分位无别，故此识俱无随烦恼。
										申四不定
	巳二约触等余释分二	午二别净分四	未一五遍染义分二	申一泛出遍染惑分四	午一总解		有义： 彼释“余”义非理。颂别说此有覆摄故。 又阙意俱随烦恼故。 烦恼必与随烦恼俱，故此“余”言，显随烦恼。			
					酉一标宗	此中有义： 五随烦恼，遍与一切染心相应。				
						酉二引证	如《集论》说： 昏沈、掉举、不信、懈怠、放逸，于一切染污品中，恒共相应。			
				酉三立理	若离无堪任性等，染污性成，无是处故。 烦恼起时，心既染污，故染心位，必有彼五。 烦恼若起，必由无堪任、器动、不信、懈怠、放逸故。					
					酉四会违分二	戌一会掉举贪分	掉举虽遍一切染心，而贪位增，但说贪分。 如眠与悔，虽遍三性心，而痴位增，但说为痴分。			
				戌二会六十遍染		虽余处说，有随烦恼，或六、或十，遍诸染心，而彼俱依别义说遍，非彼实遍一切染心。 谓依二十随烦恼中，解通粗细，无记、不善，通障定、慧，相显说六。 依二十二随烦恼中，解通粗细二性，说十。 故此彼说： 非互相违。				
					申二解此识俱分二	酉一显有	然此意俱心所十五，谓前九法、五随烦恼，并别境慧。 我见虽是别境慧摄，而五十一心所法中，义有差别，故开为二。			
				酉二显无			何缘此意无余心所？ 谓忿等十行相粗动，此识审细，故非彼俱； 无惭、无愧，唯是不善，此无记故，非彼相应； 散乱，令心驰流外境，此恒内执一类境生，不外驰流，故彼非有； 不正知者，谓起外门身、语、意行，违越轨则，此唯内执，故非彼俱。 无余心所，义如前说。			

表 3-9: (15 表) 己二释第二能变分二【卷四】(13/13)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八 癸五染俱触等门分二	子二总答分二 丑一解因位相应分三 寅二明触等相应分二 卯二答分二 辰二广分别分二	巳二约触等余释分二	午二别净分四	未二六遍染义分二	申一出遍染随惑分四	酉一标宗		有义： 应说六随烦恼，遍与一切染心相应，	
						酉二引证		《瑜伽论》说： 不信、懈怠、放逸、忘念、散乱、恶慧，一切染心皆相应故。	
						酉三立理		忘念、散乱、恶慧若无，心必不能起诸烦恼。 要缘曾受境界种类，发起忘念及邪简择，方起贪等诸烦恼故。 烦恼起时，心必流荡，皆由于境，起散乱故。	
						酉四会违分二	戌一会五遍染	惛沈、掉举，行相互违，非诸染心皆能遍起。 论说五法遍染心者，解通粗、细，违唯善法，纯随烦恼，通二性故。	
							戌二会十遍染	说十遍言，义如前说。	
					申二出识俱法数分二	酉一显有		然此意俱心所十九。 谓前九法、六随烦恼，并念、定、慧，及加惛沈。此别说念，准前慧释。 并有定者，专注一类所执我境，曾不舍故。 加惛沈者，谓此识俱，无明尤重，心惛沈故。	
						酉二显无		无掉举者，此相违故。无余心所，如上应知。	
					未三十遍染法分二	申一出遍染法分四	酉一标宗		有义：复说十随烦恼，遍与一切染心相应。
							酉二引证		《瑜伽论》说： 放逸、掉举、惛沈、不信、懈怠、邪欲、邪胜解、邪念、散乱、不正知。 此十一切染污心起，通一切处，三界系故。
							酉三立理		若无邪欲、邪胜解时，心必不能起诸烦恼。 于所受境，要乐合、离，印持事相，方起贪等诸烦恼故。
				酉四会违分三			戌一会邪解不遍	诸疑理者，于色等事，必无犹豫； 故疑相应，亦有胜解。于所缘事，亦犹豫者，非烦恼疑，如疑人机。	
							戌二会余处不说	余处不说此二遍者，缘非爱事，疑相应心； 邪欲、胜解非粗显故。	
							戌三会忘念等不说	余互有无，义如前说。	
				申二解识俱法数分二		酉一显有		此意心所有二十四： 谓前九法、十随烦恼，加别境五，准前理释。	
						酉二显无		无余心所，如上应知。	
				未四八遍染义分三		申一总非			有义：前说皆未尽理。
						申二申理分二	酉一显遍随分二	戌一破前说	且疑他世为有、为无，于彼有何欲、胜解相？ 烦恼起位，若无惛沈，应不定有无堪任性； 掉举若无，应无器动，便如善等，非染污位。 若染心中，无散乱者，应非流荡，非染污心。 若无失念、不正知者，如何能起烦恼现前？
					戌二显遍随			故染污心，决定皆与八随烦恼，相应而生。 谓惛沈、掉举、不信、懈怠、放逸、忘念、散乱、不正知。 忘念、不正知，念、慧为性者，不遍染心，非诸染心，皆缘曾受，有简择故； 若以无明为自性者，遍染心起，由前说故。	
					酉二显识俱法数			然此意俱心所十八： 谓前九法、八随烦恼，并别境慧。 无余心所及论三文，准前应释。	
					申三总结			若作是说，不违理教。	



表 3-10: (15 表) 己二释第二能变分二【卷五】(1/15)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸五染俱触等门分二	子二总答分二	丑一解因位相应分三	寅三解五受俱分二 【卷五】	卯一问			此染污意，何受相应？		
					卯二答分三	辰一唯喜相应说		有义：此俱唯有喜受，恒内执我，生喜爱故。		
						辰二受相应说分二	巳一破前说		有义：不然！应许喜受，乃至有顶，违圣言故。	
							巳二申自义		应说：此意四受相应。 谓生恶趣忧受相应，缘不善业所引果故。 生人、欲天、初、二静虑，喜受相应，缘有喜地善业果故。 第三静虑，乐受相应，缘有乐地善业果故。 第四静虑乃至有顶，舍受相应，缘唯舍地善业果故。	
						巳一破前说			有义：彼说亦不应理。 此无始来，任运一类，缘内执我，恒无转易，与变异受，不相应故。	
						巳二约不别说示相应		又此末那与前藏识义有异者，皆别说之。 若四受俱，亦应别说。 既不别说，定与彼同。 故此相应，唯有舍受。		
						丑二显果位相应				未转依位，与前所说心所相应； 已转依位，唯二十一心所俱起，谓遍行、别境各五，善十一。 如第八识，已转依位，唯舍受俱，任运转故。 恒于所缘，平等转故。
	癸六三性门分二	子二答分二	丑一问			末那心所，何性所摄？				
			丑一因位分三	寅一挙颂答		有覆无记所摄，非余。				
				寅二释有覆名		此意相应四烦恼等，是染法故； 障碍圣道，隐蔽自心，说名有覆； 非善、不善，故名无记。				
				寅三示例释无记		如上二界诸烦恼等，定力摄藏，是无记摄。 此俱染法，所依细故，任运转故，亦无记摄。				
			丑二果位			若已转依，唯是善性。				
	癸七果系门分二	子一辨染分二	丑一问			末那心所，何地系耶？				
			丑二答分二	寅一挙颂答			随彼所生，彼地所系。			
				寅二释颂分二	卯一总显		谓生欲界，现行末那相应心所，即欲界系。 乃至有顶应知亦然； 任运恒缘自地藏识，执为内我，非他地故。			
							若起彼地异熟藏识现在前者，名生彼地； 染污末耶，缘彼执我，即系属彼，名彼所系。			
				卯二别解分二	辰一约能所属释		或为彼地诸烦恼等之所系缚，名彼所系。			
					辰二约能所缚释					
		子二辨净				若已转依，即非所系。				
	癸八起灭分别门分二	子二答分二	丑一正辨伏断分位分二			寅一挙颂答分二	卯一问			此染污意，无始相续，何位永断？或暂断耶？
			卯二别释分二	辰一总解三位			阿罗汉、灭定、出世道无有。 阿罗汉者，总显三乘无学果位。 此位染意种及现行，俱永断灭，故说无有。 学位灭定、出世道中，俱暂伏、灭，故说无有。			
				巳一灭定圣道不行分三	午一解圣道不行		谓染污意，无始时来，微细一类，任运而转： 诸有漏道，不能伏、灭： 三乘圣道，有伏、灭义。 真无我解，违我执故。 后得无漏现在前时，是彼等流，亦违此意。 真无我解，及后所得，俱无漏故，名出世道。			
							午二解灭定不行		灭定既是圣道等流，极寂静故，此亦非有。	
							午三显二位已灭后生		由未永断此种子故，从灭尽定、圣道起已，此复现行，乃至未灭。	
							卯二别释分二			
				辰二别解三位分二						
				巳二约能所属释						

表 3-11：（15 表）己二释第二能变分二【卷五】（2/15）

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二 壬一以八段依释十门分八	癸八起灭分别门分二	子二答分二	丑一正辨伏断分位分二	寅二广诤分二	寅一 举颂答分二	卯二 别释分二	辰二 别解三位分二	巳二 阿罗汉不行由三分三	午一解所由	然此染意相应烦恼，是俱生故，非见所断。是染污故，非非所断。		
									午二明何时断	极微细故，所有种子，与有顶地，下下烦恼，一时顿断，势力等故； 金刚喻定现在前时，顿断此种，成阿罗汉，故无学位，永不复起。		
									午三释回心摄在	二乘无学，回趣大乘，从初发心，至未成佛，虽实是菩萨，亦名阿罗汉。 应义等故，不别说之。		
										卯一安慧等		此中有义：末那唯有烦恼障俱。 圣教皆言：三位无故。 又说：四惑恒相应故。 又说：为识杂染依故。
										卯二护法等分十	辰一违经失	有义：彼说教理相违，出世末那，经说有故。
											辰二违量失	无染意识，如有染时，定有俱生不共依故。
											辰三违瑜伽失	论说：藏识决定恒与一识俱转，所谓末那；意识起时，则二俱转，所谓意识，及与末那；若五识中随起一识，则三俱转，乃至或时顿起五识，则七俱转。 若住灭定，无第七识，尔时，藏识应无识俱，便非恒定一识俱转。 住圣道时，若无第七。 尔时，藏识应一识俱，如何可言，若起意识，尔时，藏识定二俱转？
											辰四违显扬失	《显扬论》说：“末那恒与四烦恼相应，或翻彼相应，恃举为行，或平等行。” 故知此意通染、不染。
											辰五违七八相例失	若由论说：阿罗汉位无染意故，便无第七。应由论说：阿罗汉位舍赖耶故，便无第八。彼既不尔，此云何然？
											辰六四智不齐失	又诸论言：转第七识，得平等智。 彼如余智，定有所依相应净识。 此识无者，彼智应无。非离所依有能依故。不可说彼依六转识，许佛恒行，如镜智故。
											辰七第八无依失	又无学位，若无第七识，彼第八识，应无俱有依。 然必有此依，如余识性故。
											辰八二执不均失	又如未证补特伽罗无我者，彼我执恒行；亦应未证法无我者，法、我执恒行，此识若无，彼依何识？ 非依第八，彼无慧故。 由此应信，二乘圣道、灭定、无学此识恒行，彼未证得法无我故。
											辰九五六非同失	又诸论中，以“五同法”，证有第七，为第六依。 圣道起时，及无学位，若无第七，为第六依，所立宗、因，便俱有失。 或应五识，亦有无依。 五恒有依，六亦应尔。
											辰十总结会	是故定有无染污意，于上三位，恒起现前。言彼无有者，依染意说； 如说四位无阿赖耶，非无第八，此亦应尔。

表 3-12: (15 表) 己二释第二能变分二【卷五】(3/15)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二	壬一以八段依释十门分八	癸八起灭分别门分二	丑二傍乘义解分位行相分三	寅一标分位行相差别			此意差别，略有三种：		
				寅二列名			一、补特伽罗我见相应； 二、法我见相应；三、平等性智相应。		
				卯一别解三位分三	辰一人我见位		初通一切异生相续、二乘有学、七地以前一类菩萨有漏心位，彼缘阿赖耶识，起补特伽罗我见。		
					辰二法我见位		次通一切异生、声闻、独觉相续、一切菩萨法空智果不现前位，彼缘异熟识，起法我见。		
					辰三智相应位		后通一切如来相续、菩萨见道及修道中法空智果现在前位，彼缘无垢异熟识等，起平等性智。		
				辰一广人执位分二	巳一明执宽狭		补特伽罗我见起位，彼法、我见亦必现前。我执必依法执而起。如夜迷机等，方谓人等故。		
					巳二明体用同别		我、法二见，用虽有别，而不相违，同依一慧。如眼识等，体虽是一，而有了别青等多用，不相违故，此亦应然。		
				卯二重明前二位分二	巳一总广法执分二	午一我执已伏位	二乘有学圣道，灭定现在前时；顿悟菩萨，于修道位；有学渐悟，生空智果，现在前时。皆唯起法执，我执已伏故。		
						午二我执已断位	二乘无学及此渐悟法空智果不现前时，亦唯起法执，我执已断故。		
					巳二重诤八地以上分二	午一正释	八地以上，一切菩萨所有我执皆永不行，或已永断；或永伏故。法空智果不现前时，犹起法执，不相违故。		
						午二引证	如契经说：八地以上，一切烦恼，不复现行；唯有所依所知障在。此所知障，是现非种。不尔，烦恼亦应在故。		
					巳三重明法执染不染		法执俱意，于二乘等，虽名不染；于诸菩萨，亦名为染，障彼智故。由此亦名有覆无记。于二乘等，说名无覆，不障彼智故。是异熟生摄，从异熟识恒时生故，名异熟生，非异熟果，此名通故，如增上缘，余不摄者，皆入此摄。		
				癸一问			云何应知此第七识，离眼等识，有别自体？		
				丑一依显经证有分二	子一总答			圣教正理，为定量故。	
					寅一不共许经分二	卯一总解		谓薄伽梵处处经中说：心、意、识三种别义。集起名心，思量名意，了别名识，是三别义。	
						卯二别解分二	辰一正明		如三义，虽通八识，而随胜显：第八名心，集诸法种，起诸法故；第七名意，缘藏识等，恒、审思量，为我等故；余六名识，于六别境，粗动间断，了别转故。
							辰二引经		如《入楞伽》伽他中说：“藏识说名心，思量性名意，能了诸境相，是说名为识。”又大乘经处处别说有第七识，故此别有。诸大乘经是至教量，前已广说，故不重成。
					寅二共许经分二	卯一引经	《解脱经》中，亦别说有此第七识。如彼颂言：“染污意恒时，诸惑俱生灭，若解脱诸惑，非曾非当有”。		
						卯二长行别释	彼经自释此颂义言：有染污意，从无始来，与四烦恼，恒俱生灭。谓我见、我爱，及我慢、我痴。对治道生，断烦恼已，此意从彼便得解脱。尔时，此意相应烦恼，非唯现无，亦无过、未，过去、未来，无自性故。如是等教，诸部皆有，恐厌广文，故不繁述。		

表 3-13: (15 表) 己二释第二能变分二【卷五】(4/15)

壬二以二教六理证有此识分三 癸二答分二 子二别答分二 丑二依隐经证有分三 寅一结前生后	己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二	寅二依标正释分六	卯一不共无明经证分二	辰二以理征释分二	巳二因释不共义分二	午二答分三	未三第三说分三	寅一结前生后		已引圣教；当显正理。			
								辰一引经		谓契经说：不共无明，微细恒行，覆蔽真实，若无此识，彼应非有。			
								巳一破小乘立第七分二	午一释经义		谓诸异生，于一切分，恒起迷理不共无明，覆真实义，障圣慧眼。 如伽他说：“真义心当生，常能为障碍，俱行一切分，谓不共无明。” 是故契经说：异生类恒处长夜，无明所盲，惛醉缠心，曾无醒觉。		
									午二正申难		若异生位，有暂不起此无明时，便违经义。 俱异生位，迷理无明，有行、不行，不应理故。此依六识，皆不得成。应此间断，彼恒染故。许有末那，便无此失！		
								卯二六二缘经证分二	午一小乘问		染意恒与四惑相应，此俱无明，何名不共？		
									未二第二说分三	未一第一说		有义：此俱我见、慢、爱，非根本烦恼，名不共何失？	
										申一破前	申一破前		有义：彼说理教相违。纯随烦恼中，不说此三故，此三，六、十烦恼摄故。 处处皆说染污末那与四烦恼恒相应故。
											申二申自义		应说四中，无明是主，虽三俱起，亦名不共。从无始际，恒内惛迷，曾不省察，痴增上故。
									申三释难		此俱见等，应名相应，若为主时，应名不共？如无明故，许亦无失。		
									申二问答辨	申一释不共		有义：此痴名不共者，如不共佛法，唯此识有故。	
										申二问答辨		若尔，余识相应烦恼，此识中无，应名不共。依殊胜义，立不共名，非互所无，皆名不共。谓第七识，相应无明，无始恒行，障真义智，如是胜用，余识所无，唯此识有，故名不共。既尔，此俱三亦应名不共？ 无明是主，独得此名。 或许余三，亦名不共；对余“痴”故，且说无明。	
										申三显差别分三	酉一显二别		不共无明，总有二种：一、恒行不共，余识所无；二、独行不共，此识非有。
									酉二引证		故《瑜伽》说，无明有二：若贪等俱者，名相应无明；非贪等俱者，名独行无明。 是主独行，唯见所断。 如契经说：诸圣有学，不共无明，已永断故，不造新业。 非主独行，亦修所断。忿等皆通见修所断故。		
									酉三大小异		恒行不共，余部所无；独行不共，此彼俱有。		
								辰一引经		又契经说：眼、色为缘，生于眼识。 广说乃至意、法为缘，生于意识。若无此识，彼意非有。			
								辰二破诸部分四	巳一总破萨婆多		谓如五识，必有眼等增上不共俱有所依。 意识既是六识中摄，理应许有如是所依。此识若无，彼依宁有？		
									巳二破上座部		不可说色为彼所依，意非色故。 意识应无随念、计度二分别故。		
									巳三破经部		亦不可说五识无有俱有所依，彼与五根俱时而转，如牙、影故。 又识与根，既必同境，如心、心所，决定俱时。		
									巳四总破前后说		由此理趣，极成意识，如眼等识，必有不共，显自名、处。 等无间不摄，增上所依，极成六识随一摄故。		

表 3-14: (15 表) 己二释第二能变分二【卷五】(5/15)

己二释第二能变分二 庚二依所论辨其相分二 辛二长行释分二	壬二以二教六理证有此识分三 癸二答分二 子二别答分二 丑二依隐经证有分三 寅二依标正释分六	卯三意不成经证分三	辰一引经	又契经说：思量名意。若无此识，彼应非有。	
			辰二破诸部	谓若意识现在前时，等无间意已灭非有。 过去、未来，理非有故。彼思量用，定不得成。 既尔，如何说名为意？ 若谓假说，理亦不然。无正思量，假依何立？ 若谓现在，曾有思量，尔时名识，宁说为意？	
			辰三总结	故知别有第七末那，恒审思量，正名为意，已灭依此，假立“意”名。	
		卯四定无差经证分三	辰一引经	又契经说：无想、灭定。染意若无，彼应无别。	
			辰二正破	谓彼二定，俱灭六识及彼心所，体数无异。 若无染意，于二定中，一有一无，彼二何别？ 若谓加行、界、地、依等有差别者，理亦不然。 彼差别因，由此有故。此若无者，彼因亦无。	
			辰三总结	是故定应别有此意。	
		卯五说无漏失经证分三	辰一引经		又契经说：无想有情，一期生中，心、心所灭。 若无此识，彼应无染。
			辰二破他分四	巳一总破诸部	谓彼长时，无六转识；若无此意，我执便无。 非于余处有具缚者，一期生中，都无我执。 彼无我执，应如涅槃。便非圣贤同所诃厌。
				巳二破萨婆多等	初后有故，无如是失。中间长时无故，有过。 去、来有故，无如是失。彼非现、常，无故，有过。 所得无故，能得亦无。
				巳三破大众部等	不相应法，前已遮破。
				巳四破经部	藏识无故，熏习亦无。余法受熏，已辩非理。
			辰三总结		故应别有染污末那，于无想天恒起我执。 由斯贤圣同诃厌彼。
	卯六我执不成经证分三	辰二破他分三	辰一引经		又契经说：异生善、染、无记心时，恒带我执，若无此识，彼不应有。
			巳一显自我执分三	午一立宗	谓异生类，三性心时，虽外起诸业，而内恒执我。由执我故，令六识中所起施等，不能亡相。
				午二引证	故《瑜伽》说：染污末那，为识依止，彼未灭时，相了别缚，不得解脱。末那灭已，相缚解脱。
				午三释教分二	未一正释 言相缚者，谓于境相不能了达，如幻事等。 由斯见分相分所拘，不得自在，故名相缚。
					未二证伽陀 依如是义，有伽他言：“如是染污意，是识之所依，此意未灭时，识缚终不脱。”
			巳二破他分三	午一破萨婆多等	
				又善、无覆无记心时，若无我执，应非有漏。 自相续中，六识烦恼与彼善等不俱起故。 去、来缘缚，理非有故。 非由他惑，成有漏故；勿由他解，成无漏故。	
				午二破大众部等	
				又不可说：别有随眠，是不相应，现相续起，由斯善等成有漏法。彼非实有，已极成故。	
				午三破经部等分三	亦不可说：从有漏种，生彼善等，故成有漏。 彼种先无因可成有漏故。
				未一破种子救	非由漏种，彼成有漏； 勿学无漏心，亦成有漏故。
				未二破种随逐救	虽由烦恼，引施等业，而不俱起，故非有漏正因； 以有漏言，表漏俱故； 又无记业，非烦恼引，彼复如何得成有漏？
				未三会疑	
			巳三成有漏义		然诸有漏，由与自身现行烦恼俱生、俱灭，互相增益，方成有漏。 由此熏成有漏法种，后时现起，有漏义成； 异生既然，有学亦尔。无学有漏，虽非漏俱； 而从先时有漏种起，故成有漏，于理无违。

表 3-15：（15 表）己二释第二能变分二【卷五】（6/15）

己二 释第二能 变分二	庚二 所辨相 分二	辛二 行分 释二	壬二 以二 教六 理证 有此 识分 三	癸二 答分 二	子二 别答 分二	丑二 依隐 经证 有分 三	寅二 依正 释分 六	卯六 我执 不成 经证 分三	辰三 总结	由有末那恒起我执，令善等法有漏义成。此意若无，彼定非有，故知别有此第七识。
			癸三释疑	然有经中说六识者，应知彼是随转理门，或随所依六根说六，而识类别，实有八种。						证有此识，理趣甚多，随《摄大乘》，略述六种，诸有智者，应随信学。

表 4-1：（29 表）己三释第三能变分二【卷五】（7/15）

科判						正文			
己三释第三能变分二	庚一结前生后发论端					如是已说第二能变。 第三能变，其相云何？			
	庚二举颂正答分三	辛一明四门分二	壬一颂			颂曰： 8次第三能变，差别有六种，了境为性、相，善、不善、俱非。			
			癸一能变差别门分二	子二解第二句分三	子一解第一句		论曰：次中思量能变识后，应辩了境能变识相。		
					丑一释六因	卯一依根得名		此识差别总有六种。 随六根、境，种类异故。	
								谓名眼识乃至意识。 随根立名，具五义故。 五谓依、发、属、助、如根。 虽六识身皆依意转，然随不共，立意识名，如五识身，无相滥过。 或唯依意，故名意识，辩识得名，心、意非例。	
					寅一别解分二	卯二从境得名		或名色识乃至法识。 随境立名，顺识义故，谓于六境了别名识。 色等五识，唯了色等，法识通能了一切法，或能了别法，独得法识名。 故六识名无相滥失。	
								此后随境立六识名，依五色根未自在说； 若得自在，诸根互用，一根发识，缘一切境； 但可随根，无相滥失。	
					寅二料简分三	卯一正料简		《庄严论》说：如来五根，一一皆于五境转者， 且依粗显、同类境说。	
						卯二会违文		《佛地经》说：成所作智，决择有情心行差别， 起三业化、作四记等。 若不遍缘，无此能故。	
						卯三引证		然六转识所依、所缘，粗显极成，故此不说。 前随义便，已说所依； 此所缘境，义便当说。	
					丑三三显不说				
					癸二自性行相门分二	子一释颂		次言“了境为性相”者，双显六识自性、行相， 识以了境为自性故； 即复用彼为行相故。 由斯兼释所立别名，能了别境，名为识故。	
								子二会经分二	丑一牒经问
丑二会释		彼经且说，不共所依，未转依位，见分所了； 余所依、了，如前已说。							

表 4-2: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(8/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三	辛一明四门分二	壬二长行释分三	癸三三性门分三	子一问		此六转识何性摄耶?
				子二举颂答		谓善、不善、俱非性摄。
				丑一正解颂文分二	寅一解三性名	俱非者，谓无记，非善、不善，故名俱非。能为此世、他世顺益，故名为善，人、天乐果，虽于此世能为顺益，非于他世，故不名善。 能为此世、他世违损，故名不善，恶趣苦果，虽于此世能为违损，非于他世，故非不善。于善、不善；益、损义中，不可记别，故名无记。
					寅二显识俱	此六转识若与信等十一相应，是善性摄；与无惭等十法相应，不善性摄；俱不相应，无记性摄。
				寅一六识三性不俱义分三	卯一标宗	有义：六识三性不俱。
					卯二立理	同外门转，互相违故。 五识必由意识导引，俱生、同境成善、染故。若许五识三性俱行，意识尔时应通三性。便违正理，故定不俱。
					卯三释难	《瑜伽》等说： 藏识一时与转识相应，三性俱起者，彼依多念。 如说一心，非一生灭，无相违过。
			丑二净申同异分二	卯一标宗		有义：六识三性容俱。
				卯二立理		率尔、等流眼等五识，或多或少，容俱起故。
				卯三释难		五识与意，虽定俱生，而善性等，不必同故。前所设难，于此唐捐。
				卯四引证分三	辰一引教	故《瑜伽》说： 若遇声缘从定起者，与定相应意识俱转，余耳识生。 非唯彼定相应意识，能取此声。 若不尔者，于此音声，不领受故，不应出定。非取声时，即便出定，领受声已，若有希望，后时方出。
					辰二以理难	在定，耳识率尔闻声，理应非善。未转依者，率尔堕心，定无记故。
					辰三结成	由此诚证五俱意识，非定与五善等性同。
				卯五解违分三	辰一会说同缘文	诸处但言五俱意识亦缘五境，不说同性。
					辰二会杂集文	《杂集论》说： 等引位中五识无者，依多分说。
					辰三会能所引难	若五识中，三性俱转，意随偏注，与彼性同。无偏注者，便无记性。 故六转识，三性容俱。
				丑三显果位		得自在位，唯善性摄。 佛色、心等，道谛摄故。 已永灭除戏论种故。
	辛二解相应受俱门分二	壬一略标六位分三		癸一问起		六识与几心所相应?
				癸二举颂答		颂曰： 9 “此心所遍行、别境、善、烦恼、随烦恼、不定，皆三受相应”

表 4-3: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(9/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬一略标六位分三 癸三长行释分二	子一解相应分二	丑一总解			论曰：此六转识，总与六位心所相应，谓遍行等。			
		寅一解心所分三	卯一解心所义		恒依心起，与心相应，系属于心，故名心所，如属我物，立我所名。			
			卯二解行相分三	辰一总举	心于所缘，唯取总相； 心所于彼，亦取别相，助成心事，得心所名。 如画师、资，作模、填彩。			
				辰二引证	故《瑜伽》说：识能了别事之总相，作意了此所未了相，即诸心所所取别相，触能了此可意等相，受能了此摄受等相，想了此言说因相，思能了此正因等相。 故作意等名心所法。 此表心所亦缘总相。 余处复说：欲亦能了可乐事相，胜解亦了决定事相，念亦能了串习事相，定、慧亦了德失等相。			
				辰三结成	由此于境，起善、染等。			
			卯三总结		诸心所法，皆于所缘，兼取别相。			
		寅二解遍行等义分六	卯一总标	虽诸心所，名义无异，而有六位种类差别：				
			卯二列位	谓遍行有五，别境亦五，善有十一，烦恼有六，随烦恼有二十，不定有四。				
			卯三结数	如是六位，合五十一。				
			卯四释名	一切心中，定可得故。缘别别境，而得生故。 唯善心中，可得生故。性是根本烦恼摄故。 唯是烦恼等流性故。于善、染等，皆不定故。				
			卯五会文	然《瑜伽论》合六为五，烦恼、随烦恼，俱是染故。 复以四一切，辩五差别： 谓一切性及地、时、俱。五中遍行具四一切。 别境唯有初、二一切。善唯有一，谓一切地。 染四皆无。不定唯一，谓一切性。				
			卯六总结	由此五位，种类差别。				
	子二解受俱分二	寅一解本颂			此六转识，易脱不定，故皆容与三受相应。 皆领顺、违、非二相故。 领顺境相，适悦身心，说名乐受； 领违境相，逼迫身心，说名苦受； 领中容境相，于身于心，非逼非悦，名不苦乐受。			
		寅二别分别分三	卯一增减分别分四	辰一二个二		如是三受，或各分二： 五识相应，说名身受，别依身故； 意识相应，说名心受，唯依心故。 又三皆通有漏、无漏，苦受亦由无漏起故。		
				辰二二个三		或各分三： 谓见所断、修所断、非所断； 又学、无学、非二，为三。		
				辰三三个四分二	巳一总分四		或总分四：谓善、不善、有覆、无覆二无记受。	
					巳二三各分四分四	午一标宗	有义：三受容各分四，五识俱起任运贪、痴，纯苦趣中任运烦恼，不发业者，是无记故。	
						午二指法	彼皆容与苦根相应。	
						午三引证	《瑜伽论》说： 若任运生一切烦恼，皆于三受现行可得。 若通一切识身者，遍与一切根相应； 不通一切识身者，意地一切根相应。 《杂集论》说： 若欲界系任运烦恼，发恶行者，亦是不善。 所余皆是有覆无记。	
						午四总结	故知三受各容有四。	



表 4-4: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(10/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬一略标六位分三 癸三长行释分二	子二解受俱分二 丑一因位受俱分二 寅二别分别分三 卯一增减分别分四 辰四一个五分三	已一列五名		或总分五： 谓苦、乐、忧、喜、舍。	
		已二释开合		三中苦、乐各分二者，逼、悦身、心相各异故； 由无分别、有分别故；尤重、轻微有差别故。 不苦不乐不分二者，非逼、非悦相无异故； 无分别故；平等转故。	
		午一明悦受分二	未一五识	诸适悦受，五识相应，恒名为乐。	
			未二意识	意识相应，若在欲界、初、二静虑近分名喜，但悦心故。 若在初、二静虑根本，名乐、名喜，悦身、心故。 若在第三静虑近分、根本名乐，安静尤重，无分别故。	
		午二明迫受分二	未一五识		诸逼迫受，五识相应，恒名为苦。
			申一唯忧受义分三	酉一标	意识俱者，有义：唯忧，逼迫心故。 诸圣教说：意地感受，名忧根故。
				酉二引证	《瑜伽论》说： 生地狱中诸有情类，异熟无间有异熟生，苦、忧相续。 又说：地狱寻、伺忧俱，一分鬼趣，傍生亦尔。
				酉三结	故知意地尤重感受，尚名为忧，况余轻者？
			酉一标宗		有义：通二，人、天中者，恒名为忧，非尤重故。 傍生、鬼界名忧、名苦，杂受、纯受有轻重故。 棕落迦中唯名为苦，纯受尤重，无分别故。
			酉二引证		《瑜伽论》说：若任运生一切烦恼，皆于三受现行可得， 广说如前。 又说：俱生萨迦耶见，唯无记性。 彼边执见，应知亦尔。 此俱苦受，非忧根摄，论说忧根非无记故。 又《瑜伽》说：地狱诸根，余三现行，定不成就。 纯苦鬼界，傍生亦尔。
			戌一申难	“余三”定是乐、喜、忧根，以彼必成现行舍故。	
				戌二反诘	岂不客舍彼定不成？
			戌三立理分四	亥一乘前征	
				宁知彼文，唯说客受？ 应不说彼定成意根，彼六客识有时无故。 不应彼论唯说客受，通说意根，无异因故。	
				天一总难	
				又若彼论依客受说，如何说彼定成八根？	
				地一忧根第八	
				若谓五识不相续故，定说忧根为第八者，死、生、闷绝宁有忧根？	
			亥二别生征分三	地二苦根第八	
				有执苦根为第八者，亦同此破。	
				地三一形第八	
				设执一形为第八者，理亦不然，形不定故。 彼恶业招，容无形故。 彼由恶业，令五根门恒受苦故，定成眼等。 必有一形，于彼何用？ 非于无间大地狱中，可有希求淫欲事故。	
			天三结论		由斯第八定是舍根，第七、八识舍相应故。
			亥三举例征		如极乐地，意悦名乐，无有喜根。 故极苦处，意迫名苦，无有忧根。
			戌四总结		故“余三”言，定忧、喜、乐。

表 4-5: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(11/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	壬一略标六位分三	癸三长行释分二 子二解受俱分二	丑一因位受俱分二	寅二别分别分三	卯一增减分别分四 辰四一个五分三	巳三明处位分二 午二明迫受分二	未二意识分二 申二通忧苦义分五	酉四会违分三			戌一会摄论	余处说彼有等流乐，应知彼依随转理说。 或彼通说： 余杂受处，无异熟乐，名纯苦故。			
											戌二会对法	然诸圣教，意地感受，名忧根者，依多分说，或随转门，无相违过。			
								戌三会瑜伽分三	亥一约随转门		《瑜伽论》说： 生地狱中诸有情类，异熟无间有异熟生，苦、忧相续。 又说：地狱寻、伺忧俱。 一分鬼趣，傍生亦尔者，亦依随转门。				
									亥二约假说		又彼苦根，意识俱者，是余忧类，假说为忧。				
									亥三约义说		或彼苦根，损身心故，虽苦根摄，而亦名忧。 如近分喜，益身心故，虽是喜根，而亦名乐。 《显扬论》等，具显此义。然未至地定无乐根，说彼唯有十一根故。				
											酉五总结	由此应知，意地感受，纯受苦处，亦苦根摄。			
					卯二例摄余门			此等圣教，差别多门，恐文增广，故不繁述。							
					卯三辨三受俱不俱分二	辰一不俱义		有义：六识三受不俱，皆外门转，互相违故。 五俱意识，同五所缘，五三受俱，意亦应尔，便违正理，故必不俱。 《瑜伽》等说： 藏识一时与转识相应，三受俱起者，彼依多念。 如说一心，非一生灭，无相违过。							
						辰二容俱义		有义：六识三受容俱。顺、违、中境，容俱受故。 意不定与五受同故。于偏注境，起一受故； 无偏注者，便起舍故。由斯六识三受容俱。							
					丑二果位受俱			得自在位，唯乐、喜、舍，诸佛已断忧、苦事故。							
	壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五	丑一辨遍别二位分三	寅三长行释分二	卯一遍行分二	辰二释遍行义分三	巳二答分二	午二别答分二	未一教证分三	癸一标说显教兴	前所略标六位心所，今应广显彼差别相。			
											寅一问		且初、二位，其相云何？		
											寅二举颂答		颂曰： 1 0 初遍行触等；次别境谓欲、胜解、念、定、慧，所缘事不同		
											辰一总解释		论曰：六位中初遍行心所，即触等五，如前广说。		
											巳一问		此遍行相，云何应知？		
											午一总答		由教及理，为定量故。		
											巳二答分二	午二别答分二	未一教证分三	申一四遍行证	此中教者，如契经言： 眼、色为缘，生于眼识，三和合触，与触俱生有受、想、思，乃至广说。 由斯触等四是遍行。
														申二作意证	又契经说：若根不坏，境界现前，作意正起，方能生识。 余经复言：若于此作意，即于此了别。 若于此了别，即于此作意。 是故此二，恒共和合，乃至广说，由此作意，亦是遍行。
														申三结	此等圣教，诚证非一。

表 4-6: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(12/15)

壬二重解六位心所分二 癸三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑一辨遍别二位分三 寅三长行释分二	卯一遍行分二	辰二释遍行义分三	巳二答分二	午二别答分二	未二证分五	申一触	理谓识起必有三和。 彼定生触，必由触有。 若无触者，心、心所法，应不和合触一境故。					
							申二作意	作意引心令趣自境。 此若无者，心应无故。					
							申三受	受能领纳顺、违、中境，令心等起欢、戚、舍相。 无心起时，无随一故。					
							申四想	想能安立自境分齐。 若心起时无此想者，应不能取境分齐相。					
							申五思	思令心取正因等相，造作善等。 无心起位，无此随一，故必有思。					
							巳三结所明		由此证知，触等五法，心起必有，故是遍行。 余非遍行，义至当说。				
							巳一列名释义		次别境者：谓欲至慧，所缘境事，多分不同，于六位中，次初说故。				
							未一欲分二	申二答分三	申一问		云何为欲？		
									酉二广前文分三	酉一解性业		于所乐境，希望为性，勤依为业。	
										戌一可欣义分四	亥一立义	有义：所乐，谓可欣境。 于可欣事，欲见、闻等，有希望故。	
											亥二外问	于可厌事，希彼不合，望彼别离，岂非有欲？	
											亥三论主答	此但求彼不合离时，可欣自体，非可厌事。	
									亥四结成	故于可厌及中容境，一向无欲。 缘可欣事，若不希望，亦无欲起。			
									戌二可欣厌义		有义：所乐，谓所求境。 于可欣、厌，求合、离等，有希望故。 于中容境，一向无欲。 缘欣、厌事，若不希求，亦无欲起。		
									戌三可欣厌中容义分二	亥一立义	有义：所乐，谓欲观境，于一切事，欲观察者，有希望故。 若不欲观，随因境势，任运缘者，即全无欲。		
										亥二结	由斯理趣，欲非遍行。		
									酉三破异说分三	戌一举计		有说：要由希望境力，诸心、心所方取所缘，故经说欲为诸法本。	
										戌二破		彼说不然。心等取境，由作意故。 诸圣教说，作意现前能生识故。 曾无处说由欲能生心、心所故。	
										戌三会证		如说诸法，爱为根本，岂心、心所皆由爱生故？ 说欲为诸法本者，说欲所起一切事业。 或说善欲，能发正勤。 由彼助成一切善事，故论说此勤依为业。	
							未二胜解分二	申一解性业分三	酉一标	云何胜解？于决定境，印持为性，不可引转为业。			
									酉二释	谓邪、正等教、理、证力，于所取境，审决印持，由此异缘不能引转。			
									酉三结	故犹豫境，胜解全无。非审决心，亦无胜解。 由斯胜解，非遍行摄。			
								申二破异执分二	酉一牒计	有说：心等取自境时，无拘碍故，皆有胜解。			
										酉二破	彼说非理。所以者何？能不碍者，即诸法故。 所不碍者，即心等故。胜发起者，根、作意故。 若由此故，彼胜发起。此应复待余，便有无穷失。		

表 4-7: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(13/15)

壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑一辨遍别二位分三 寅三长行释分二	己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	卯二别境分二	辰一五门分别分五	巳二出体门分二	午一别出分五	未三念分二	申一解性业分二		酉一标	云何为念? 于曾习境, 令心明记, 不忘为性, 定依为业。	
									酉二重释业用	谓数忆持曾所受境, 令不忘失, 能引定故; 于曾未受体、类境中, 全不起念。 设曾所受, 不能明记, 念亦不生。 故念必非遍行所摄。	
							申二破异执分二		酉一牒	有说: 心起必有念俱, 能为后时忆念因故。	
									酉二破	彼说非理。 勿于后时有痴、信等, 前亦有故。 前心、心所, 或想势力, 足为后时, 忆念因故。	
						未四定分二	申一解性业分二	酉一正释分三	戌一标	云何为定? 于所观境, 令心专注, 不散为性, 智依为业。	
									戌二总释	谓观德、失、俱非境中, 由定令心专注不散, 依斯便有决择智生。	
									戌三别释	心专注言, 显所欲住, 即便能住, 非唯一境。 不尔, 见道历观诸谛, 前后境别, 应无等待。	
								酉二结		若不系心, 专注境位, 便无定起, 故非遍行。	
							申二破异执分二	酉一正理师分二	戌一正破		有说: 尔时亦有定起, 但相微隐。 应说诚言。
									戌二破救分三	亥一和合救	若定能令心等和合, 同趣一境, 故是遍行, 理亦不然, 是触用故。
										亥二不易缘救	若谓此定, 令刹那顷, 心不易缘, 故遍行摄, 亦不应理; 一刹那心, 自于所缘, 无易义故。
										亥三取所缘救	若言由定, 心取所缘, 故遍行摄, 彼亦非理; 作意令心取所缘故。
								酉二经部师分二	戌一会经		有说: 此定体即是心。 经说为心学, 心一境性故。 彼非诚证, 依定摄心, 令心一境, 说彼言故。
									戌二正破		根、力、觉支、道支等摄。 如念、慧等, 非即心故。
						未五慧分二	申一解性业分二	酉一总释		云何为慧? 于所观境, 简择为性, 断疑为业。	
								酉二别释业结		谓观德、失、俱非境中, 由慧推求, 得决定故。 于非观境, 愚昧心中, 无简择故, 非遍行摄。	
							申二破异执		有说: 尔时, 亦有慧起, 但相微隐。 天爱宁知? 对法说为大地法故; 诸部对法, 展转相违, 汝等如何执为定量?		
						午二总遮遍行					唯触等五, 经说遍行。 说十非经, 不应固执。 然欲等五, 非触等故, 定非遍行, 如信、贪等。

表 4-8: (29 表) 己三释第三能变分二【卷五】(14/15)

壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑一辨遍别二位分三 寅三长行释分二	己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	卯二别境分二	辰一五门分别分五	巳三独并门分二	午一决定并生义			有义：此五定互相资。随一起时，必有余四。		
					午二独并不定义分三	未一引证			有义：不定。 《瑜伽》说此四一切中，无后二故。 又说此五，缘四境生，所缘、能缘，非定俱故。	
						申一起一分三	酉二定分二	酉一欲胜解念	应说此五，或时起一：谓于所乐，唯起希望； 或于决定，唯起印解；或于曾习，唯起忆念； 或于所观，唯起专注。 谓愚昧类，为止散心，虽专注所缘，而不能简择。 世共知彼有定无慧。	
								戌一正释	彼加行位，少有闻、思，故说等持，缘所观境； 或依多分，故说是言。 如“戏忘天”，专注一境，起贪、瞋等，有定无慧，诸如是等，其类实繁。	
								戌二会伏难	或于所观，唯起简择，谓不专注，驰散推求。	
							酉三慧		或于所观，唯起简择，谓不专注，驰散推求。	
						申二起二			或时起二： 谓于所乐、决定境中，起欲、胜解； 或于所乐、曾习境中，起欲及念。 如是乃至于所观境，起定及慧，合有十二。	
						申三起三			或时起三： 谓于所乐、决定、曾习，起欲、解、念； 如是乃至于曾、所观起念、定、慧，合有十三。	
						申四起四			或时起四： 谓于所乐、决定、曾习、所观境中，起前四种； 如是乃至于定、曾习、所观境中，起后四种， 合有五四。	
						申五起五			或时起五： 谓于所乐、决定、曾习、所观境中，具起五种。	
						申六句数			如是于四，起欲等五，总、别合有三十一句。	
					未三简非			或有心位，五皆不起，如非四境，率尔堕心， 及藏识俱，此类非一。		
					巳四八识分别分三	午一指七八已说			第七、八识，此别境五，随位有无，如前已说。	
						午二第六识			第六意识诸位容俱，依转、未转，皆不遮故。	
						午三前五识分二	未一五识皆无义			有义：五识，此五皆无； 缘已得境，无希望故； 不能审决，无印持故；恒取新境，无追忆故； 自性散动，无专注故；不能推度，无简择故。
							申一正释分三	酉二定	酉一欲胜解念	有义：五识，容有此五： 虽无于境增上希望，而有微劣乐境义故； 于境虽无增上审决，而有微劣印境义故； 虽无明记曾习境体，而有微劣念境类故。
									酉二定	虽不作意系念一境，而有微劣专注义故。 遮等引故，说性散动，非遮等持，故容有定。
酉三慧	虽于所缘不能推度，而有微劣简择义故。 由此圣教说眼、耳通，是眼、耳识相应智性。 余三准此有慧无失。									
申二因果分别分二	酉一因位		未自在位，此五或无；得自在时，此五定有。							
	酉二果位		乐观诸境，欲无减故。 印境胜解，常无减故。 忆习曾受，念无减故。 又佛五识，缘三世故。 如来无有不定心故。五识皆有作事智故。							

表 4-9：（29 表）己三释第三能变分二【卷五】（15/15）

三第能分 二释三变二 二颂答三 庚举正分	二相受门二 二解应俱分 二重六心分	二解分二 子一颂解所五 子五别心分	丑一遍别位分三 寅三行分二 寅长释二	卯二别境分二	辰一五门分别分五	巳五五受分别分二	午一问		此别境五，何受相应？			
							午二答分二	未一五无欲等义	有义：欲三，除忧、苦受，以彼二境，非所乐故。 余四通四，唯除苦受，以审决等，五识无故。			
								未二一切五受义分二	申一释义	有义：一切，五受相应。 论说忧根于无上法，思慕愁戚，求欲证故。纯受苦处，希求解脱，意有苦根，前已说故。 论说贪爱，忧、苦相应。 此贪爱俱，必有欲故。 苦根既有，意识相应，审决等四，苦俱何咎？ 又五识俱，亦有微细印境等四，义如前说。		
										申二结成		由斯欲等，五受相应。
										辰二例余门		此五复依性、界、学等诸门分别，如理应思。

表 4-10：（29 表）己三释第三能变分二【卷六】（1/14）

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五	丑二辨善位分三 【卷六】	寅一结前问后				已说遍行、别境二位。 善位心所，其相云何？				
			寅二举颂答				颂曰： 1 1 “善谓信、惭、愧、无贪等三根，勤、安、不放逸、行舍及不害。”				
			寅三长行释分三	卯二依颂出体分八	辰一信分二	卯一释名破异执		论曰：唯善心俱，名善心所。 谓信、惭等，定有十一。			
						巳一申正义分二	午一略		云何为信？ 于实、德、能，深忍乐欲，心净为性； 对治不信，乐善为业。		
							午二广分三	未一解依处		然信差别，略有三种： 一、信实有，谓于诸法实事、理中，深信忍故； 二、信有德，谓于三宝真净德中，深信乐故； 三、信有能，谓于一切世、出世善，深信有力，能得能成，起希望故。	
						未二解业用		由斯对治彼不信心，爱乐证修世、出世善。			
						未三解自性分四		申一问		忍谓胜解，此即信因；乐欲谓欲即是信果。 确陈此信，自相是何？	
								申二答		岂不适言，心净为性？	
								申三难		此犹未了，彼心净言，若净即心，应非心所； 若令心净，惭等何别？ 心俱净法，为难亦然。	
								申四通		此性澄清，能净心等。以心胜故，立心净名。 如水清珠，能清浊水。惭等虽善，非净为相。 此净为相，无滥彼失。又诸染法，各别有相。 唯有不信，自相浑浊，复能浑浊余心、心所。 如极秽物，自秽秽他。信正翻彼，故净为相。	
						巳二破外执分二	午一破爱乐		有说： 信者爱乐为相。应通三性，体应即欲。 又应苦、集非信所缘。		
							午二破随顺		有执： 信者随顺为相。应通三性，即胜解、欲。 若印顺者，即胜解故。若乐顺者，即是欲故。 离彼二体，无顺相故。由此应知，心净是信。		

表 4-11：(29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(2/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五	丑二辨善位分三 寅三长行释分三 卯二依颂出体分八	辰二惭愧分二	巳一别解分二		午一惭	云何为惭？ 依自、法力，崇重贤、善为性； 对治无惭，止息恶行为业。 谓依自、法尊、贵增上，崇重贤、善羞耻过恶，对治无惭，息诸恶行。			
						午二愧	云何为愧？ 依世间力，轻拒暴恶为性； 对治无愧，止息恶行为业。 谓依世间诃、厌增上，轻拒暴恶，羞耻过罪，对治无愧，息诸恶业。			
				巳二总解分四		午一会旧文		羞耻过恶是二通相；故诸圣教，假说为体。		
						午二难古说		若执羞耻，为二别相，应惭与愧，体无差别。 则此二法定不相应，非受、想等有此义故。 若待自、他，立二别者，应非实有，便违圣教。 若许惭、愧实而别起，复违论说十遍善心。		
						午三解释外问		崇重、轻拒若二别相，所缘有异，应不俱生。 二失既同，何乃偏责？ 谁言二法所缘有异？不尔，如何？ 善心起时，随缘何境，皆有崇重善，及轻拒恶义。 故“惭”与“愧”，俱遍善心，所缘无别。 岂不我说亦有此义？ 汝执“惭”、“愧”自相既同，何理能遮前所设难？		
						午四解自他		然圣教说：“顾自、他者”，自法名自，世间名他。 或即此中，崇拒善恶，于己益损，名自、他故。		
				巳二别释分二	午一解无贪瞋分二	未一别解分二	申一无贪	“无贪等”者，等无瞋、痴。 此三名根，生善胜故。三不善根，近对治故。		
							申二无瞋	云何无贪？ 于有、有具，无着为性； 对治贪着，作善为业。		
						未二总解		云何无瞋？ 于苦、苦具，无恚为性；对治瞋恚，作善为业。 善心起时，随缘何境，皆于有等，无着、无恚，观有等立，非要缘彼。 如前惭、愧，观善、恶立，故此二种，俱遍善心。		
						午二解无痴分二	未一略		云何无痴？于诸理事，明解为性； 对治愚痴，作善为业。	
					申一慧性分二		酉一引证	有义：无痴即慧为性。 《集论》说：此报、教、证、智决择为体，生得、闻、思、修所生慧。如次皆是决择性故。		
							酉二辨别立因	此虽即慧，为显善品，有胜功能，如烦恼见，故复别说。		
					申二别体分四		酉一标宗	有义：无痴非即是慧，别有自性，正对无明。 如无贪、瞋，善根摄故。		
							酉二引证	论说：大悲无瞋、痴摄，非根摄故。 若彼无痴，以慧为性，大悲如力等，应慧等根摄。 又若无痴无别自性，如不害等，应非实物。 便违论说：十一善中，三世俗有，余皆是实。		
							酉三会违	然《集论》说：慧为体者，举彼因果，显此自性。 如以忍、乐，表“信”自体，理必应尔。		
						酉四立理	以贪、瞋、痴六识相应，正烦恼摄。 起恶胜故，立不善根。断彼必由通、别对治。 通唯善慧，别即三根。由此无痴必应别有。			

表 4-12: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(3/14)

己三释第三能变分二	癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五	丑二辨善位分三	寅三长行释分三	卯二依颂出体分八	辰四勤分二	巳一略		勤谓精进，于善、恶品修、断事中，勇悍为性； 对治懈怠，满善为业。
							巳二广分二	午一解前难	“勇”表胜进，简诸染法。 “悍”表精纯，简净无记。即显精进，唯善性摄。
								午二辨差别分三	未一论家作名
								未二以经属	此相差别略有五种。 所谓：被甲、加行、无下、无退、无足。
									即经所说：有势、有勤、有勇、坚猛、不舍善轭，如次应知。
								未三显位异	此五别者，谓初发心、自分、胜进，自分行中，三品别故； 或初发心、长时、无间、殷重、无余，修差别故； 或资粮等，五道别故。 二乘究竟道，欣大菩提故，诸佛究竟道，乐利乐他故； 或二加行、无间、解脱、胜进别故。
						辰五轻安分二	巳一标		“安”谓轻安，远离粗重，调畅身心，堪任为性； 对治昏沈，转依为业。
							巳二释		谓此伏除能障定法，令所依止，转安适故。
						辰六不放逸分二	巳一略		“不放逸”者： 精进、三根，于所断、修，防、修为性； 对治放逸，成满一切世、出世间善事为业。
							巳二广分二	午一废立	谓即四法，于断修事，皆能防、修，名不放逸。 非别有体，无异相故。 于防恶事、修善事中，离四功能，无别用故。 虽信、惭等，亦有此能，而方彼四，势用微劣； 非根、遍策，故非此依。
								未一外人问	岂不防、修是此相用？
								未二质	防、修何异精进、三根？
								未三外人答	彼要待此，方有作用。
								未四论主难	此应复待余，便有无穷失。
								未五外人征	勤唯遍策，根但为依，如何说彼有防、修用？
							未六论主问分三	申一总问	汝防、修用，其相云何？
								申二别难	若普依持，即无贪等。若遍策录，不异精进。 止恶进善，即总四法。令不散乱，应是等持。 令同取境，与触何别？令不忘失，即是念。
								申三结成	如是推寻不放逸用，离无贪等，竟不可得。 故不放逸，定无别体。
						辰七行舍分二	巳一略		云何“行舍”？精进、三根，令心平等、正直、无功用住为性；对治掉举，静住为业。
							巳二广分二	午一正解性业	谓即四法，令心远离掉举等障，静住名舍。 平等、正直、无功用住，初、中、后位，辩舍差别。 由不放逸，先除杂染，舍复令心寂静而住。
								午二废立	此无别体，如不放逸，离彼四法，无相、用故。 能令寂静，即四法故；所令寂静，即心等故。
						辰八不害分二	巳一自宗分二	午一标	云何“不害”？于诸有情，不为损恼，无瞋为性； 能对治害，悲愍为业。
								午二释分二	谓即无瞋，于有情所，不为损恼，假名不害。
								未一总	无瞋，翻对断物命瞋；不害，正违损恼物害。
								未二别分二	无瞋与乐；不害拔苦。是谓此二粗相差别。
							巳二破异说	申一粗相	理实无瞋实有自体；不害依彼一分假立。 为显慈悲，二相别故。利乐有情，彼二胜故。
								申二理实	有说：不害非即无瞋，别有自体，谓贤善性。 此相云何？谓不损恼。 无瞋亦尔，宁别有性？ 谓于有情不为损恼，慈悲贤善，是无瞋故。



表 4-13: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(4/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑二辨善位分三 寅三长行释分三	卯三诸门分别分二	辰一别释分十二	已一义摄所余分二	午一标		“及”显十一，义别心所，谓欣、厌等善心所法。 虽义有别，说种种名，而体无异，故不别立。	
					午二释分九	未一欣	欣谓欲俱，无瞋一分，于所欣境，不憎患故。	
						未二不忿等		不忿、恨、恼、嫉等亦然； 随应正翻瞋一分故。
						未三厌		厌谓慧俱无贪一分，于所厌境，不染着故。
						未四不慳等		不慳、憍等，当知亦然。 随应正翻，贪一分故。
						未五不覆等分二	申一正义	不覆、诳、谄无贪、痴一分； 随应正翻，贪、痴一分故。
							申二不正义	有义：不覆唯无痴一分； 无处说覆亦贪一分故。
						未六不慢		有义：不慢信一分摄，谓若信彼，不慢彼故。 有义：不慢舍一分摄，心平等者，不高慢故。 有义：不慢惭一分摄，若崇重彼，不慢彼故。
						未七不疑		有义：不疑即信所摄，谓若信彼，无犹豫故。 有义：不疑：即正胜解，以决定者，无犹豫故。 有义：不疑即正慧摄，以正见者，无犹豫故。
						未八不散乱等		不散乱体，即正定摄。 正见、正知，俱善慧摄。 不忘念者，即是正念。
						未九四不定		悔、眠、寻、伺，通染、不染，如触、欲等， 无别翻对。
				已二问答废立分二	午一外人问		何缘诸染所翻善中，有别建立，有不尔者？	
					午二论主答		相用别者，便别立之；余善不然，故不应责。 又诸染法遍六识者，胜故翻之，别立善法。 慢等、忿等，唯意识俱。 害虽亦然，而数现起损恼他故； 障无上乘胜因悲故； 为了知彼增上过失，翻立不害。 失念、散乱及不正知，翻入别境，善中不说。	
				已三征责多少分二	午一问		染、净相翻，净宁少染？	
					午二答		净胜染劣，少敌多故。 又解理通，说多同体，迷情事局，随相分多。 故于染、净，不应齐责。	
				已四假实分别			此十一法，三是假有，谓不放逸、舍及不害， 义如前说。余八实有，相、用别故。	
				已五俱起分别分二	午一四遍善义分三	未一标宗		有义：十一四遍善心，精进、三根，遍善品故。 余七不定。
						未二立理		推寻事理，未决定时，不生信故。 惭、愧同类，依处各别，随起一时，第二无故。 要世间道断烦恼时，有轻安故。 不放逸、舍，无漏道时，方得起故。 悲愍有情时，乃有不害故。
						未三引证		论说：十一六位中起。 谓决定位，有信相应。 止息染时，有惭、愧起，顾自、他故。 于善品位，有精进、三根。 世间道时，有轻安起，于出世道，有舍、不放逸。 摄众生时，有不害故。

表 4-14: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(5/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑二辨善位分三 寅三长行释分三	卯三诸门分别分二	辰一别释分十二	巳五俱起分别分二	未一破前师分五	申一破未决无信		有义： 彼说未为应理。 推寻事理，未决定心，信若不生，应非是善。 如染心等，无净信故。
						申二破惭、愧不并		惭、愧类异，依别境同，俱遍善心，前已说故。
						申三破出世道轻安无		若出世道轻安不生，应此觉支非无漏故。
						申四破世道舍不逸无		若世间道无舍、不放逸，应非寂静防恶修善故； 又应不伏掉放逸故。
						申五破善心不害无		有漏善心既具四法，如出世道应有二故。 善心起时，皆不损物，违能损法，有不害故。
					未二释难	论说： “六位起十一”者，依彼彼增，作此此说。 故彼所说，定非应理。		
						未三显正		应说信等十一法中，十遍善心，轻安不遍。 要在定位，方有轻安，调畅身心，余位无故。
						未四引证		〈决择分〉说： 十善心所定、不定地皆遍善心，定地心中， 增轻安故。
					未五异说解疑分二	申一轻安遍善义		有义： 定加行，亦得定地名。 彼亦微有调畅义故。 由斯欲界亦有轻安。 不尔，便违〈本地分〉说： 信等十一通一切地。
						申二轻安不遍善义		有义： 轻安唯在定有。 由定滋养，有调畅故。 论说： 欲界诸心、心所，由阙轻安，名不定地。 说一切地有十一者，通有寻伺等三地皆有故。
				巳六八识分别分二	午一后三识		此十一种，前已具说。 第七、八识，随位有无。 第六识中，定位皆具。 若非定位，唯阙轻安。	
					午二前五识分二	未一无轻安义		有义：五识唯有十种，自性散动，无轻安故。
						未二有轻安义		有义：五识亦有轻安。 定所引善者，亦有调畅故。 成所作智俱，必有轻安故。
				巳七五受俱			此善十一，何受相应？十五相应。 一除忧、苦，有逼迫受，无调畅故。	
				巳八别境相应			此与别境皆得相应。 信等欲等，不相违故。	
				巳九三性分别			十一唯善。	
				巳十三界分别			轻安非欲，余通三界。	
				巳十一三学门			皆学等三。	
				巳十二三断门			非见所断。 《瑜伽论》说： 信等六根，唯修所断，非见所断。	
				辰二劝思			余门分别，如理应思。	

表 4-15: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(6/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	寅一结前问后		如是已说善位心所，烦恼心所其相云何？	
	寅二举颂答		颂曰： 1 2 “烦恼谓贪、瞋、痴、慢、疑、恶见”。	
	卯一释总名		论曰：此贪等六性是根本烦恼摄故，得烦恼名。	
	辰一贪分二	巳一正释		云何为贪？ 于有、有具，染着为性，能障无贪，生苦为业。
		巳二逐难辨		谓由爱力，取蕴生故。
	辰二瞋分二	巳一正释		云何为瞋？于苦、苦具，憎恚为性，能障无瞋，不安隐 性，恶行所依为业。
		巳二逐难辨		谓瞋必令身、心热恼，起诸恶业，不善性故。
	辰三痴分二	巳一正释		云何为痴？于诸理、事，迷暗为性，能障无痴，一切杂 染所依为业。
		巳二逐难辨		谓由无明，起疑、邪见、贪等烦恼、随烦恼业，能招后 生杂染法故。
	辰四慢分四	巳一正释		云何为慢？恃己于他，高举为性，能障不慢，生苦为业。
		巳二逐难辨		谓若有慢，于德有德，心不谦下，由此生死轮转无穷， 受诸苦故。
		巳三辨差别		此慢差别有七、九种，谓于三品、我、德处生。
		巳四示圣者起不		一切皆通见修所断，圣位我慢既得现行，慢类由斯起亦 无失。
	辰五疑分二	巳一正释		云何为疑？于诸谛理，犹豫为性，能障不疑善品为业。
		巳二逐难辨分二	谓犹豫者，善不生故。	
			有义：此疑以慧为体，犹豫简择说为疑故。 “毘”助“末底”，是疑义故，“末底”般若义无异故。	
			有义：此疑别有自体，令慧不决，非即慧故。 《瑜伽论》说：“六烦恼中，见世俗有，即慧分故。余 是实有，别有性故。” “毘”助“末底”，执慧为疑，“毘”助“若南”，智应 为识。 界由助力，义便转变，是故此疑非慧为体。	
	辰六六恶见分三	巳一正释		云何恶见？于诸谛理，颠倒推求度，染慧为 性，能障善见，招苦为业。
		巳二逐难辨		谓恶见者，多受苦故。
		午一标	此见行相，差别有五：	
			一、萨迦耶见：谓于五取蕴，执我、我所， 一切见趣所依为业。	
		未一萨迦耶见分二	申一释性业	此见差别，有二十句、六十五等，分别起摄。
			申二释差别	二、边执见：谓即于彼，随执断、常，障处 中行、出离为业。
		未二边执见分二	申一释性业	此见差别，诸见趣中，有执前际四遍常论； 一分常论； 及计后际有想十六； 无想、俱非各有八论；七断灭论等。 分别趣摄。
			申二释差别	三、邪见：谓谤因果、作用、实事及非四见 诸余邪执，如增上缘，名义遍故。
		未三邪见分二	申一出体	此见差别，诸见趣中，有执前际，二无因论、 四有边等、不死矫乱，及计后际五现涅槃， 或计自在、世主、释、梵及余物类，常恒不 易，或计自在等是一切物因，或有横计诸邪 解脱，或有妄执非道为道，诸如是等皆邪见 摄。
			申二释差别	

表 4-16: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(7/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑三辨烦恼位分三	寅三长行释分三	卯二出性业分六	辰六六恶见分三	巳三差别分二	午二别释分五	未四见取见		四、见取：谓于诸见及所依蕴，执为最胜，能得清静，一切鬪诤所依为业。					
							未五戒禁取分二	申一正释	五、戒禁取：谓于随顺诸见戒禁及所依蕴，执为最胜，能得清静，无利勤苦所依为业。					
								申二会违	然有处说：“执为最胜，名为见取，执能得净，名戒取。”者，是影略说，或随转门。 不尔，如何非灭计灭、非道计道，说为邪见，非二取摄。					
							卯三诸门分别分二	辰一十二门分别分十二	巳二自类相应门分二	巳一分别俱生门分二	午一正分别		如是总别十烦恼中，六通俱生及分别起，任运、思察，俱得生故。 疑后三见，唯分别起，要由恶友或邪教力，自审思察，方得生故。	
											午二异解分二	未一第一义		边执见中通俱生者，有义：唯断。 常见相粗，恶友等力方引生故。 《瑜伽》等说：“何边执见是俱生耶？谓断见摄。” 学现观者，起如是怖：“今者我，我何所在耶？” 故禽兽等若遇违缘，皆恐我断，而起惊怖。
												未二第二义		有义：彼论依粗相说，理实俱生，亦通常见。 谓禽兽等，执我常存，炽然聚集长时资具。 故《显扬》等诸论皆说：“于五取蕴，执断、计常，或是俱生或分别起。”。
										午一问		此十烦恼，谁几相应？		
										未一贪分二	申一不俱起		贪与瞋、痴，定不俱起，爱、憎二境，必不同故；于境不决，无染着故。	
											申二或俱		贪与慢、见，或得相应，所爱所陵境非一故，说不俱起。 所染所恃境可同故，说得相应。 于五见境，皆可爱故，贪与五见相应无失。	
										未二瞋分三	申一慢疑俱		瞋与慢、疑或得俱起； 所瞋所恃境非一故，说不相应。 所蔑所憎境可同故，说得俱起； 初犹豫时，未憎彼故，说不俱起。 久思不决，便愤发故，说得相应； 疑顺、违事，随应亦尔。	
											申二二取不俱		瞋与二取，必不相应，执为胜、道，不憎彼故。	
											申三与余或俱		此与三见，或得相应，于有乐蕴，起身、常见，不生憎故，说不相应。 于有苦蕴，起身、常见，生憎恚故，说得俱起。 断见翻此，说瞋有、无。 邪见排拨恶事、好事，如次说瞋或无或有。	
										未三慢分三	申一不俱		慢于境定，疑则不然。 故慢与疑，无相应义。	
											申二或俱		慢与五见，皆容俱起，行相展转，不相违故。 然与断见，必不俱生，执我断时，无陵、恃故。	
											申三简一分		与身邪、见一分亦尔。	
										未四疑		疑不审决，与见相违，故疑与见，定不俱起。		
										未五五见		五见展转，必不相应，非一心中，有多慧故。		
										未六痴		痴与九种，皆定相应，诸烦恼生，必由痴故。		
巳三识相应门		此十烦恼，何识相应？ 藏识全无；末那有四；意识具十； 五识唯三：谓贪、瞋、痴。无分别故。 由称量等，起慢等故。												

表 4-17: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(8/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑三辨烦恼位分三	寅三长行释分三 卯三诸门分别分二 辰一十二门分别分十二	巳四五受相应门分二	午一问		此十烦恼，何受相应？		
				未一实义分四	申一贪瞋痴		贪、瞋、痴三，俱生分别，一切容与五受相应。贪会违缘，忧、苦俱故；瞋遇顺境，喜、乐俱故。	
					申二慢分三	酉一四受相应义	有义：俱生分别起慢，容与非苦四受相应，恃苦劣蕴，忧相应故。	
						酉二五受相应义	有义：俱生亦苦俱起，意有苦受，前已说故。	
						酉三约趣分别	分别慢等，纯苦趣无，彼无邪师、邪教等故。然彼不造引恶趣业，要分别起能发彼故。	
					申三疑三见		疑后三见，容四受俱。欲疑无苦等，亦喜受俱故；二取若缘忧俱见等，尔时得与忧相应故。	
					申四身边见分二	酉一四受相应义	有义：俱生身边二见，但与喜、乐、舍、受相应，非五识俱，唯无记故。分别二见，容四受俱，执苦俱蕴为我、我所。常、断见翻此，与忧相应故。	
						酉二俱生四受相应义	有义：二见若俱生者，亦苦受俱，纯受苦处，缘极苦蕴，苦相应故。论说：俱生一切烦恼，皆于三受现行可得，广说如前，余如前说。	
				未二明粗相分二	申一直明俱		此依实义，随粗相者，贪、慢四见，乐、喜、舍俱。瞋唯苦、忧、舍受俱起。痴与五受皆得相应。邪见及疑四俱，除苦。	
					申二明俱地		贪、痴俱乐，通下四地，余七俱乐，除欲通三，疑、独行痴欲唯忧、舍，余受俱起，如理应知。	
				巳五别境相应门分二			午一问	此与别境几互相应？
							午二答	贪、瞋、痴、慢容五俱起，专注一境，得有定故。疑及五见，各容四俱，疑除胜解，不决定故；见非慧俱，不异慧故。
				巳六三性分别门分二		午一问	此十烦恼何性所摄？	
						午二答分二	未一总释	瞋唯不善，损自他故，余九通二。
							未二别释	上二界者，唯无记摄，定所伏故。若欲界系分别起者，唯不善摄，发恶行故。若是俱生，发恶行者，亦不善摄，损自、他故。余无记摄，细不障善，非极损恼自、他处故。当知俱生身、边二见，唯无记摄，不发恶业，虽数现起，不障善故。
			巳七界系门分三	午一总分别			此十烦恼何界系耶？ 瞋唯在欲，余通三界。	
				午二上下相起门分二	未一下起上分四	申一释起不	生在下地，未离下染，上地烦恼，不现在前。要得彼地根本定者，彼地烦恼容现前故。	
						申二释伏道	谓有漏道，虽不能伏分别起惑及细俱生，而能伏除俱生粗惑，渐次证得上根本定。	
						申三释所伏	彼但迷事，依外门转，散乱、粗动，正障定故。	
						申四惑通局	得彼定已，彼地分别、俱生诸惑，皆容现前。	
				未二上起下分三	申一总立宗		生在上地，下地诸惑，分别、俱生皆容现起。	
					申二所以		生第四定中有中者，由谤解脱，生地狱故；身在上地，将生下时，起下润生俱生爱故。	
					申三会违		而言生上，不起下者，依多分说，或随转门。	

表 4-18: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(9/14)

癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑三辨烦恼位分三 寅三长行释分三 卯三诸门分别分二	己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	辰一十二门分别分十二	已七界系门分三	午三上下相缘门分二	未一下缘上分二	申一正释	下地烦恼，亦缘上地。 《瑜伽》等说：欲界系贪，求上地生，味上定故。 既说瞋恚憎嫉灭、道，亦应憎嫉离欲地故。 总缘诸行，执我、我所断常，慢者得缘上故。 余五缘上，其理极成。											
						申二会违	而有处言：贪、瞋、慢等不缘上者，依粗相说或依别缘， 不见世间执他地法为我等故； 边见必依身见起故。											
					未二缘上下分三	申一总标	上地烦恼亦缘下地，说生上者，于下有情，恃己胜德， 而陵彼故。											
						申二别释	总缘诸行，执我、我所、断、常、爱者，得缘下故。 疑后三见，如理应思。											
						申三会违	而说上或不缘下者，彼依多分或别缘说。											
				已八学等分别门						此十烦恼，学等何摄？非学无学，彼唯善故。								
				已九三断分别门分二	午二答分二	午一问						此十烦恼何所断耶？						
						未二别答分二	未一总答						非非所断，彼非染故。					
							申二别解断分二	申一见修所断						分别起者，唯见所断，粗易断故； 若俱生者，唯修所断，细难断故。				
								酉一分别分二	戌一总解				见所断十，实俱顿断，以真见道总 缘谛故。					
			戌二别解分二						亥一总迷谛				然迷谛相，有总、有别。 总谓十种，皆迷四谛。 苦、集是彼因依处故； 灭、道是彼怖畏处故。					
									天一总释数别				别谓别迷四谛相起，二唯迷苦，八 通迷四，身、边二见，唯果处起， 别空、非我，属苦谛故。					
			亥二别迷谛分二				天二别释行相别分二	地一粗相分二	玄一正释			谓疑、三见，亲迷苦理。 二取执彼三见、戒禁及所依蕴为胜 能净，于自、他见及彼眷属，如次 随应，起贪、恚、慢。 相应无明，与九同迷，不共无明， 亲迷苦理。 疑及邪见，亲迷集等。 二取、贪等，准苦应知。 然瞋亦能亲迷灭、道，由怖畏彼， 生憎嫉故。						
												玄二结释			迷谛亲疎，粗相如是。			
							地二劝思				委细说者，贪、瞋、慢、三见、疑 俱生，随应如彼。							
			酉二俱生分二				戌一迷苦修断			俱生二见及彼相应爱、慢、无明， 虽迷苦谛，细难断故，修道方断。								
							戌二迷事修断			瞋余爱等，迷别事生，不违谛观， 故修所断。								
			已十有事缘无事缘门							虽诸烦恼，皆有相分，而所仗质， 或有或无，名缘有事、无事烦恼。								
			已十一有漏缘无漏缘分别							彼亲所缘，虽皆有漏，而所仗质， 亦通无漏，名缘有漏、无漏烦恼。								
			已十二缘事境缘名境分别							缘自地者，相分似质，名缘分别所起事境。 缘灭、道谛及他地者，相分与质不相似故，名缘分别所 起名境。								
			辰二余门思择							余门分别如理应思。								

表 4-19：(29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(10/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	寅一结前问后		己说根本六烦恼相，诸随烦恼其相云何？	
	寅二举颂答		颂曰： “随烦恼谓：忿、恨、覆、恼、嫉、悭、 1 3 诳、谄与害、憍、无惭及无愧、掉举与惛沈、不信并懈怠 1 4 放逸及失念、散乱不正知。	
	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑四辨随烦恼位分三	辰一释得名		论曰：唯是烦恼分位差别、等流性，故名随烦恼。
		辰二束为三位		此二十种，类别有三： 谓忿等十，各别起故，名小随烦恼； 无惭等二，遍不善故，名中随烦恼； 掉举等八，遍染心故，名大随烦恼。
		卯一释性业等相分六 寅三长行释分二	巳一小随惑分十 辰三释性业分三	午一念 云何为忿？ 依对现前不饶益境，愤发为性，能障不忿，执仗为业。 谓怀忿者，多发暴恶身表业故。 此即瞋恚一分为体，离瞋无别忿相用故。
				午二恨 云何为恨？ 由忿为先，怀恶不舍，结怨为性，能障不恨，热恼为业。 谓结恨者，不能含忍，恒热恼故。 此亦瞋恚一分为体，离瞋无别恨相用故。
				午三覆分二 未一性业 云何为覆？ 于自作罪，恐失利、誉，隐藏为性，能障不覆，悔恼为业。 谓覆罪者，后必悔恼，不安隐故。
				未二分位二 申一痴分 有义：此覆，痴一分摄。论唯说此痴一分故，不惧当苦，覆自罪故。
				申二贪痴分 有义：此覆，贪、痴一分摄，亦恐失利誉，覆自罪故。论据粗显，唯说痴分，如说掉举是贪分故，然说掉举遍诸染心，不可执为唯是贪分。
				午四恼 云何为恼？忿、恨为先，追触暴热，佞戾为性，能障不恼，蛆螫为业。 谓追往恶，触现违缘，心便佞戾，多发器暴、凶鄙粗言，蛆螫他故。 此亦瞋恚一分为体，离瞋无别恼相用故。
				午五嫉 云何为嫉？徇自名利，不耐他荣。 妬忌为性，能障不嫉，忧戚为业。 谓嫉妬者闻见他荣，深怀忧戚，不安隐故。 此亦瞋恚一分为体，离瞋无别嫉相用故。
				午六悭 云何为悭？耽着财、法，不能慧舍，秘吝为性，能障不悭，鄙吝为业。 谓悭吝者，心多鄙涩，畜积财法，不能舍故。 此即贪爱一分为体，离贪无别悭相用故。
				午七诳 云何为诳？为获利誉，矫现有德，诡诈为性，能障不诳，邪命为业。 谓矫诳者，心怀异谋，多现不实邪命事故。 此即贪、痴一分为体，离二无别诳相用故。
				午八谄 云何为谄？为网他故，矫设异仪，险曲为性，能障不谄教诲为业。 谓谄曲者，为网帽他，曲顺时宜，矫设方便，为取他意或藏己失。 不任师友正教诲故，此亦贪、痴一分为体，离二无别谄相用故。

表 4-20: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(11/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑四辨随烦恼位分三	寅三长行释分二 卯一释性业等相分六 辰三释性业分三	已一小惑分十	午九害	云何为害? 于诸有情, 心无悲愍, 损恼为性, 能障不害, 逼恼为业。谓有害者, 逼恼他故。 此亦瞋恚一分为体, 离瞋无别害相用故。 瞋、害别相, 准善应说。				
				午十僇	云何为僇? 于自盛事, 深生染着, 醉傲为性, 能障不僇, 染依为业。谓僇醉者, 生长一切杂染法故。 此亦贪爱一分为体, 离贪无别僇相用故。				
			已二中随惑分二	午一无惭		云何无惭? 不顾自、法, 轻拒贤善为性, 能障碍惭, 生长恶行为业。 谓于自、法无所顾者, 轻拒贤善, 不耻过恶, 障惭生长, 诸恶行故。			
				午二无愧分二	未一正释		云何无愧? 不顾世间, 崇重暴恶为性, 能障碍愧, 生长恶行为业。谓于世间无所顾者, 崇重暴恶, 不耻过罪, 障愧生长, 诸恶行故。		
					未二总解分四	申一通教		不耻过恶, 是二通相; 故诸圣教, 假说为体。	
						申二难古说		若执不耻为二别相, 则应此二体无差别。 由斯二法应不俱生, 非受、想等有此义故; 若待自、他, 立二别者, 应非实有, 便违圣教; 若许此二实而别起, 复违论说俱遍恶心。	
						申三解行相		不善心时, 随缘何境, 皆有轻拒善及崇重恶义故, 此二法俱遍恶心, 所缘不异, 无别起失。	
				申四释违文		然诸圣教说不顾自、他者, 自、法名自, 世间名他。 或即此中拒善、崇恶, 于己益损, 名自、他故。 而论说为贪等分者, 是彼等流, 非即彼性。			
				已三大随惑分八	午一掉举分二	未一性业		云何掉举? 令心于境不寂静为性, 能障行舍、奢摩他为业。	
						未二净分位等分三	申一贪一分师		有义: 掉举贪一分摄, 论唯说此是贪分故, 此由忆昔乐事生故。
			申二遍染师				有义: 掉举非唯贪摄, 论说掉举遍染心故, 又掉举相谓不寂静, 说是烦恼共相摄故, 掉举离此无别相故。 虽依一切烦恼假立, 而贪位增, 说为贪分。		
			申三别体师				有义: 掉举别有自性, 遍诸染心, 如不信等, 非说他分, 体便非实, 勿不信等亦假有故。 而论说为世俗有者, 如睡眠等, 随他相说。 掉举别相, 谓即器动, 令俱生法, 不寂静故。 若离烦恼无别此相, 不应别说障奢摩他, 故不寂静非此别相。		
			午二惛沉分二		未一性业		云何惛沈? 令心于境, 无堪任为性, 能障轻安、毘钵舍那为业。		
					未二净分位等分三	申一痴一分师		有义: 惛沈痴一分摄, 论唯说此是痴分故, 惛昧沉重是痴相故。	
						申二无堪任师		有义: 惛沈非但痴摄, 谓无堪任是惛沈相, 一切烦恼皆无堪任, 离此无别惛沈相故。 虽依一切烦恼假立, 而痴相增, 但说痴分。	
						申三别体师		有义: 惛沈别有自性, 虽名痴分而是等流, 如不信等, 非即痴摄。随他相说名世俗有, 如睡眠等, 是实有性。 惛沈别相, 谓即瞢重, 令俱生法, 无堪任故。 若离烦恼无别惛沈相, 不应别说障毘钵舍那故。 无堪任非此别相, 此与痴相有差别者, 谓痴于境, 迷暗为相, 正障无痴, 而非瞢重, 惛沈于境瞢重为相, 正障轻安而非迷暗。	



表 4-21：(29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(12/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑四辨随烦恼位分三	寅三长行释分二 卯一释性业等相分六 辰三释性业分三	巳三大随惑分八	午三不信分二	未一略	云何不信？ 于实、德、能不忍乐欲，心秽为性，能障净信、情依为业，谓不信者多懈怠故。	
					未二广	不信三相，翻信应知。 然诸染法，各有别相，唯此不信，自相浑浊，复能浑浊余心、心所，如极秽物，自秽、秽他，是故说此心秽为性。 由不信故，于实、德、能不忍乐欲，非别有性，若于余事，邪忍乐欲，是此因果，非此自性。	
				午四懈怠		云何懈怠？于善、恶品修、断事中，惰为性。 能障精进，增染为业。谓懈怠者，滋长染故。 于诸染事而策勤者，亦名懈怠，退善法故。 于无记事而策勤者，于诸善品无进、退故，是欲、胜解，非别有性。 如于无记，忍可乐欲，非净、非染，无信不信。	
				午五放逸		云何放逸？于染、净品，不能防修，纵荡为性，障不放逸，增恶损善所依为业。 谓由懈怠及贪、瞋、痴，不能防修染净品法，总名放逸，非别有体。 虽慢、疑等亦有此能，而方彼四，势用微劣，障三善根、遍策法故。推究此相，如不放逸。	
				午六失念分二	未一性业	云何失念？于诸所缘，不能明记为性，能障正念、散乱所依为业。 谓失念者，心散乱故。	
					未二净分位分三	申一念分师	有义：失念念一分摄，说是烦恼相应念故。
						申二痴分师	有义：失念痴一分摄，《瑜伽》说此是痴分故，痴令念失，故名失念。
				申三俱分师		有义：失念俱一分摄，由前二文影略说故，论复说此遍染心故。	
				午七散乱分二	未一性业	云何散乱？ 于诸所缘，令心流荡为性，能障正定，恶慧所依为业。 谓散乱者发恶慧故。	
					未二净分位分三	申一痴分师	有义：散乱痴一分摄，《瑜伽》说此是痴分故。
						申二三分师	有义：散乱贪、瞋、痴摄，《集论》等说是三分故，说痴分者，遍染心故，谓贪、瞋、痴令心流荡，胜余法故，说为散乱。
						申三别体师	有义：散乱别有自体，说三分者是彼等流，如无惭等，非即彼摄，随他相说名世俗有。 散乱别相，谓即躁扰，令俱生法皆流荡故。 若离彼三，无别自体，不应别说障三摩地。 掉举、散乱二用何别？ 彼令易解，此令易缘，虽一刹那，解、缘无易，而于相续有易义故。 染污心时，由掉乱力，常应念念易解、易缘，或由念等力所制伏，如系猿猴有暂时住，故掉与乱，俱遍染心。
				午八不正知分二	未一性业	云何不正知？于所观境，谬解为性，能障正知、毁犯为业。谓不正知者，多所毁犯故。	
					未二净分位分三	申一慧分师	有义：不正知慧一分摄，说是烦恼相应慧故。
						申二痴分师	有义：不正知痴一分摄，《瑜伽》说此是痴分故，令知不正，名不正知。
						申三俱分师	有义：不正知俱一分摄，由前二文，影略说故，论复说此遍染心故。

表 4-22: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(13/14)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二	卯一释性业等相分六	辰四释颂与并及			“与”、“并”、“及”言显随烦恼非唯二十,《杂事》等说贪等多种随烦恼故。			
		辰五释随惑名通局			随烦恼名,亦摄烦恼,是前烦恼等流性故;烦恼同类余染污法,但名随烦恼,非烦恼摄故。			
		辰六释其废立			唯说二十随烦恼者,谓非烦恼,唯染、粗故;此余染法,或此分位,或此等流,皆此所摄。随其类别,如理应知。			
	癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五 丑四辨随烦恼位分三 寅三长行释分二	卯二诸门分别分十二	辰一假实分别门			如是二十随烦恼中,小十、大三,定是假有;无惭、无愧、不信、懈怠定是实有;教、理成故。掉举、昏沈、散乱三种,有义是假,有义是实。所引理、教,如前应知。		
			辰二俱生分别门			二十皆通俱生、分别,随二烦恼势力起故。		
			辰三自相应门分三	巳一小		此二十中,小十,展转定不俱起。互相违故,行相粗猛,各为主故。		
				巳二中		中二,一切不善心俱,随应皆得小大俱起。论说:大八遍诸染心。展转小、中,皆容俱起。		
				巳三会违		有处说:六遍染心者,昏、掉增时,不俱起故。有处但说:五遍染者,以昏、掉等违唯善故。		
			辰四诸识俱门			此唯染故,非第八俱。第七识中唯有大八,取舍差别,如上应知。第六识俱容有一切。小十粗猛,五识中无。中、大相通,五识容有。		
			辰五受俱门分二	巳一中大		由斯中、大五受相应。		
				巳二小分二	午一据实分三	未一三四受师	有义:小十除三,忿等唯喜、忧、舍三受相应。谄、诳、憍三,四俱,除苦。	
						未二四五受师	有义:忿等四俱,除乐;谄、诳、憍三,五受俱起。意有苦受,前已说故。	
						未三逐难指前	此受俱相,如烦恼说。	
			午二据胜		实义如是,若随粗相,忿、恨、恼、嫉、害忧、舍俱;覆、悭喜、舍;余三增乐。中、大随粗,亦如实义。			
			辰六别境相应门分二	巳一总释		如是二十,与别境五,皆容俱起,不相违故。		
		巳二逐难释		染念、染慧,虽非念、慧俱,而痴分者,亦得相应故。念亦缘现、曾习类境。忿亦得缘刹那过去,故忿与念,亦得相应。染定起时,心亦躁扰,故乱与定,相应无失。				
		辰七根本相应门分二	巳一中大		中二、大八十烦恼俱。			
			巳二小		小十定非见、疑俱起。此相粗动,彼审细故。忿等五法,容慢、痴俱,非贪、慧并,是瞋分故。悭痴、慢俱,非贪、瞋并,是贪分故。憍唯痴俱,与慢解别,是贪分故。覆、诳与谄,贪、痴、慢俱。行相无违,贪、痴分故。			
		辰八三性门			小七、中二,唯不善摄。小三、大八,亦通无记。			
		辰九异门分三	巳一界摄			小七、中二,唯欲界摄。诳、谄欲、色,余通三界。		
			巳二上下起分二	午一下起上		生在下地,容起上十一。耽定于他,起憍、诳、谄故。		
				午二上起下		若生上地,起下后十。邪见爱俱,容起彼故。小十,生上无由起下。非正润生,及谤灭故。		
			巳三上下缘分二	午一下缘上分二	未一中大		中二、大八,下亦缘上。上缘贪等,相应起故。	
	未二小分二				申一第一师	有义:小十,下不缘上。行相粗近,不远取故。		
				申二第二师	有义:嫉等亦得缘上。于胜地法,生嫉等故。			
	午二上缘下			大八谄、诳,上亦缘下。下缘慢等,相应起故。梵于释子,起谄、诳故。憍不缘下,非所恃故。				

表 4-23: (29 表) 己三释第三能变分二【卷六】(14/14)

己三释第三能变分二  庚二举颂正答分三  辛二解相应受俱门分二  壬二重解六位心所分二	癸二随解释分二	卯二诸门分别分十二	辰十学等门		二十皆非学、无学摄。此但是染，彼唯净故。后十，唯通见、修所断，与二烦恼相应起故。见所断者，随迷谛相，或总、或别，烦恼俱生，故随所应，皆通四谛。迷谛亲疎等，皆如烦恼说。
	子一五颂别解心所分五		辰十一见断等门分二	巳一明后十	前十，有义：唯修所断，缘粗事境，任运生故。有义：亦通见、修所断。依二烦恼势力起故。缘他见等，生忿等故。见所断者，随所应缘，总、别惑力，皆通四谛。此中有义：忿等但缘迷谛惑生，非亲迷谛。行相粗浅，不深取故。有义：嫉等亦亲迷谛，于灭、道等生嫉等故。
	丑四辨随烦恼位分三			巳二明前十	
	寅三长行释分二		辰十二有事等门		然忿等十，但缘有事，要记本质，方得生故。缘有漏等，准上应知。

表 4-24: (29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(1/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二	壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二 子一五颂别解心所分五	丑五辨不定位分三 【卷七】	寅一结前发端				已说二十随烦恼相。不定有四，其相云何？			
			寅二举颂答				颂曰：“不定谓悔、眠、寻、伺，二各二。”			
			寅三长行释分二	卯一释颂分三	辰二解别体分二	辰一释不定得名		论曰： 悔、眠、寻、伺于善、染等皆不定故，非如触等定遍心故，非如欲等定遍地故，立不定名。		
						巳一悔眠分二	午一别分二	未一悔	悔谓恶作，恶所作业，追悔为性，障止为业。此即于果假立因名，先恶所作业，后方追悔故；悔先不作，亦恶所摄，如追悔言：我先不作如是事业，是我恶作。	
								未二眠	眠谓睡眠，令身不自在，昧略为性，障观为业。谓睡眠位，身不自在，心极暗劣，一门转故。昧简在定，略别寤时，令显睡眠非无体用。有无心位假立此名，如余盖缠心相应故。	
						午二总分四	未一痴为体义	有义：此二唯痴为体，说随烦恼及痴分故。		
							未二随善染体别义	有义：不然，亦通善故。应说此二染痴为体；净即无痴，论依染分说随烦恼及痴分摄。		
							未三悔者思慧为体眠者思想为体义	有义：此说亦不应理，无记非痴、无痴性故。应说恶作作思、慧为体，明了思择所作业故。睡眠合用思、想为体，思、想种种梦境相故。论俱说为世俗有故。彼染污者是痴等流，如不信等，说为痴分。		
							未四别有体义	有义：彼说理亦不然，非思、慧、想缠彼性故。应说此二各别有体，与余心所行相别故。随痴相说，名世俗有。		
						巳二寻伺		寻谓寻求，令心忽遽于意言境，粗转为性；伺谓伺察，令心忽遽于意言境，细转为性。此二俱以安、不安住身心分位所依为业。并用思、慧一分为体，于意、言境不深推度及深推度，义类别故，若离思、慧，寻、伺二种体类差别不可得故。		
						辰三释二各二分三	巳一寻伺染净各二义		“二各二”者，有义：寻、伺各有染、净二类差别。	
							巳二烦恼随烦恼等各二义分二	午一破前	有义：此释不应正理，悔、眠亦有染、净二故。	
								午二申义	应说如前诸染心所，有是烦恼、随烦恼性，此二各有不善、无记，或复各有缠及随眠。	

表 4-25: (29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(2/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五 丑五辨不定位分三 寅三长行释分二	卯一释颂分三	辰三释二各二分三	巳三慧各义二分 巳安四二分	午一破前		有义：彼释亦不应理，不定四后有此言故。
					午二立义分三	未一初二	应言“二”者显二种二： 一谓悔、眠；二谓寻、伺。 此二二种，种类各别，故一“二”言，显二二种。
						未二后二	此各有二，谓染、不染。
						未三所以	非如善、染各唯一故。 或唯简染，故说此言，有亦说为随烦恼故。 为显不定义，说“二各二”言，故置此言深为有用。
		巳一假实分别分二	午一寻伺		四中寻、伺定是假有，思、慧合成，圣所说故。		
			午二悔眠分二	未一假	悔、眠，有义：亦是假有，《瑜伽》说为世俗有故。		
				未二实	有义： 此二是实物有，唯后二种说假有故。 世俗有言随他相说，非显前二定是假有，又如内种体虽是实，而论亦说世俗有故。		
			巳二自相应门分二	午一寻伺不俱		四中寻、伺定不相应，体类是同，粗、细异故。 依于寻、伺有染、离染立三地别，不依彼种现起有无，故无杂乱。	
		午二寻伺与悔眠容俱		俱与前二容互相应，前二亦有互相应义。			
		巳三识相应门分二 辰一十二门分别分十二	午一悔眠第六		四皆不与第七、八俱，义如前说； 悔、眠唯与第六识俱，非五法故。		
			未一通五识分二	申一立义	有义： 寻、伺亦五识俱，论说：“五识有寻、伺”故。		
				申二引证	又说：“寻、伺即七分别，谓有相等”。 《杂集》复言：“任运分别谓五识”故。		
			未二唯意识分四	申一标宗	有义：寻、伺唯意识俱。		
				申二引证	论说：“寻求、伺察等法皆是意识不共法故”。 又说： “寻、伺忧、喜相应”，曾不说与苦、乐俱故。 舍受遍故，可不待说。何缘不说与苦、乐俱？ 虽初静虑有意地乐，而不离喜，总说喜名； 虽纯苦处有意地苦，而似忧故，总说为忧。 又说：“寻、伺以名身等义为所缘，非五识身以名身等义为境”故。		
					申三会违	然说五识有寻、伺者，显多由彼起，非说彼相应。 《杂集》所言： “任运分别谓五识”者，彼与《瑜伽》所说分别，义各有异： 彼说任运即是五识，《瑜伽》说此是五识俱分别意识相应寻、伺。	
				申四总结	故彼所引为证不成，由此五识定无寻、伺。		
			巳四受俱不俱门分二	午一第一师分三	未一悔	有义：恶作忧、舍相应，唯威行转，通无记故。	
					未二眠	睡眠喜、忧、舍受俱起，行通欢、威、中庸转故。	
					未三寻伺	寻、伺忧、喜、舍、乐相应，初静虑中意乐俱故。	
		午二第二师		有义：此四亦苦受俱，纯苦趣中，意若俱故。			
		巳五别境相应门		四皆容与五别境俱，行相、所缘不相违故。			
		巳六善俱门		悔、眠但与十善容俱，此唯在欲，无轻安故。 寻、伺容与十一善俱，初静虑中轻安俱故。			
		巳七十烦恼俱门分二	午一悔		悔但容与无明相应，此行相粗，贪等细故。		
			午二眠寻伺		睡眠、寻、伺十烦恼俱，此彼展转不相违故。		
巳八随惑俱转门		悔与中、大随惑容俱，非忿等十，各为主故。 睡眠、寻、伺二十容俱，眠等位中皆起彼故。					

表 4-26: (29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(3/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛二解相应受俱门分二 壬二重解六位心所分二 癸二随解释分二	子一五颂别解心所分五	丑五辨不定位分三 寅三长行释分二 卯二诸门分别分二	辰一十二门分别分十二	巳九三性门分二	午一总			此四皆通善等三性，于无记业亦追悔故。
					午二别分二	未一 生得 加行 分二	申一初二生得后 二加行义	有义：初二唯生得善，行相粗鄙及昧略故； 后二亦通加行善摄，闻所成等有寻、伺故。
							申二初二通加行 义	
						未二无记		
				巳十界系门分三	午一界所系			恶作、睡眠唯欲界有，寻、伺在欲及初静虑， 余界地法皆妙静故。
					午二上下相起			悔、眠生上必不现起，寻、伺上下亦起下上。
					午三上下相缘分二	未一寻伺		下上寻、伺能缘上下。
						未二 悔眠 分二	申一不缘上义	有义：悔、眠不能缘上，行相粗近，极昧略故。
					申二缘上义		有义：此二亦缘上境，有邪见者悔修定故，梦 能普缘所更事故。	
				巳十一三学门分二	午一悔			悔非无学，离欲舍故；
								睡眠、寻、伺皆通三种。 求解脱者有为善法皆名学故； 学究竟者有为善法皆无学故。
			午二眠寻伺					
			巳十二三断门分二	午一悔眠			悔、眠唯通见、修所断，亦邪见等势力起故， 非无漏道亲所引生故，亦非如忧，深求解脱故。 若已断故名非所断，则无学眠非所断、摄。	
				午二寻伺分二	未一总解		寻、伺虽非真无漏道，而能引彼，从彼引生， 故通见、修、非所断摄。	
					未二别解分二	申一无漏分别摄义		有义：寻、伺非所断者，于五法中唯分别摄， 《瑜伽》说彼是分别故。
						申二无漏正智摄正 义		有义：此二亦正智摄，说：“正思惟是无漏” 故，彼能令心寻求等故。 又说：“彼是言说因”故，未究竟位于药、病 等未能遍知，后得智中为他说法必假寻、伺， 非如佛地无功用说，故此二种亦通无漏。 虽说寻、伺必是分别，而不定说唯属第三，后 得正智中亦有分别故。
	辰二准例指分别				余门准上，如理应思。			
	子二总料简王所一异分四	丑三征分二	丑一问			如是六位诸心所法，为离心体有别自性？为即是心分位差别？		
			丑二答			设尔何失？		
			寅一总征	二俱有过。				
				寅二别难分二	卯一离心有所难分二	辰一以经难	若离心体有别自性，如何圣教说唯有识？ 又如何说心远、独行，染、净由心，士夫六界？	
						辰二以理成	《庄严论》说复云何通？ 如彼颂言：“许心似二现，如是似贪等，或似于信等， 无别染、善法。”。	
卯二离心无所难			若即是心分位差别，如何圣教说心相应？他性相应，非自性故。 又如何说心与心所俱时而起，如日与光？ 《瑜伽论》说复云何通？彼说心所非即心故。 如彼颂言：“五种性不成，分位差过失，因缘无别故，与圣教相违”。					
			丑四释分二	寅一约世俗释			应说离心有别自性，以心胜故，说唯识等，心所依心势力生故，说 似彼现，非彼即心。又识心言亦摄心所，恒相应故。 唯识等言及现似彼，皆无有失，此依世俗。	
寅二约胜义释				若依胜义，心所与心非离非即，诸识相望应知亦然，是谓大乘真、 俗妙理。				

表 4-27: (29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(4/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三	辛三明所依俱转起灭门分三	壬三长行释分三	壬一结前征起		已说六识心所相应，云何应知现起分位？	
			壬二举颂正答		颂曰： 1 5 依止根本识，五识随缘现，或俱或不俱，如涛波依水。 1 6 意识常现起，除生无想天，及无心二定、睡眠与闷绝。	
			癸一解所依		论曰： “根本识”者，阿陀那识，染、净诸识生根本故。 “依止”者，谓前六转识以根本识为共亲依。	
			癸二解俱不俱相		“五识”者，谓前五转识，种类相似，故总说之。 “随缘现”言显非常起，“缘”谓作意、根、境等缘，谓五识身内依本识外随作意、五根、境等众缘和合方得现前，由此或俱或不俱起，外缘合者有顿、渐故。 如水涛波随缘多少，此等法喻广说如经。	
			子一释常现起分二	丑一第一次	由五转识行相粗动，所籍众缘时多不俱，故起时少，不起时多。第六意识虽亦粗动，而所籍缘无时不具，由违缘故，有时不起。第七、八识行相微细，所籍众缘一切时有，故无缘碍令总不行。	
				丑二第二次	又五识身不能思虑，唯外门转起，籍多缘，故断时多，现行时少；第六意识自能思虑，内、外门转，不籍多缘。唯除五位，常能现起，故断时少，现起时多，由斯不说此随缘现。	
			丑一问		五位者何？	
			寅一举例总答		“生无想”等。	
			辰一显得名		无想天者，谓修彼定，厌粗想力，生彼天中，违不恒行心及心所，想灭为首，名无想天。	
			辰二灭识多少		故六转识于彼皆断。	
			巳一诤有无心分三	午一三位无心义	有义： 彼天常无六识，圣教说彼无转识故； 说彼唯有有色支故； 又说彼为无心地故。	
				午二初中无心义	有义： 彼天将命终位，要起转识然后命终，彼必起下润生爱故，《瑜伽论》说：“后想生已，是诸有情从彼没”故。 然说彼无转识等者，依长时说，非谓全无。	
				午三中间无心义	有义： 生时亦有转识，彼中有必起润生烦恼故，如余本有，初必有转识故。 《瑜伽论》说： “若生于彼唯入不起，其想若生从彼没”故，彼本有初，若无转识，如何名入？ 先有后无，乃名入故。	
				巳二辨体显性	《决择分》言： “所有生得心、心所灭，名无想。”故，此言意显彼本有初，有异熟生转识暂起宿因缘力，后不复生。 由斯引起异熟无记分位差别，说名无想，如善引生二定名善。 不尔，转识一切不行，如何可言唯生得灭？故彼初位转识暂起。	
			辰四明处所		彼天唯在第四静虑，下想粗动难可断故，上无无想异熟处故。	
			辰五显报因		即能引发无想定思，能感彼天异熟果故。	

表 4-28: (29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(5/15)

己三释第三能变分二 庚二举颂正答分三 辛三明所依俱转起灭门分三 壬三长行释分三 癸三解起灭分位分二	子二解五位无心分三 丑二答分三 寅二别解分三 卯二解二定分二	辰一总解				“及无心二定”者，谓无想、灭尽定，俱无六识，故名无心。					
		巳一解无想定分六	午一释前五义				无想定者，谓有异生伏遍净贪未伏上染，由出离想，作意为先，令不恒行心、心所灭，想灭为首，立无想名，令身安和，故亦名定。				
			午二释第六义				修习此定，品别有三：下品修者，现法必退，不能速疾还引现前，后生彼天，不甚光净，形色广大，定当中天。 中品修者，现不必退，设退速疾还引现前，后生彼天，虽甚光净，形色广大，而不最极，虽有中天而不决定。 上品修者，现必不退，后生彼天，最极光净，形色广大，必无中天，穷满寿量后方殒没。				
			午三释七八二义				此定唯属第四静虑。 又唯是善，彼所引故。下上地无，由前说故。				
			午四释第九义				四业通三，除顺现受。				
			午五释第十义分二	未一唯欲界修义			有义：此定唯欲界起，由诸外道说力起故，人中慧解极猛利故。				
				未二通二界义			有义：欲界先修习已，后生色界能引现前，除无想天至究竟故。				
		午六释第十一义				此由厌想欣彼果入，故唯有漏。非圣所起。					
		辰二别解分二	巳二解灭尽定分六	午一释前五义				灭尽定者，谓有无学或有学圣，已伏或离无所有贪，上贪不定，由止息想，作意为先，令不恒行、恒行染污心、心所灭，立灭尽名，令身安和，故亦名定。 由偏厌受、想，亦名灭彼定。			
				午二释第六义				修习此定，品别有三： 下品修者，现法必退，不能速疾还引现前； 中品修者，现不必退，设退速疾还引现前； 上品修者，毕竟不退。			
				午三释七八二义				此定初修必依有顶，游观无漏为加行入，次第定中最居后故，虽属有顶而无漏摄。 若修此定已得自在，余地心后，亦得现前。			
				午四释第九义				虽属道谛而是非学非无学摄，似涅槃故。			
				午五释第十义				此定初起唯在人中，佛及弟子说力起故，人中慧解极猛利故，后上二界亦得现前，《邬陀夷经》是此诚证，无色亦名意成天故。 于藏识教未信受者，若生无色不起此定，恐无色、心成断灭故；已信生彼亦得现前，知有藏识不断灭故。			
			午六释第十一义分二	未一见所断			要断三界见所断惑方起此定，异生不能伏灭有顶心、心所故，此定微妙，要证二空随应后得所引发故。				
				未二修所断分二	酉一异说分二	戌一第一师	有义： 下八地修所断惑中，要全断欲，余伏或断，然后方能初起此定，欲界惑种二性繁杂，障定强故，唯说不还、三乘无学及诸菩萨得此定故，彼随所应生上八地皆得后起。				
						戌二第二师	有义： 要断下之四地修所断惑，余伏或断，然后方能初起此定，变异受俱烦恼种子障定强故，彼随所应，生上五地，皆得后起。				
					酉二问答分别			若伏下惑能起此定，后不断退生上地者，岂生上已却断下惑？ 断亦无失，如生上者，断下末那得生惑故。 然不还者对治力强，正润生位不起烦恼，但由惑种润上地生，虽所伏惑有退、不退，而无伏下生上地义，故无生上却断下失。			

表 4-29：(29 表) 己三释第三能变分二【卷七】(6/15)

己三第能分 三变二	庚二颂答分 三正分	辛三所俱起 明转灭分三	壬三行分 三	癸三起分 二	子二解五位 无心分三	丑二答分三	寅二别解分三	卯二解二定分二	辰二别解分二	巳二解灭尽定分六	午六第一分 释十义二	未二修所断分二	申明菩萨	若诸菩萨先二乘位已得灭定，后回心者，一切位中能起此定。 若不尔者，或有乃至七地满心，方能永伏一切烦恼，虽未永断欲界修惑，而如已断，能起此定，论说已入远地，菩萨方能现起灭尽定故。有从初地即能永伏一切烦恼，如阿罗汉，彼十地中皆起此定，经说菩萨前六地中亦能现起灭尽定故。
								卯三睡眠闷绝分二	辰一总释					无心“睡眠与闷绝”者，谓有极重睡眠、闷绝，令前六识皆不现行。
									辰二别释分三			巳一释睡眠		疲极等缘所引身位，违前六识，故名极重睡眠，此睡眠时，虽无彼体，而由彼似彼故，假说彼名。
												巳二释闷绝		风热等缘所引身位，亦违六识，故名极重闷绝，
												巳三示异说		或此俱是触处少分。
							寅三总结							除斯五位，意识恒起。
						丑三总料简分三			卯一问	正死、生时亦无意识，何故但说五位不行？				
							寅一问死生分二		卯二答	有义：死、生“及”、“与”言显。彼说非理，所以者何？但说六时名无心故，谓前五位及无余依。应说死、生即闷绝摄，彼是最极闷绝位故，说“及”、“与”言显五无杂。				
							寅二释无余不说			此显六识断已，后时依本识中自种还起，由此不说入无余依。				
							寅三约凡圣辨五位			此五位中异生有四，除在灭定，圣唯后三，于中如来、自在菩萨唯得存一，无睡、闷故。				

表 5-1：(2 表) 戊二总料简八识一异分三【卷七】(7/15)

科判		正文
戊二总料简八识一异分三	己一明俱转	是故八识一切有情心与末那二，恒俱转； 若起第六，则三俱转； 余随缘合，起一至五，则四俱转，乃至八俱，是谓略说识俱转义。
	庚一释有情随增难	若一有情多识俱转，如何说彼是一有情？ 若立有情依识多少，汝无心位应非有情？ 又，他分心现在前位，如何可说自分有情？ 然立有情依命根数或异熟识俱不违理，彼俱恒时唯有一故。
	己二问答分别分五	
	庚二会等无间缘难	一身唯一等无间缘，如何俱时有多识转？ 既许此一引多心所，宁不许此能引多心？ 又谁定言此缘唯一？说多识俱者许此缘多故。 又欲一时取多境者，多境现前宁不顿取？ 诸根、境等和合力齐，识前后生不应理故。 又心所性虽无差别，而类别者，许多俱生，宁不许心异类俱起？ 又如浪像依一起多，故依一心多识俱转。 又若不许意与五俱，取彼所缘应不明了，如散意识缘久灭故。
	庚三会一识多境缘难	如何五俱唯一意识，于色等境取一或多？ 如眼等识各于自境取一或多，此亦何失？相、见俱有种种相故。
	庚四会同异不俱难	何故诸识同类不俱？ 于自所缘若可了者，一已能了，余无用故。 若尔，五识已了自境，何用俱起意识了为？ 五俱意识助五令起，非专为了五识所缘。 又于彼所缘能明了取，异于眼等识，故非无用。 由此圣教说彼意识名有分别，五识不尔。
	庚五会俱转相应难	多识俱转何不相应？ 非同境故，设同境者，彼此所依体、数异故，如五根识互不相应。



表 5-2：（2 表）戊二总料简八识一异分三【卷七】（8/15）

戊二总料简八识一异分三	己三一异分二	庚一正释一异		八识自性不可言定一，行相、所依、缘、相应异故；又一灭时余不灭故，能、所熏等相各异故；亦非定异，经说八识如水波等，无差别故；定异应非因果性故。如幻事等，无定性故。
		庚二约真俗八谛分别分二	辛一长行	如前所说，识差别相依理世俗，非真胜义，真胜义中心言绝故。
			辛二颂文	如伽他说：“心、意、识八种，俗故相有别；真故相无别，相、所相无故。”

表 6-1：（3 表）丁二正解识变分三【卷七】（9/15）

科判				正文			
丁二正解识变分三	戊一结前问后			已广分别三能变相为自所变二分所依。 云何应知依识所变假说我、法非别实有，由斯一切唯有识耶？			
	戊二举颂答			颂曰：1 7 是诸识转变，分别所分别，由此彼皆无，故一切唯识。			
	己一正释颂分二	庚一以二复次释分二	辛一安慧护法义分四 辛二难陀等义分四	壬一释第一句	论曰：“是诸识”者，谓前所说三能变识及彼心所，皆能变似见、相二分，立“转变”名。		
				壬二释第二句	所变见分说名“分别”，能取相故； 所变相分名“所分别”，见所取故。		
				壬三释第三句	由此正理，彼实我、法离识所变皆定非有，离能、所取无别物故，非有实物离二相故。		
				壬四释第四句	是故一切有为、无为，若实、若假，皆不离识，“唯”言：为遮离识实物；非不离识心所法等。		
				壬一释第一句	或转变者，谓诸内识转似我、法外境相现。		
				壬二释第二句	此能转变即名分别，虚妄分别为自性故，谓即三界心及心所。此所执境名所分别，即所妄执实我、法性。		
				壬三释第三句	由此分别变似外境假我、法相，彼所分别实我、法性，决定皆无，前引教理已广破故。		
				壬四释第四句	是故一切皆唯有识，虚妄分别有极成故。 “唯”既不遮不离识法。故真空等，亦是有性。		
		庚二总解		由斯远离增、减二边，唯识义成，契会中道。			
		己二问答广辨分十	庚一唯识所因难分五	辛四论主释分二	癸一列六文分五	壬一答教分二	辛一外人问
	辛二论主答						岂不已说？
	辛三外人问						虽说未了，非破他义已义便成；应更确陈，成此教理。
	子一华严深密 子二楞伽 子三维摩 丑一总举 丑二别显 丑三结成					子一华严深密	如契经说：“三界唯心”；又说：“所缘唯识所现”；
						子二楞伽	又说：“诸法皆不离心”；
						子三维摩	又说：“有情随心垢、净”。
						丑一总举	又说：“成就四智菩萨能随悟入唯识无境”。
						丑二别显	一、相违识相智：谓于一处，鬼、人、天等随业差别所见各异，境若实有，此云何成？ 二、无所缘识智：谓缘过、未、梦境像等非实有境，识现可得，彼境既无，余亦应尔。 三、自应无倒智：谓愚夫智若得实境，彼应自然成无颠倒，不由功用应得解脱。
							四、随三智转智： 一、随自在者智转智：谓已证得心自在者，随欲转变地等皆成，境若实有，如何可变？ 二、随观察者智转智：谓得胜定修法观者，随观一境，众相现前，境若是实，宁随心转？ 三、随无分别智转智：谓起证实无分别智，一切境相皆不现前，境若是实，何容不现？
							菩萨成就四智者，于唯识理决定悟入。
						子五厚严	又伽他说：心、意、识所缘，皆非离自性。故我说一切，唯有识无余。
						癸二总指	

表 6-2: (3 表) 丁二正解识变分三【卷七】(10/15)

丁二正解识变分三 戊三长行释分二 己二问答广辨分十	庚一唯识所因难分五	辛四论主释分二	壬二显理分二	癸一正显	极成眼等识，五随一故，如余，不亲缘离自色等。余识识故，如眼识等，亦不亲缘离自诸法。此亲所缘定非离此，二随一故，如彼能缘。所缘法故，如相应法，决定不离心及心所。
				癸二结劝	此等正理，诚证非一，故于唯识，应深信受。
		辛五总结分二	壬一结以理证		我、法非有；空、识非无。离有、离无，故契中道。
			壬二引教证分二	癸一引中边颂	慈尊依此说二颂言：虚妄分别有，于此二都无；此中唯有空，于彼亦有此，故说一切法，非空非不空，有无及有故，是则契中道。
	癸二总释二颂			此颂且依染依他说，理实亦有净分依他。	
	庚二世事乖宗难分二			辛一外人难	若唯内识似外境起，宁见世间情、非情物，处、时、身、用定、不定转？
				辛二指解	如梦境等，应释此疑。
	庚三圣教相违难分二			辛一引经难	何缘世尊说十二处？
				辛二释外疑	依识所变，非别实有。为入我空说六二法，如遮断见说续有情。为入法空复说唯识，令知外法亦非有故。
	庚四唯识成空难分四	辛一外人问			此唯识性岂不亦空？
		辛二答			不尔。
		辛三征			如何？
		辛四释分四	壬一略解	非所执故。	
			壬二广非执	谓依识变，妄执实法，理不可得，说为法空；非无离言正智所证唯识性故，说为法空。	
			壬三反显	此识若无，便无俗谛；俗谛无故，真谛亦无。真、俗相依而建立故。	
	庚五色相非心难分二	辛一外人问			拨无二谛是恶取空，诸佛说为不可治者。应知诸法有空、不空，由此慈尊说前二颂。
		辛二论主答分二	壬一第一解	名言熏习势力起故。	
			壬二第二解	与染、净法为依处故。谓此若无，应无颠倒，便无杂染，亦无净法，是故诸识亦似色现。如有颂言：乱相及乱体，应许为色识，及与非色识，若无余亦无。	
	庚六现量为宗难分二	辛一外人问			若诸色处亦识为体，何缘乃似色相显现，一类坚住相续而转？
		辛二论主答分二	壬一依理答	名言熏习势力起故。与染、净法为依处故。谓此若无，应无颠倒，便无杂染，亦无净法，是故诸识亦似色现。如有颂言：乱相及乱体，应许为色识，及与非色识，若无余亦无。	
			壬二依法体遮执	色等外境分明现证，现量所得，宁拨为无？现量证时，不执为外，后意分别，妄生外想。故现量境是自相分，识所变故。亦说为有，意识所执外实色等，妄计有故。说彼为无。又色等境，非色、似色，非外、似外。如梦所缘，不可执为是实外色。	
	庚七梦觉相违难分二			辛一外人问	色等外境分明现证，现量所得，宁拨为无？
				辛二论主答	现量证时，不执为外，后意分别，妄生外想。故现量境是自相分，识所变故。亦说为有，意识所执外实色等，妄计有故。说彼为无。又色等境，非色、似色，非外、似外。如梦所缘，不可执为是实外色。若觉时，色皆如梦境不离识者，如从梦觉知彼唯心，何故觉时于自色境不知唯识？如梦未觉不能自知，要至觉时方能追觉，觉时境色应知亦尔，未真觉位不能自知，至真觉时亦能追觉。未得真觉恒处梦中，故佛说为生死长夜，由斯未了色境唯识。

表 6-3: (3 表) 丁二正解识变分三【卷七】(11/15)

丁二正解识变分三	庚八取他心难分二	辛一外人问		外色实无，可非内识境；他心实有，宁非自所缘？
		辛二论主答分四	壬一总答	谁说他心非自识境？但不说彼是亲所缘。
			壬二别释	谓识生时无实作用，非如手等亲执外物，日等舒光亲照外境；但如镜等似外境现，名“了他心”，非“亲能了”。亲所了者，谓自所变。
			壬三引证	故契经言：“无有少法能取余法”；但识生时，似彼相现，名取彼物。
			壬四例释色境难	如缘他心，色等亦尔。
戊三长行释分二	庚九异境非唯难分四	辛一外人问		既有异境，何名唯识。
		辛二论主答		奇哉！固执触处生疑！岂唯识教但说一识？
		辛三外人征		不尔，如何？
		辛四论主解		汝应谛听：若唯一识，宁有十方凡圣、尊卑、因果等别？谁为谁说？何法何求？故唯识言有深意趣。识言总显一切有情各有八识、六位心所，所变相、见、分位差别及彼空理所显真如。识自相故，识相应故，二所变故，三分位故，四实性故，如是诸法皆不离识，总立识名。“唯”言，但遮愚夫所执定离诸识实有色等。
己二问答广辨分十	庚十总结劝信		若如是知唯识教意，便能无倒善备资粮速入法空，证无上觉，救拔含识生死轮回；非全拨无恶取空者，违背教理能成是事。故定应信一切唯识。	

表 7-1: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷七】(12/15)

科判						正文		
丁三释诸妨难解唯识义分二	戊一释违理分二	己一释分别生难分三	庚三长行释分二	辛一略解分二	壬一解缘生有漏分别分二	庚一外人难		若唯有识都无外缘，由何而生种种分别？
						庚二举颂答		颂曰： 1 8 由一切种识，如是如是变，以展转力故，彼彼分别生。
						癸一别解四句分四	子一第一句	论曰： “一切种识”谓本识中能生自果功能差别，此生等流、异熟、士用、增上果故，名一切种，除离系者，非种生故，彼虽可证，而非种果，要现起道，断结得故，有展转义，非此所说，此说能生分别种故。此识为体，故立识名，种离本识无别性故。 “种识”二言，简非种识：有识非种；种非识故。 又“种识”言显识中种，非持种识，后当说故。
							子二第二句	此识中种余缘助故，即便如是如是转变，谓从生位转至熟时。 显变种多，重言“如是”，“谓一切种”摄三熏习共、不共等识种尽故。
							子三第三句	“展转力”者，谓八现识及彼相应相、见分等，彼皆互有相助力故。
							子四第四句	即现识等，总名“分别”，虚妄分别为自性故，“分别”类多，故言“彼彼”。
						癸二总结颂意		此颂意说： 虽无外缘，由本识中有一切种转变，差别；及以现行八种识等展转力故，彼彼分别而亦得生。何假外缘方起分别？
						壬二明例生净法		诸净法起应知亦然，净种现行为缘生故。

表 7-2: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷七】(13/15)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己一释分别生难分三 庚三长行释分二 辛二广解分二	壬一外人问				所说种现缘生分别，云何应知此缘生相？				
	丑一总答				缘且有四。				
	寅一因缘分三	卯一出体分二	辰一总	一、因缘：谓有为法亲办自果。					
				辰二别	此体有二： 一、种子； 二、现行。 种子者，谓本识中善、染、无记、诸界、地等功能差别，能引次后自类功能及起同时自类现果，此唯望彼是因缘性。现行者，谓七转识及彼相应所变相、见、性、界、地等，除佛果善、极劣无记，余熏本识生自类种，此唯望彼是因缘性。				
			卯二简略		第八心品无所熏故，非简所依独能熏故，极微圆故，不熏成种。 现行同类展转相望皆非因缘，自种生故； 一切异类展转相望亦非因缘，不亲生故。				
			卯三释妨		有说异类、同类现行展转相望为因缘者，应知假说，或随转门。 有唯说种是因缘性，彼依显胜，非尽理说，圣说：转识与阿赖耶展转相望为因缘故。				
		卯一出体		二、等无间缘，谓八现识及彼心所前聚于后自类无间，等而开导，令彼定生。					
		卯二简略		多同类种俱时转故，如不相应非此缘摄，由斯八识非互为缘。 心所与心虽恒俱转，而相应故，和合似一，不可施設离别殊异，故得互作等无间缘。 入无余心最极微劣，无开导用，又无当起等无间法，故非此缘。云何知然？ 论有诚说： 若此识等无间，彼识等决定生，即说此是彼等无间缘故。					
		寅二等无间缘分三	卯三显缘相分四	辰一释第八识分二	巳一显相	即依此义，应作是说： 阿陀那识三界、九地皆容互作等无间缘，下、上，死、生相开等故，有漏无间有无漏生； 无漏定无生有漏者。 镜智起已必无、断故，善与无记相望亦然。			
						午一外人问		此何界后引生无漏？	
					巳二问答分二	未一总		或从色界，或欲界后，	
						午二论主答分二	申一顿悟		谓诸异生求佛果者，定色界后引生无漏，彼必生在净居天上大自在宫得菩提故。
	未二别分二			申二渐悟分二	酉一第一师		二乘回趣大菩提者，定欲界后引生无漏，回趣留身唯欲界故，彼虽必往大自在宫方得成佛，而本愿力所留生身是欲界故。		
					酉二第二师	有义：色界亦有声闻回趣大乘愿留身者，既与教理俱不相违，是故声闻第八无漏色界心后亦得现前。 然五净居无回趣者，经不说彼发大心故。			
	辰二释第七识		第七转识三界九地亦容互作等无间缘，随第八识生处系故。 有漏、无漏容互相生，十地位中得相引故。 善与无记相望亦然，于无记中，染与不染亦相开导，生空智果前、后位中得相引故。 此欲、色界有漏得与无漏相生，非无色界，地上菩萨不生彼故。						

表 7-3: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷七】(14/15)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己一释分别生难分三 庚三长行释分二 辛二广解分二	壬二答分二 癸一广种现缘生分二 子一正解四缘分二 丑二别答分四 寅二广解分二	寅二等无间缘分三	卯三显缘相分四	辰三释第六识		第六转识三界九地有漏无漏、善不善等，各容互作等无间缘，润生位等更相引故，初起无漏唯色界后，决择分善唯色界故。			
				辰四释前五识分二	巳一释界地缘生	眼、耳、身识二界二地，鼻、舌两识一界一地，自类互作等无间缘，善等相望应知亦尔。			
					巳二漏漏缘生分二	午一第一师	有义： 五识有漏、无漏自类互作等无间缘，未成佛时容互起故。		
						午二第二师	有义： 无漏有漏后起；非无漏后容起有漏。 无漏五识非佛无故：彼五色根定有漏故； 是异熟识相分摄故； 有漏不共必俱同境根发无漏识，理不相应故； 此二于境明、昧异故。		
		寅三所缘缘分三	卯一释出体义		三、所缘缘： 谓若有法是带己相心或相应所虑、所托。				
			卯二辨差别分二	辰一正示	此体有二： 一、亲；二、疎。 若与能缘体不相离，是见分等内所虑托，应知彼是亲所缘缘； 若与能缘体虽相离，为质能起内所虑托，应知彼是疎所缘缘。				
					辰二释有无	亲所缘缘能缘皆有，离内所虑托必不生故。 疎所缘缘能缘或有，离外所虑托亦得生故。			
			卯三八识分别分四	辰一第八识分三	巳一第一师	第八心品： 有义：唯有亲所缘缘，随业因力任运变故。			
					巳二第二师	有义：亦定有疎所缘缘，要仗他变质自方变故。			
					巳三第三师	有义：二说俱不应理。 自、他身、土可互受用，他所变者为自质故。 自种于他无受用理，他变为此不应理故，非诸有情种皆等故，应说此品疎所缘缘，一切位中有、无不定。			
				辰二第七识		第七心品未转依位是俱生故，必仗外质，故亦定有疎所缘缘； 已转依位此非定有，缘真如等无外质故。			
				辰三第六识		第六心品行相猛利，于一切位能自在转，所仗外质或有、或无，疎所缘缘有、无不定。			
				辰四前五识		前五心品未转依位，粗、钝、劣故，必仗外质，故亦定有疎所缘缘； 已转依位，此非定有，缘过、未等，无外质故。			
			寅四增上缘分三	卯一出体		四、增上缘： 谓若有法有胜势用，能于余法或顺、或违。 虽前三缘亦是增上，而今第四除彼取余，为显诸缘差别相故。			
				卯二显用果		此顺、违用于四处转： 生、位、成、得四事别故。			
				卯三胜差别分三	辰一总标		然增上用随事虽多，而胜显者唯二十二，应知即是二十二根。		
					辰二出体分三	巳一七色根		前五色根以本识等所变眼等净色为性； 男女二根，身根所摄故，即以彼少分为性；	
						巳二十二根		命根但依本识亲种分位假立，非别有性； 意根总以八识为性； 五受根如应，各自受为性； 信等五根即以信等及善念等而为自性。	

表 7-4: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷七】(15/15)

丁三释 诸妨难 解唯识 义分二  戊一释 违理分 二  己一释 分别生 难分三  庚三长 行释分 二  辛二广 解分二	壬二答 分二  癸一广 种现生 分二  子一正解 缘分二	丑二别 答分四  寅四上 增缘分 三  卯三胜 显差分 三	辰二出 体分三	巳三三 无漏根 分三	午一未 知根分 二	未一约 二乘释 分三	申一体位 三种	未知当知根，体位有三种： 一、根本位，谓在见道，除后刹那，无所未知可当知故。 二、加行位，谓暖、顶、忍、世第一法，近能引发根本位故。 三、资粮位，谓从为得谛现观故，发起决定胜善法欲，乃至未得顺决择分所有善根名资粮位，能远资生根本位故。	
							申二正出 体	于此三位，信等五根、意、喜、乐、舍为此根性，加行等位于后胜法求证愁戚亦有忧根，非正善根，故多不说。	
							申三解无 色三根	前三无色有此根者，有胜见道傍修得故，或二乘位回趣大者，为证法空，地前亦起九地所摄生空无漏，彼皆菩萨，此根摄故。	
							未二约菩萨释	菩萨见道亦有此根，但说地前，以时促故。	
							午二已知根	始从见道最后刹那乃至金刚喻定，所有信等无漏九根皆是已知根性。 未离欲者，于上解脱求证愁戚，亦有忧根，非正善根，故多不说。	
								午三具知根	诸无学位，无漏九根一切皆是具知根性。 有顶虽有游观无漏，而不明利，非后三根。
							辰三例指		二十二根自性如是，诸余门义，如论应知。

表 7-5: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(1/14)

丁三释 诸妨难 解唯识 义分二	戊一释 违理分 二	己一释 分别生 难分三	庚三长 行释分 二	辛二广 解分二	壬二答 分二	癸一广 种现生 分二	子二傍 明十五 依处等 分三	丑二正 答分四	寅一明 依处立 因分十	丑一问起	如是四缘，依十五处，义差别故，立为十因。 云何此依十五处立？
										卯一随说 因	一、语依处：谓法名、想所起语性，即依此处立随说因。 谓依此语随见、闻等，说诸义故。 此即能说为所说因； 有论说此是名、想、见，由如名字取相，执着随起说故，若依彼说便显此因是语依处。
										卯二观待 因	二、领受依处：谓所观待能、所受性，即依此处立观待因。 谓观待此令彼诸事或生、或住、或成、或得，此是彼观待因。
										卯三牵引 因	三、习气依处：谓内、外种，未成熟位。 即依此处，立牵引因。谓能牵引远自果故。
										卯四生起 因	四、有润种子依处：谓内、外种，已成熟位。 即依此处，立生起因。谓能生起近自果故。
										卯五摄受 因	五、无间灭依处：谓心、心所等无间缘。 六、境界依处：谓心、心所所缘缘。 七、根依处：谓心、心所所依六根。 八、作用依处：谓于所作业、作具、作用，即除种子余助现缘。 九、士用依处：谓于所作业、作者、作用，即除种子余作现缘。 十、真实见依处：谓无漏见，除引自种于无漏法能助引证。总依此六，立摄受因。 谓摄受五办有漏法，具摄受六办无漏故。
										卯六引发 因	十一、随顺依处：谓无记、染、善现种诸行，能随顺同类胜品诸法。 即依此处，立引发因。 谓能引起同类胜行，及能引得无为法故。

表 7-6: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(2/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己一释分别生难分三 庚三长行释分二 辛二广解分二	壬二答分二 癸一广种现缘生分二 子二傍明十五依处等分三 丑二正答分四	寅一明依处立因分十	卯七定异因		十二、差别功能依处： 谓有为法，各于自果，有能起证差别势力。 即依此处，立定、异因。 谓各能生自界等果，及各能得自乘果故。			
			卯八同事因		十三、和合依处：谓从领受，乃至差别功能依处，于所生、住、成、得果中，有和合力。 即依此处，立同事因。 谓从观待乃至定、异，皆同生等，一事业故。			
			卯九相违因		十四、障碍依处：谓于生、住、成、得事中，能障碍法。 即依此处，立相违因。谓彼能违生等事故。			
			卯十不相违因		十五、不障碍依处：谓于生、住、成、得事中，不障碍法。 即依此处，立不相违因。谓彼不违生等事故。			
		寅二明十因二因相摄分二	卯一第一师分二	辰一引菩萨地文分三	巳一引文		如是十因，二因所摄： 一、能生；二、方便。 〈菩萨地〉说：“牵引种子、生起种子，名能生因；所余诸因，方便因摄”。	
					巳二正释分二	午一能生因		此说牵引、生起、引发、定异、同事、不相违中，诸因缘种未成熟位，名牵引种； 已成熟位名生种。 彼六因中，诸因缘种，皆摄在此二位中故。 离有现起是能生因，如四因中生自种者，而多间断，此略不说。 或亲办果亦立种名，如说现行谷、麦等种。
						午二方便因		所余因谓初、二、五、九，及六因中非因缘法，皆是生、熟因缘种余，故总说为方便因摄。
				巳三立理		非此二种，唯属彼二因；余四因中，有因缘种故。 非唯彼八，名所余因，彼二因亦有非因缘种故。		
				辰二引有寻伺地文分三	巳一牒文		〈有寻〉等地，说生起因，是能生因。余方便摄。	
			巳二正解		此文意说：六因中现种是因缘者皆，名生起因； 能亲生起自类果故。此所余因，皆方便摄。			
			巳三立理		非此生起，唯属彼因，余五因中，有因缘故。 非唯彼九，名所余因，彼生起因中，有非因缘故。			
			卯二第二师分二	辰一释菩萨地文分二	巳一正解		或〈菩萨地〉所说“牵引、生起种子”，即彼二因； “所余诸因”即彼余八。	
					巳二释难		虽二因内，有非能生因，而因缘种胜，显故偏说； 虽余因内，有非方便因，而增上者多，显故偏说。	
				辰二释有寻伺地文分二	巳一正解		〈有寻〉等地说：“生起因是能生因；余方便”者。 “生起”即是彼生起因；“余因”应知即彼余九。	
					巳二释难		虽生起中有非因缘种，而去果近，亲显故偏说； 虽牵引中亦有因缘种，而去果远，亲隐故不说。 余方便摄，准上应知。	
			寅三缘处立因等十二相分二	卯一问		所说四缘，依何处立？复如何摄十因、二因？		
		卯二答分二		辰一答缘依处分二	巳一引文		论说因缘，依种子立；依无间灭，立等无间； 依境界，立所缘；依所余，立增上。	
					巳二正解分二	午一解因缘依处		此中种子，即是三、四、十一、十二、十三、十五， 六依处中因缘种摄； 虽现四处，亦有因缘，而多间断，此略不说。 或彼亦能亲办自果，如外麦等，亦立种名。 或种子言，唯属第四，亲、疎、隐、显，取舍如前。
						午二解中二缘依处		言无间灭、境界处者，应知总显二缘依处，非唯五、 六，余依处中，亦有中间二缘义故。 或唯五、六，余处虽有，而少、隐故，略不说之。

表 7-7: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(3/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己一释分别生难分三 庚三长行释分二 辛二广解分二	壬二答分二 癸一广种现缘生分二 子二傍明十五依处等分三	丑二正答分四	寅四明得果多少分二	卯二答分三	辰二辨与因相摄	论说因缘，能生因摄； 增上缘性，即方便因； 中间二缘，摄受因摄。 虽方便内具后三缘，而增上多，故此偏说； 余因亦有中间二缘，然摄受中，显故偏说。 初能生摄，进退如前。
						所说因、缘，必应有果。 此果有几？依何处得？
						果有五种： 一者异熟，谓有漏善及不善法所招自相续异熟生无记； 二者等流，谓习善等所引同类，或似先业，后果随转； 三者离系，谓无漏道断障所证善无为法； 四者士用，谓诸作者，假诸作具，所办事业； 五者增上，谓除前四，余所得果。
						《瑜伽》等说： 习气依处，得异熟果； 随顺依处，得等流果； 真见依处，得离系果；士用依处，得士用果； 所余依处，得增上果。
						习气处言，显诸依处感异熟果一切功能； 随顺处言，显诸依处引等流果一切功能； 真见处言，显诸依处证离系果一切功能； 士用处言，显诸依处招士用果一切功能； 所余处言，显诸依处得增上果一切功能。 不尔，便应太宽太狭。
						或习气者，唯属第三，虽异熟因余处亦有，此处亦有非异熟因； 而异熟因，去果相远，习气亦尔，故此偏说。 随顺唯属第十一处，虽等流果余处亦得，此处亦得非等流果； 而此因招胜行相显，随顺亦尔，故偏说之。 真见处言，唯诠第十，虽证离系余处亦能，此处亦能得非离系； 而此证离系，相显故偏说。 士用处言，唯诠第九，虽士用果余处亦招，此处亦能招增上等； 而名相显，是故偏说。 所余唯属余十一处，虽十一处亦得余果，招增上果余处亦能； 而此十一多招增上，余已显余，故此偏说。
						如是即说此五果中： 若异熟果，牵引、生起、定异、同事、不相违因，增上缘得； 若等流果，牵引、生起、摄受、引发、定异、同事、不相违因，初后缘得； 若离系果，摄受、引发、定异、同事、不相违因，增上缘得；若士用果，有义： 看待、摄受、同事不相违因，增上缘得，有义： 看待、牵引、生起、摄受、引发、定异、同事、不相违因，除所缘缘，余三缘得； 若增上果，十因、四缘一切容得。
						傍论已了，应辩正论。



表 7-8: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(4/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二	己一释分别生难分三	庚三长行释分二 辛二广解分二 壬二答分二 癸二广生分别相分二	丑一辨生观分二 子一明现种生分二	寅二辨现行生分二	卯一染位分二	辰二别释分六	寅一辨种子生分二	卯一染种	本识中种，容作三缘，生现分别，除等无间。谓各亲种，是彼因缘；为所缘缘，于能缘者；若种于彼，有能助力，或不障碍，是增上缘。			
								卯二净种	生净现行，应知亦尔。			
							辰一总释	巳一自他身相望	现起分别，展转相望，容作三缘，无因缘故。谓有情类自、他，展转容作二缘，除等无间。			
								巳二自身八识相望	自八识聚，展转相望，定有增上缘，必无等无间。 所缘缘义，或无或有： 八于七有； 七于八无。 余七非八所仗质故。 第七于六五无一有，余六于彼一切皆无。 第六于五无，余五于彼有。 五识唯托第八相故。			
									巳三自类前后相望	自类前后，第六容三，余除所缘，取现境故。许五后见缘前相者，五、七前后亦有三缘。前七于八，所缘容有，能熏成彼相、见种故。		
									巳四同聚异体相望	同聚异体，展转相望，唯有增上。 诸相应法，所仗质同，不相缘故。 或依见分，说不相缘； 依相分说，有相缘义。 谓诸相分，互为质起，如识中种，为触等相质。 不尔，无色，彼应无境故； 设许变色，亦定缘种，勿见分境不同质故。		
										巳五相见相望	同体相分，为见二缘； 见分于彼，但有增上。	
								巳六三分相望	见与自证，相望亦尔。 余二展转，俱作二缘。 此中不依种相分说，但说现起互为缘故。			
							卯二净位		净八识聚，自、他展转，皆有所缘，能遍缘故； 唯除见分，非相所缘，相分理无能缘用故。			
							丑二辨生种			既现分别缘种现生，种亦理应缘现种起，现种于种能作几缘？ 种必不由中二缘起，待心、心所立彼二故。 现于亲种具作二缘，与非亲种但为增上。 种望亲种亦具二缘，于非亲种亦但增上。		
							子二总结释分二	丑一总结		依斯内识互为缘起，分别因、果，理、教皆成。 所执外缘，设有无用，况违理、教，何固执为？		
								丑二解彼彼分别		虽分别言，总显三界心及心所，而随胜者，诸圣教中多门显示，或说为二、三、四、五等。 如余论中，具广分别。		
							己二释生死相续难分三			庚一外人问		虽有内识，而无外缘，由何有情生死相续？
										庚二举颂答		颂曰： 19 由诸业习气，二取习气俱； 前异熟既尽，复生余异熟。

表 7-9: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(5/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己二释生死相续难分三	庚三长行释分四	辛一第一复次分二	壬一别解颂文分四	癸一解第一句分三	子一解诸业	论曰： 诸业谓福、非福、不动，即有漏善、不善思业。业之眷属亦立业名，同招引、满异熟果故。
					子二解习气	此虽纔起，无间即灭，无义能招当异熟果，而熏本识，起自功能，即此功能，说为习气，是业气分，熏习所成，简曾现业，故名习气。
					子三总解	如是习气，展转相续，至成熟时，招异熟果，此显当果胜增上缘。
				癸二解第二句分二	子一别释	相见、名色、心及心所、本末，彼取皆二取摄。彼所熏发，亲能生彼本识上功能，名二取习气。此显来世异熟果心，及彼相应诸因缘种。 “俱”谓业种、二取种俱，是疎、亲缘，互相助义。
					子二说业由	业招生显，故颂先说。
				癸三合解下二句分二	子一释前后异熟	“前异熟”者，谓前、前生业异熟果； “余异熟”者，谓后、后生业异熟果。
					子二辨二取感果别	虽二取种受果无穷，而业习气受果有尽，由异熟果性别难招； 等流、增上性同易感。
			癸四总解		由感余生业等种熟，前异熟果受用尽时，复别能生余异熟果。	
			壬二总结颂意		由斯生死轮转无穷，何假外缘方得相续？ 此颂意说： 由业、二取，生死轮回皆不离识，心、心所法为彼性故。	
			辛二第二复次分三	壬一总标		复次，生死相续，由诸习气。
		壬二别解分二		癸一别解三分三	子一名言习气	然诸习气总有三种： 一、名言习气，谓有为法各别亲种。名言有二： （一）表义名言，即能诠义，音声差别； （二）显境名言，即能了境心、心所法。 随二名言所熏成种，作有为法各别因缘。
					子二我执习气	二、我执习气，谓虚妄执我、我所种。我执有二： （一）俱生我执，即修所断我、我所执； （二）分别我执，即见所断我、我所执。 随二我执所熏成种，令有情等自、他差别。
					子三有支习气	三、有支习气，谓招三界异熟业种。有支有二： 一、有漏善，即是能招可爱果业； 二、诸不善，即是能招非爱果业。 随二有支所熏成种，令异熟果善、恶趣别。 应知我执、有支习气，于差别果是增上缘。
		癸二配属颂		此颂所言“业习气”者，应知即是有支习气； “二取习气”，应知即是我执、名言二种习气。 取我、我所及取名言而熏成故，皆说名“取”。		
		壬三指例		“俱”等余文，义如前释。		
		辛三第三复次分二	壬一广解惑业苦分三	癸一总解	复次，生死相续，由惑、业、苦。	
				癸二别解	发业润生烦恼，名惑；能惑后有诸业，名业；业所引生众苦，名苦。 惑、业、苦种，皆名习气。 前二习气，与生死苦为增上缘，助生苦故。 第三习气，望生死苦能作因缘，亲生苦故。 颂三习气，如应当知：惑、苦名取，能、所取故。 取是着义，业不得名。	
				癸三指例	“俱”等余文，义如前释。	

表 7-10: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(6/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己二释生死相续难分三	庚三长行释分四 辛三第三复次分二 壬二以十二支释惑业苦分三	癸一以三道摄十二支			此惑、业、苦，应知总摄十二有支； 谓从无知乃至老死，如论广释。		
		子一能所引生料简诸论对释分二 癸二广明十二支分四	丑一总标		然十二支，略摄为四：		
			寅一能引支分二	卯一出体释		一、能引支：谓无知、行，能引识等五果种故。	
				卯二别重料简		此中无知，唯取能发正感后世善、恶业者，即彼所发，乃名为行。 由此一切顺现受业，别助当业，皆非行支。	
			寅二所引支分二	卯一出体释名		二、所引支：谓本识内亲生当来异熟果，摄识等五种，是前二支所引发故。	
				卯二别重料简分二	辰一辨离杂体性	此中识种，谓本识因，除后三因，余因皆是名色种摄。 后之三因，如名次第，即后三种。 或名色种，总摄五因，于中随胜，立余四种，六处与识，总别亦然。	
					辰二释妨难	《集论》说识，亦是能引，识中业种，名识支故；异熟识种，名色摄故。 经说识支通能、所引，业种、识种，俱名识故；识是名色依，非名色摄故。 识等五种由业熏发，虽实同时，而依主伴、总别、胜劣、因果相异，故诸圣教假说前后，或依当来、现起分位有次第故，说有前后。 由斯识等，亦说现行；因时定无现行义故。 复由此说生、引同时；润、未润时必不俱故。	
				寅三能生支分二	卯一出体释名		三、能生支：谓爱、取、有，近生当来生、老死故。
					卯二重解		谓缘迷内异熟果愚，发正能招后有诸业，为缘引发亲生当来生、老死位五果种已，复依迷外增上果愚，缘境界受，发起贪爱，缘爱复生欲等四取，爱、取合润，能引业种及所引因，转名为“有”，俱能近有后有果故。 有处唯说业种名“有”，此能正感异熟果故。 复有唯说五种名有，亲生当来识等种故。
			寅四所生支分二	卯一出体释名		四、所生支：谓生、老死，是爱、取、有近所生故。	
				卯二重解		谓从“中有”，至“本有”中，未衰变来，皆“生支”摄，诸衰变位，总名为老； 身坏命终，乃名为“死”。	
		子二废立增减释诸妨难分七	丑一老死废立分二		寅一示废立	老非定有，附死立支。	
					寅二释妨难	病何非支？不遍、定故。 老虽不定，遍故立支，诸界趣生除中天者，将终皆有衰朽行故。	
			丑二名色废立分二	寅一问		名色不遍，何故立支？	
				寅二答分二	卯一就他答	定故立支，胎、卵、湿生者，六处未遍，定有名色故。	
					卯二依正理答	又名色支，亦是遍有。 有色化生，初受生位，虽具五根，而未有用，尔时未名六处支故。 初生无色，虽定有意根而不明了，未名意处故； 由斯论说，十二有支，一切一分，上二界有。	
			丑三爱支废立分二	寅一问		爱非遍有，宁别立支？生恶趣者，不爱彼故。	
				寅二答分二	卯一随他答	定故别立，不求无有生善趣者，定有爱故。 不还润生，爱虽不起，然如彼取，定有种故。	
					卯二依正理解	又爱亦遍，生恶趣者，于现我境，亦有爱故。 依无希求，恶趣身爱，经说非有，非彼全无。	

表 7-11：(19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(7/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己二释生死相续难分三	庚三长行释分四 辛三第三复次分二 壬二以十二支释惑业苦分三 癸二广明十二支分四	子二废立增减释诸妨难分七	丑四所生废立分二	寅一问	何缘所生立生老死？所引别立识等五支？		
				寅二分二	卯一总答	“因位”难知差别相故，依当果位，别立五支。	
					卯二广前	谓续生时，因识相显，次根未满，名色相增；次根满时，六处明盛；依斯发触，因触起受；尔时乃名受果究竟。依此果位，立因为五。果位易了，差别相故，总立二支，以显三苦。然所生果若在未来，为生厌故，说生、老死；若至现在，为令了知，分位相生，说识等五。	
			丑五发业润生增减分二	寅一问	何缘发业总立无明，润业位中别立爱、取？		
				寅二分二	卯一答初问	虽诸烦恼皆能发、润，而发业位无明力增，以具十一殊胜事故。谓所缘等，广如经说。	
					卯二答后问	于润业位，爱力偏增，说爱如水，能沃润故。要数溉灌方生“有”芽。且依初、后，分爱、取二，无重发义，立一无明。虽取支中，摄诸烦恼，而爱润胜，说是爱增。	
			丑六约自他地问答		诸缘起支皆依自地？有所发行依他无明，如下无明发上地行。不尔，初伏下地染者，所起上定，应非行支，彼地无明犹未起故。		
			丑七约上下地问答		从上、下地生下、上者，彼缘何受而起爱支？彼爱亦缘当生地受，若现、若种，于理无违。		
			子三定世破邪			此十二支，十因、二果，定不同世。因中前七，与爱、取、有，或异或同。若二、三、七各定同世。如是十二，一重因果，足显轮转，及离断、常，施設两重，实为无用，或应过此，便致无穷。	
			子四诸门解释分十七	丑一假实门	此十二支义门别者：九实、三假。已润六支，合为有故；即识等五，三相位别，名生等故。		
	丑二一事非一事门	五是一事，谓无明、识、触、受、爱五；余非一事。					
	丑三染不染门	三唯是染，烦恼性故；七唯不染，异熟果故；七分位中容起染故，假说通二，余通二种。					
	丑四独杂分别门	无明、爱、取说名独相，不与余支相交杂故；余是杂相。					
	丑五色非色门	六唯非色，谓无明、识、触、受、爱、取；余通二种。					
	丑六有漏有为门	皆是有漏，唯有为摄。					
	丑七无漏无为门	无漏无为，非有支故。					
	丑八三性分别门	“无明”、“爱”、“取”，唯通不善、有覆无记；“行”唯善、恶；“有”通善、恶、无覆无记；余七唯是无覆无记。七分位中，亦起善、染。					
	丑九三界门	虽皆通三界，而有分、有全。					
	丑十能所治门	上地行支，能伏下地，即粗、苦等六种行相。有求上生，而起彼故。					
	丑十一学等分别门		一切皆唯非学、无学圣者所起有漏善业，明为缘故，违有支故，非有支摄。由此应知圣必不造感后有业，于后苦果不迷求故。杂修静虑，资下故业，生净居等，于理无违。				

表 7-12: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(8/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己二释生死相续难分三	庚三长行释分四 辛三第三复次分二 壬二以十二支释惑业苦分三	癸二广明十二支分四	子四诸门解释分十七	丑十二三断门分二	寅一第一师		有义：无明唯见所断，要迷谛理能发行故，圣必不造后有业故； 爱、取二支唯修所断，贪求当有而润生故，九种命终心俱生爱俱故；余九皆通见、修所断。
					寅二第二师分三	卯一标宗	有义：一切皆通二断。
						卯二申难	论说：预流果已断一切一分有支，无全断者故。 若无明支唯见所断，宁说预流无全断者？ 若爱、取支唯修所断，宁说彼已断一切支一分？ 又说全界一切烦恼，皆能结生，往恶趣行； 唯分别起烦恼能发； 不言润生，唯修所断，诸惑后有行，皆见所断发。
						卯三结申正义分二	辰一结三支
					辰二泛释一切断义		又染污法自性应断，对治起时彼永断故。 一切有漏不染污法，非性应断，不违道故。 然有二义说之为断： 一、离缚故，谓断缘彼杂、彼烦恼； 二、不生故，谓断彼依令永不起。 依离缚断，说有漏善、无覆无记，唯修所断； 依不生断说诸恶趣、无想定等，唯见所断。 说十二支通二断者，于前诸断，如应当知。
				丑十三三受俱门		十乐、舍俱，受不与受共相应故； 老死位中，多分无乐及容舍故。 十一苦俱，非受俱故。	
				丑十四三苦分别门		十一少分坏苦所摄，老死位中，多无乐受，依乐立坏，故不说之。 十二少分苦苦所摄，一切支中，有苦受故； 十二全分，行苦所摄，诸有漏法皆行苦故，依舍受说十一少分，除老死支，如坏苦说。 实义如是，诸圣教中，随彼相增，所说不定。	
				丑十五四谛门		皆苦谛摄，取蕴性故。五亦集谛摄，业烦恼性故。	
				丑十六四缘门分二	寅一约邻近顺次释		诸支相望，增上定有，余之三缘，有无不定。 契经依定，唯说有一。 爱望于取，有望于生，有因缘义。 若说识支是业种者，行望于识，亦作因缘。 余支相望，无因缘义。 而《集论》说，无明望行，有因缘者，依无明时，业习气说，无明俱故，假说无明，实是行种。 《瑜伽论》说，诸支相望无因缘者，依现爱、取，唯业有说。 无明望行、爱望于取、生望老死有余二缘。 有望于生、受望于爱，无等无间，有所缘缘。 余支相望，二俱非有。
					寅二思择隔越逆次		此中且依邻近、顺次、不相杂乱，实缘起说。 异此相望，为缘不定。诸聪慧者，如理应思。
				丑十七惑业苦摄支门分三	寅一正分别		惑、业、苦三摄十二者：无明、爱、取，是惑所摄； 行、有一分，是业所摄；七、有一分，是苦所摄。
					寅二会违文		有处说业全摄有者，应知彼依“业有”说故。 有处说识业所摄者，彼说业种为识支故。
					寅三释外问		惑、业所招独名苦者，唯苦谛摄，为生厌故。
				癸三总结支归三道			

表 7-13: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(9/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊一释违理分二 己二释生死相续难分三 庚三长行释分四 辛四第四复次分三	癸一总解颂文		复次, 生死相续, 由内因缘, 不待外缘, 故唯有识。	
	子一总举因缘体		因谓有漏、无漏二业正感生死, 故说为因; 缘谓烦恼、所知二障助感生死, 故说为缘。	
	丑一征		所以者何?	
	寅一总答数		生死有二:	
	癸二正解二死分二 子二出生死体分二 丑二释分二 寅二别解分二 卯二解变易分五	卯一解分段	一、分段生死, 谓诸有漏善、不善业, 由烦恼障缘助势力, 所感三界粗异熟果, 身命短长, 随因缘力, 有定齐限, 故名分段。	
			二、不思议变易生死, 谓诸无漏有分别业, 由所知障缘助势力, 所感殊胜细异熟果。	
			辰二释名兼辨得人分三	辰一不出体性
				巳一不思议变易名
				巳二意成身名
				巳三变化身名
			辰三释诸妨难分四	巳一二乘不入涅槃难
				巳二无漏道感果难
				巳三问答变易生所以
				巳四问答所知障助缘由
			辰四解二死别	
			辰五总结会违	
	癸三本文分二	子一正解		颂中所言诸业习气, 即前所说二业种子; 二取习气即前所说二障种子, 俱执着故。“俱”等余文, 义如前释。
		子二逐难解		变易生死, 虽无分段前后异熟别尽别生, 而数资助, 前后改转, 亦有前尽余复生义。 虽亦由现生死相续, 而种定有, 颂偏说之。 或为显示真异熟, 因果皆不离本识, 故不说现。 现异熟因, 不即与果。转识间断, 非异熟故。

表 7-14: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(10/14)

戊一释违理分二	己二释生死相续难分三			壬二因解净法相续			前、中、后际，生死轮回，不待外缘，既由内识，净法相续，应知亦然。												
	庚三长行释分四						谓无始来，依附本识，有、无漏种，由转识等，数数熏发，渐渐增胜，乃至究竟，得成佛时，转舍本来杂染识种，转得始起清净种识，任持一切功德种子。												
	辛四第四复次分三			壬三结归唯识			由此应知，唯有内识。												
丁三释诸妨难解唯识义分二	戊二释违教分二	庚一总问			若唯有识，何故世尊处处经中说有三性？														
		庚二略答			应知三性亦不离识。														
		庚三外人征			所以者何？														
		辛一举例				颂曰： 2 0 由彼彼遍计，遍计种种物，此遍计所执，自性无所有。 2 1 依他起自性，分别缘所生。圆成实于彼，常远离前性。 2 2 故此与依他，非异非不异，如无常等性，非不见此彼。													
						论曰：周遍计度，故名遍计； 品类众多，说为“彼彼”。谓能遍计虚妄分别。即由彼彼虚妄分别，遍计种种所遍计物：谓所妄执蕴、处、界等，若法、若我自性差别。此所妄执自性差别，总名遍计所执自性。如是自性，都无所有，理、教推征，不可得故。													
						寅一但解遍计分二	卯一第一师	或初句显能遍计识，第二句示所遍计境，后半方申遍计所执若我、若法自性非有，已广显彼不可得故。											
								巳一问		初能遍计，自性云何？									
										有义：八识及诸心所，有漏摄者，皆能遍计，虚妄分别为自性故；皆似所取、能取现故；说阿赖耶，以遍计所执自性，妄执种为所缘故。									
								卯一解第一颂及第二颂初句分三			未一安慧等解	申一标宗		有义：第六、第七心品执我、法者，是能遍计。					
														唯说意识能遍计故，意及意识名意识故；计度分别能遍计故；执我、法者必是慧故；二执必与无明俱故；不说无明有善性故；痴、无痴等不相应故；不见有执导空智故；执有、执无不俱起故；曾无有执非能熏故。					
												申二立证	有漏心等不证实故，一切皆名虚妄分别。虽似所取、能取相现，而非一切能遍计摄，勿无漏心亦有执故，如来后得应有执故。经说佛智现身、土等种种影像，如镜等故，若无缘用应非智等。虽说藏识缘遍计种，而不说唯，故非诚证。由斯理趣，唯于第六、第七心品，有能遍计。						
													申三会违						

表 7-15: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(11/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊二释违教分二 己一释三自性不成难分四	庚四广说分二 辛二长行释分二 壬一释颂文分二 癸一别解颂文分三	子一辨三性分二	丑一遍计依他相对释分二	寅二广解与依他对明分二	卯一解第一颂及第二颂初句分三	辰一广能遍计分二	巳二答分二	午二广彼彼	识品虽二，而有二、三、四、五、六、七、八、九、十等遍计不同，故言“彼彼”。				
						辰二广所遍计			次所遍计自性云何？ 《摄大乘》说是依他起，遍计心等所缘缘故。 圆成实性宁非彼境？ 真非妄执所缘境故，依展转说亦所遍计。 遍计所执虽是彼境，而非所缘缘，故非所遍计。				
						辰三广所执与依他相对分二	巳一问		遍计所执，其相云何？与依他起，复有何别？				
							午一安慧等义分二	未一立宗	有义：三界心及心所，由无始来虚妄熏习，虽各体一，而似二生：谓见、相分，即能、所取。 如是二分，情有理无，此相说为遍计所执。 二所依体，实托缘生，此性非无，名依他起，虚妄分别缘所生故。				
								未二引证	云何知然？ 诸圣教说： 虚妄分别是依他起，二取名为遍计所执。				
							午二护法等说分四	未一标宗	有义：一切心及心所，由熏习力所变二分，从缘生故，亦依他起。 遍计依斯妄执定实有无、一异、俱不俱等，此二方名遍计所执。				
								未二引证	诸圣教说： 唯量、唯二、唯种种，皆名依他起故。 又相等四法、十一识等，论皆说为依他起摄故。				
								未三破斥	不尔，无漏后得智品二分，应名遍计所执。 许应圣智不缘彼生，缘彼智品应非道谛； 不许应知有漏亦尔。 又若二分是遍计所执，应如兔角等非所缘缘，遍计所执体非有故。 又应二分不熏成种，后识等生，应无二分。 又诸习气是相分摄，岂非有法能作因缘？ 若缘所生内相、见分，非依他起，二所依体，例亦亦然，无异因故。				
								未四结正	由斯理趣，众缘所生心、心所体及相、见分，有漏、无漏皆依他起。				
							卯二解第二颂第二句			依他众缘而得起故。 颂言： “分别缘所生”者，应知且说染分依他，净分依他亦圆成故。 或诸染净心、心所法，皆名分别，能缘虑故。 是则一切染、净依他，皆是此中依他起摄。			
						丑二圆成实性分二	寅一解第二颂第三句			二空所显圆满成就，诸法实性，名圆成实。 显此遍、常，体非虚谬，简自、共相、虚空、我等。 无漏有为，离倒、究竟、胜用周遍，亦得此名。 然今颂中，说初非后。			
							寅二解于彼言及第四句分二	卯一总解		此即于彼依他起上，常远离前遍计所执，二空所显真如为性。			
								卯二别解		说“于彼”言： 显圆成实与依他起，不即不离； “常远离”言： 显妄所执能、所取性，理恒非有。 “前”言义显不空依他； “性”显二空非圆成实，真如离有离无性故。			



表 7-16: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(12/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊二释违教分二 己一释三自性不成难分四 庚四广说分二 辛二长行释分二	壬一释颂文分二	癸一别解颂文分三	子二辨不异一分三	丑一解法	由前理故，此圆成实与彼依他起，非异非不异。 异应真如非彼实性； 不异此性应是无常。 彼此俱应净、非净境，则本后智，用应无别。	
				丑二解喻	云何二性，非异非一？ 如彼无常、无我等性。 无常等性与行等法异，应彼法非无常等； 不异此应非彼共相。	
				丑三结成	由斯喻显，此圆成实与彼依他，非一非异，法与法性，理必应然，胜义、世俗，相待有故。	
			子三辨证见前后分二	丑一总解	非不证见此圆成实，而能见彼依他起性。	
				丑二所以分二	寅一所以	未达遍计所执性，空不如实知，依他有故。 无分别智证真如已，后得智中，方能了达依他起性如幻事等。
					寅二成前	虽无始来心、心所法，已能缘自相、见分等，而我、法执恒俱行故，不如实知。 众缘所引自心、心所，虚妄变现，犹如幻事、阳焰、梦境、镜像、光影、谷响、水月。 变化所成，非有似有。 依如是义，故有颂言： “非不见真如，而能了诸行，皆如幻事等，虽有而非真。”
		癸二总解颂意分三		子一总	此中意说： 三种自性，皆不远离心、心所法。	
				子二别	谓心、心所及所变现，众缘生故，如幻事等，非有、似有，诳惑愚夫，一切皆名依他起性。 愚夫于此横执我法、有无、一异、俱不俱等，如空花等，性相都无，一切皆名遍计所执。 依他起上，彼所妄执我、法俱空，此空所显识等真性，名圆成实。	
				子三总结	是故此三，不离心等。	
		壬二诸门解释分二	癸一以十一门辨分十一	子一无相门分二	丑一问	虚空、择灭、非择灭等，何性摄耶？
丑二答分二	寅一略总答				三皆容摄：	
	寅二别答				心等变似虚空等相，随心生故，依他起摄； 愚夫于中，妄执实有，此即遍计所执性摄； 若于真如，假施设有虚空等义，圆成实摄。 有漏心等，定属依他； 无漏心等，容二性摄。 众缘生故，摄属依他；无颠倒故，圆成实摄。	
子二真相门分二	丑一问			寅一出七体	如是三性与七真如，云何相摄？ 七真如者： 一、流转真如，谓有为法，流转实性； 二、实相真如，谓二无我，所显实性； 三、唯识真如，谓染净法，唯识实性； 四、安立真如，谓苦实性； 五、邪行真如，谓集实性； 六、清净真如，谓灭实性； 七、正行真如，谓道实性。	
					寅二明相摄	此七实性，圆成实摄，根本、后得二智境故； 随相摄者，流转、苦、集三，前二性摄，妄执杂染故； 余四皆是圆成实摄。
	子三三性六法相摄门			三性六法，相摄云何？ 彼六法中，皆具三性。 色、受、想、行、识及无为，皆有妄执缘生理故。		

表 7-17: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(13/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊二释违教分二 己一释三自性不成难分四 庚四广说分二 辛二长行释分二	壬二诸门解释分二 癸一以十一门辨分十一	子四五事相摄门分二	丑一问	卯一总答不定		三性五事，相摄云何？ 诸圣教说，相摄不定：	
				寅一相名等五事分三	卯二别示圣教异说分四	辰一瑜伽等说	谓或有处，说依他起摄彼相、名、分别、正智； 圆成实性摄彼真如； 遍计所执不摄五事。 彼说有漏心、心所法，变似所诠，说名为相； 似能诠现，施设为名； 能变心等，立为分别； 无漏心等，离戏论故，但总名正智，不说能、所诠。 四从缘生，皆依他摄。
			辰二中边说			或复有处说依他起摄相、分别； 遍计所执，唯摄彼名；正智、真如，圆成实摄。 彼说有漏心及心所相分名相，余名分别； 遍计所执，都无体故，为显非有，假说为名； 二无倒故，圆成实摄。	
			辰三十卷楞伽说			或有处说，依他起性唯摄分别； 遍计所执，摄彼相、名； 正智、真如，圆成实摄。 彼说有漏心及心所相、见分等，总名分别，虚妄分别为自性故，遍计所执，能诠、所诠，随情立为名、相二事。	
			辰四世亲摄论说			复有处说，名属依他起性，义属遍计所执。 彼说有漏心、心所法相、见分等，由名势力成所遍计，故说为名； 遍计所执，随名横计，体实非有，假立义名。	
			卯三会违依瑜伽		诸圣教中所说五事，文虽有异，而义无违。 然初所说不相杂乱，如《瑜伽论》广说应知。		
			寅二所等事五分	卯二答分四	卯一问		又圣教中说有五相，此与三性相摄云何？
					辰一相摄能所诠	所诠、能诠各具三性：谓妄所计，属初性摄； 相、名、分别，随其所应，所诠、能诠，属依他起； 真如、正智，随其所应，所诠、能诠，属圆成实， 后得变似能诠相故。	
						辰二相摄相属	二相属相，唯初性摄，妄执义、名，定相属故。
						辰三相摄执着	彼执着相，唯依他起，虚妄分别为自性故。
						辰四相摄不执门	不执着相，唯圆成实，无漏智等为自性故。
			子五四法相摄门分二	丑一问		又圣教中说四真实，与此三性相摄云何？	
		丑二释相摄分二		寅一瑜伽说	世间、道理所成真实，依他起摄；三事摄故； 二障净智所行真实，圆成实摄；二事摄故。		
			寅二中边说		《辩中边论》说初真实唯初性摄，共所执故； 第二真实通属三性，理通执无执，杂染、清净故； 后二真实唯属第三。		
		子六四谛相摄门分二	丑二答分三	丑一问		三性四谛，相摄云何？	
				寅一略		四中一一皆具三性。	
				寅二广分七	卯一苦谛无常	且苦谛中无常等四各有三性。 无常三者： 一、无性无常，性常无故； 二、起尽无常，有生灭故； 三、垢净无常，位转变故。	
		卯二苦三种	苦有三者： 一、所取苦，我、法二执所依取故； 二、事相苦，三苦相故； 三、和合苦，苦相合故。				

表 7-18: (19 表) 丁三释诸妨难解唯识义分二【卷八】(14/14)

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊二释违教分二 己一释三自性不成难分四 庚四广说分二 辛二长行释分二 壬二诸门解释分二	癸一以十一门辨分十一	子六四谛相摄门分二	丑二答分三	寅二广分七	卯三空三种	空有三者： 一、无性空，性非有故； 二、异性空，与妄所执自性异故； 三、自性空，二空所显为自性故。	
					卯四无我三种	无我三者： 一、无相无我，我相无故； 二、异相无我，与妄所执我相异故； 三、自相无我，无我所显为自相故。	
					卯五集谛三种	集谛三者： 一、习气集，谓遍计所执自性执习气，执彼习气假立彼名； 二、等起集，谓业、烦恼； 三、未离系集，谓未离障真如。	
					卯六灭谛三种	灭谛三者： 一、自性灭，自性不生故； 二、二取灭，谓择灭二取不生故； 三、本性灭，谓真如故。	
					卯七道谛三种	道谛三者： 一、遍知道，能知遍计所执故； 二、永断道，能断依他起故； 三、作证道，能证圆成实故。 然遍知道，亦通后二。	
			寅三总结	七三三性，如次配释。 今于此中，所配三性，或假或实，如理应知。			
		子七三法相摄门					三解脱门所行境界，与此三性相摄云何？ 理实皆通，随相各一。 空、无愿、相，如次应知。 缘此复生三无生忍： 一、本性无生忍； 二、自然无生忍； 三、惑苦无生忍。如次此三，是彼境故。
		子八二法相摄门					此三云何摄彼二谛？ 应知世俗具此三种：胜义唯是圆成实性。 世俗有三： 一、假世俗；二、行世俗；三、显了世俗。 如次应知即此三性。 胜义有三：一、义胜义，谓真如，胜之义故； 二、得胜义，谓涅槃，胜即义故； 三、行胜义，谓圣道，胜为义故。 无变、无倒，随其所应，故皆摄在圆成实性。
		子九凡圣智境门					如是三性，何智所行？ 遍计所执，都非智所行，以无自体，非所缘缘故。 愚夫执有，圣者达无，亦得说为凡、圣智境。 依他起性，二智所行。圆成实性，唯圣智境。
		子十假实分别门					此三性中，几假几实？ 遍计所执，妄安立故，可说为假；无体相故，非假非实。 依他起性，有实有假：聚集、相续、分位性故，说为假有； 心、心所、色，从缘生故，说为实有。 若无实法，假法亦无，假依实因而施設故。 圆成实性，唯是实有，不依他缘而施設故。
		子十一三性对辨异不异门					此三为异？为不异耶？ 应说俱非，无别体故；妄执、缘起、真义别故。
		癸二总结止繁					如是三性，义类无边，恐厌繁文，略示纲要。

表 7-19：（19 表）丁三释诸妨难解唯识义分二【卷九】（1/12）

丁三释诸妨难解唯识义分二 戊二释违教分二	己二释三无性不成难分三 【卷九】	庚一问起			若有三性，如何世尊说一切法皆无自性？
		庚二举颂答			颂曰： 2 3 即依此三性，立彼三无性，故佛密意说，一切法无性。 2 4 初即相无性，次无自然性，后由远离前，所执我法性， 2 5 此诸法胜义，亦即是真如，常如其性故，即唯识实性。
		庚三长行释三无性分二	辛一解总答意分二	壬一解前后说	论曰：即依此前所说三性，立彼后说三种无性，谓即相、生、胜义无性，故佛密意说一切法皆无自性，非性全无。
				壬二释密意言	说“密意”言显非了义，谓后二性虽体非无，而有愚夫于彼增益，妄执实有我、法自性，此即名为遍计所执。 为除此执，故佛世尊于有及无，总说无性。
		辛二解三无性分三		壬一问起	云何依此而立彼三？
				壬二解释	谓依此初遍计所执立相无性，由此体相毕竟非有，如空华故。 依次依他立生无性，此如幻事托众缘生，无如妄执自然性故，假说无性，非性全无。 依后圆成实立胜义无性，谓即胜义由远离前遍计所执我、法性，故假说无性，非性全无。 如太虚空虽遍众色，而是众色无性所显。
				壬三释依他胜义无性不说由	虽依他起非胜义故，亦得说为胜义无性，而滥第二，故此不说。

表 8：（1 表）乙二明唯识性分二【卷九】（2/12）

科判			正文
乙二明唯识性分二	丙一解第二十五颂唯识真性分二	丁一释初三句	此性即是诸法胜义，是一切法胜义谛故。 然胜义谛略有四种： 一、世间胜义，谓蕴、处、界等； 二、道理胜义，谓苦等四谛； 三、证得胜义，谓二空真如； 四、胜义胜义，谓一真法界。 此中胜义依最后说，是最胜道所行义故，为简前三，故作是说。 此诸法胜义亦即是真如，真谓真实，显非虚妄，如谓如常，表无变易，谓此真实于一切位常如其性，故曰真如。 即是湛然不虚妄义，“亦”言显此复有多名，谓名法界及实际等，如余论中随义广释。
		丁二释第四句	此性即是唯识实性，谓唯识性略有二种： 一者虚妄，谓遍计所执； 二者真实，谓圆成实性，为简虚妄说“实性”言。 复有二性： 一者世俗，谓依他起； 二者胜义，谓圆成实，为简世俗故说“实性”。
	丙二总释二十三至二十五颂意		三颂总显诸契经中说无性言非极了义，诸有智者不应依之总拔诸法都无自性。

表 9-1：(20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(3/12)

科判				正文			
丙一结上显后所明分三	丁一结上示三问			如是所成唯识相、性，谁于几位、如何悟入？			
	丁二略答			谓具大乘二种姓者，略于五位渐次悟入。			
	丁三别问别答广前略答分三	戊一广能入人		何谓大乘二种种姓？ 一、本性住种姓，谓无始来依附本识，法尔所得无漏法因。 二、习所成种姓，谓闻法界等流法已，闻所成等熏习所成。 要具大乘此二种姓，方能渐次悟入唯识。			
		戊二广所入位		何谓悟入唯识五位？ 一、资粮位，谓修大乘顺解脱分。 二、加行位，谓修大乘顺决择分。 三、通达位，谓诸菩萨所住见道。 四、修习位，谓诸菩萨所住修道。 五、究竟位，谓住无上正等菩提。			
		戊三广入方便		云何渐次悟入唯识？ 谓诸菩萨于识相、性，资粮位中能深信解； 在加行位能渐伏除所取、能取，引发真见； 在通达位如实通达； 修习位中如所见理，数数修习伏断余障； 至究竟位出障圆明，能尽未来化有情类，复令悟入唯识相、性。			
乙三明唯识位分二	戊一问起			初资粮位，其相云何？			
	戊二举颂答			颂曰： 2 6 乃至未起识，求住唯识性，于二取随眠，犹未能伏灭。			
	庚一略解颂文分二	辛一释上二句		论曰：从发深固大菩提心，乃至未起顺决择识，求住唯识真胜义性，齐此皆是资粮位摄，为趣无上正等菩提，修习种种胜资粮故。 为有情故，勤求解脱，由此亦名顺解脱分。			
		辛二释下二句分二	壬一解渐次释第四句	此位菩萨依因、善友、作意、资粮四胜义力故，于唯识义虽深信解，而未能了能、所取空，多住外门修菩萨行，故于二取所引随眠，犹未有能伏灭功力，令彼不起二取现行。			
			壬二释第三句	此“二取”言显二取取，执取“能取”、“所取”性故。二取习气名彼随眠，随逐有情，眠伏藏识，或随增过，故名随眠。即是所知、烦恼障种。			
	己一别释颂文分二	庚二广二取随眠分五	辛一出体释名分二	壬一释烦恼障分二	癸一出体	烦恼障者，谓执遍计所执实我，萨迦耶见而为上首，百二十八根本烦恼，及彼等流诸随烦恼。	
				癸二释名	此皆烦恼有情身、心，能障涅槃，名烦恼障。		
		辛一出体释名分二	癸一出体		所知障者，谓执遍计所执实法，萨迦耶见而为上首，见、疑、无明、爱、恚、慢等。		
			癸二释名		覆所知境无颠倒性，能障菩提，名所知障。		
			癸三八识分别因破异执		此所知障，决定不与异熟识俱，彼微劣故，不与无明、慧相应故，法空智品与俱起故。七转识内，随其所应或多或少，如烦恼说。眼等五识无分别故，法见、疑等定不相应，余由意力皆容引起。		
			癸四三性分别遮外计		此障但与不善、无记二心相应，论说无明唯通不善、无记性故，痴、无痴等不相应故。烦恼障中此障必有，彼定用此为所依故，体虽无异而用有别。故二随眠，随圣道用有胜有劣，断惑前后。此于无覆无记性中，是异熟生，非余三种。彼威仪等势用薄弱，非覆所知，障菩提故。此名无覆，望二乘说，若望菩萨亦是有覆。		

表 9-2: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(4/12)

乙 三明唯识位分二 丙 二举颂正释五位分五	丁 一资粮位分三	戊 三长行释分二	己 一别释颂文分二	庚 二广二取随眠分五	辛 一出体释名分二	壬 二释所知障分五	癸 五释诸妨难	若所知障有见、疑等，如何此种，契经说为无明住地？无明增故，总名无明，非无见等。 如烦恼种立见一处、欲、色、有爱四住地名，岂彼更无慢、无明等。					
					辛 二见修分别			如是二障分别起者，见所断摄； 任运起者，修所二断摄。					
					辛 三约人分别			二乘但能断烦恼障，菩萨俱断。					
					辛 四伏断分别			永断二种，唯圣道能；伏二现行，通有漏道。					
					辛 五结归本颂			菩萨住此资粮位中，二粗现行虽有伏者，而于细者及二随眠，止、观力微，未能伏灭。					
			己 二辨位修行分二	庚 一辨位		此位未证唯识真如，依胜解力修诸胜行，应知亦是解行地摄。							
				辛 二答分二	辛 一问		所修胜行其相云何？						
					壬 一显二种分二	癸 一辨福智行		略有二种：谓福及智，诸胜行中慧为性者皆名为智，余名为福。 且依六种波罗蜜多，通相皆二，别相前五说为福德，第六智慧；或复前三唯福德摄，后一唯智；余通二种。					
						癸 二辨二种利行		复有二种： 谓利自、他所修胜行，随意乐力一切皆通自他利行，依别相说，六到彼岸、菩提分等，自利行摄； 四种摄事、四无量等，一切皆是利他行摄。 如是等行差别无边，皆是此中所修胜行。					
					壬 二明德行			此位二障虽未伏除，修胜行时有三退屈，而能三事练磨其心，于所证、修勇猛不退： 一、闻无上正等菩提广大深远，心便退屈，引他已证大菩提者，练磨自心勇猛不退。 二、闻施等波罗蜜多甚难可修，心便退屈，省己意乐能修施等，练磨自心勇猛不退。 三、闻诸佛圆满，转依极难可证，心便退屈，引他粗善况已妙因，练磨自心勇猛不退。 由斯三事练磨其心，坚固炽然，修诸胜行。					
			丁 二加行位分三	戊 三长行释分十	戊 一问起			次加行位，其相云何？					
					戊 二举颂答			颂曰： 2 7 现前立少物，谓是唯识性，以有所得故，非实住唯识。					
					己 一显位所由	论曰：菩萨先于初无数劫，善备福德、智慧资粮。 顺解脱分既圆满已，为入见道住唯识性，复修加行，伏除二取，谓暖、顶、忍、世第一法。							
						己 二释位总名	此四总名顺决择分，顺趣真实决择分故。 近见道故立加行名，非前资粮无加行义。						
							暖等四法，依四寻思、四如实智初后位立。 四寻思者，寻思名、义、自性、差别，假有实无。 如实遍知此四离识及识非有，名如实智，名、义相异，故别寻求，二二相同，故合思察。						
					己 四释四地名分四	庚 一明得定		依明得定，发下寻思，观无所取，立为暖位。 谓此位中，创观所取名等四法皆自心变，假施设有，实不可得。 初获慧日前行相故，立明得名，即此所获道火前相，故亦名暖。					
						庚 二明增定		依明增定，发上寻思，观无所取，立为顶位。 谓此位中，重观所取名等四法皆自心变，假施设有，实不可得。 明相转盛，故名明增，寻思位极，故复名顶。					
						庚 三印顺定		依印顺定，发下如实智，于无所取决定印持，无能取中亦顺乐忍。 既无实境离能取识，宁有实识离所取境？ 所取、能取相待立故。 印顺忍时总立为忍，印前顺后立印顺名，忍境、识空故亦名忍。					

表 9-3: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(5/12)

乙三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五	丁二加行位分三	戊三长行释分十	己四释四地名分四		庚四无间定	依无间定，发上如实智，印二取空，立世第一法。谓前上忍唯印能取空，今世第一法二空双印，从此无间必入见道故，立无间名，异生法中此最胜故，名世第一法。	
			己五总摄上义释本颂文				如是暖、顶依能取识观所取空，下忍起时印境空相；中忍转位，于能取识如境是空，顺乐忍可；上忍起位印能取空；世第一法双印空相，皆带相故未能证实。故说菩萨此四位中。犹于现前安立少物，谓是唯识真胜义性，以彼空、有二相未除，带相观心有所得故，非实安住真唯识理。彼相灭已方实安住。依如是义，故有颂言：“菩萨于定位，观影唯是心，义相既灭除，审观唯自想。如是住内心，知所取非有，次能取亦无，后触无所得。”
			己六断二缚位				此加行位未遣相缚，于粗重缚亦未能断，唯能伏除分别二取，违见道故。于俱生者及二随眠，有漏观心有所得故，有分别故，未全伏除，全未能灭。
			己七明所观境				此位菩萨于安立谛、非安立谛俱学观察，为引当来二种见故，及伏分别二种障故，非安立谛是正所观，非如二乘唯观安立。
			己八辨所依处				菩萨起此暖等善根，虽方便时通诸静虑，而依第四方得成满，托最胜依入见道故。
			己九界趣分别				唯依欲界善趣身起，余慧、厌心非殊胜故。
			己十七地分别				此位亦是解行地摄，未证唯识真胜义故。
			戊一问起				
	戊二举颂答					颂曰： 28 若时于所缘，智都无所得，尔时住唯识，离二取相故。	
	丁三通达位分三	戊三长行释分二	己一略解本颂				论曰： 若时菩萨于所缘境，无分别智都无所得，不取种种戏论相故，尔时乃名实住唯识真胜义性，即证真如智与真如平等平等，俱离能取、所取相故，能、所取相，俱是分别，有所得心，戏论现故。
			庚一广正智分三	辛一相见俱无师		有义： 此智二分俱无，说无所取、能取相故。	
				辛二相见俱有师		有义： 此智相、见俱有，带彼相起名缘彼故，若无彼相名缘彼者，应色智等，名声等智，若无见分应不能缘，宁可说为缘真如智？ 勿真如性亦名能缘，故应许此定有见分。	
				辛三相无见有师		有义： 此智见有相无，说无相取，不取相故，虽有见分而无分别，说非能取，非取全无。 虽无相分，而可说此带如相起，不离如故。 如自证分缘见分时不变而缘，此亦应尔； 变而缘者便非亲证，如后得智应有分别，故应许此有见无相。	
			庚二释位及见道名				加行无间此智生时，体会真如，名通达位；初照理故，亦名见道。

表 9-4：（20 表）乙三明唯识位分二【卷九】（6/12）

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 三 通 达 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 二 广 释 分 四	庚 三 解 见 道 真 相 差 别 分 二	辛 一 辨 真 相 差 别 分 二	壬 二 别 解 分 二	壬一总标		然此见道，略说有二。			
								癸一释真见道	一、真见道，谓即所说无分别智，实证二空所显真理，实断二障分别随眠，虽多刹那事方究竟，而相等故，总说一心。 有义： 此中二空、二障渐证、渐断，以有浅深、粗细异故。 有义： 此中二空、二障顿证、顿断，由意乐力有堪能故。				
									丑一总标			二、相见道，此复有二。	
									卯一辨三分四	辰一释相		一、观非安立谛有三品心： 一、内遣有情假缘智，能除软品分别随眠； 二、内遣诸法假缘智，能除中品分别随眠； 三、遍遣一切有情、诸法假缘智，能除一切分别随眠。	
										辰二配智		前二名法智，各别缘故。 第三名类智，总合缘故。	
								辰三放学		法真见道二空见分自所断障无间、解脱，别总建立，名相见道。			
								辰四净真相		有义：此三是真见道，以相见道缘四谛故。 有义：此三是相见道，以真见道不别缘故。			
								寅一辨行相相见道分二	辰一总标		二、缘安立谛有十六心，此复有二。		
									巳一约能所缘分二	午一标		一者依观所取、能取，别立法、类十六种心。	
										午二释		谓于苦谛有四种心： 一、苦法智忍，谓观三界苦谛真如，正断三界见苦所断二十八种分别随眠。 二、苦法智，谓忍无间观前真如，证前所断烦恼解脱。 三、苦类智忍，谓智无间无漏慧生，于法忍、智各别内证，言后圣法皆是此类。 四、苦类智，谓此无间无漏智生，审定、印可苦类智忍。 如于苦谛有四种心，集、灭、道谛应知亦尔。 此十六心，八观真如，八观正智。 法真见道无间、解脱见、自证分差别建立，名相见道。	
									二者依观下、上谛境，别立法、类十六种心。				
									巳二约上境下别分二	午一标		谓观现前、不现前界，苦等四谛各有二心，一现观忍、二现观智，如其所应法真见道，无间、解脱见分观谛，断见所断百一十二分别随眠，名相见道。	
										午二释			
									寅二辨言教相见道分三	卯一标		若依广布圣教道理，说相见道有九种心。	
										卯二释		此即依前缘安立谛二十六种，止、观别立，谓法类品忍、智合说各有四观，即为八心，八相应止，总说为一，虽见道中止观双运，而于见义观顺非止，故此观、止开合不同，由此九心名相见道。	
										卯三总释		诸相见道依真假说，世第一法无间而生及断随眠，非实如是，真见道后方得生故，非安立后起安立故。分别随眠真已断故。 前真见道证唯识性，后相见道证唯识相，二中初胜，故颂偏说，前真见道根本智摄，后相见道后得智摄。	



表 9-5: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(7/12)

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 三 通 达 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 二 广 释 分 四	庚 三 解 见 道 真 相 差 别 分 二	辛 一 辨 真 相 差 别 分 二	壬 二 别 解 分 二	癸 二 释 相 见 道 分 二	子 二 因 释 后 得 智 分 二	丑 一 问		诸后得智有二分耶?		
										寅 一 二 分 俱 无 师	有义: 俱无, 离二取故。			
											寅 二 唯 见 无 相 师	有义: 此智见有相无, 说此智品有分别故, 圣智皆能亲照境故, 不执着故, 说离二取。		
										丑 二 答 分 三	寅 三 二 分 俱 有 义 分 三	卯 一 立 义	有义: 此智二分俱有。	
												卯 二 引 证 分 二	辰 一 引 教	说此思惟似真如相, 不见真实真如性故。又说此智分别诸法自、共相等, 观诸有情根性差别而为说故。又说此智现身、土等, 为诸有情说正法故, 若不变现似色、声等, 宁有现身说法等事?
													辰 二 引 理	转色蕴依不现色者, 转四蕴依应无受等。又若此智不变似境, 离自体法应非所缘, 缘色等时应缘声等, 又缘无法等应无所缘缘, 彼体非实无缘用故。
											卯 三 总 结		由斯后智二分俱有。	
										壬 一 问		此二见道与六现观相摄云何?		
						辛 二 与 六 现 观 相 摄 分 二	壬 二 答 分 二	癸 一 示 六 现 观 分 六	子 一 思 现 观		六现观者: 一、思现观, 谓最上品喜受相应, 思所成慧, 此能观察诸法共相, 引生暖等, 加行道中观察诸法此用最猛, 偏立现观, 暖等不能广分别法, 又未证理故非现观。			
									子 二 信 现 观		二、信现观, 谓缘三宝世、出世间决定净信, 此助现观令不退转, 立现观名。			
									子 三 戒 现 观		三、戒现观, 谓无漏戒除破戒垢令观增明, 亦名现观。			
									子 四 现 观 智 谛 现 观		四、现观智谛现观, 谓一切种缘非安立根本、后得无分别智。			
									子 五 现 观 边 智 谛 现 观		五、现观边智谛现观, 谓现观智谛现观后, 诸缘安立世、出世智。			
									子 六 究 竟 现 观		六、究竟现观, 谓尽智等究竟位智。			
							癸 二 正 辨 相 摄		此真见道摄彼第四现观少分, 此相见道摄彼第四、第五少分, 彼第二、三虽此俱起而非自性, 故不相摄。					
						庚 四 明 入 地 功 德					菩萨得此二见道时, 生如来家, 住极喜地, 善达法界, 得诸平等, 常生诸佛大集会中, 于多百门已得自在, 自知不久证大菩提, 能尽未来利乐一切。			
		丁 四 修 习 位 分 三	戊 一 问 起				次修习位其相云何?							
			戊 二 举 颂 答				颂曰: 29 无得不思议, 是出世间智, 舍二粗重故, 便证得转依。							
			戊 三 长 行 释 分 二	己 一 略 释 颂 文 分 二	庚 一 标		论曰: 菩萨从前见道起已, 为断余障, 证得转依, 复数修习无分别智。							
					庚 二 释 分 二	辛 一 释 上 三 句 分 三	壬 一 第 一 句		此智远离所取、能取, 故说无得及不思议; 或离戏论说为无得, 妙用难测名不思议。					
							壬 二 第 二 句		是出世间无分别智, 断世间故, 名出世间。二取随眠是世间本, 唯此能断独得“出”名。或出世名依二义立, 谓体无漏及证真如, 此智具斯二种义故, 独名“出世”, 余智不然, 即十地中无分别智。					
							壬 三 第 三 句		数修此故, 舍二粗重。二障种子立粗重名, 性无堪任, 违细、轻故, 令彼永灭, 故说为舍。					

表 9-6: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(8/12)

乙三明唯识位分二	己一略释颂文分二	庚二释分二	辛二释第四句分二	壬一总标		此能舍彼二粗重故，便能证得广大转依。					
				壬二别释分二	癸一二转得义		依谓所依，即依他起，与染、净法为所依故；染谓虚妄遍计所执；净谓真实圆成实性。转谓二分，转舍、转得。由数修习无分别智，断本识中二障粗重，故能转舍依他起上遍计所执，及能转得依他起中圆成实性。由转烦恼得大涅槃，转所知障证无上觉。成立唯识，意为有情证得如斯二转依果。				
					癸二唯得涅槃义分三	子一立义	或“依”即是唯识真如，生死、涅槃之所依故。				
						子二辨相	愚夫颠倒，迷此真如，故无始来受生死苦，圣者离倒，悟此真如，便得涅槃毕竟安乐。由数修习无分别智，断本识中二障粗重，故能转灭依如生死，及能转证依如涅槃，此即真如离杂染性。如虽性净而相杂染，故离染时假说新净，即此新净说为转依，修习位中断障证得。				
						子三通伏难	虽于此位亦得菩提，而非此中颂意所显，颂意但显转唯识性，二乘满位名解脱身，在大牟尼名法身故。				
	丙二举颂正释五位分五	丁四修习位分三	戊三长行释分二	庚一问		云何证得二种转依？					
				庚二略答		谓十地中修十胜行、断十重障、证十真如，二种转依由斯证得。					
				庚三次第广前略答分二	辛一广能证因分四	壬一广十地分三	癸一解十别名分十	子一极喜地	言十地者，一、极喜地，初获圣性，具证二空，能益自、他，生大喜故。		
								子二离垢地	二、离垢地，具净尸罗，远离能起微细毁犯烦恼垢故。		
								子三发光地	三、发光地，成就胜定，大法总持，能发无边妙慧光故。		
								子四焰慧地	四、焰慧地，安住最胜菩提分法，烧烦恼薪，慧焰增故。		
								子五极难胜地	五、极难胜地，真、俗两智行相互违，合令相应极难胜故。		
								子六现前地	六、现前地，住缘起智，引无分别最胜般若令现前故。		
								子七远行地	七、远行地，至无相住功用后边，出过世间二乘道故。		
								子八不动地	八、不动地，无分别智任运相续，相、用烦恼不能动故。		
								子九善慧地	九、善慧地，成就微妙四无碍解，能遍十方善说法故。		
								子十法云地	十、法云地，大法智云含众德水，蔽一切如空粗重，充满法身故。		
				癸二明体性	如是十地，总摄有为、无为功德以为自性。						
				癸三释地名	与所修行为胜依持，令得生长，故名为地。						
				壬二广十胜行分二	癸二广释分四	子一十三门分别分十三	癸一总举十行		十胜行者，即是十种波罗蜜多。		
							丑一辨类	施有三种：谓财施、无畏施、法施。 戒有三种：谓律仪戒、摄善法戒、饶益有情戒。 忍有三种：谓耐怨害忍、安受苦忍、谛察法忍。 精进有三种：谓被甲精进、摄善精进、利乐精进。 静虑有三种：谓安住静虑、引发静虑、办事静虑。 般若有三种：谓生空无分别慧、法空无分别慧、俱空无分别慧。 方便善巧有二种：谓回向方便善巧、拔济方便善巧。 愿有二种：谓求菩提愿、利乐他愿。 力有二种：谓思择力、修习力。 智有二种：谓受用法乐智、成熟有情智。			
								寅一自性	此十性者，施以无贪及彼所起三业为性； 戒以受学菩萨戒时三业为性； 忍以无瞋、精进、审慧及彼所起三业为性； 精进以勤及彼所起三业为性；静虑但以等持为性； 后五皆以择法为性，说是根本、后得智故。 有义：第八以欲、胜解及信为性，愿以此三为自性故。		
									寅二眷属		此说自性，若并眷属，一一皆以一切俱行功德为性。

表 9-7: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(9/12)

乙三明唯识位分二	庚三次第广前略答分二	辛一广能证因分四	壬二广十胜行分二	癸二广释分四	子一十三门分别分十三	己二广前颂分三	丑三明相分四	寅一标	此十相者，要七最胜之所摄受，方可建立波罗蜜多。	
								寅二释	一、安住最胜，谓要安住菩萨种性。二、依止最胜，谓要依止大菩提心。三、意乐最胜，谓要悲愍一切有情。四、事业最胜，谓要具行一切事胜。五、巧便最胜，谓要无相智所摄受。六、回向最胜，谓要回向无上菩提。七、清净最胜，谓要不为二障间杂。	
								寅三总结	若非此七所摄受者，所行施等非到彼岸。	
								寅四四句分别	由斯施等十对波罗蜜多，一一皆应四句分别。	
							丑四不增减门分三	寅一总解	此但有十不增减者，谓十地中对治十障、证十真如，无增减故。	
								寅二明说六所以	复次，前六不增减者，为除六种相违障故，渐次修行诸佛法故，渐次成熟诸有情故，此如余论广说应知。 又施等三增上生道，感大财体及眷属故； 精进等三决定胜道，能伏烦恼、成熟有情及佛法故，诸菩萨道唯有此二。 又前三种饶益有情，施彼资财、不损恼彼、堪忍彼恼而饶益故。精进等三对治烦恼，虽未伏灭，而能精勤修对治彼诸善加行，永伏永灭诸烦恼故。 又由施等不住涅槃，及由后三不住生死，为无住处涅槃资粮，由此前六不增不减。	
								寅三释立后四所以	后唯四者，为助前六令修满足不增减故，方便善巧助施等三，愿助精进，力助静虑，智助般若，令修满故，如《解深密》广说应知。	
								丑五明次第门	十次第者，谓由前前引发后后，及由后后持净前前。又前前粗，后后细故，易难修习次第如是。	
								丑六释名	释总别名如余处说。	
								丑七明修门	此十修者有五种修： 一、依止任持修；二、依止作意修；三、依止意乐修； 四、依止方便修；五、依止自在修。 依此五修，修习十种波罗蜜多皆得圆满，如《集论》等广说其相。	
								丑八摄门	此十摄者，谓十一一皆摄一切波罗蜜多，互相顺故，依修前行而引后者，前摄于后，必待前故，后不摄前，不待后故。 依修后行，持净前者，后摄于前，持净前故，前不摄后，非持净故。 若依纯杂而修习者，展转相望应作四句。	
								丑九问答开合门	此实有十而说六者，应知后四第六所摄，开为十者，第六唯摄无分别智，后四皆是后得智摄，缘世俗故。	
								丑十五果门	此十果者，有漏有四除离系果，无漏有四除异熟果。而有处说具五果者，或互相资或二合说。	
							丑十一三学相摄门分三	寅一戒学	十与三学互相摄者，戒学有三： 一、律仪戒，谓正远离所应离法； 二、摄善法戒，谓正修证应修证法； 三、饶益有情戒，谓正利乐一切有情。 此与二乘有共、不共，甚深广大，如余处说。	
								寅一出学名体分三	定学有四： 一、大乘光明定，谓此能发照了大乘理、教、行、果、智光明故。 二、集福王定，谓此自在集无边福，如王势力无等双故。 三、贤守定，谓此能守世、出世间贤善法故。 四、健行定，谓佛菩萨大健有情之所行故。 此四所缘、对治、堪能、引发、作业，如余处说。	
								寅三慧学	慧学有三： 一、加行无分别慧； 二、根本无分别慧；三、后得无分别慧。 此三自性、所依、因缘、所缘、行等，如余处说。	

表 9-8: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(10/12)

乙三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五 丁四修习位分三 戊三长行释分二 己二广前颂分三	庚三次第广前略答分二 辛一广能证因分四	壬二广十胜行分二	癸二广释分四	子一十三门分别分十三	丑十三相摄门分三	寅二五位分别门		如三慧，初二位中种具有三，现唯加行，于通达位现二种三，见道位中无加行故，于修习位七地已前，若种若现俱通三种。 八地以去现二种三，无功用道违加行故，所有进趣皆用后得，无漏观中任运起故，究竟位中现、种俱二，加行现、种俱已舍故。
						寅三正相摄门		若自性摄，戒唯摄戒，定摄静虑，慧摄后五。 若并助伴，皆具相摄。 若随用摄，戒摄前三，资粮、自体、眷属性故，定摄静虑，慧摄后五，精进三摄，遍策三故。 若随显摄，戒摄前四，前三如前，及守护故，定摄静虑，慧摄后五。
					丑十二五位现种相摄门		此十位者，五位皆具，修习位中其相最显，然初二位，顿悟菩萨种通二种，现唯有漏，渐悟菩萨若种若现、俱通二种，已得生空无漏观故。 通达位中，种通二种，现唯无漏。 于修习位七地已前，种、现俱通有漏无漏，八地以去种通二种，现唯无漏。 究竟位中，若现、若种俱唯无漏。	
					丑十三分位分别门		此十因位有三种名： 一名远波罗蜜多，谓初无数劫，尔时施等势力尚微，被烦恼伏，未能伏彼，由斯烦恼不觉现行。 二名近波罗蜜多，谓第二无数劫，尔时施等势力渐增，非烦恼伏，而能伏彼，由斯烦恼故意方行。 三名大波罗蜜多，谓第三无数劫，尔时施等势力转增，能毕竟伏一切烦恼，由斯烦恼永不现行，犹有所知微细现种及烦恼种，故未究竟。	
					子二指不繁文		此十义类差别无边，恐厌繁文，略示纲要。	
					子三地修度门		十于十地虽实皆修，而随相增，地地修一。	
					子四摄诸行		虽十地行有无量门，而皆摄在十到彼岸。	
					子一牒		十重障者：	
	壬三解十重障分二	癸一明重障分二	丑一异生性障分六	子二别解释十一障分十一	寅一出体	寅一异生性障		一、异生性障，谓二障中分别起者，依彼种立异生性故。
						寅二对三乘明同异		二乘见道现在前时，唯断一种，名得圣性，菩萨见道现在前时，具断二种，名得圣性。
						寅三明障道俱不俱		二真见道现在前时，彼二障种必不成就，犹明与暗定不俱生，如秤两头低昂时等，诸相违法理必应然，是故二性无俱成失。
					寅四释道别分二	卯一小乘难		无间道时已无惑种，何用复起解脱道为？
						卯二论主答分二	辰一不正义	断惑证灭，期心别故。
							辰二正义	为舍彼品粗重性故，无间道时虽无惑种，而未舍彼无堪任性，为舍此故，起解脱道，及证此品择灭无为。
					寅五障即二愚分三	卯一显摄法不尽		虽见道生亦断恶趣诸业果等，而今且说能起烦恼是根本故，由斯初地说断二愚及彼粗重。
						卯二正即二愚		一、执着我法愚，即是此中异生性障。 二、恶趣杂染愚，即是恶趣诸业果等。 应知愚品总说为愚，后准此释。 或彼唯说利、钝障品俱起二愚。
						卯三分别粗重		彼粗重言，显彼二种，或二所起无堪任性，如入二定说断苦根，所断苦根虽非现、种而名粗重，此亦应然，后粗重言，例此应释。

表 9-9: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(11/12)

乙三明唯识位分二	庚三次第广前略答分二	丑一异生性障分六	寅六以障即无明分五	卯一即所知无明		虽初地所断实通二障，而异生性障意取所知，说十无明非染污故； 无明即是十障品愚。
				卯二一切不即烦恼由		二乘亦能断烦恼障，彼是共故，非此所说。 又十无明不染污者，唯依十地修所断说。
				卯三烦恼不说由		虽此位中亦伏烦恼、断彼粗重，而非正意，不断随眠，故此不说。
				卯四约入心所断由		理实初地修道位中，亦断俱生、所知一分，然今且说最初断者，后九地断，准此应知。
				卯五住满断惑由		住、满地中时既淹久，理应进断所应断障，不尔三时道应无别，故说菩萨得现观已，复于十地修道位中，唯修永灭所知障道，留烦恼障助愿受生，非如二乘速趣圆寂，故修道位不断烦恼，将成佛时方顿断故。
	辛一广能证因分四	丑二邪障分二	寅一出体		二、邪行障，谓所知障中俱生一分及彼所起悞犯三业。	
			寅二示断位即二愚		彼障二地极净尸罗，入二地时便能永断，由斯二地说断二愚及彼粗重： 一、微细悞犯愚，即是此中俱生一分； 二、种种业趣愚，即彼所起悞犯三业，或唯起业不了业愚。	
		丑三暗钝障分三	寅一出体		三、暗钝障，谓所知障中俱生一分，令所闻、思、修法忘失。	
			寅二示所障		彼障三地胜定、总持及彼所发殊胜三慧，入三地时便能永断。	
	壬三解十重障分二	丑四微细烦恼现行障分三	寅二示所障分五	寅三即二愚		由斯三地说断二愚及彼粗重： 一、欲贪愚，即是此中能障胜定及修慧者，彼昔多与欲贪俱故，名欲贪愚，今得胜定及修所成，彼既永断，欲贪随伏，此无始来依彼转故。 二、圆满闻持陀罗尼愚，即是此中能障总持、闻、思慧者。
				寅一出体释名		四、微细烦恼现行障，谓所知障中俱生一分，第六识俱身见等摄，最下品故，不作意缘故，远随现行故，说名微细。
				卯一正释所障		彼障四地菩提分法，入四地时便能永断。
				卯二释烦恼得名		彼昔多与第六识中任运而生，执我见等同体起故，说烦恼名，今四地中既得无漏菩提分法，彼便永灭，此我见等亦永不行。
				卯三释永害二身见		初、二、三地行施、戒、修，相同世间，四地修得菩提分法方名出世，故能永害二身见等。
				卯四识体分别分二	辰一问	宁知此与第六识俱？
					辰二答	第七识俱执我见等，与无漏道性相违故，八地以去方永不行，七地已来犹得现起，与余烦恼为依持故，此粗彼细，伏有前后，故此但与第六相应。
				卯五释等言		“身见等”言亦摄无始所知障摄定爱、法爱。 彼定、法爱三地尚增； 入四地时方能永断，菩提分法特违彼故。
				寅三即二愚		由斯四地说断二愚及彼粗重。 一、等至爱愚，即是此中定爱俱者； 二、法爱愚，即是此中法爱俱者。 所知障摄二愚断故，烦恼二爱亦永不行。
				丑五下乘般涅槃障		五、于下乘般涅槃障，谓所知障中俱生一分，令厌生死乐趣涅槃，同下二乘厌苦欣灭。 彼障五地无差别道，入五地时便能永断。 由斯五地说断二愚及彼粗重： 一、纯作意背生死愚，即是此中厌生死者； 二、纯作意向涅槃愚，即是此中乐涅槃者。

表 9-10: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷九】(12/12)

乙 三 明 唯 识 位 分 二	庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二	丑 六 粗 相 现 行 障 分 三	寅一出体示所障			六、粗相现行障，谓所知障中俱生一分，执有染、净粗相现行，彼障六地无染、净道，入六地时便能永断。	
			寅二即二愚			由斯六地说断二愚及彼粗重。 一、现观察行流转愚，即是此中执有染者，诸行流转染分摄故； 二、相多现行愚，即是此中执有净者。	
			寅三释多分有相观之由			取净相故，相观多行，未能多时住无相观。	
	丑 七 细 相 现 行 障 分 三	寅一出体示所障			七、细相现行障，谓所知障中俱生一分，执有生灭细相现行，彼障七地妙无相道，入七地时便能永断。		
		寅二即二愚			由斯七地说断二愚及彼粗重。 一、细相现行愚，即是此中执有生者，犹取流转细生相故； 二、纯作意求无相愚，即是此中执有灭者，尚取还灭细灭相故。		
		寅三对前释空中有行			纯于无相作意勤求，未能空中起有胜行。		
	辛 一 广 能 证 因 分 四	丑 八 无 相 作 加 行 障 分 四	寅一出体		八、无相中作加行障，谓所知障中俱生一分，令无相观不任运起。		
			寅二辨障相		前之五地，有相观多，无相观少； 于第六地，有相观少，无相观多； 第七地中纯无相观，虽恒相续而有加行，由无相中有加行故，未能任运现相及土，如是加行障八地中无功用道； 故若得入第八地时便能永断。 彼永断故，得二自在。		
			寅三即二愚		由斯八地说断二愚及彼粗重。 一、于无相作功用愚； 二、于相自在愚，令于相中不自在故，此亦摄土、相一分故。		
			寅四显有		八地以上纯无漏道任运起故，三界烦恼永不现行，第七识中细所知障犹可现起，生空智果不违彼故。		
	壬 三 解 十 重 障 分 二	丑 九 利 他 中 不 欲 行 障 分 四	寅一出体			九、利他中不欲行障，谓所知障中俱生一分，令于利乐有情事中，不欲勤行，乐修己利。	
			寅二示所障			彼障九地四无阂解，入九地时便能永断。	
			寅 三 即 二 愚 分 二	卯一总		由斯九地说断二愚及彼粗重。	
				卯 二 别 分 二	辰 一 陀 罗 尼 自 在 愚 分 二	巳一标	一、于无量所说法、无量名句字、后后慧辩陀罗尼自在愚。
						巳二释	于无量所说法陀罗尼自在者，谓义无阂解，即于所诠总持自在，于一义中现一切义故。 于无量名句字陀罗尼自在者，谓法无阂解，即于能诠总持自在，于一名句字中现一切名句字故。 于后后慧辩陀罗尼自在者，谓词无阂解，即于言音展转训释总持自在，于一音声现一切音声故。
					辰二辩才自在愚		二、辩才自在愚，辩才自在者，谓辩无阂解，善达机宜巧为说故。
				寅四总结			愚能障此四种自在，皆是此中第九障摄。
	子 二 别 解 释 十 一 障 分 十 一	丑 十 诸 法 未 得 自 在 障 分 三	寅一出体		十、于诸法中未得自在障，谓所知障中俱生一分，令于诸法不得自在。		
			寅二示所障		彼障十地大法智云及所含藏、所起事业。		
			寅三即二愚		入十地时便能永断。由斯十地说断二愚及彼粗重。 一、大神通愚，即是此中障所起事业者； 二、悟入微细秘密愚，即是此中障大法智云及所含藏者。		
	丑 十一 因 释 佛 地 障 分 四		寅一标		此地于法虽得自在，而有余障，未名最极。		
			寅二显		谓有俱生微所知障，及有任运烦恼障种，金刚喻定现在前时，彼皆顿断，入如来地。		
			寅三即二愚		由斯佛地说断二愚及彼粗重： 一、于一切所知境极微细着愚，即是此中微所知障； 二、极微细碍愚，即是此中一切任运烦恼障种。		
			寅四引证		故《集论》说：得菩提时顿断烦恼及所知障，成阿罗汉及成如来，证大涅槃、大菩提故。		

表 9-11: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(1/11)

乙 三 明 唯 识 位 分 二  丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五  丁 四 修 习 位 分 三  戊 三 长 行 释 分 二  己 二 广 前 颂 分 三	庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二  辛 一 广 能 证 因 分 四	壬 三 解 十 重 障 分 二	癸 二 十 一 障 即 二 障 明 伏 断 位 次 分 三  【 卷 十 】	子 一 总 明 现 种 伏 断 位 次 分 二	丑一总即二释			此十一障，二障所摄。			
					寅一明二障伏断位次分二	卯一烦恼障分二	辰一 一见所断		烦恼障中见所断种，于极喜地见道初断。彼障现起，地前已伏。		
							辰二 修所断		修所断种，金刚喻定现在前时，一切顿断。彼障现起，地前渐伏，初地以上，能顿伏尽，令永不行，如阿罗汉。由故意力，前七地中虽暂现起，而不为失。八地以上，毕竟不行。		
						卯二所知障分二	辰一 一见所断		所知障中见所断种，于极喜地见道初断。彼障现起，地前已伏。		
							辰二修所断分三	巳一 释伏断位	修所断种，于十地中，渐次断灭；金刚喻定现在前时，方永断尽。彼障现起，地前渐伏；乃至十地，方永伏尽。		
								巳二 分别八地以上现行	八地以上，六识俱者，不复现行，无漏观心，及果相续，能违彼故，第七俱者，犹可现行，法空智果起位方伏。		
							巳三 释前五识相应伏位		前五转识，设未转依，无漏伏故，障不现起。		
						寅二妨难分二	卯一 一会违教难		虽于修道十地位中，皆不断灭烦恼障种，而彼粗重，亦渐断灭。由斯故说二障粗重，一一皆有三位断义。		
							卯二 二会粗重地地断难		虽诸位中，皆断粗重；而三位显，是故偏说。		
						丑二别解释分二	丑一问			断二障种，渐、顿云何？	
							寅一 释第七相应二障顿断	第七识俱烦恼障种，三乘将得，无学果时，一刹那中，三界顿断。所知障种，将成佛时，一刹那中，一切顿断，任运内起，无粗细故。			
					寅二 释余六相应顿断分二			卯一 烦恼障		余六识俱烦恼障种，见所断者，三乘见位真见道中，一切顿断；修所断者，随其所应：一类二乘，三界九地，一一渐次，九品别断；一类二乘，三界九地，合为一聚，九品别断；菩萨要起金刚喻定，一刹那中，三界顿断。	
							卯二 所知障		所知障种，初地初心，顿断一切见所断者。修所断者，后于十地修道位中，渐次而断，乃至正起金刚喻定，一刹那中方皆断尽。通缘内外粗细境生，品类差别有众多故。		
					子三辨三乘四道同异分二		丑一 约二乘释		二乘根钝，渐断障时，必各别起无间、解脱；加行、胜进，或别或总。		
						丑二 约菩萨释		菩萨利根，渐断障位，非要别起无间、解脱，刹那刹那能断证故。加行等四，刹那刹那前后相望，皆容具有。			
					壬 四 明 所 证 如 分 四	癸一总牒			十真如者：		
						癸二别解分十	子一 遍行真如		一、遍行真如：谓此真如二空所显，无有一法而不在故。		
							子二 最胜真如		二、最胜真如：谓此真如具无边德，于一切法最为胜故。		
							子三 胜流真如		三、胜流真如：谓此真如所流教法，于余教法极为胜故。		
							子四 无摄受真如		四、无摄受真如：谓此真如无所系属，非我执等所依取故。		
							子五 类无别真如		五、类无别真如：谓此真如类无差别，非如眼等类有异故。		
							子六 无染净真如		六、无染净真如：谓此真如本性无染，亦不可说后方净故。		
							子七 法无别真如		七、法无别真如：谓此真如虽多教法，种种安立而无异故。		
						子八 不增减真如		八、不增减真如：谓此真如离增减执，不随净染有增减故。即此亦名相土自在所依真如：谓若证得此真如已，现相、现土俱自在故。			

表 9-12: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(2/11)

乙三明唯识位分二	辛一广能证因分四	壬四明所证如分四	癸二别解分十	子九智自在所依真如			九、智自在所依真如： 谓若证得此真如已，于无碍解得自在故。					
				子十业自在等所依真如			十、业自在等所依真如： 谓若证得此真如已，普于一切神通作业、总持定门皆自在故。					
			癸三释防难			虽真如性实无差别，而随胜德假立十种。						
			癸四废立			虽初地中已达一切，而能证行，犹未圆满，为令圆满，后后建立。						
	辛二明所证果分二	壬二正明所证得果分二	壬一牒前生下以发论端						如是菩萨于十地中，勇猛修行十种胜行，断十重障，证十真如，于二转依便能证得。			
			癸一约位辨证分三	子一总举			转依位别，略有六种。					
				子二别解分六			丑一损力益能转		一、损力益能转： 谓初、二位，由习胜解及惭、愧故，损本识中染种势力，益本识内净种功能，虽未断障种、实证转依，而渐伏现行，亦名为转。			
							丑二通达转		二、通达转： 谓通达位，由见道力，通达真如，断分别生二障粗重，证得一分真实转依。			
							丑三修习转		三、修习转： 谓修习位，由数修习十地行故，渐断俱生二障粗重，渐次证得真实转依。 《摄大乘》中说通达转在前六地。 有无相观，通达真、俗间杂现前，令真、非真现、不现故。说修习转在后四地。 纯无相观长时现前，勇猛修习，断余粗重，多令非真不显现故。			
							丑四果圆满转		四、果圆满转： 谓究竟位，由三大劫阿僧企耶，修集无边难行胜行，金刚喻定现在前时，永断本来一切粗重，顿证佛果圆满转依，穷未来际利乐无尽。			
							丑五下劣转		五、下劣转： 谓二乘位，专求自利，厌苦、欣寂，唯能通达生空真如，断烦恼种，证真择灭，无胜堪能，名下劣转。			
							丑六广大转		六、广大转： 谓大乘位，为利他故，趣大菩提。 生死涅槃俱无欣、厌，具能通达二空真如，双断所知、烦恼障种，顿证无上菩提、涅槃。 有胜堪能，名广大转。			
				子三料简						此中意说广大转依，舍二粗重而证得故。		
				癸二正解转依分三	子一总解转依分二	丑二别解分四	寅一能转道分二	卯一能伏道		转依义别，略有四种：		
								辰一简略有漏加行		一、能转道，此复有二： 一、能伏道，谓伏二障随眠势力，令不引起二障现行，此通有漏、无漏二道，加行、根本、后得三智，随其所应，渐顿伏彼。		
										二、能断道，谓能永断二障随眠。 此道定非有漏加行，有漏曾习，相执所引，未泯相故； 加行趣求所证、所引，未成办故。		
								辰二明无漏及二智分二		巳一唯本智断惑义		有义：根本无分别智，亲证二空所显真理，无境相故，能断随眠； 后得不然，故非断道。



表 9-13: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(3/11)

乙三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五 丁四修习位分三 戊三长行释分二 己二广前颂分三 庚三次第广前略答分二	辛二明所证果分二 壬二正明所证得果分二 癸二正解转依分三 子一总解转依分二 丑二别解分四	寅一能转道分二	卯二能断道分二	辰二无漏及智二分	巳二智惑义分三	午一立义		有义：后得无分别智，虽不亲证二空真理，无力能断迷理随眠，而于安立、非安立相，明了现前，无倒证故，亦能永断迷事随眠。	
						午二引证		故《瑜伽》说：修道位中，有出世断道；世、出世断道。 无纯世间道，能永害随眠。是曾习故，相执引故。	
						午三成理		由斯理趣，诸见所断，及修所断，迷理随眠，唯有根本无分别智，亲证理故，能正断彼； 余修所断迷事随眠，根本、后得俱能正断。	
	寅二所转依分二					卯一持种依		二、所转依，此复有二： 一、持种依，谓本识。 由此能持染、净法种，与染、净法俱为所依，圣道转令舍染得净； 余依他起性，虽亦是依，而不能持种，故此不说。	
						卯二迷悟依		二、迷悟依，谓真如。 由此能作迷、悟根本，诸染、净法依之得生，圣道转令舍染得净。 余虽亦作迷悟法依，而非根本，故此不说。	
	寅三所转舍分二	卯一所断舍分二	辰一二障种子			三、所转舍，此复有二： 一、所断舍，谓二障种。 真无间道现在前时，障、治相违，彼便断灭，永不成就，说之为舍。 彼种断故，不复现行妄执我、法。			
						辰二所执我法		所执我、法，不对妄情，亦说为舍。 由此名舍遍计所执。	
		卯二所弃舍分二	辰一举例法分二		巳一种子		二、所弃舍，谓余有漏、劣无漏种。 金刚喻定现在前时，引极圆、明纯净本识，非彼依故，皆永弃舍。		
					巳二现行		彼种舍已，现有漏法及劣无漏，毕竟不生； 既永不生，亦说为舍。 由此名舍生死劣法。		
			辰二别舍分二	巳一无间道舍义			有义：所余有漏法种及劣无漏，金刚喻定现在前时，皆已弃舍，与二障种俱时舍故。		
							有义：尔时犹未舍彼，与无间道不相违故。 菩萨应无生死法故； 此位应无所熏识故，住无间道应名佛故； 后解脱道应无用故。		
		巳二解脱舍义分二		午一立义		由此应知，余有漏等，解脱道起，方弃舍之。 第八净识，非彼依故。			
						午二结舍所以释		由此应知，余有漏等，解脱道起，方弃舍之。 第八净识，非彼依故。	
		寅四所转得分三	卯一总举出数					四、所转得，此复有二：	
			卯二别解所显所生分二	辰一所显得分二	巳一总出体			一、所显得，谓大涅槃。 此虽本来自性清净，而由客障覆令不显。 真圣道生，断彼障故，令其相显名得涅槃。 此依真如离障施設，故体即是清净法界。	
涅槃义别，略有四种：									
巳二别解释分二	午一举例数				一、本来自性清净涅槃，谓一切法相真如理，虽有客染而本性净，具无数量微妙功德，无生无灭，湛若虚空，一切有情平等共有，与一切法不一不异。 离一切相、一切分别，寻思路绝，名言道断，唯真圣者自内所证，其性本寂，故名涅槃。				
	午二广解分三				未一出体分四	申一自性涅槃	申二有余依涅槃	二、有余依涅槃，谓即真如出烦恼障，虽有微苦所依未灭，而障永寂，故名涅槃。	

表 9-14: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(4/11)

乙 三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五 丁四修习位分三 戊三长行释分二 己二广前颂分三 庚三次第广前略答分二	辛二明所证果分二 壬二正明所证得果分二 癸二正解转依分三 子一总解转依分二 丑二别解分四	寅四所转得分三 卯二别解所显所生分二 辰一所显得分二 巳二别解释分二 午二广解分三	未一 出体 分四	申三无余依涅槃		三、无余依涅槃，谓即真如出生死苦，烦恼既尽，余依亦灭，众苦永寂，故名涅槃。			
				申四无住处涅槃		四、无住处涅槃，谓即真如出所知障，大悲般若常所辅翼。由斯不住生死涅槃，利乐有情，穷未来际，用而常寂，故名涅槃。			
				申一分别具不具		一切有情，皆有初一，二乘无学，容有前三，唯我世尊可言具四。			
				酉二问答二乘有无余依分三	酉一问答佛有有余依		如何善逝有有余依？虽无实依，而现似有；或苦依尽，说无余依，非苦依在，说有余依。是故世尊可言具四。		
					戌一外人问	若声闻等有无余依，如何有处设彼非有？			
						戌二论主却质	有处说彼都无涅槃，岂有余依彼亦非有？		
					戌三解经文分二		亥一依定姓解	然声闻等身、智在时，有所知障，苦依未尽，圆寂义隐，说无涅槃；非彼实无烦恼障尽所显真理有余涅槃，尔时未证无余圆寂，故亦说彼无无余依；非彼后时灭身智已，无苦依尽无余涅槃。或说二乘无涅槃者，依无住处，不依前三。	
						亥二依不定姓解	又说彼无无余依者，依不定性二乘而说，彼纔证得有余涅槃，决定回心求无上觉，由定愿力留身久住，非如一类入无余依。谓有二乘深乐圆寂，得生空观亲证真如，永灭感生烦恼障尽，显依真理有余涅槃，彼能感生烦恼尽故，后有异熟无由更生，现苦所依任运灭位。余有为法既无所依，与彼苦依同时顿舍，显依真理无余涅槃，尔时虽无二乘身智，而由彼证可说彼有。此位唯有清静真如，离相湛然寂灭安乐，依斯说彼与佛无差，但无菩提利乐他业，故复说彼与佛有异。		
					酉三问答所知障得涅槃分三	戌一问答应不得涅槃	诸所知障，既不感生，如何断彼，得无住处？彼能隐覆法空真如，令不发生大悲般若，穷未来际，利乐有情。故断彼时显法空理，此理即是无住涅槃，令于二边，俱不住故。		
						亥一问答	天一答非分五	若所知障，亦障涅槃，如何断彼，不得择灭？	
								择灭离缚，彼非缚故。	
								既尔，断彼宁得涅槃？	
								非诸涅槃皆择灭摄。不尔，性净应非涅槃。能缚有情住生死者，断此说得择灭无为。诸所知障不感生死，非如烦恼能缚有情，故断彼时不得择灭；然断彼故，法空理显，此理相寂，说为涅槃，非此涅槃择灭为性。故四圆寂诸无为中，初、后即真如，中二择灭摄。	
								若唯断缚得择灭者，不动等二，四中谁摄？	
						地四外人问		非择灭摄，说暂离故；择灭无为，唯究竟灭。有非择灭，非永灭故。	
						地五论主答		或无住处亦择灭摄，由真择力，灭障得故。择灭有二：一、灭缚得，谓断感生烦恼得者；二、灭障得，谓断除障而证得者。故四圆寂诸无为中，初一即真如，后三皆择灭，不动等二，暂伏灭者，非择灭摄；究竟灭者，择灭所摄。	
						戌三问答菩提障		既所知障亦障涅槃，如何但说是菩提障？说烦恼障但障涅槃，岂彼不能为菩提障？应知圣教依胜用说，理实俱能通障二果。	
						未三总结		如是所说四涅槃中，唯后三种，名所显得。	

表 9-15: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(5/11)

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 四 修 习 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 二 广 前 颂 分 三	庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二	辛 二 明 所 证 果 分 二	壬 二 正 明 所 证 得 果 分 二	癸 二 正 解 转 依 分 三	子 一 总 解 转 依 分 二	丑 二 别 解 分 四	寅 四 所 转 得 分 三	卯 二 别 解 所 显 所 生 分 二	辰 二 所 生 得 分 三	巳一出体		二、所生得，谓大菩提。 此虽本来有能生种，而所知障碍故不生； 由圣道力，断彼障故，令从种起，名得菩提。 起已相续，穷未来际。 此即四智相应心品。				
														巳二别解分二	午一问起		云何四智相应心品？			
															未一 出 体 辨 智 差 别 分 四	申一大圆境智		一、大圆镜智相应心品： 谓此心品，离诸分别，所缘行相，微细难知，不忘 妄不愚，一切境相，性相清净，离诸杂染，纯净圆 德，现种依持，能现、能生身、土智影，无间无断， 穷未来际，如大圆镜，现众色像。		
																申二平等性智		二、平等性智相应心品： 谓此心品，观一切法，自、他有情，悉皆平等。 大慈悲等，恒共相应，随诸有情所乐，示现受用身、 土，影像差别。 妙观察智不共所依，无住涅槃之所建立，一味相续， 穷未来际。		
																申三妙观察智		三、妙观察智相应心品： 谓此心品，善观诸法自相、共相，无碍而转。 摄观无量总持定门，及所发生功德珍宝。 于大众会，能现无边作用差别，皆得自在，雨大法 雨，断一切疑，令诸有情皆获利乐。		
																申四成所作智		四、成所作智相应心品： 谓此心品，为欲利乐诸有情故，普于十方，示现种 种变化三业，成本愿力所应作事。		
															未二相应多少门		如是四智相应心品，虽各定有二十二法，能变、所 变种现俱生，而智用增，以智名显。			
															未三以体摄用门		故此四品，总摄佛地一切有为功德皆尽。			
															未四转何识得何智门		此转有漏八、七、六、五识相应品，如次而得。 智虽非识，而依识转，识为主故，说转识得。 又有漏位智劣识强，无漏位中，智强识劣。 为劝有情依智舍识，故说转八识而得此四智。			
															未五 转 识 得 智 位 次 门 分 四	申一大圆境智分二	酉一无间道舍 义	大圆镜智相应心品，有义：菩萨金刚喻定现在前时， 即初现起，异熟识种与极微细所知障种，俱时舍故； 若圆镜智尔时未起，便无能持净种识故。		
																	酉二解脱舍 义分二	戌一定 位示因	有义：此品解脱道时，初成佛故，乃得初起； 异熟识种，金刚喻定现在前时，犹未顿舍，与无间 道不相违故。	
																		戌二示 舍位成 理	非障有漏、劣无漏法，但与佛果定相违故； 金刚喻定无所熏识，无漏不增，应成佛故。 由斯此品，从初成佛，尽未来际，相续不断，持无 漏种令不失故。	
																申二平等性智		平等性智相应心品，菩萨见道初现前位，违二执故， 方得初起。 后十地中，执未断故，有漏等位，或有间断；法云 地后，与净第八，相依相续，尽未来际。		
																申三 妙 观 察 智 分 二	酉一生空观	妙观察智相应心品，生空观品，二乘见位，亦得初 起。 此后展转至无学位，或至菩萨解行地终，或至上位， 若非有漏，或无心时，皆容现起。		
																	酉二法空观	法空观品，菩萨见位，方得初起，此后展转乃至上 位，若非有漏，生空智果，或无心时，皆容现起。		

表 9-16: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(6/11)

乙 三 明 唯 识 位 分 二  丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五  丁 四 修 习 位 分 三  戊 三 长 行 释 分 二  己 二 广 前 颂 分 三  庚 三 次 第 广 前 略 答 分 二	辛 二 明 所 证 果 分 二  壬 二 正 明 所 证 得 果 分 二  癸 二 正 解 转 依 分 三	子 一 总 解 转 依 分 二  丑 二 别 解 分 四  寅 四 所 转 得 分 三	卯 二 别 解 所 显 所 生 分 二	辰 二 所 生 得 分 三  巳 二 别 解 分 二  午 二 答 分 九	未 五 转 得 智 位 次 分 四	申 四 成 所 作 智 分 二	酉一初地得智义	成所作智相应心品，有义： 菩萨修道位中，后得引故，亦得初起。				
							酉二唯佛果义	有义：成佛方得初起。 以十地中，依异熟识所变眼等非无漏故，有漏不共，必俱同境，根发无漏识，理不相应故。 此二于境，明昧异故。 由斯此品，要得成佛，依无漏根，方容现起，而数间断，作意起故。				
					未六种姓本有起始门							此四种性虽皆本有，而要熏发方得现行，因位渐增，佛果圆满，不增不减，尽未来际，但从种生；不熏成种，勿前佛德胜后佛故。
					未 七 所 缘 境 界 门 分 四	申 一 大 圆 镜 智 分 二	酉一唯缘真如义					大圆镜智相应心品，有义： 但缘真如为境，是无分别，非后得智，行相所缘，不可知故。
								酉二一切法分二	戌一释所以	有义：此品缘一切法，《庄严论》说： 大圆镜智，于一切境，不愚迷故。 《佛地经》说：如来智镜，诸处、境、识，众像现故。又此决定缘无漏种，及身、土等诸影像故，行、缘微细，说不可知，如阿赖耶，亦缘俗故。		
							戌二辨二智别		缘真如故，是无分别；缘余境故，后得智摄。其体是一，随用分二。了俗由证真，故说为后得。余一分二，准此应知。			
						申二平等性智				平等性智相应心品，有义：但缘第八净识，如染第七缘藏识故。 有义：但缘真如为境，缘一切法平等性故。 有义：遍缘真俗为境，《佛地经》说：平等性智，证得十种平等性故。 《庄严论》说：缘诸有情自他平等，随他胜解，示现无边佛影像故。 由斯此品，通缘真俗，二智所摄，于理无违。		
						申三妙观察智				妙观察智相应心品，缘一切法自相、共相，皆无障碍，二智所摄。		
						申四成所作智				成所作智相应心品，有义：但缘五种现境，《庄严论》说：如来五根，一一皆于五境转故。 有义：此品亦能遍缘三世诸法，不违正理，《佛地经》说：成所作智，起作三业诸变化事，决择有情心行差别，领受去来现在等义。若不遍缘，无此能故。然此心品，随意乐力，或缘一法、或二、或多。且说五根于五境转，不言唯尔，故不相违。随作意生，缘事相境，起化业故，后得智摄。		
						未八缘境作用门				此四心品，虽皆遍能缘一切法，而用有异：谓镜智品，现自受用身、净土相，持无漏种；平等智品，现他受用身、净土相；成事智品，能现变化身及土相；观察智品，观察自、他功能过失，雨大法雨，破诸疑网，利乐有情。		
						未九指例门				如是等门，差别多种。		
						巳三总结				此四心品，名所生得。		
						卯三总结前				此所生得，总名菩提；及前涅槃，名所转得。		
						子二明转依言				虽转依义总有四种，而今但取二所转得。颂说“证得转依”言故。		
						子三明十地证二转依				此修习位说能证得，非已证得，因位摄故。		

表 9-17: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(7/11)

乙三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五 丁五究竟位分三	戊一问起			后究竟位其相云何?				
	戊二举颂答			颂曰: 3 0 此即无漏界, 不思议善常, 安乐解脱身, 大牟尼名法。				
	辛一出体分三	壬一总判位相		论曰: 前修习位所得转依, 应知即是究竟位相。				
				壬二出体		“此”谓此前二转依果, 即是究竟无漏界摄。		
		壬三别释分二	癸一释无漏义			诸漏永尽, 非漏随增, 性净圆明, 故名无漏。		
			癸二释界义		“界”是藏义, 此中含容无边希有大功德故; 或是因义, 能生五乘世、出世间利乐事故。			
	壬一释四智无漏难分二	癸一小乘难		清净法界, 可唯无漏摄, 四智心品, 如何唯无漏?				
				癸二论主答分二	子一引证成理		道谛摄故, 唯无漏摄, 谓佛功德及身、土等皆是无漏种性所生, 有漏法种已永舍故。	
					子二正会释		虽有示现作生死身, 业烦恼等, 似苦、集谛, 而实无漏, 道谛所摄。	
		壬二会十五界唯有漏难分二	癸一外人难			《集论》等说: 十五界等, 唯是有漏, 如来岂无五根、五识、五外界等?		
	子一第一说					有义: 如来功德、身、土, 甚深微妙, 非有非无, 离诸分别, 绝诸戏论, 非界、处等法门所摄, 故与彼说理不相违。		
	子二第二说分五		丑一叙宗		有义: 如来五根、五境妙定生故, 法界色摄, 非佛五识, 虽依此变, 然粗、细异, 非五境摄。如来五识, 非五识界, 经说佛心恒在定故, 论说五识性散乱故。			
					丑二外人问			成所作智何识相应?
			丑三论主答分二	寅一第一解		第六相应, 起化用故。与观察智性有何别? 彼观诸法自、共相等, 此唯起化, 故有差别。此二智品应不并生, 一类二识不俱起故。许不并起, 于理无违; 同体用分, 俱亦非失。		
				寅二第二解		或与第七净识相应, 依眼等根, 缘色等境, 是平等智作用差别, 谓净第七起他受用身土相者, 平等品摄, 起变化者, 成事品摄。		
			丑四重量问			岂不此品, 摄五识得?		
			丑五征解			非转彼得, 体即是彼。如转生死言得涅槃, 不可涅槃同生死摄, 是故于此, 不应为难。		
	子三第三说分三		丑一标宗			有义: 如来功德、身、土, 如应摄在蕴、处、界中, 彼三皆通有漏、无漏。		
			丑二会违文分二	寅一会违文分二		《集论》等说: 十五界等唯有漏者, 彼依二乘粗浅境说, 非说一切。谓余成就十八界中, 唯有后三, 通无漏摄, 佛成就者, 虽皆无漏, 而非二乘所知境摄。		
				卯二会第二师文		然余处说, 佛功德等非界等者, 不同二乘劣智所知界等相故, 理必应尔。		
			寅二遮计分二	卯一遮第一师		所以者何? 说有为法皆蕴摄故; 说一切法界、处摄故; 十九界等, 圣所遮故; 若绝戏论, 便非界等。亦不应说, 即无漏界、善、常、安乐、解脱身等。又处处说: 转无常蕴, 获得常蕴, 界、处亦然; 宁说如来, 非蕴、处、界? 故言非者, 是密意说。		
						卯二遮第二师		
			丑三结正			故佛身中, 十八界等, 皆悉具足, 而纯无漏。		

表 9-18: (20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(8/11)

乙 三 明 唯 识 位 分 二	丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五	丁 五 究 竟 位 分 三	戊 三 长 行 释 分 二	己 一 解 颂 分 三	庚 二 列 众 德 分 四	辛一解不思议		此转依果，又不思议，超过寻思言议道故； 微妙甚深自内证故；非诸世间喻所喻故。	
						辛二解善分二	壬一正释	此又是善：白法性故；清净法界，远离生灭，极安隐故； 四智心品，妙用无方，极巧便故；二种皆有顺益相故； 违不善故俱说为善。	
							壬二会难	论说处等，八唯无记，如来岂无五根、三境？ 此中三释，广说如前。 一切如来身、土等法皆灭道摄，故唯是善，圣说灭道唯善性故，说佛土等，非苦、集故； 佛识所变有漏、不善、无记相等，皆从无漏善种所生，无漏善摄。	
						辛三解常		此又是常，无尽期故。 清净法界，无生无灭，性无变易，故说为常； 四智心品所依常故，无断尽故，亦说为常。 非自性常，从因生故，生者归灭，一向记故。 不见色心，非无常故。 然四智品，由本愿力，所化有情，无尽期故，穷未来际无断无尽。	
						辛四解安乐		此又安乐，无逼恼故。清净法界，众相寂静，故名安乐。 四智心品永离恼害，故名安乐。 此二自性，皆无逼恼，及能安乐一切有情，故二转依，俱名安乐。	
					庚 三 简 二 乘 三 差 别 分 二	辛一释解脱身		二乘所得二转依果，唯永远离烦恼障缚，无殊胜法故，但名解脱身。	
						辛二释大牟尼名法分二	壬一正释	大觉世尊，成就无上寂默法，故名大牟尼。 此牟尼尊所得二果，永离二障，亦名法身。 无量无边力无畏等，大功德法所庄严故。	
							壬二释身三义	体、依、聚义，总说名身。 故此法身，五法为性，非净法界独名法身，二转依果，皆此摄故。	
					己 二 诸 门 分 别 分 七	庚 一 三 身 别 相 门 分 三	辛一自性身		如是法身，有三相别： 一、自性身，谓诸如来真净法界，受用、变化平等所依，离相寂然，绝诸戏论，具无边际真常功德，是一切法平等实性，即此自性，亦名法身，大功德法所依止故。
							辛二受用身分二	壬一自受用身	二、受用身，此有二种： （一）自受用，谓诸如来三无数劫，修集无量福慧资粮，所起无边真实功德，及极圆、净、常、遍色身，相续湛然，尽未来际，恒自受用广大法乐。
								壬二他受用身	（二）他受用，谓诸如来由平等智，示现微妙净功德身，居纯净土，为住十地诸菩萨众，现大神通，转正法轮，决众疑网，令彼受用大乘法乐。合此二种，名受用身。
							辛三变化身		三、变化身：谓诸如来由成事智，变现无量随类化身，居净、秽土，为未登地诸菩萨众、二乘、异生，称彼机宜，现通说法，令各获得诸利乐事。
						庚二五法摄三门分二		辛一第一师	以五法性摄三身者， 有义：初、二摄自性身，经说真如是法身故。 论说转去阿赖耶识，得自性身； 圆镜智品，转去藏识，而证得故。 中二智品，摄受用身，说平等智，于纯净土，为诸菩萨现佛身故； 说观察智，大集会中，说法断疑现自在故； 说转诸转识得受用身故。 后一智品，摄变化身。 说成事智，于十方土，现无量种难思化故。又智殊胜，具摄三身，故知三身，皆有实智。

表 9-19：(20 表) 乙三明唯识位分二【卷十】(9/11)

乙三明唯识位分二 丙二举颂正释五位分五 丁五究竟位分三 戊三长行释分二 己二诸门分别分七	庚二五法摄三门分二	辛二第二师分二	壬一自性身分四	癸一标宗	有义：初一摄自性身。			
				癸二引证	说自性身本性常故； 说佛法身无生灭故； 说证因得非生因故； 又说法身诸佛共有，遍一切法，犹若虚空，无相无为，非色心故。			
				癸三会违	然说转去藏识得者，谓由转灭第八识中二障粗重，显法身故。 智殊胜中说法身者，是彼依止彼实性故。			
				癸四立理	自性法身，虽有真实无边功德，而无为故，不可说为色、心等物。			
			壬二释余身分二	癸一标智摄		四智品中真实功德，镜智所起，常、遍色身，摄自受用； 平等智品，所现佛身，摄他受用； 成事智品，所现随类种种身相，摄变化身。		
				子一释受身分三	丑一引证	说圆镜智是受用，佛转诸转识得受用故。		
					丑二会违	虽转藏识亦得受用，然说转彼显法身故。 于得受用，略不说之。 又说法身无生无灭，唯证因得，非色、心等，圆镜智品，与此相违。若非受用，属何身摄。		
					丑三说相	又受用身，摄佛不共有为实德。 故四智品，实有色、心，皆受用摄。		
				子二释他受变化分三	丑一立理		又他受用及变化身，皆为化他方便示现，故不可说实智为体。	
					丑二会违		虽说化身智殊胜摄，而似智现或智所起，假说智名，体实非智。 但说平等、成所作智，能现受用、三业化身，不说二身即是二智，故此二智自受用摄。	
					丑三说相分四	寅一标举	然变化身及他受用，虽无真实心及心所，而有化现心、心所法。 无上觉者，神力难思，故能化现无形质法。	
						寅二立理	若不尔者，云何如来现贪、瞋等？久已断故。 云何声闻及傍生等，知如来心？ 如来实心，等觉菩萨尚不知故。	
						寅三引证	由此经说，化无量类皆令有心； 又说如来成所作智化作三业； 又说变化有依他心，依他实心，相分现故。	
						寅四会违	虽说变化无根心等，而依余说，不依如来。 又化色根心、心所法，无根等用，故不说有。	
				庚三三身功德各异门			如三身，虽皆具足无边功德，而各有异。 谓自性身，唯有真实常、乐、我、净，离诸杂染，众善所依，无为功德，无色、心等差别相用。 自受用身，具无量种妙色、心等真实功德； 若他受用及变化身，唯具无边似色、心等，利乐他用化相功德。	
				庚四三身二利门			又自性身，正自利摄，寂静安乐无动作故； 亦兼利他，为增上缘，令诸有情得利乐故； 又与受用及变化身为所依止，故俱利摄。 自受用身唯属自利。若他受用及变化身，唯属利他，为他现故。	
				庚五三身所依土分二	辛一自性身土	又自性身，依法性土。 虽此身、土体无差别，而属佛、法，相、性异故。 此佛身、土俱非色摄。 虽不可说形量小、大； 然随事相其量无边，譬如虚空，遍一切处。		

表 9-20：（20 表）乙三明唯识位分二【卷十】（10/11）

乙 三 明 唯 识 位 分 二  丙 二 举 颂 正 释 五 位 分 五  丁 五 究 竟 位 分 三  戊 三 长 行 释 分 二  己 二 诸 门 分 别 分 七	庚五三身所依土分别门分二		辛二自他受用变化土	<p>自受用身，还依自土： 谓圆镜智相应净识，由昔所修自利无漏纯净佛土因缘成熟，从初成佛，尽未来际，相续变为纯净佛土，周圆无际，众宝庄严，自受用身常依而住。</p> <p>如净土量，身量亦尔，诸根相好，一一无边，无限善根所引生故。功德智慧既非色法，虽不可说形量大小，而依所证及所依身，亦可说言遍一切处。</p> <p>他受用身，亦依自土： 谓平等智大慈悲力，由昔所修利他无漏纯净佛土，因缘成熟，随住十地菩萨所宜变为净土，或小或大，或劣或胜，前后改转，他受用身依之而住。</p> <p>能依身量，亦无定限。若变化身，依变化土。 谓成事智大慈悲力，由昔所修利他无漏净秽佛土，因缘成熟，随未登地有情所宜化为佛土，或净或秽，或小或大，前后改转，佛变化身依之而住。能依身量，亦无定限。</p>
	庚六三身身土所化同异门			<p>自性身土，一切如来同所证故，体无差别； 自受用身及所依土，虽一切佛各变不同，而皆无边不相障碍。余二身土，随诸如来所化有情，有共、不共。</p> <p>所化共者，同处同时，诸佛各变为身、为土，形状相似，不相障碍，展转相杂为增上缘，令所化生，自识变现。</p> <p>谓于一土有一佛身，为现神通说法饶益。</p> <p>于不共者，唯一佛变。诸有情类无始时来，种性法尔更相系属，或多属一，或一属多，故所化生有共、不共。</p> <p>不尔，多佛久住世间，各事劬劳，实为无益，一佛能益一切生故。</p>
	庚七唯识相见同异门分二	辛一正分别相见同异分二	壬一分别无漏心变	<p>此诸身、土若净、若秽，无漏识上所变现者，同能变识，俱善无漏，纯善无漏因缘所生。</p> <p>是道谛摄，非苦、集故。</p> <p>蕴等识相不必皆同，三法因缘杂引生故。</p>
			壬二分别有漏心变	<p>有漏识上所变现者，同能变识，皆是有漏。</p> <p>纯从有漏因缘所生，是苦、集摄，非灭、道故。</p> <p>善等识相，不必皆同，三性因缘杂引生故。</p> <p>蕴等同异，类此应知，不尔，应无五、十二等。</p>
		辛二因解相见同异分三	壬一第一师	<p>然相分等依识变现； 非如识性依他中实。</p> <p>不尔，唯识理应不成许识内境俱实有故。</p>
			壬二第二师	<p>或识相、见等从缘生，俱依他起，虚实如识，唯言遣外，不遮内境。</p> <p>不尔，真如亦应非实。</p> <p>内境与识，既并非虚，如何但言唯识非境？ 识唯内有，境亦通外，恐滥外故，但言唯识。</p> <p>或诸愚夫，迷执于境，起烦恼业，生死沈沦，不解观心，勤求出离，哀愍彼故，说唯识言，令自观心，解脱生死，非谓内境如外都无。</p>
			壬三第三师	<p>或相分等，皆识为性，由熏习力，似多分生。</p> <p>真如亦是识之实性。故除识性，无别有法。</p> <p>此中识言，亦说心所，心与心所，定相应故。</p>

表 10：（1 表）甲三释结施愿分三【卷十】（11/11）

甲三释结施愿分三	乙一结释示正名	此论三分成立唯识，是故说为《成唯识论》。
	乙二释亦名	亦说此论名净唯识，显唯识理极明净故。
	乙三示本论名释结施愿	<p>此本论名唯识三十，由三十颂，显唯识理，乃得圆满，非增减故。</p> <p>已依圣教及正理，分别唯识性相义， 所获功德施群生，愿共速登无上觉。</p>



原夫。觉海澄玄，涵万流而浚宗极。神几阐妙，被众象而凝至真。  
 朗慧日而镜六幽，泄慈云而清八字，演一音而悬解，逸三乘以遐鹜。  
 体陈如之半器，津有有于鹿园。照善现之满机，绎空空于鹫岭。  
 虽绝坐于常断，诂遗筌于有空。显无上之灵宗，凝中道于兹教。  
 逮金河灭景，派淳源而不迫。玉牒霏华，绪澆风而竞扇。  
 于是二十八见迷，桑雁于五天。一十六师乱，云牛于四主。  
 半千将圣，兹惟世亲，寔贤劫之应真，晦生知以提化。  
 飞光毓彩，诞映资灵，曜常明于八蕴，藻初情于六足。  
 秀谈芝于俱舍，摽说有之余宗。摄玄波于大乘，賁研空之至理。  
 化方升而照极，湛冲一于斯颂。唯识三十偈者，世亲归根之遗制也。  
 理韬渊海，泛浮境于荣河，义郁烟飙，丽虹章于玄圃。  
 言含万象，字苞千训。妙旨天逸，邃彩星华。  
 幽绪未宣，冥神绝境。孤明敛映，秘思潜津。  
 后有护法安慧等十大菩萨，韞玄珠于八藏，耸层构于四围。  
 宅照二因，栖清三观。升晖十地，澄智水以润贤林。邻几七觉，皎行月而开重夜。  
 优柔芳烈，景躅前修。箭涌泉言，风飞宝思。  
 咸观本颂，各裁斯释，名曰成唯识论，或名净唯识论。  
 空心外之二取，息滞有之迷涂。有识内之一心，遣归空之妄执。  
 晦斯心境，苦海所以长沦。悟彼有空，觉岸于焉高蹈。  
 九十外道，乱风辙而靡星旗。十八小乘，轳辘轩而扶龙轂。  
 穷神体妙，诣曠探机。精贯十支，洞该九分。顾十翼而搏仙羽，俯九流以浚琼波。  
 尽邃理之希微，阐法王之奥典。称谓双绝，筌象兼忘。  
 曜灵景于西申。闕虹光于震旦。济物弘道。眇归宗德。  
 粤若大和上三藏法师玄奘，体睿舍真，履仁翔慧。  
 九门禅宴，证静于融山。八万玄津，腾流于委海。  
 叠金墙而月曜，峻玉宇而霞骞。轶芳粹于澄兰，孕风华于龙翼。  
 悼微言之匿彩，嗟大义之沦晖。  
 用启誓言，肆兹遥践。泳祥河之辍水，攀宝树之低枝。  
 循镂杠以神游，躡霓峰而安步。升紫阶而证道，瞰玄影以严因。  
 采奥观奇，徒苍龙于二纪。緘檀篆贝，旋白马于三秦。  
 我大唐庆表金轮，祯资枢电。奄大千而光宅，御六辩以天飞。  
 神化潜通，九仙賁宝，玄猷旁阐，百灵聳职。  
 凝旒邃拱，沓通梦于霄晖。揆组摘华，焕腾文以幽赞。  
 爰降纶旨，溥令翻译。  
 敕尚书左仆射燕国公于志宁，中书令高阳公许敬宗等润色。  
 沙门释神泰等证义，沙门释靖迈等质文。  
 肇自贞观十九年，终于显庆之末，部将六十，卷出一千。  
 韬轶蓬莱，池湟环渤。载隆法宝，大启群迷。  
 颂德序经，并紆宸藻。玄风之盛，未之前闻。  
 粤以显庆四年龙栖协洽，玄英应序，厥闰惟阳，糅兹十释四千五百颂，汇聚群分，各遵其本，合为一部，勒成十卷。月穷于纪，铨综云毕。精括诂训，研详夷夏。  
 调惊韶律，藻揅天迳。白凤甄奇，紫微呈瑞。  
 遂使文同义异，若一师之制焉，斯则古圣今贤，其揆一也。  
 三藏弟子基，鼎族高门，玉田华胄。壮年味道，绮日参玄。  
 业峻林远，识清云镜。闲仪玉莹，陵道邃而澄明。  
 逸韵兰芳，掩法汰而飞辩。绪仙音于八梵，舞霄鹤以翔祯。  
 摘丽范于九章，影桐鸾而绚藻；升光译侣，俯潜睿而融晖。  
 登彩义徒，顾猷畅而高视。秀初听之琬景，晋烛玄儒。  
 矫弥天之绝翰，腾迈真俗。亲承四辩，言奖三明。  
 疏发户牖，液导津涉，绩功资素，通理寄神。  
 综其纲领，甄其品第。兼撰义疏，传之后学。  
 庶教蟠黄陆，跨合璧于龟畴。祥浮紫宫，掩连珠于麟籀。式罄庸謏，叙其宗致云。